第十八輯・第二號・昭和十年二月一日

大正六年九月十四日第三種郵便物認可 ・ 昭和十年一月二十五日印刷納本 ・ 昭和十年二月一日發行(每月一回一日發行)

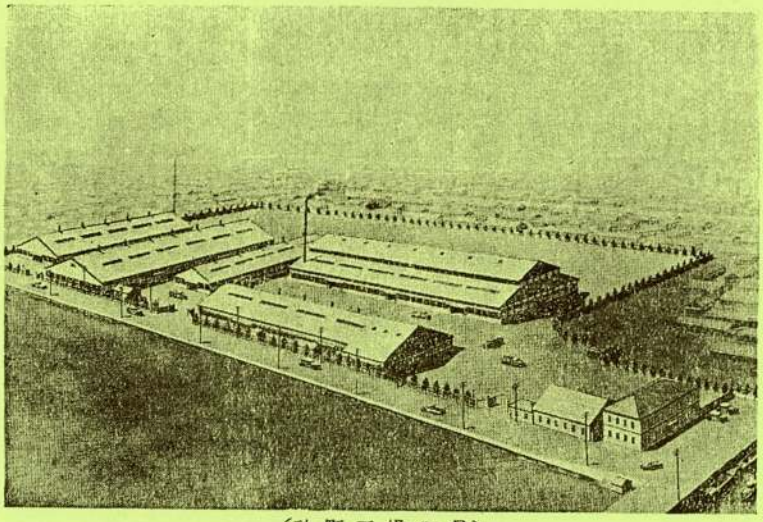
建築と裝飾

室内裝飾

日本建築協會

登録商標 建

良品廉價



（砂町工場全景）

直接販賣

製品種目

瀬川式特許スチールサツシ
瀬川式特許スチールドアー
瀬川式特許スチールシヤター
瀬川式スチールパーチシヨン
瀬川式特殊高級鋼製建具
並ブロンズドアー及メールシユート
其他一般的建築金物類

朝日建材株式會社大阪支店

大阪市東區高麗橋二丁目九番地（高麗橋野村ビル内）
電話本局（23）4714・4715・5226（4）

本社　東京市麹町區丸ノ内二丁目二番地（丸ノ内ビルディング内）
電話丸ノ内（23）679・876

工場　東京市城東區北砂町三丁目一二
電話本所（73）5979

登録 OHNO SHUTTER PATENTED 商標

日英米特許三一個・實用新案登錄六三個併用

大野式防火捲上ケ戸

〔特許大野式シヤッター〕

主要製品

大野式**シヤッター**
大野式**ルーブルシヤッター**
大野式融金付自働閉鎖戸
大野式工場用軸承
大野式轉子入軸筐・戸車
大野式廻轉軸抵抗測定機
各種防火扉・鋼製建具類

日英米佛獨特許三七個・實用新案登錄八四個併用

特許不二サッシ

東京市大森區新井宿七丁目
株式會社不二サッシ製作所提携

合資會社 大野製作所

東京市芝區三田四國町二番地・電話三田(45)三七三七 同三七三八

取付出張員詰所・大阪市此花區上福島中二・電話福島(45)五八八

建築と社會

第18輯第2號　昭和10年2月發行

室内裝飾

目　次

近代家具展望 …… セトノ　セイゴ（15）

工藝の概念 …… 向井寛三郎（31）

歐米家具略史 …… 角尾篤彦（36）

過ぐる三世紀間の工藝品 …… 伴野三千良（63）

基準家具の問題 …… モトノ　セイゴ（70）

家具施工に就て …… 小川安一郎（80）

カーペツト …… 永山美樹（87）

窓　掛 …… 角尾篤彦（92）

室内照明器具 …… 武田十子男（98）

關大阪市長の長逝を悼む
—都市公園にもかゝる功績を殘された— …… 椎原兵市（129）

寶塚大劇場火災被害狀況視察記 …… 黒田茂藏／矢田鐵史／三浦尚（133）

最新家具裝飾（寫眞）……（1）

新建築紹介 ……（107）

國際新建築 ……（111）

建築材料陳列場記 ……（144）

時　報 ……（146）

新刊紹介 ……（149）

會　報 ……（150）

會　　告

廣　告　主　各　位

今回當協會に於ける廣告事務の組織に改革を加へ新に專任廣告係を設置致しました。

就ては本會刊行物の廣告に關する一切の事務及取扱は直接この係をして行はしめ昭和十年三月號より實施のことに定めました。從而廣告取扱業者又は其他の者を通じて御申込の分は三月號より直接本會扱の事に御承知下され度右會告致します。

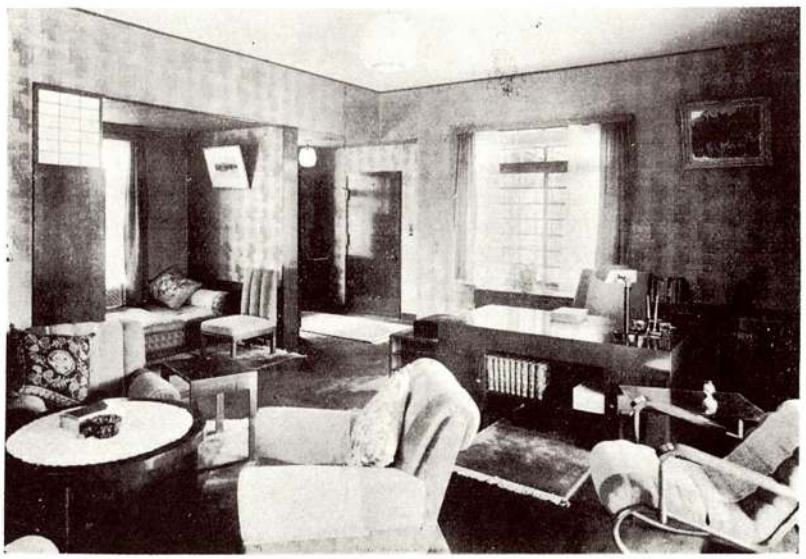
尙この上とも一層の御援助を願ひます。

昭　和　十　年　二　月

社團法人　**日　本　建　築　協　會**



ホ　ー　ル
建築設計　村野建築事務所
家具設計　中山邸設計係



居　　間
安井建築事務所設計



應　接　室



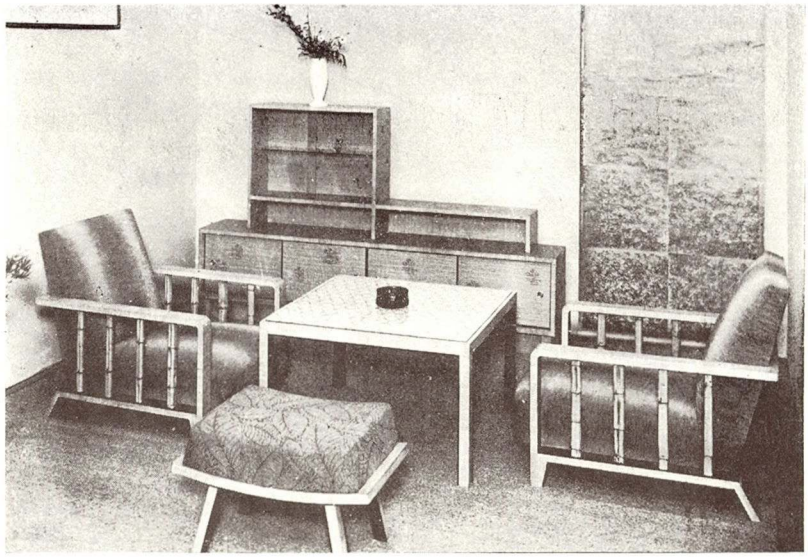
居　　間



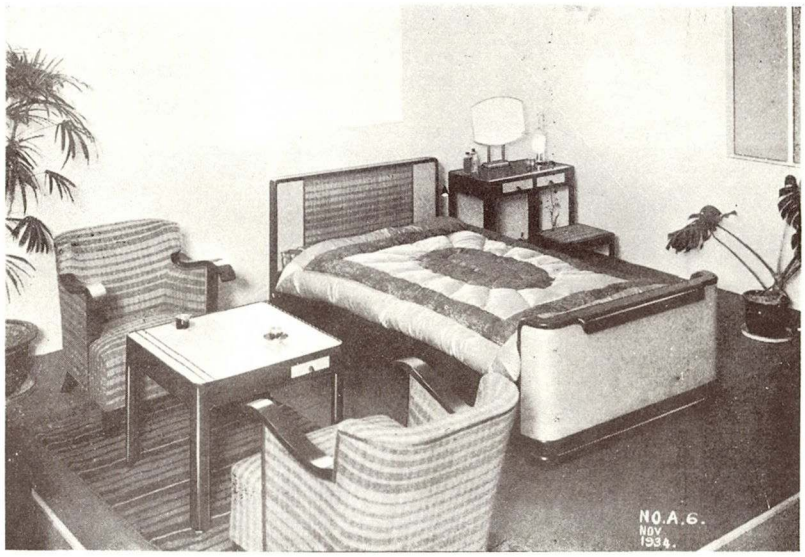
書　　齋



食　　堂



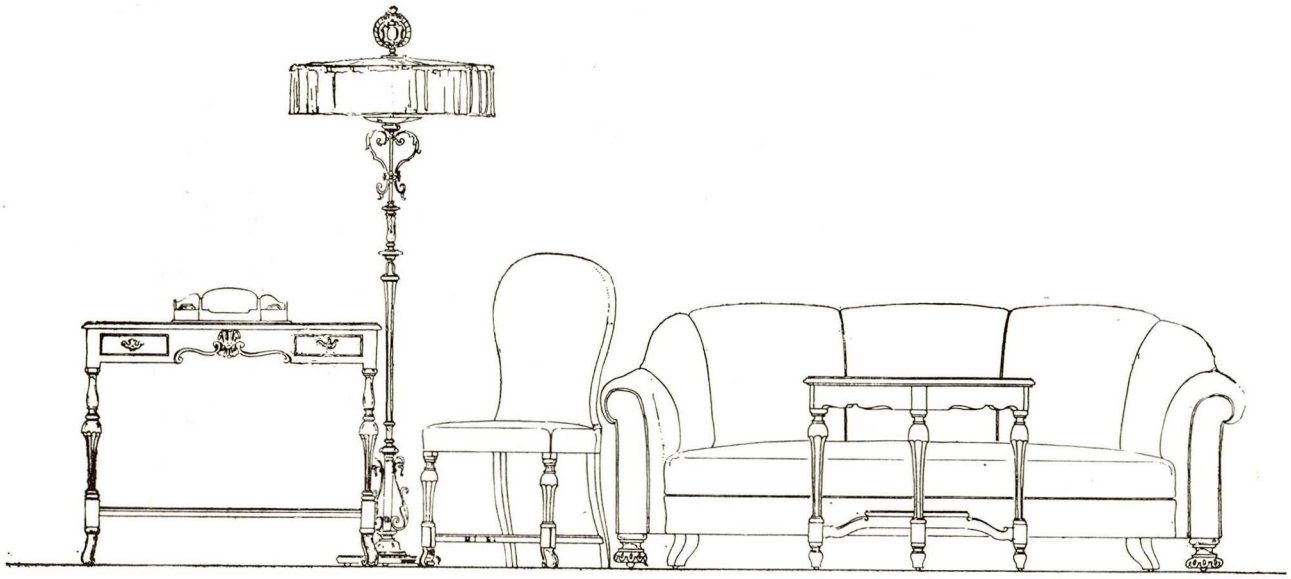
應　接　室

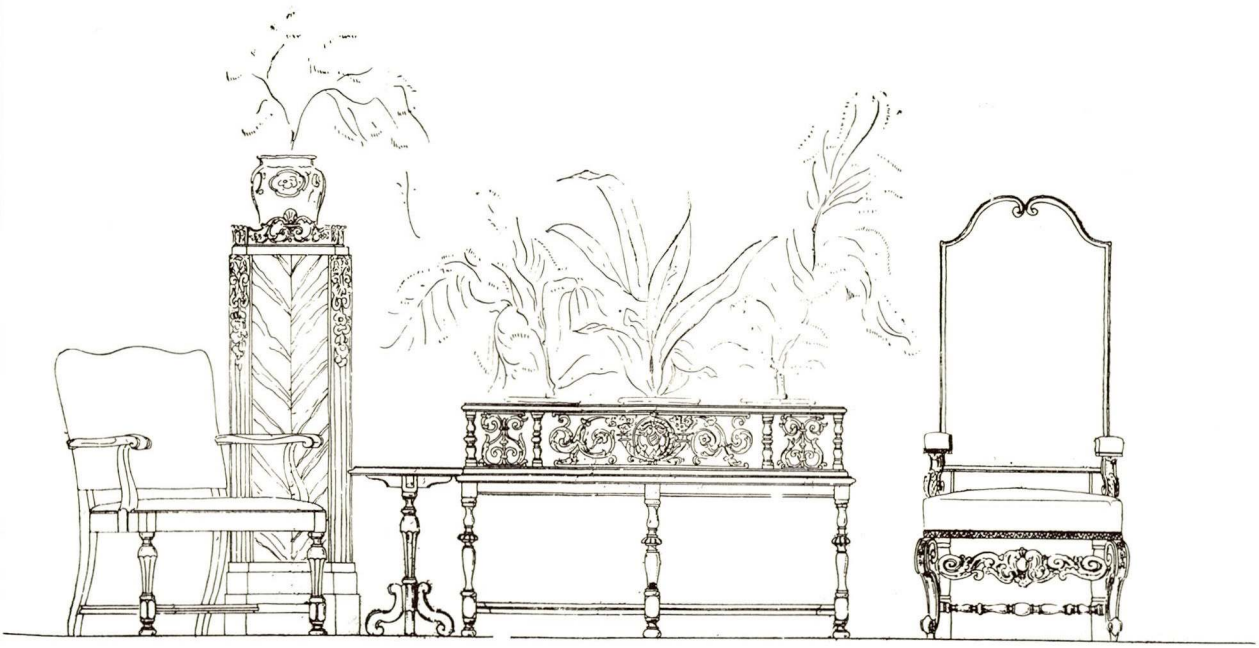


寢　　室

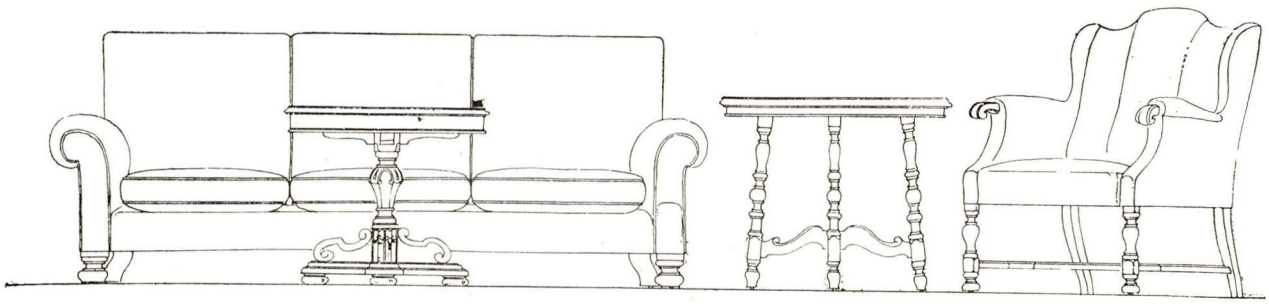


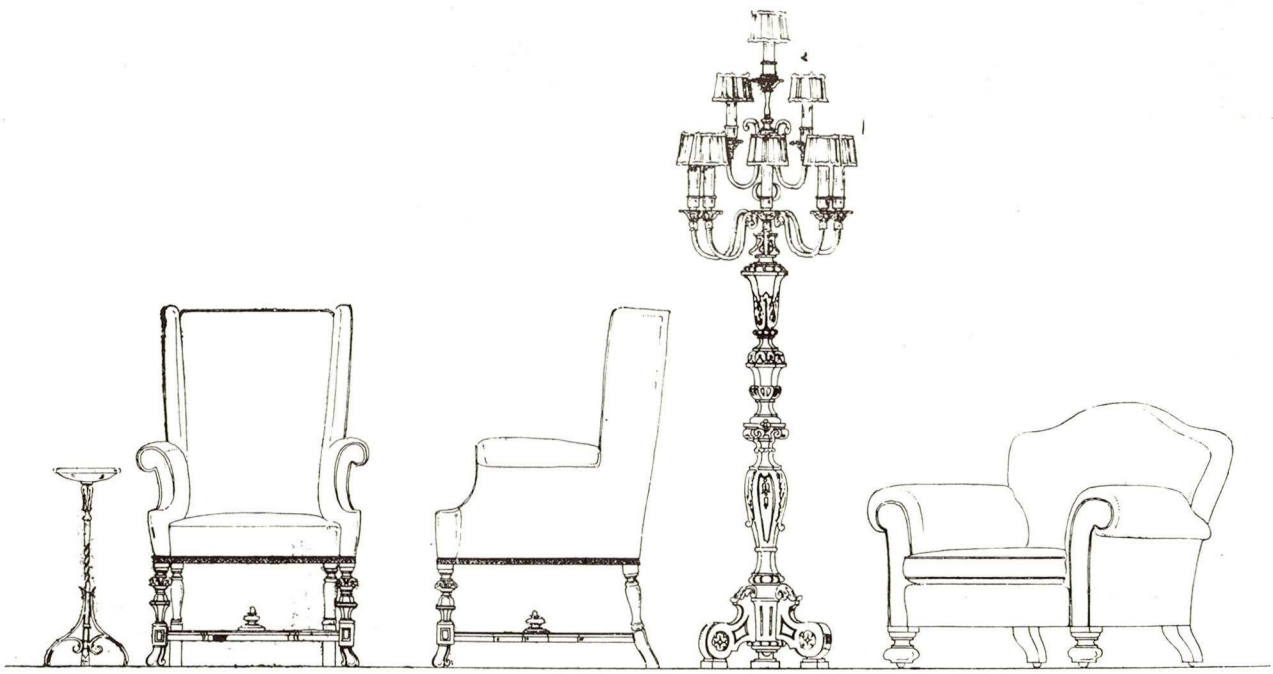
食　　堂

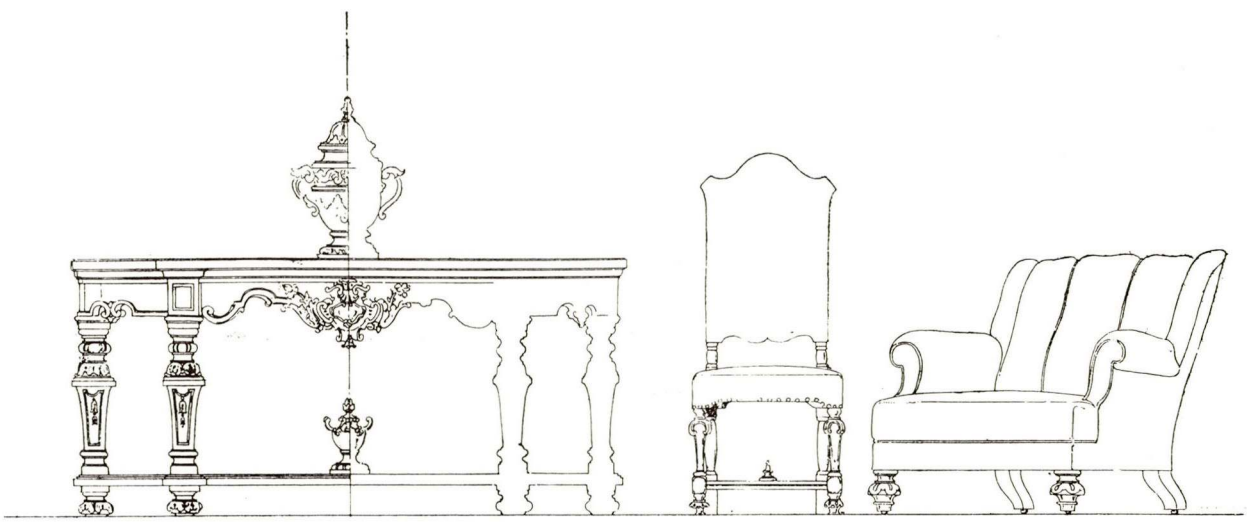




グリル談話室家具　　高島屋装飾部設計

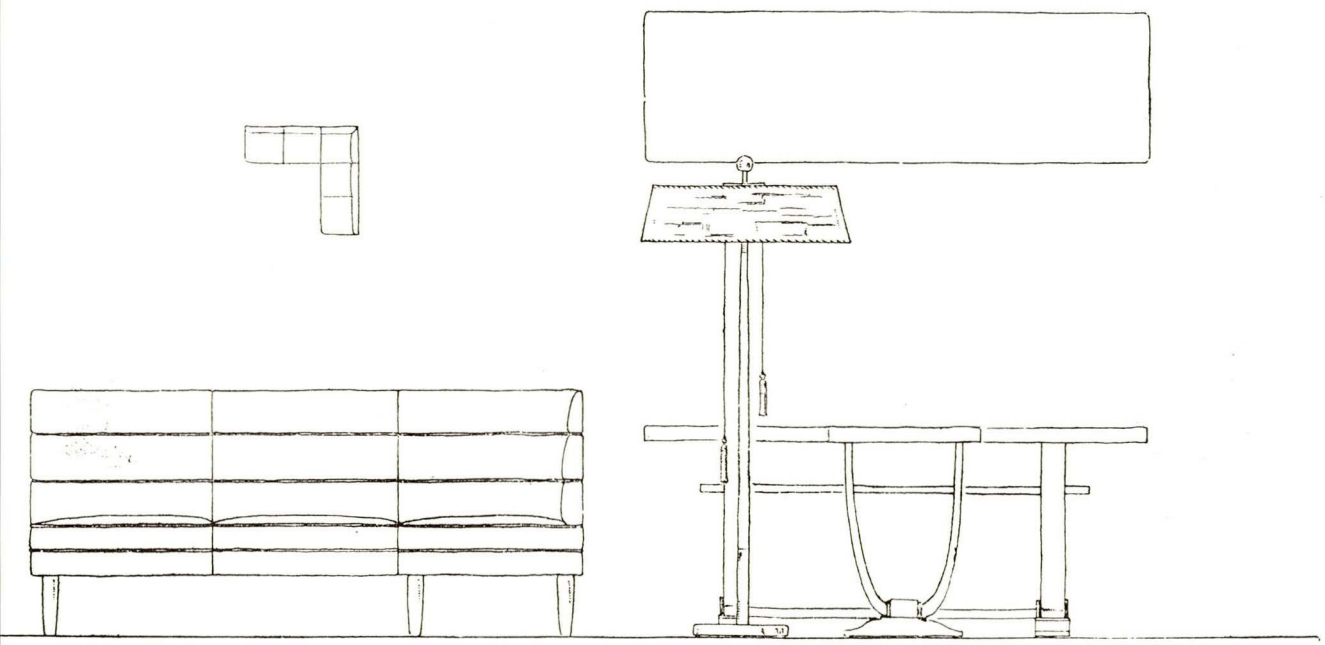


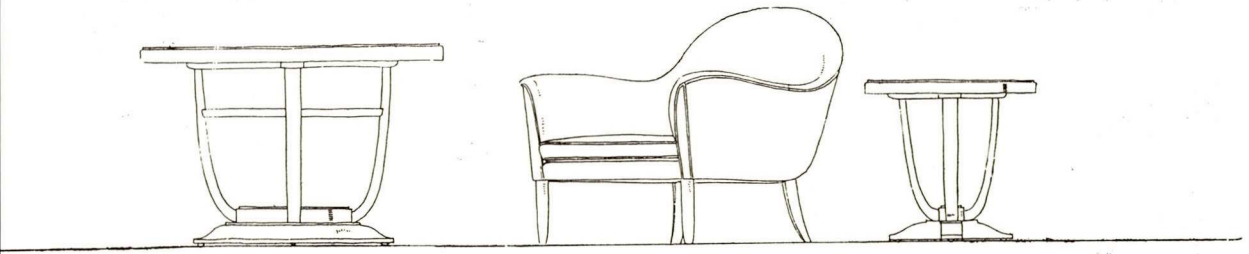


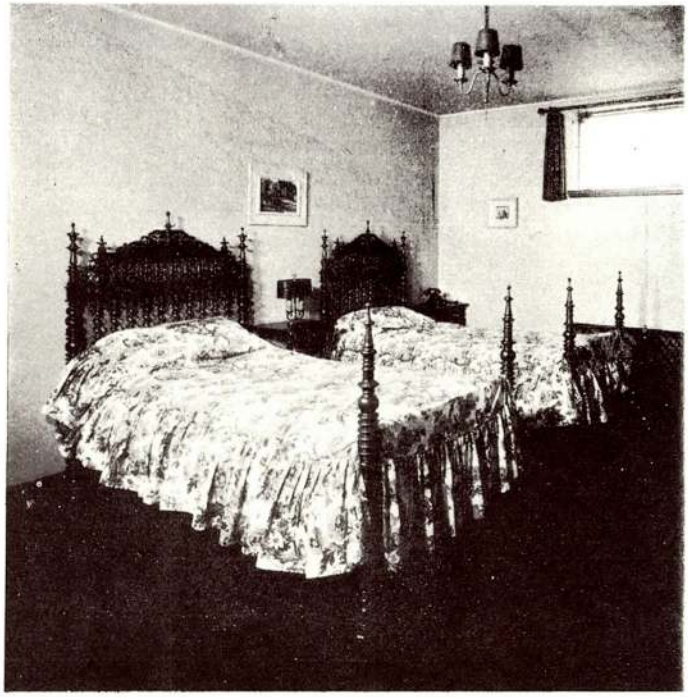


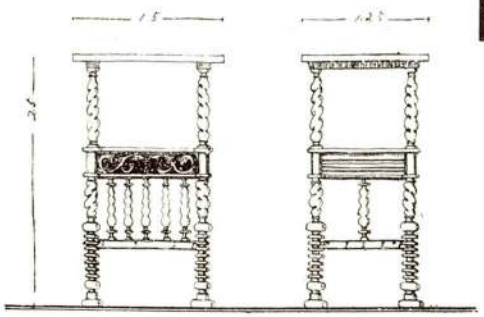
最新室内装飾　　グリル談話室家具　　高島屋装飾部設計　　5"

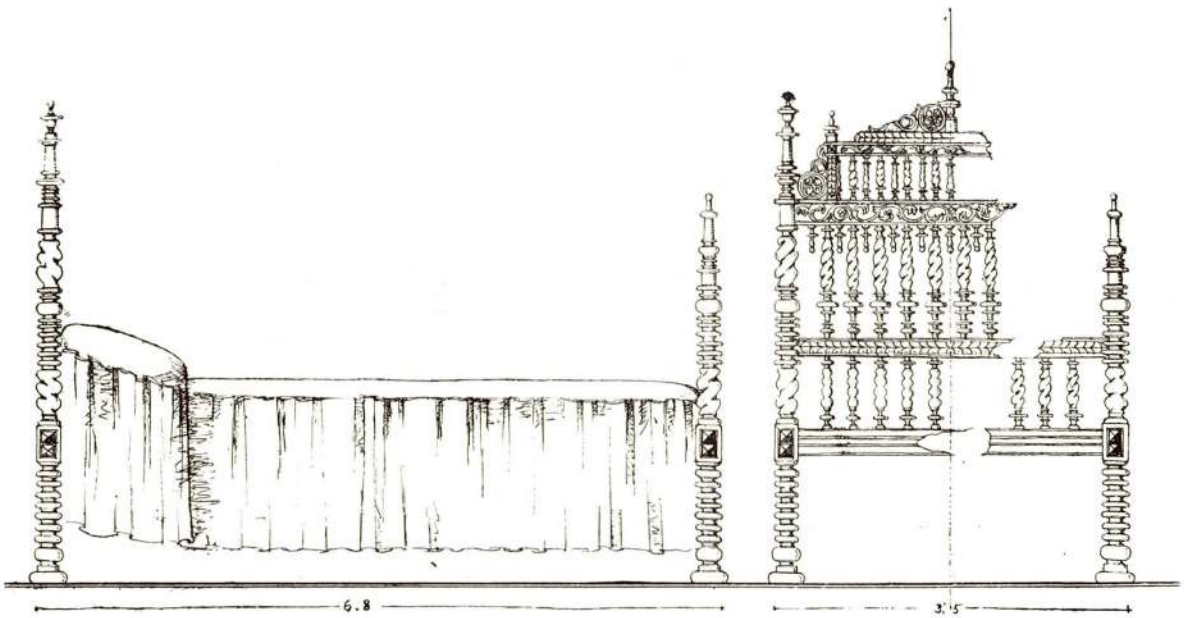




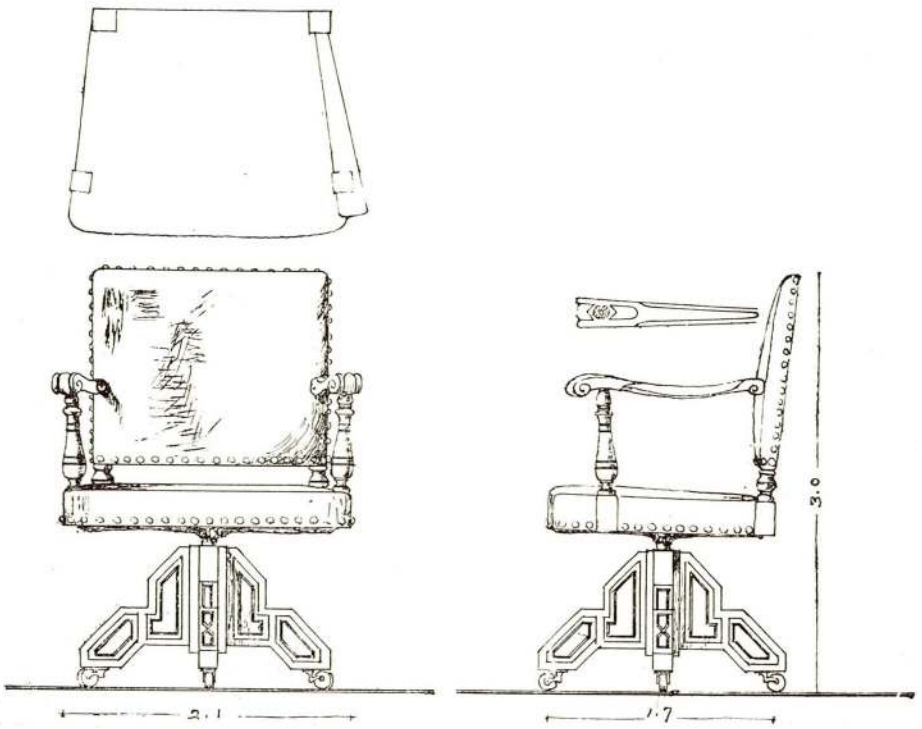




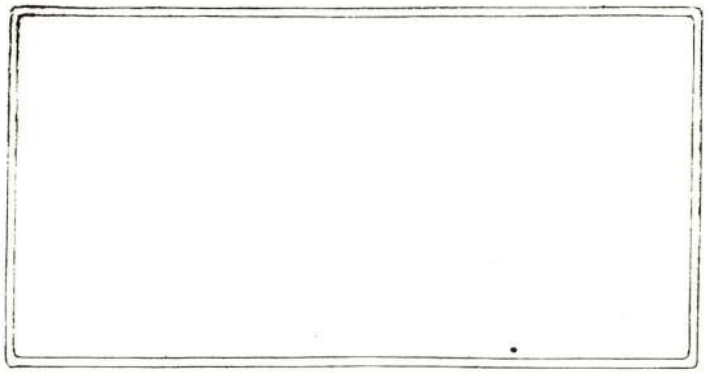


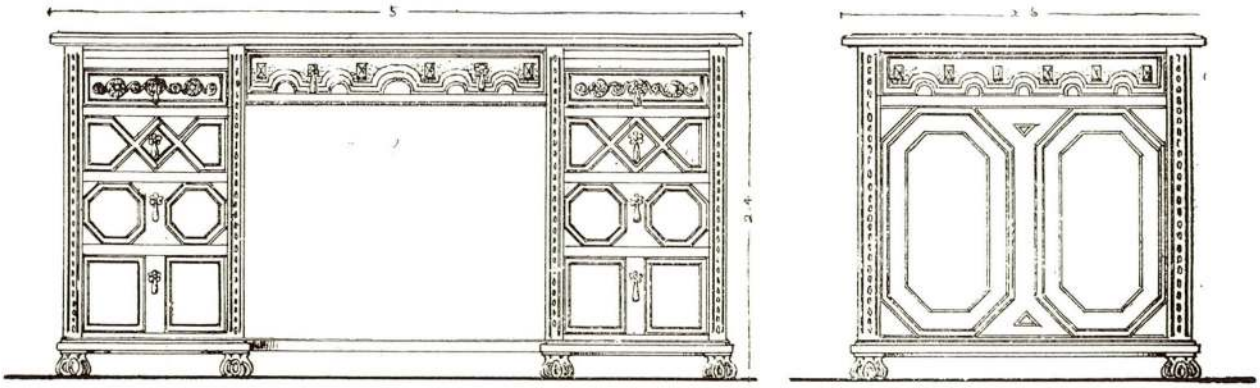

6.8
3.15

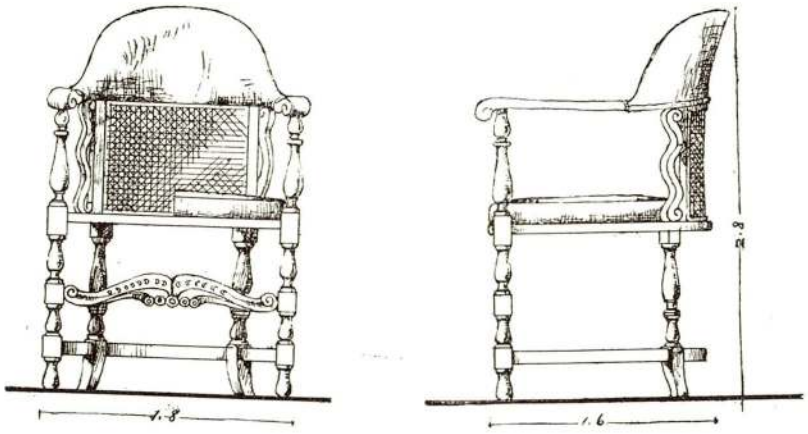




書齋家具 大丸裝飾部設計製作




5
2.4
2.6

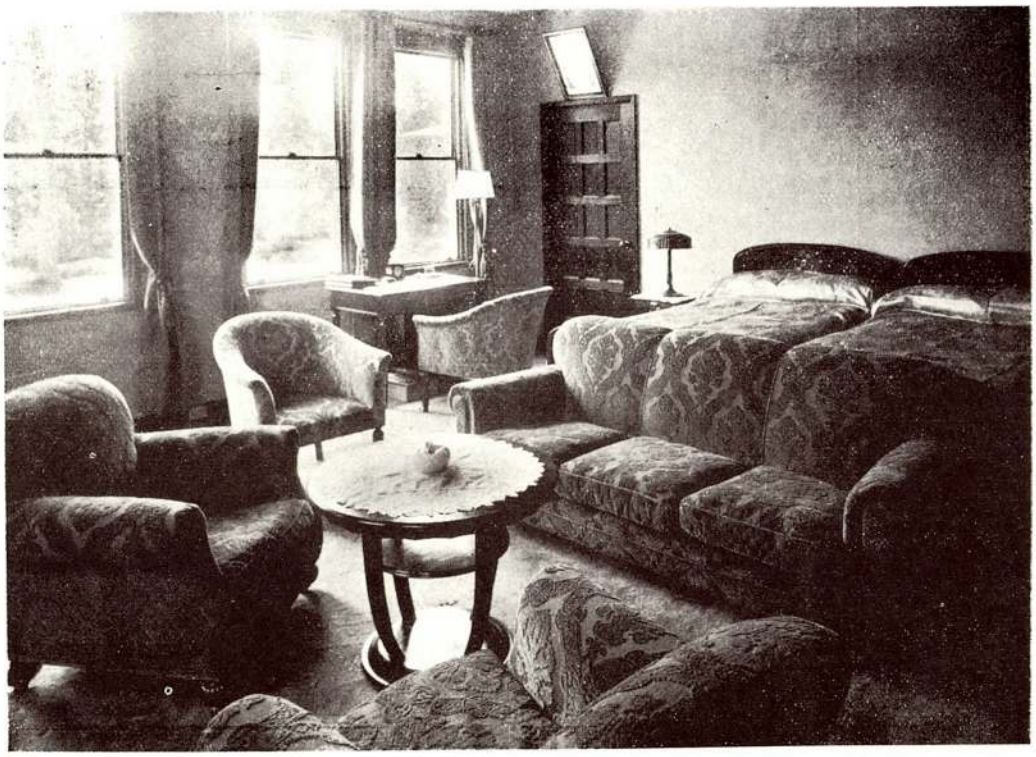

1.8
1.6
2.8



某宮御殿家具



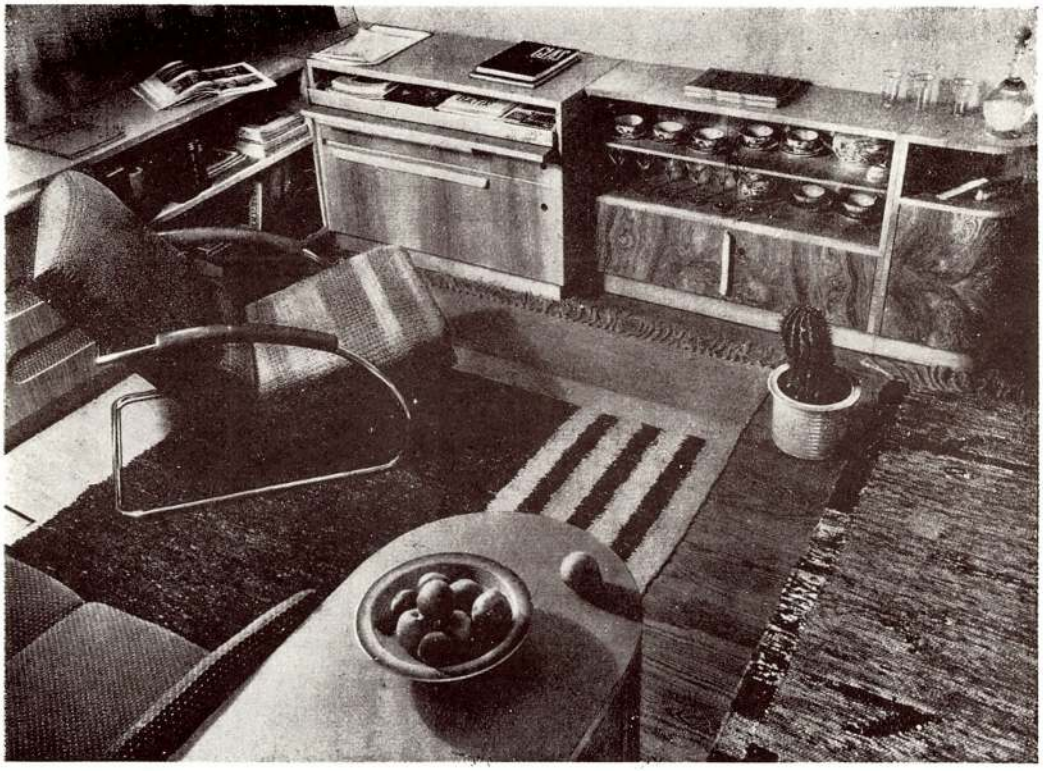
喫烟室家具

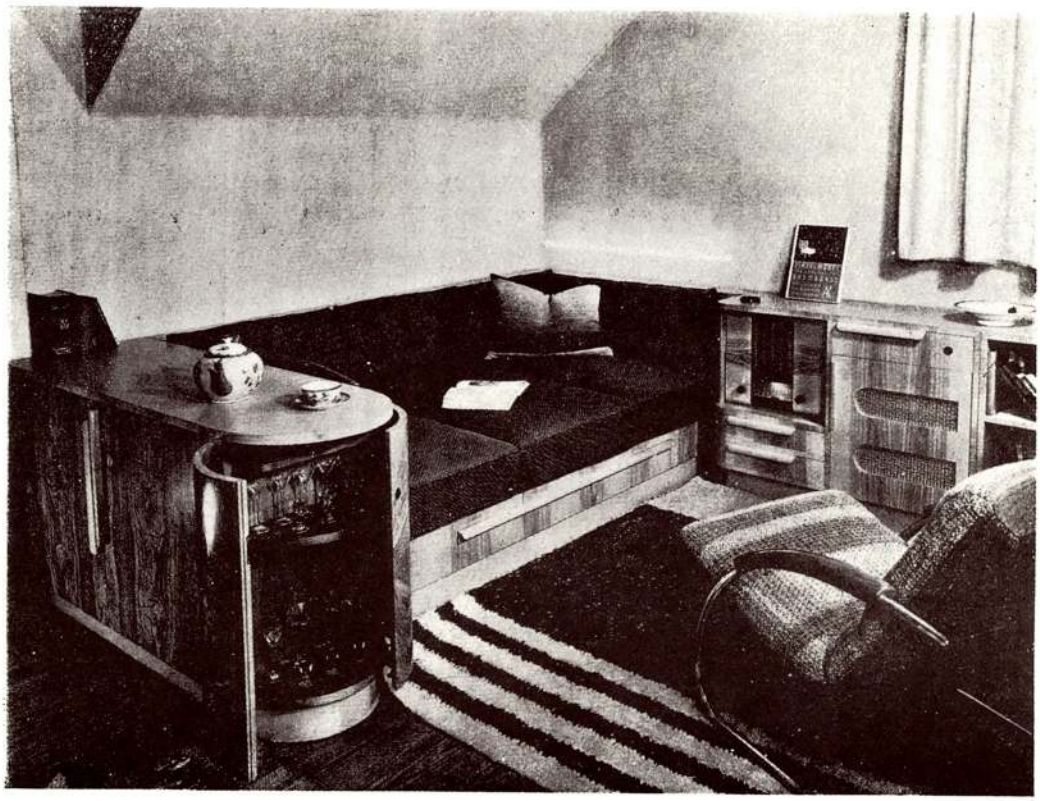


寢室用家具



ホール家具



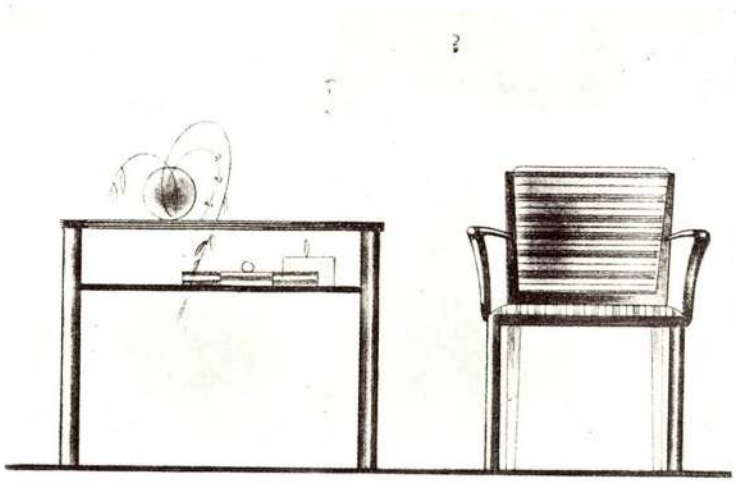


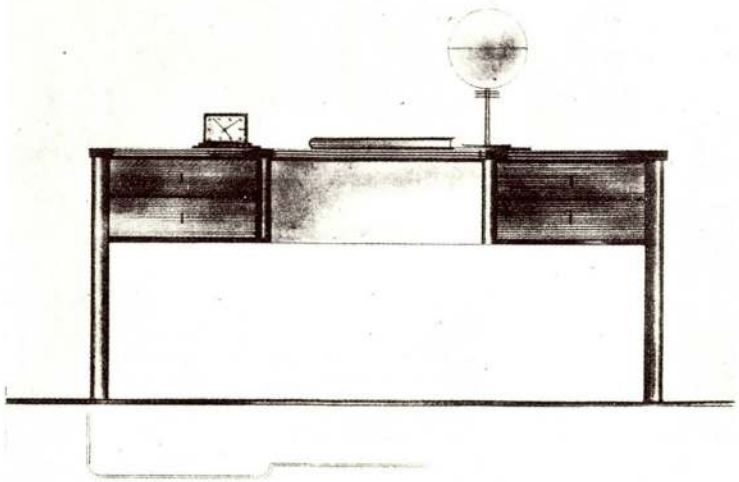
居間一隅の取扱　C. A. Ruedenauer 作





安樂椅子　二種　　C.A. Ruedenauer 作





書齋の家具





花臺數種 F.A. Beuhaus 作



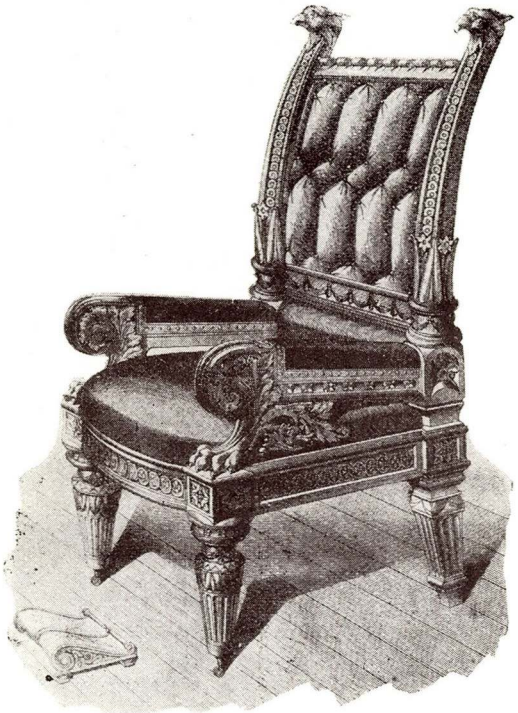
私の考案せる一つの椅子—これは腰かけたまゝ足を伸ばすと坐席が前に滑つて脊の傾斜が緩やかになる安樂自在椅子の考案です

近代家具展望

モトノセイゴ

巨人ウィリアム・モーリス——近代家具を論ぜんとする場合に吾等は一度はモーリスの偉業に振り返らねばならぬ。モーリスは家具工藝に於ては多くの事業を殘しては居ない。然し乍ら彼の精神が家具工藝の上に現はれたるものは汚濁せる水の中に投ぜられたる一滴の清凉劑であつた。此の一滴の清凉劑は時の經過と共に次第に其の作用を增し19世紀の終りから20世紀の初頭にかけての歐洲工藝界に物凄き波紋を描き出したのであつた。此の波紋は歐洲大戰の洗禮を受けて一つの結末に届いた。之れが現今の家具工藝發生の骨子であると云へば最も端的に19世紀の中葉から今日への推移を表明した事になる。一つの事柄の終結はやがて又一つの事柄の始まりである。始りなく終りなき世界の姿は變轉を續け乍ら限りなく展がつて行くのであらう。

モーリスが投じた一石とは何であつたか。夫れは19世紀の前半に於て歐洲の世界を風靡した機械の力及科學の力の爲めに破壞され壓縮されたる人間の生命に對して一道の光明を



1. **19世紀中頃の奇怪なるドイツの椅子**——此の頃が工藝美の一つの標準であつた。今から見ると全く不思議に思へる。けれども今でも之れと同様の仲間に這入るものがないとはいへない。

與へたものであつた。工藝に對する彼れの精神の骨子は

「藝術の使命は人間の勞働を幸福ならしめ其の閑暇を有効ならしむるにある」

と云ふのである。彼は晩年を自らの建設したさゝやかなるマートン・アベーの工場の中で終日日に燒けて働らいて居た事は當時の記錄に殘つて居る。此の工場は機械の設備のない純然たる手工藝の範圍に限られたるものであつて、彼れは機械に依る大量生産を全く退けたのであつた。彼れの見解に從へば機械に依る大量生産は趣味低き多量の工藝品を急速に作り出すに過ぎないと云ふのである。事實其の當時の英國の狀況は正に此の通りであつたのである。

機械工藝と手工藝との問題——此の問題はモーリス以後今日迄最大の問題として殘されたもので



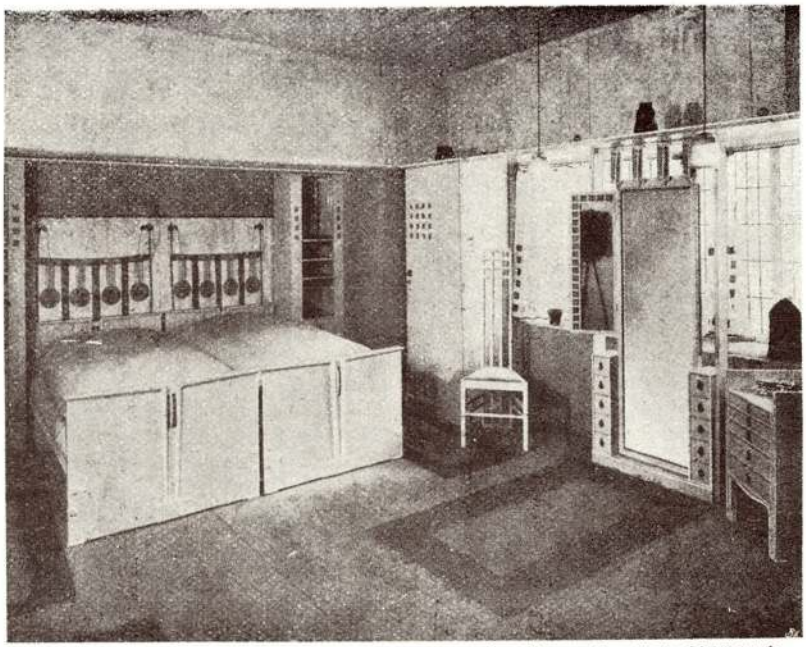


2. **モーリス・チエヤーの二つの位置**——今では全く珍らしくないものだけれども此の當時にあつては一般の人達を驚かしたに違ひない。

あつたのであつた。彼の考に依れば

「如何に小さき工藝品にても其の製作に對する樂しみと興味とがないならば工藝品は意味をなさぬ。然るに機械工業に依る大量生産は生産者に於ても消費者に於ても此の點

から離れて居る」と云ふのである。此の考には一應は首肯せられる點があり、彼れの時代の背景を考ふる時に彼れが斯る考に到達した事を想ふ事が出來る。けれども彼れの考には根本の錯誤があつた事が今にしては分るのである。彼れは機械の力に壓縮され破壞された人間の生命を餘りにも强く感受した結果人間に機械を支配する能力のあるべき事を見逃した樣に思へる。斯くて彼れは正面から機械の力に立ち向つたのであつた。彼も亦歷史の上に屢々見出す所の悲劇の主人公の一人たるを免れない。



3. **マツキントツシユの室內構成**——全く明るき無裝飾なる其の當時（19世紀半ば頃）にあつては英國人のみならず地上の人々が夢にも想像しなかつたであらう室內の模樣。

鬼才マツキントツシユ——モーリスの起した波紋は次第に歐洲本土に於て擴大し、ドイツとオーストリヤとに於ける花々しきゼセツション運動の起つた頃イギリスの北部グラスゴーの一隅に誠に繁榮しないさゝやかな事務所を持つて居た建築家チヤールス・マツキントツシユと云ふ人が居た。此の人はモーリスと關係があるか否やを私は知らない。只彼れの殘した仕事が餘りにも傳統を超脫し來るべきものを暗示したかに思へる點に於て恰も豫言者の如き立場にある事を見て彼れの仕事に多大の興味を惹かれるのである。

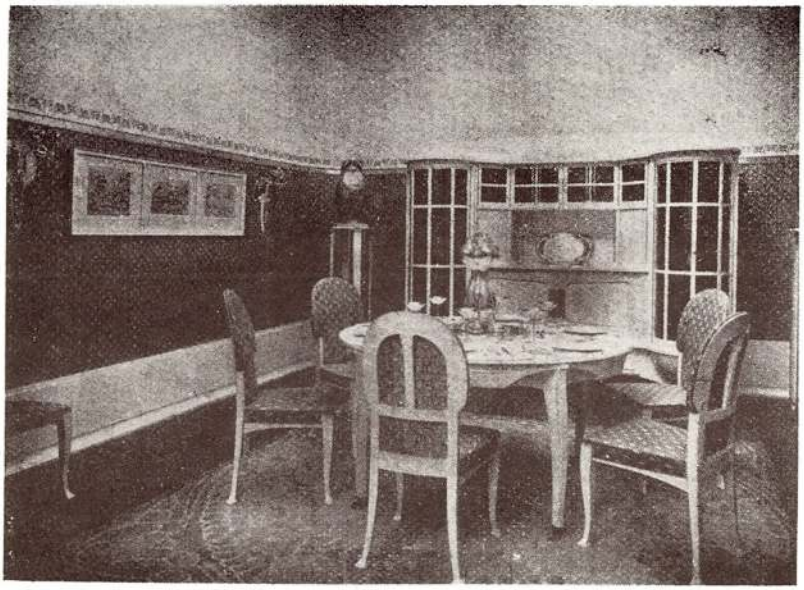
（1） 全然明るき室內、それに纖細にして自覺ある裝飾

（2） 建築外部に於ける裝飾的分子の全的撤廢

此の二つは當時の英國に於ては最も極度に大膽なる傳統への反逆であつたのである。斯る彼れの企は人間本然の生理的立脚點の上に築き上げられたものだと云はれて居る。彼れは日本建築の好愛者で簡潔にして直線的なるものから暗示を得たとも傳へられて居る。けれども彼れは日本を訪れた事はない。私は親しく彼れに會つて居ないから眞實の彼れの考に就て今述べる事が出來ない。

20年餘の後に於て近時彼れの企ては形を變へて歐洲の世界に出現したかの觀がある。

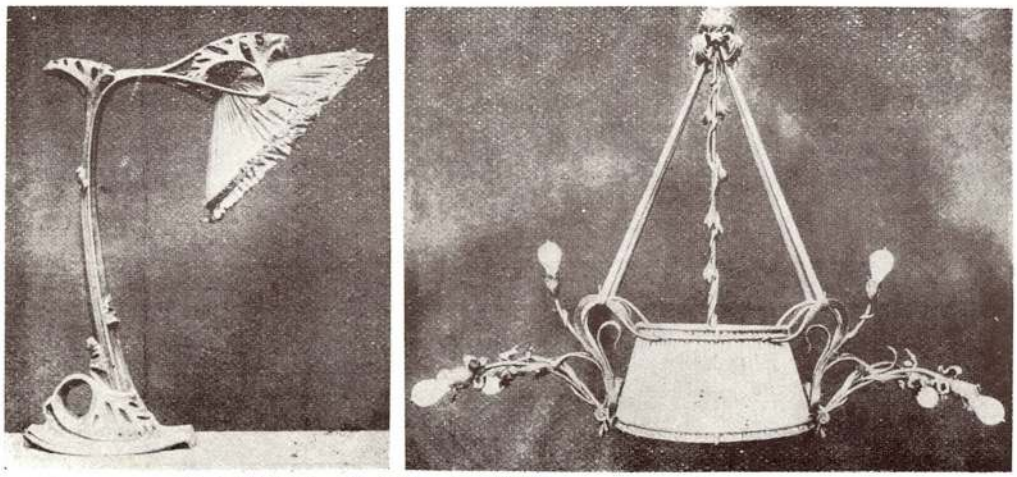
アンリー・ヴアンドヴエルド——モーリスの直系とも思はれるものはベルギーに於ける



4. アンリー・ヴアンドヴエルドの室内

ヴアンドヴエルドは仕事である。彼れは優れたる理智の持主であつたらしい情熱に燃えて生れたるモーリスの仕事の精神を理智の支配の下に新らしき世界に導き出したのが彼の仕事であると云へる。彼れは人間生命の物理的考察に基本を置いて形態考案の基礎とした様に思へる。彼れは一脚の椅子の考案にも人間の姿態にふさわしき事を基調とし、材料の自然性を構造の上に生かして各部の大さと曲線の性質とを工夫したものと思へる。今迄の家具に見る裝飾は全く取り除かれ曲線は單純にして合理的なる者に轉化して居る。今日云ふ機能と構造の眞實性を此時已に形態の上に具象化した第一人者と云つて差支ない様に思へる（1900年以前に於て已に斯る形態を完成して居る）。

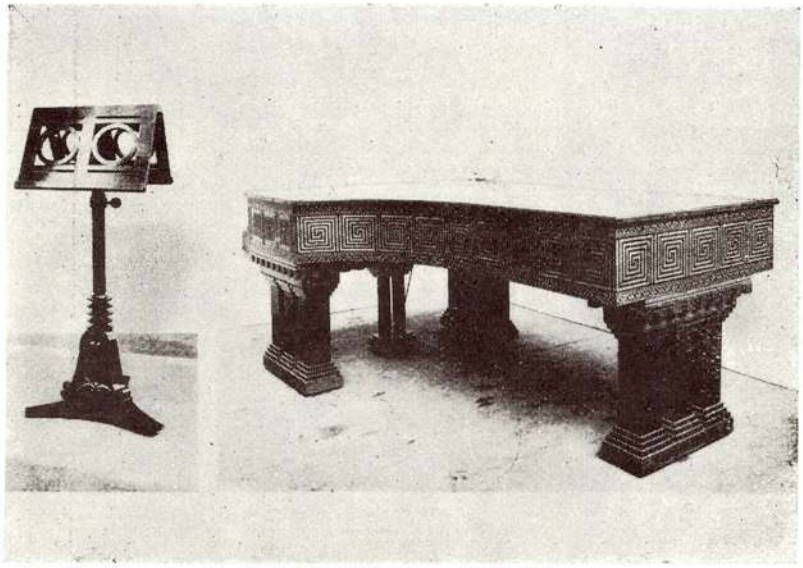
アール・ヌーボー——1900年の頃突然にパリーに發生し、又突然に消えて行つたアール・ヌーボーと呼ばれて居る形態がある。此の形がドウ云ふ處から出て來たかを恐らく誰も知らないであらう。けれども此の流れる様な線の集まりから成る形態は一時全くパリーの天地を蔽ふてしまつた觀がある。丁度其の頃に出來上つたパリー地下電鐵の停車場入口に不可思議なる形態を其の頃の名殘として街頭に曝して居る。



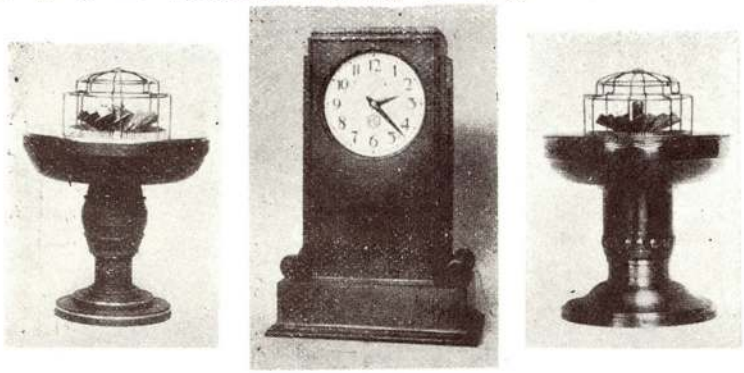
5. フランス・アールヌーボー工藝品

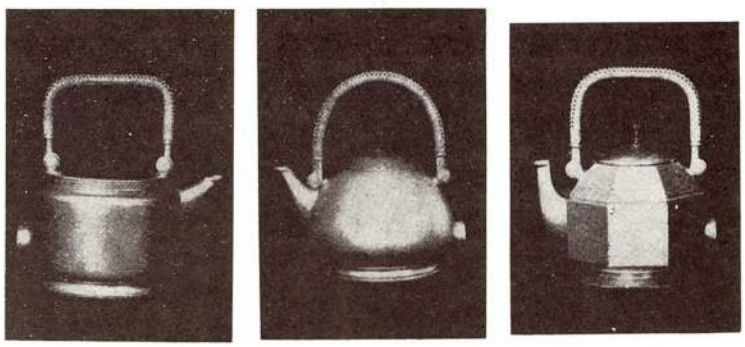
ゼセシヨン—— 20世紀の初頭はオーストリヤとドイツとを中心として歐洲の天地を蔽ふた觀がある一つの流行にゼセシヨンと云ふ名が與へられて居る。元來ゼセシヨンと云ふのはオーストリヤの首都ヴイエンナで1900年の頃現狀に飽き足らぬ各方面の藝術家が一團となつて藝術新運動を起して夫れにゼセシヨン(分離と云ふ意)と云ふ名を附けて藝術の理想に向つて勇敢に突き進んだのであつた。此の一團の中に建築家で工藝家であるヨーゼフ・ホフマンが壯年氣鋭の創作家として加はつて居た。此のヨーゼフ・ホフマンと共の友達であるヨーゼフ・オルブリツヒとは近代家具工藝の上に重要な役廻りを演じた人として擧げねばなるまい。

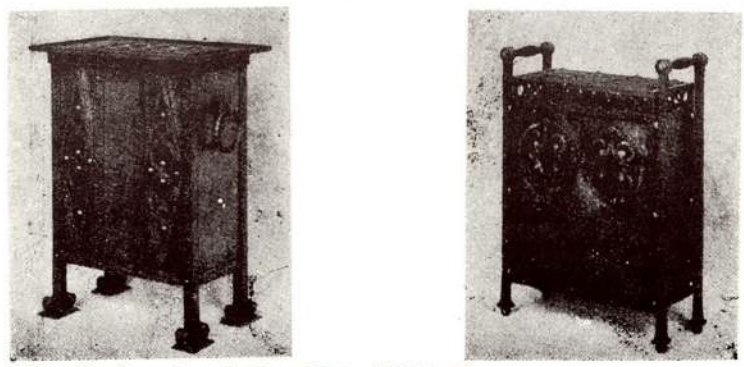
ヴイエンナ工房—— ヴイエンナ工房はヨーゼフ・ホフマンが一黨を率いてある資產家の



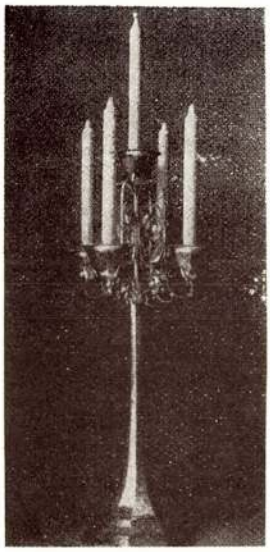
6. ピーター・ベーレンスのピヤノ及譜面臺 (1910年頃)

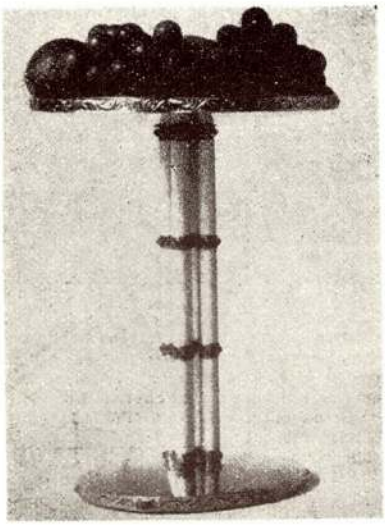


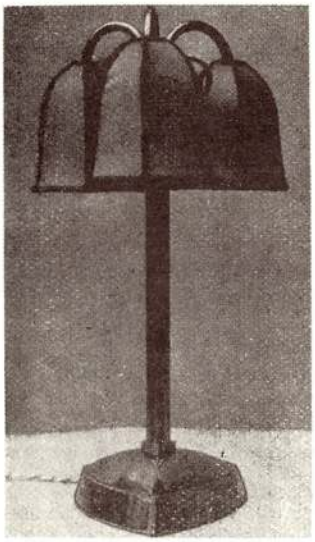


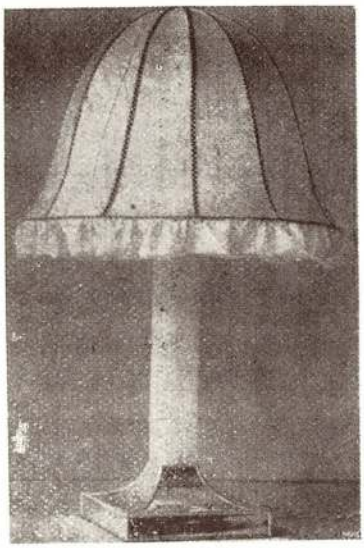


7. ピーター・ベーレンスの工藝品 (1910年頃)







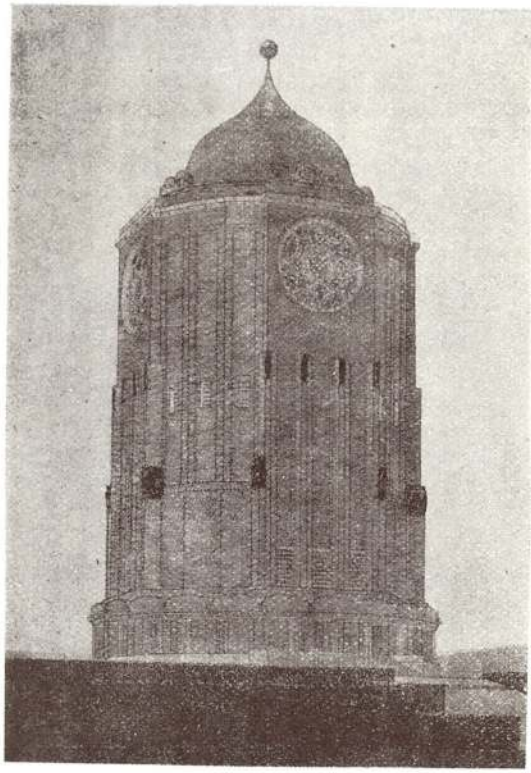


8. ヨーゼフ・ホフマン（1910年頃の工藝品）

財政的援助を得て彼れの理想に従つて新工藝の製作をやつたものであるが彼れが最初の試作品を携へてパリーに乗り出した頃は全く勇敢なる一個の闘士を想はせる。彼れの考の根底には在來の約束に縛られず現代の人間を基礎とし一切の科學を藝術の上に生かさうとする企がほの見える點に於てモーリスの打ち下した一石に更に一歩を進み出たものと云へる。此の點に於てはモーリスとヴアンドヴエルドとマツキントツシユとの仕事に含まれた要素を皆共に具有して居る處の大さを認る事が出來る。斯くて彼の仕事は建築の仕事と並んで歐洲の天地に大きな波紋を描き出したのである。然し乍ら彼の輝かしき工房の仕事も財政上の行きづまりに基いて近年遂に閉鎖さるゝの已むなきに至つたのである。彼を後援して居た一未亡人は此の爲めに莫大の資産を消費して晩年は工房の一使用人として働らいて居たと傳へられて居る。

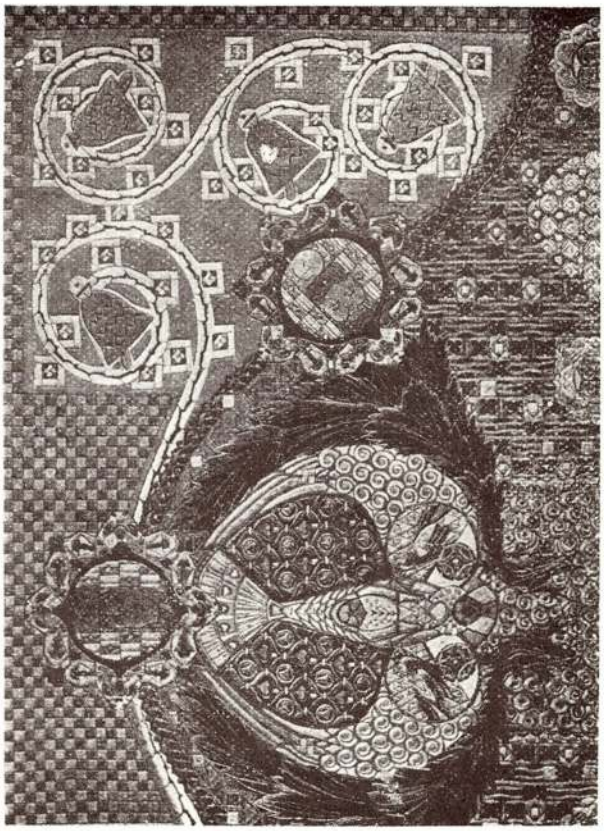
工房の仕事が最も興味ある一つの境地を出現したのは歐洲大戰の間から終了の直後に於てゞあつた。此の頃の不況を打開すべく工房は一人の天才工藝家ダゴベルト・ペツヘを拾ひ出して純然たる手工藝による工藝品の製作を依托したのであつた。こゝに機械工藝と手工藝とは全く混合する事の許されざる二つの世界として工房の中に二つ乍ら鮮かな色彩を描き出したのであつた。茲にモーリス以來一つの大きな問題として工藝界に投げられたる機械工藝と手工藝との問題は全く其の終局に達したかの感があつた。

天才ヨーゼフ・オルブリツヒ——彼れは1900年の頃21歳にしてダルムスタツト藝術家部



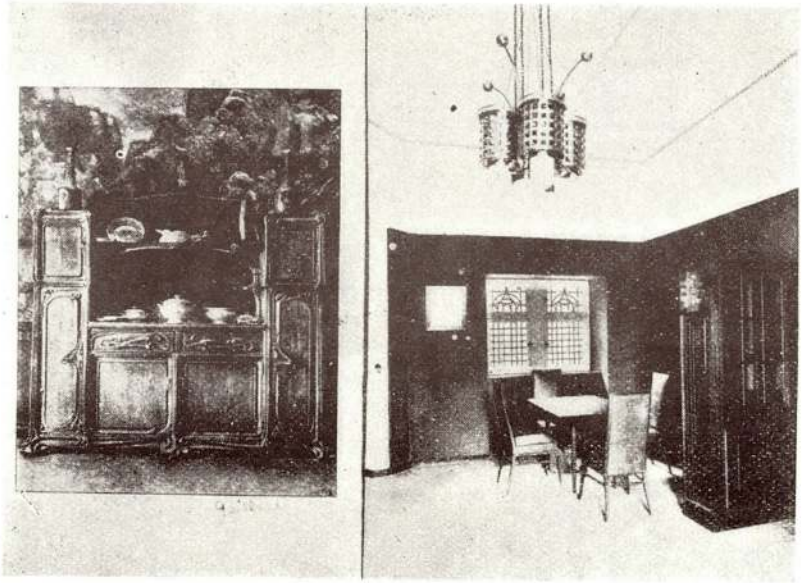
9　ヨーゼフ・オルブリツヒの貯水塔

落の建設に際し計畫の中心を依托する爲めに同市に呼び寄せられたのであつた。



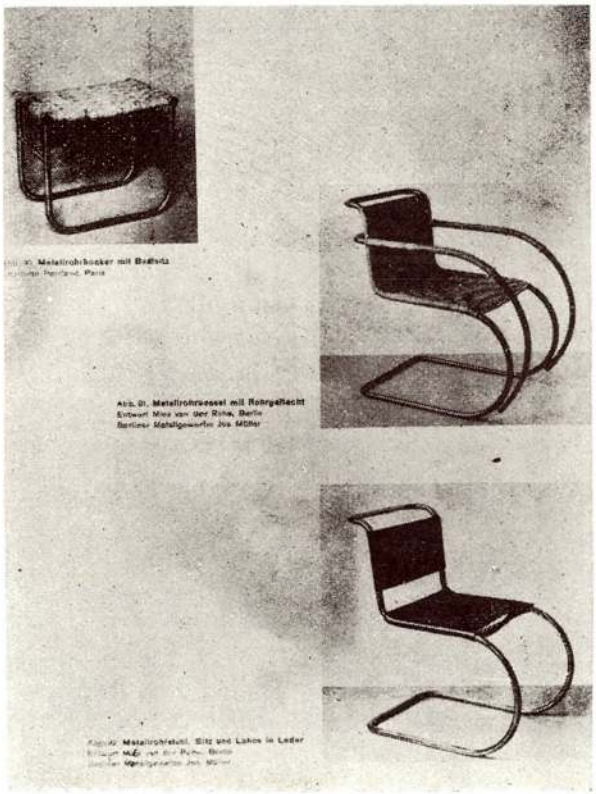
11.　ヨーゼフ・オルブリツヒの壁懸け——(9)(10)(11)はオルブリツヒの多方面なる天才的頭腦を示す例

此の時以來35歲にて短かき彼れの生涯を終る迄の間に彼れが殘した數多くの仕事は全く驚異に値する獨創的のものでホフマンと同じ方向に向ひ乍ら更に特色ある世界を生み出して

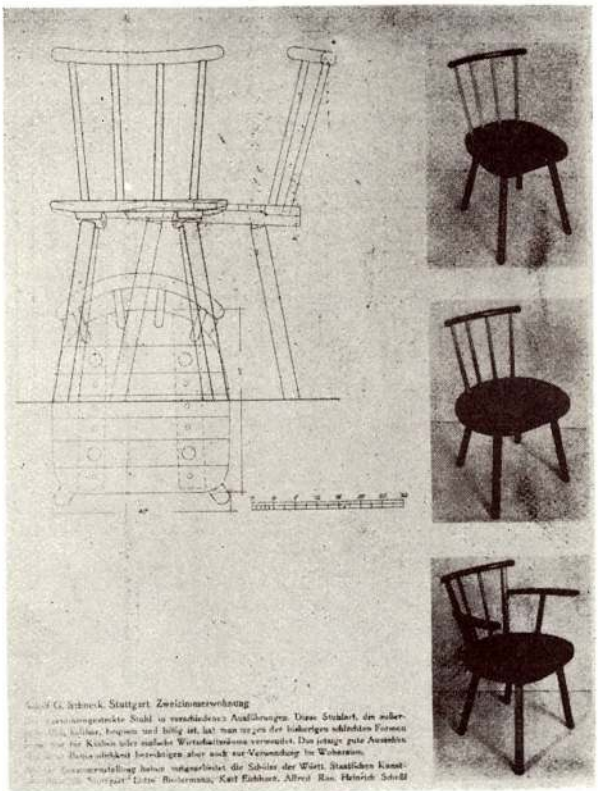


10.　ヨーゼフ・オルブリツヒの室内

此の時以後のドイツ建築工藝界をリードした感がある。彼れの造り出せる家具工藝は過去の一切を抱きしめて夫れを自己の頭腦の中から絞り出したかの觀が



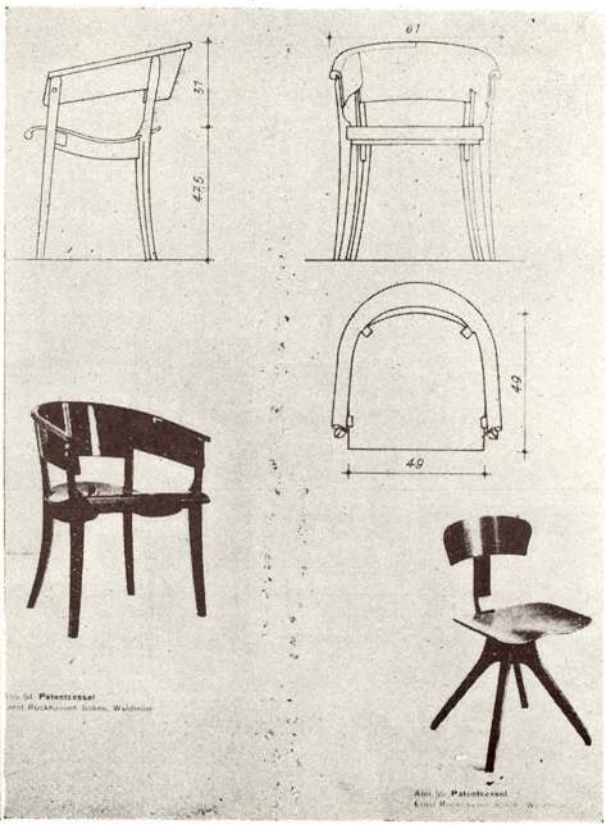
12. 今は普遍したる鋼管家具 （1925年頃）



13. アドルフ・シユネツクの家具——之れは家庭用家具として新らしく計劃したる簡易椅子（1931年）機能と構造と表現との完全なる協和を示す優れたる例

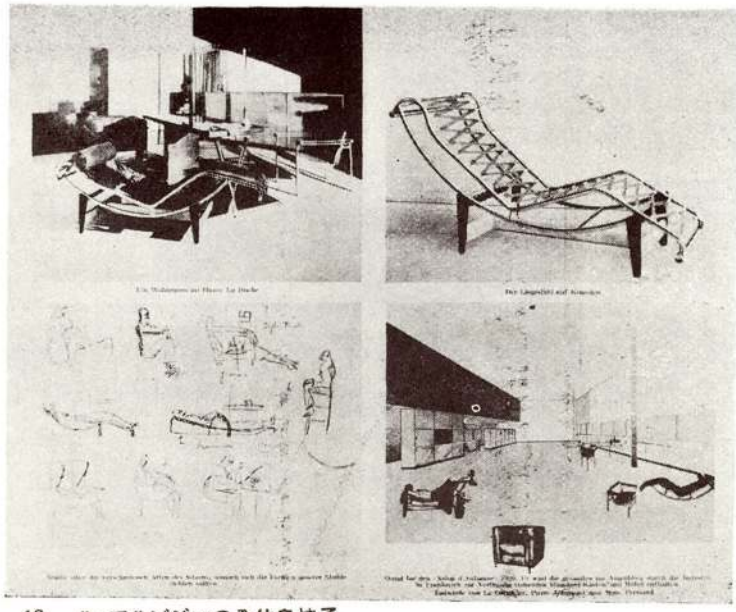


14. 籐製椅子（上）と鐵板椅子（下） － この鐵板をプレスして各部を造り夫れをリベットにて接合したる簡易なる喫茶店用イスはフランスにて考案されたもので掃除整理等の場合を考慮し巧みに計劃されたるもの（近代）



15. 曲板椅子の優れたる例——（ドイツ近代）

ある。其の點に於てはホフマンの持つ大きなる抱擁力の上に更に澄澈とした生氣と他の追從を許さぬ獨創的分子を加へた觀がある。30餘歲にして此の世を去つた天才ヲルブリツヒの偉業は來るべき中歐の新工藝を豫言したかの觀がある。彼れの歿後世界大戰の勃發に至る間の10餘年間は即ちゼセシヨン時代と云つて差支へない。獨墺の建築工藝は全く一つの潮流に包まれて其の勢は全世界に波及するかに見えた。



16. ル・マルビジエの全休息椅子

世界大戰の後——世界大戰は一切の藝術の世界を何處かに壓しやつたかに見えた。人類の出來事は唯砲煙の間にのみ起るかに思へた。然し乍ら戰爭終了の直後歐洲から傳へられた消息は砲聲の止んだ瞬間から人々の心は已に早く藝術に對する願求に立ち上つた事を示して居る。ソウして色々の新らしい現象が各所に起つて地球の上を擧げて一新紀元が開かれるかに見えたのであつた。

藝術に於ける國際協力——戰爭の前に於て絕對に見出す事の出來なかつた斯る現象が戰爭終了の後暫らくして起つて來たのであつた。ドイツとフランスとは國境を接して居るに關らず藝術に於ても仇敵の樣な間柄であつた。私が2ケ年間ドイツで工藝に關する勉强をしたことをフランスである工藝家に話をしたらば貴殿は2ケ年間損失をやつたと云つて居たのを見ても如何にフランス人がドイツを非藝術の國と見て居るかゞ分る。ドイツは又フランスの藝術に殆んど少しも關心を持たなかつたらしいのである。事實私の滯獨中(戰前)一度もフランスに學べと云ふ聲を聞かなかつたのである。唯イギリスには工藝に於て數歩を讓つて居た事を時々耳にしたのである。こんな工合で歐洲の各國の間には唯敵視と競爭とのみが支配して居たかの觀がある。然るに戰爭終了後兩國の間には全く共通な一つの建築を中心とする工藝の動きが起つたのである。フランスに於けるトニー・ガルニエ、アウグスト・ペレー等からマレー・ステバン、ル・コルビジエ等に到る新興の一線とドイツに於けるワルター・グロピウス等を中心とするバウハウス運動の如きものゝ中には一脈の相通ずるものがあり、相次いでオランダ、ベルギー、オーストリヤにそれから少し遲れて英國に殆んど同じ樣な傾向を發生して、之等の人々の間に建築を中心とする工藝運動に關する智能の協力と云ふ前代未聞の事柄が起つたのであつた。斯ふした狀勢の間に於て新たに

起つた色々の現象を次に述べて見る。

工藝思想の根本的變革——工藝は人間の生活自體の上に直接に生れ出でねばならぬと云ふ考が強く支配し始めたのは此の頃から以後である。此の考の根元は遠くモーリスあたりに發して居ると云へる。けれども現代文化の一切を總括して其の中に人間の生活を見出さうとした處にモーリスの考との大きなる相違がある　即ち機械文化をも含む一切の科學を工藝の中に生かし人間生活に即したるものを生み出さうとの企ては近代に一貫した工藝思想と云へる。ドイツのバウハウス運動の如きはそれを最も強調したものと云へる　機械文化が人間頭腦の支配下に置かれた點に於て全く新らしき工藝の世界が出現したのである。即ち

機能に對する科學的研究

材料の自由なる驅使及其の合理的結合

形態表現への根本的考察

等が重要なる目標として數へられる。斯くして様々なる新らしき形態が生れ出でたのである。次に其の一部分の例を揭げて見様と思ふ。

鋼管家具——今日では極めて一般化し日本に於ても盛に製作されつゝある鋼管家具も10年以前に遡りバウハウスの試作品として發表されたる最初には全く世人を驚かしたものであつた。之れはドイツに於て鋼管製作の發達に伴ひ其の彈性を利用して最も簡易なる家具の作製を試みたものであつて繁雜の世界を整理しつゝあつた近代人には極めて適當なるものであつて、機能と合理的構成の上に組上げられた其の簡易なる姿態に對して様々な批判がなされたものであつた。けれども其の當時の短かく頭髪をかり上げ膝迄のスカートをはいた勢のいゝドイツ婦人が青い芝生の上に白い壁を背景として此の鋼管イスに休憩した形は全く生々した情景であつたと思はれる。けれども眞似すきの日本人が直ぐに之れを眞似してあやしげな鋼管家具を作り出してギラツと光つたクロームの色を陰鬱な調子の中に置いて重苦しい服裝で腰を下したのでは誠に不調和を免れない變なものであつた事は今尚私の記憶に新なものである。

社會情勢も鋼管家具製作の情況も其の後色々の變轉を續けて今日では鋼管のみならず一般金屬家具は家具界に一つの確固たる地位を占める事になつて來たのである。

ガラスの家具——之れはフランスに於て特殊の發達を遂げたものでガラス工業の發達とフランス人の特殊な好奇的趣味性とから生れ出たものと思はれる。全部ガラスにて組まれた机、ガラスのケースにつゝまれたピヤーノ等の出現となつたのであつた。プレイエル樂器會社の試作品として發表されたものに細いクローム鐵の枠で組んだ透明ガラス板のピヤ

ーノがある。内部の精巧なるメカニズムを透視する事が出來て近代感覺の感する美の世界に這入ると云ふ様な事が書いてあつた事を記憶する。ガラスも亦確かに近代家具材料として一方の隅に地位を占める。

曲木の家具 ——之れも亦近代の材料として見逃す事の出來ない一つである。曲木は相當古くから用ひられてあるが近代殊に發達したのは曲板の用法である。近時曲板の滑かなる曲面を極めて合理的に用ひて製作されたるイス類を往々見出す　製作の簡易性と夫れより得る所の面の特殊性や輕量なる事等の點に於て他に類例を見ざる材料の特質を有する。此の點に於て之れも亦近代材料の一つに數へる事が出來る。

以上の記述は近代家具に對する極めて部分的の展望に過ぎない。然しながら家具工藝に於ける斯る世界は眞實に來るべき家具界に一つの指針を與ふるに充分なる力を持つ。今最も組織的の研究が進められつゝあるのはドイツであるらしい。機能的に材料上に現代の生活に即し現代の材料を生かして家具を完成する事に各方面の努力が費やされて居る模様である。アントニ・スタール氏が小椅子に就ての寸法の記述をやつて居る處で家具中で最も困難なるものはイスに就ての研究であると書いて居るのには同感である。英國は古き傳統と優れたる經驗との上に新らしき道を拓きつゝある。フランスは極めて豊なる藝術的素質から特色ある家具が生れつゝある。

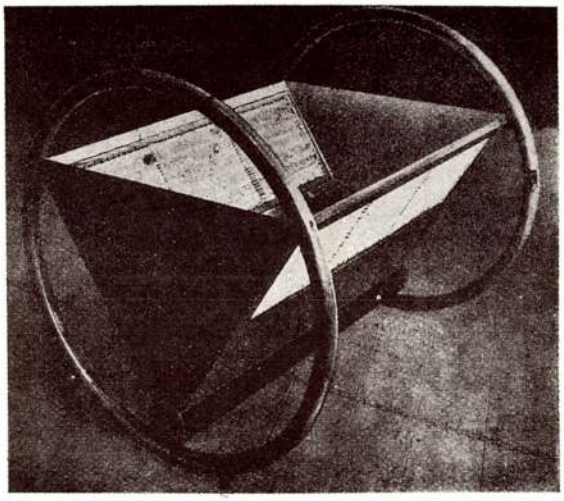
吾等は亦吾等の家具を持たねばならぬ　それは平安朝の復活であつてはならぬ。桃山期の復活であつてはならぬ。歐米の模倣であつてはならぬ。眞實の自己の魂の其儘の發露であらねばならぬ。過去も學ばねばならぬ。歐米にも學ばねばならぬ。然し乍ら夫れに捕へられた時生れ出るものは生命なき形骸に過ぎぬ。飽くまでも生々とした自己の魂を形態の中に注ぎ込んだものでなければ生命ある家具工藝と云ふ事は出來ない。

吾國に生命ある家具工藝が生れ出るのも之れからであらう。

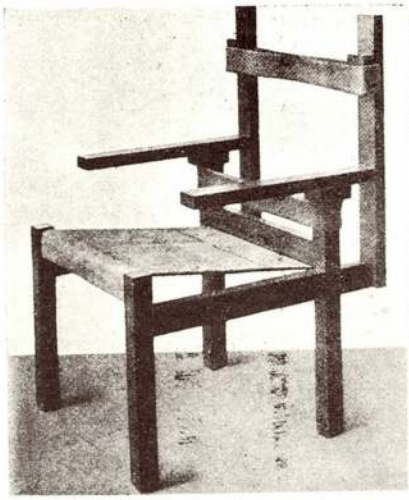
本項は之れで終りとし近代家具工藝の種々相を圖示して參考に資し度いと想ふ。



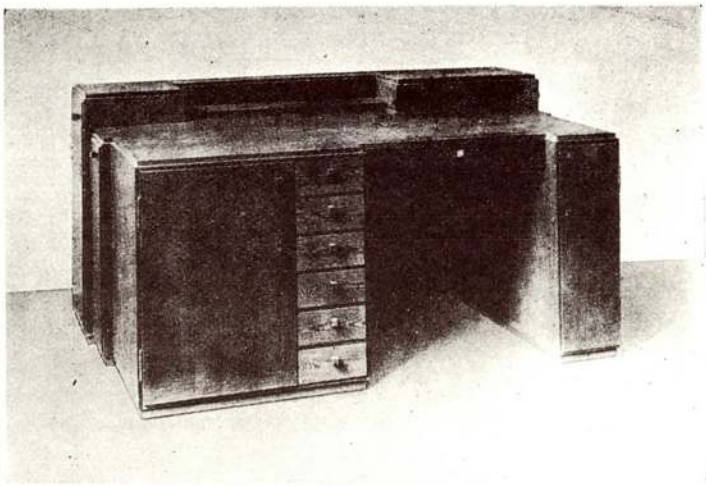
1. 初期バウハウスの椅子 (1920頃)



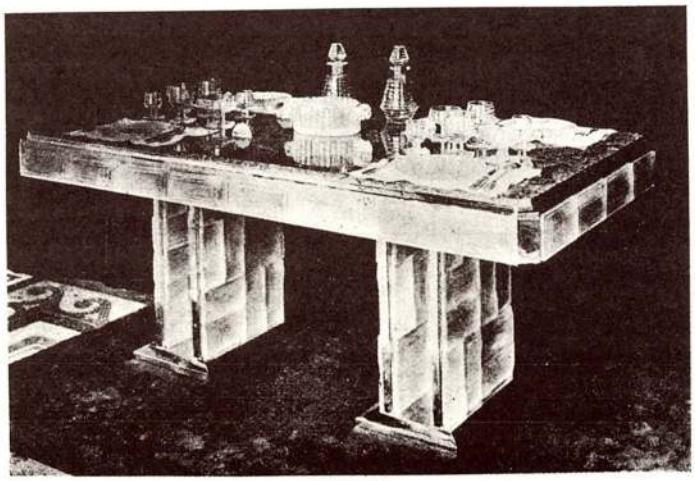
2. 初期バウハウスの揺籃 (1920頃)



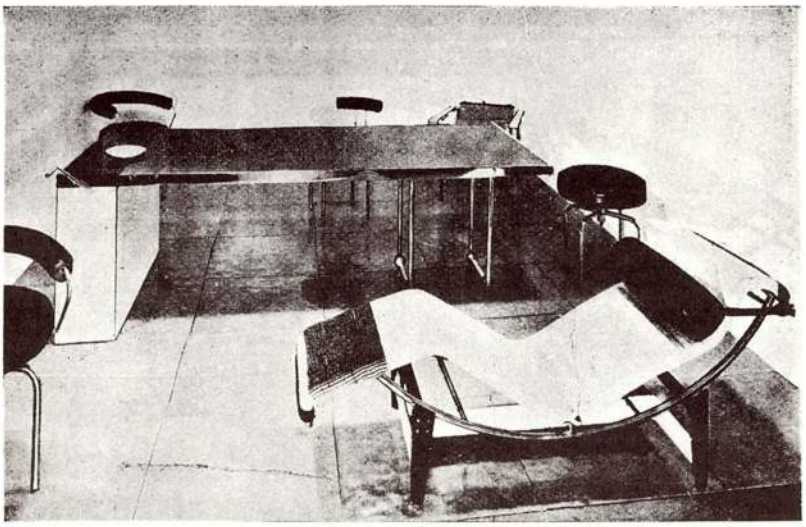
3. 初期バウハウスの椅子 (1930頃)
機能と構造とから
生れる新しき姿態



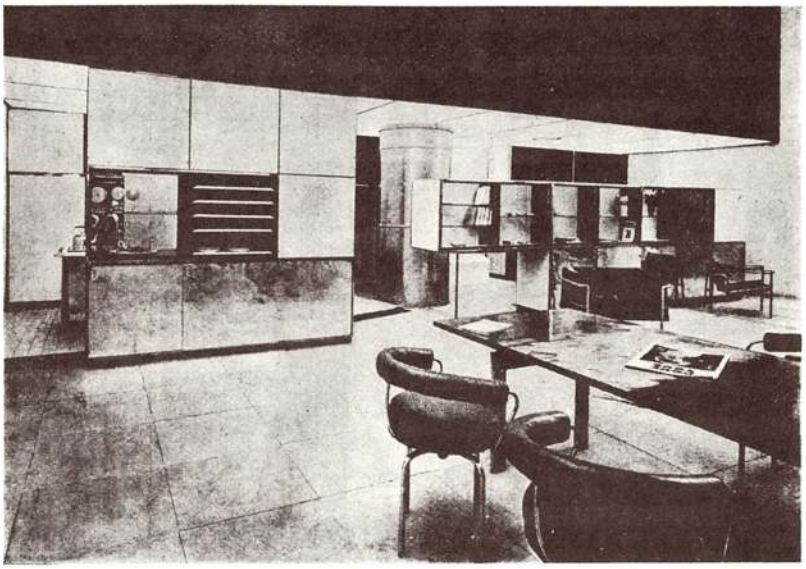
4. 初期バウハウスの机 (1920頃)



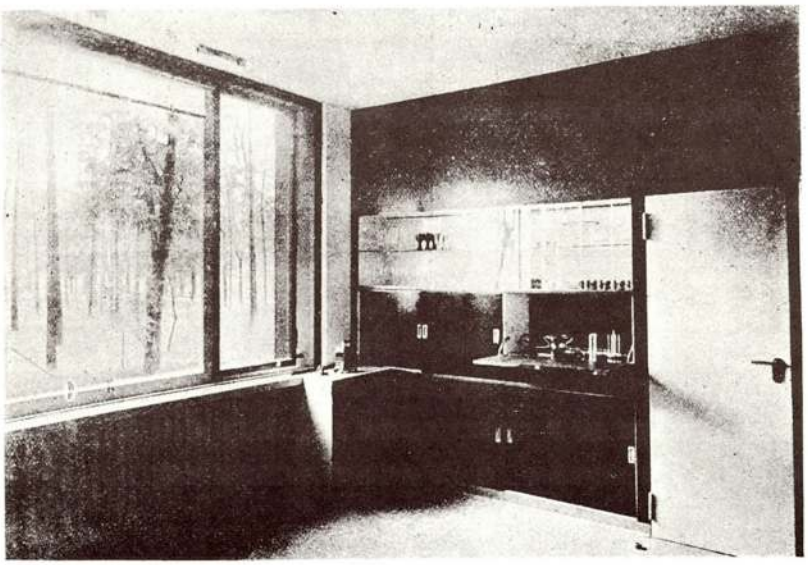
5. フランスのガラスの机 (1930頃)



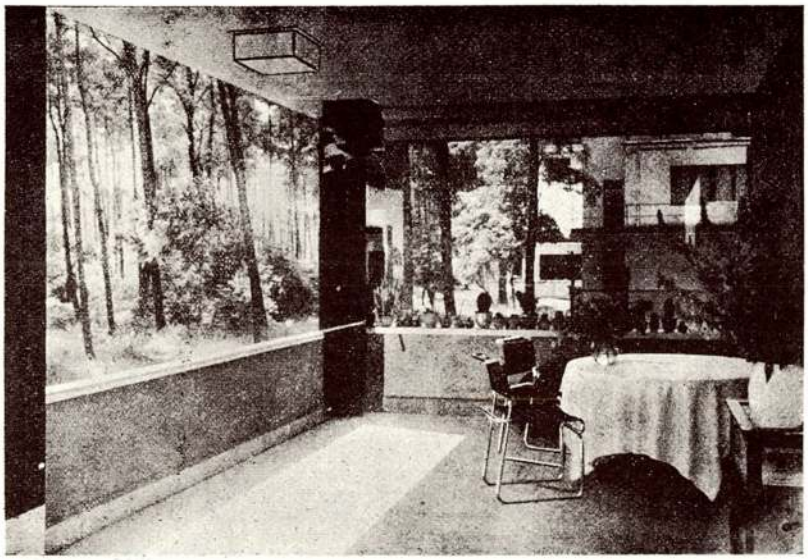
6. ル・コルビジエの家具 (1930)



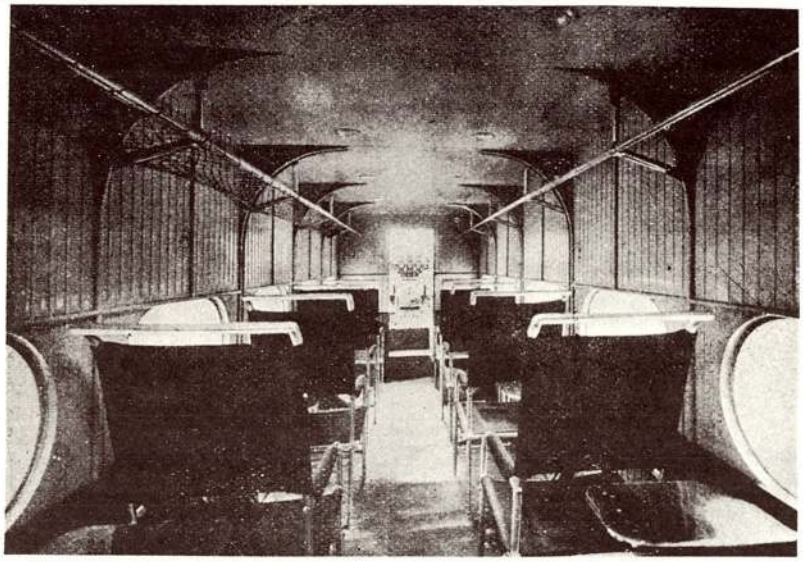
7. ル・コルビジエの室内 (1930)



8. ワルター・グロピユスの家 デツサウ (1930)



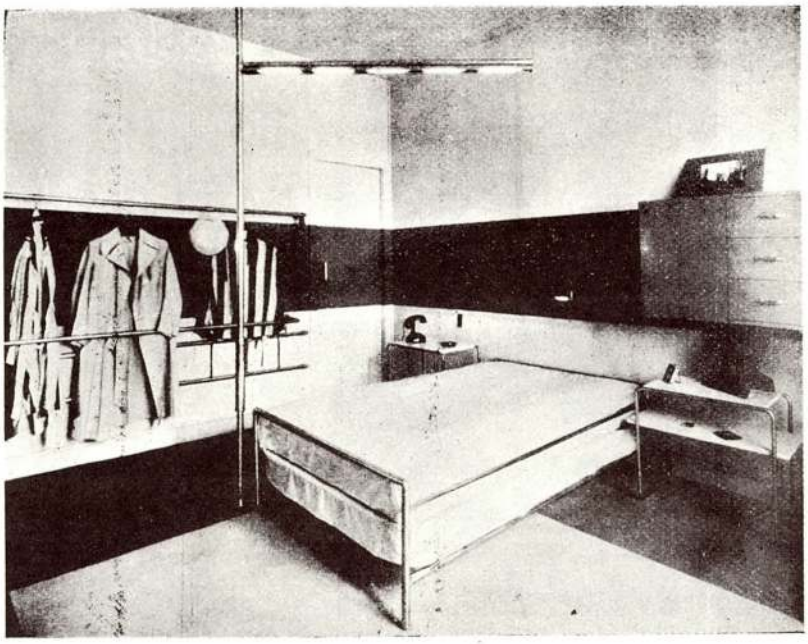
9. ワルター・グロピウスの家 デツサウ (1930)



10. 飛行機客室の内部 フランス (1931)



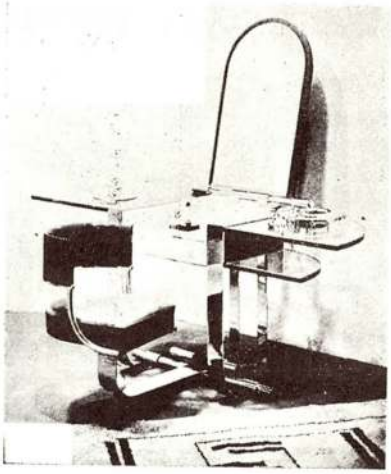
11. 同 上



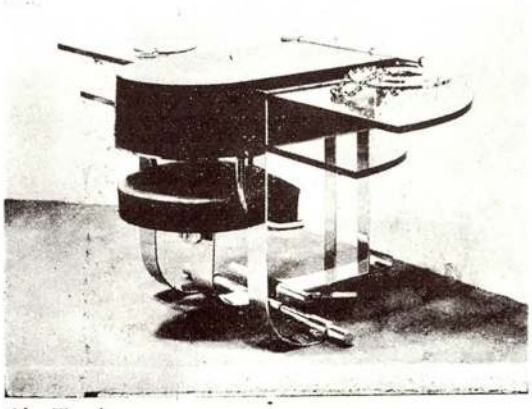
12. フランスの新らしいホテル客室 (1931)

15. ピアノ形態の傳統的形式からの開放 フランス (1931)

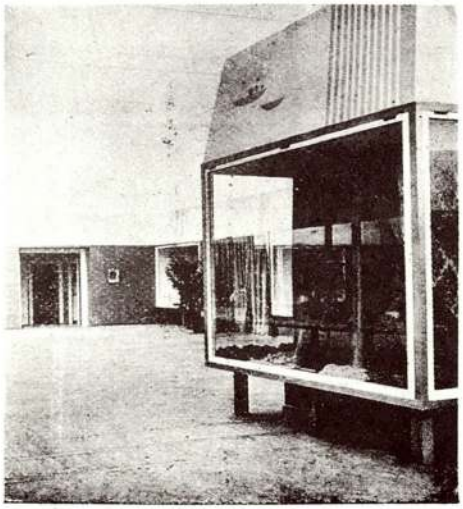




13. ガラス 金屬の新奇なる化粧机 フランス (1932)



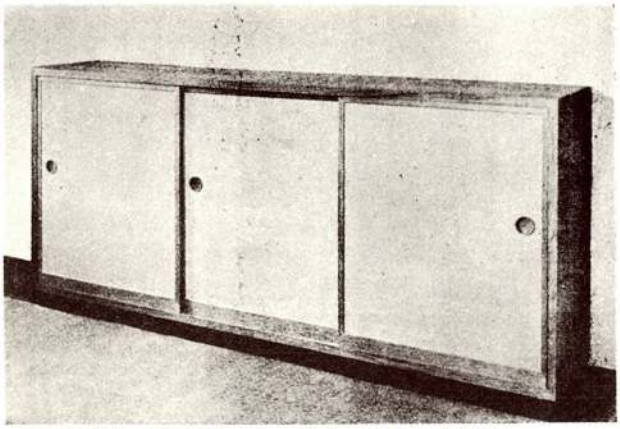
14. 同 上



16. ヨゼフ・ホフマンの近作、ウイーン展覽會場 (1934)



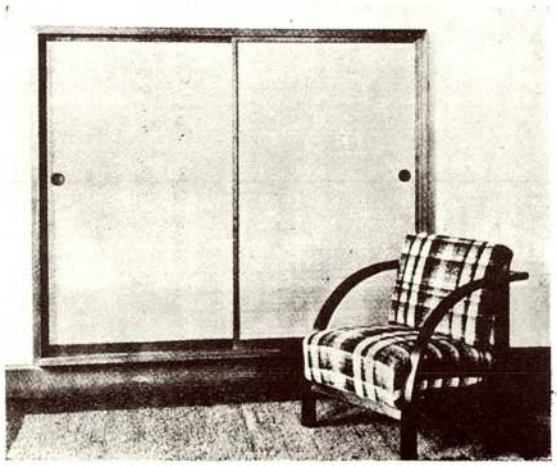
17. 最も新奇なるフランスの室内
ある事務所の所長室 (1934)



18. 日本櫥の原理を應用せるドイツの家具 (1934)



20. アドルフ・シュネツクの洗練されたる家具
(1934)



19. 同　上

工　藝　の　概　念

向井寛三郎

現代の工藝が確乎とした一つの概念によつて把握されてゐない事は實に嘆かはしい。帝展に第四部として工藝があり商工展の工藝がある。此の兩者が如何に共通するものを持ち如何に區別さるべきものを持つかを明瞭に考へる事すら出來ない現狀である。それは工藝の進歩の爲にも、亦工藝の受用の爲にも決して利益ある事ではない。

或者は美術工藝といひ又は工藝美術といふ。或者は又産業工藝といひ、又は單に工藝と稱する。而して互に其間一面牆壁を設けて相斥け乍ら、一面相競つてゐる有樣は實に滑稽に近い現象といはねばならない。等しく工藝といふ名に値する以上、そこに共通すべき本質がなくてはならぬ。たとへ製作の工程に、或は其方法に差があり、其用途の上に、或は價格の上に上下があるとしても工藝である點に關しては等しく主張すべきものがなくてはならず、又等しく概念さるべきものを持たざるべきである。否、この平等なる本質と差別ある立場を理解する事によつてあらゆる工藝と名づけられるものは正しく成長し正しく生きるのである。而して嫉視もなく羨望もなく相共に文化の向上に參與すべきものである。實に等閑に附せられつゝある工藝の概念の確立こそ焦眉の急を告ぐべき問題である。

工藝の概念は特に其の計劃に際して重要である。所謂工藝作家の態度がこれによつて決定されるであらう。又工藝の工場の製産がこれによつて價値づけられるであらう。工藝は現在の如き曖昧なる概念の下にも製作はされるが、それが新しき進出を妨げ、或は製品の價値を害ふ。工藝の合理的なる判斷は歪められたる傳統と、産業的なる無理解によつて常に曖昧になり、常に虐げられるものである。正しく進むべき工藝の道は明るく朗らかであるべき筈であるにも拘らず、其の邪惡なる中間物によつて齒止めを加へられ、殊更に迂廻し乍ら晦迷を求めてゐるかのやうである。自己の立場がこの爲に危くなれば他を陷れんとし、或は所信をまげて勢力に向つて膝を屈せんとする。あらゆる工藝界の不祥事は、實に社會の——それを後援すべく又、それを需用すべき——工藝常識の正しさを失へると、工藝關係者に工藝の正しき概念を無視されつゝある點に起るものといはねばならぬ。

工藝は理論として工業品と區別される。然し、それは工業といふ製産の方法に依るのではなく、製産の基礎をなす計劃、或は製産の動機に關係して區別されねばならぬ。即ち工藝は工業品と概念上區別立てられる爲に其の製産の第一步に於て異ならねばならない。又

工藝は美術に對しても同樣のことが考へられねばならない。換言すれば製作さるゝ動機を吟味する時工藝は工業品と美術品の中間に置かれて、この三者は確然とした差別の下に鼎立すべきものである。

然し乍ら、茲に注意すべきは美術が今日の社會に於ける位置に關してゞある。それと同時に工業の今日に於ける情勢に關してゞある。前者は美術が凡ゆる人生の創作的なるものゝ上に君臨して其特殊なる性質により文化人の特殊なる愛好と尊敬を受ける狀態に置かれ其表現の理論的追求と工藝の表現的可能性との間に一つの關係が生じ、工藝の或種のものが美術の待遇を受けることに熱心となりたる點である。帝展の工藝は實に此の地位を獲得したものといふべきである。又、後者は工業的製品が美感を其中に表現し得るまでに發達したる事である。昔は多量生産による工業的所産は美を生み出すものでないと思はれてゐた。これには種々の事情もあるが、其主要なる原因は昔の工業製品は根本的に美を發揮せんと望みもせず、又、美はそうした世界のものでないと斷じてゐたからである。然るに近來、美の表現手段の向上は、吾人の感覺を刺戟する形狀色彩調子の計劃的なる構成によつて、計算的に美を醸成するに至つた。これは他の工業的技術が自然を模倣して殆んどこれに肉薄するものと類する人生の愉快なる出來事である。茲に於て型を用ひて作られた品物にも、印刷されたる品物にも、これ迄の人が求めもせず知りもせなかつた特別なる〝美〟が發見されたのである。

即ち工藝の或者は美術の領域を窺ひ、更に或者は工業の力を自らの世界に獲得した。是は工藝にとつては偉大なる事實である。質に於て向上の途を求め量に於て擴大した。然し乍ら、此の爲に工藝は其概念を失はんとしてゐる。美術に向ふものは工業に向ふものを蔑視して殊更に工藝を歪めんとし、中道にある工藝は其據るところに疑惑して苦悶する。工業に向ふものは徒に多産を夢みて本質をおろそかにし工藝の本質より離れて邪路に陷らんとする危險を帶ぶ。これ現下商工展に散見する恐るべき工藝の過誤ではあるまいか。

然らば工藝の本質は何か。工藝の正しい概念とは何を指すか。それは確に困難なる問題であつて識者の答へを求むるものであるが、茲に吾等は微力を顧みず一試案を呈して、世の叱正を希ふものである。無論完全とは言へなからうが、然し、是によつて幾分にても說明がつき、更に進んだ解釋を見ることを得ば吾等の喜び是に過ぎるものはないのである。

『工藝は實用品でなくてはならぬ。それが製作の動機は、それ故に、實用を充すことにある。而し乍ら此の實際的なる〝用〟を充す半面に於て吾等の〝美〟の表現を忘れない時計劃は實用を環つて光彩を放つ。この〝美〟はどこまでも〝用〟を妨げてはならぬ。否、それによつて〝用〟を强調するものでなくてはならぬ。美は即ち用、用は即ち美、この境地に出發し完結するもの、それが工藝の眞意である』吾等は以上を以て工藝の定義とした

い。然し乍ら今少しくこの定義を敷衍することにより此の内容を徹底させたい。

吾等は工藝を一の制式

$$\mathbf{A}=au$$

として說明する。**A** は工藝、a は美的價値、u は實用的價値、を表す。工藝は其製作動機並に其製作の全過程を此の式の示す如く a 即ち美と u 即ち用の化合的なる融合即ち au にて示す如きものとなることを理想とする。それは a と u の單なる集り（$a+u$）であつてはならない。

吾等は物を作る時、及其製作の全過程に於て、常に一つの考によつて進行するのを例とする。この心の要求が動機となり工夫となる。從つて動機や工夫の根底となる考方は常に其製作を支配し其結果を生む。吾等が工藝の概念を述ぶるに當つて、其動機に重點を置く所以である。

すべての物には要求があり、其要求の滿足するところに價値を生ずる。然るに此の價値を大別する時、上記の式にてu として取扱ひたる實用價値〝用〟と、a としたる美的價値〝美〟とである。

用とは風雨寒暑を凌ぎ飢餓から吾等を救ふものである。机は書を讀むため字を書く爲に椅子は此れに掛ける爲に、花瓶は花を挿す爲に、すべて a を有するのである。此に對し美はかくの如き實際的貢献でなく、實に吾等の精神に向つての價値であり、靈的滿足に値するものである。かくて吾等は美の存在によつて一箇の工藝を眺める時、自然に接する如き强い慰めと、自然の心に似た大きさに通ずる一つの心持ちを與へられるのである。即ち說明すべからざる〝美〟の世界に引入れられるのである。吾等が音樂を聞く時、繪畵彫刻に見入る時、この心持にひたる。それは實に羽化登仙の心持である。工藝にも亦此れに似た愛着と心持を吾等に與へられねばならない。それがa の價値である。

音樂、繪畵、彫刻、工藝、そのそれぞれに自ら異る趣きはあるが、美のよつて起るところはすべて一つの手掛りである。音樂は音に繪畵は色や調子に、而して工藝も亦此れに似たる性質によるのであるがたゞ他のものに比し異る點はそれが用即ち u と一致して吾等に迫るところである。

今世の中に存在して、吾等の眼に入るあらゆる〝物〟を注意すれば其製作の動機から實に次の如く分類することが出來る。

（1） a のみによるもの

（2） a より u を生ずるもの

（3） u のみによるもの

（4） $a+u$ なるもの

（5） au にて表し得るもの

（1）は美術品である。それは製作に際して美の表現をのみ目標とした結果である。即ち a のみに立脚して仕事されるのが美術本來の仕事である。繪畫彫刻の作家はそれを裝飾の實際的な効果を遂げしめやうとさへ考へないのが本當である。殊にせまい意味に於ける用の世界は美術の製作には侵入すべからざるものである。然るに、美術が時に其偶然持たされたる事情より應用されて u の仕事をする事がある。彫刻が裝飾的なる役目を果したり、ポスターとして繪畫が廣告役目をするやうな場合である。これは（2）の場合で a が基となつてたまたま u を生じたものである。

（3）の場合は製作の動機に更に美の顧慮なきものであつて、主として原料的なるものか或は消耗さるべき性質をもつ工產品、或は最も低級なる實用品がこの中に數へられる。

然るに世の中には次の（4）に屬する不思議な品物も少くない。それは a と u が各別々な立場で共存する場合である。屏風や衝立に繪畫が描かれてゐる種類であつて、此れを工藝と考へられ易い危險なるものである。殊に繪畫の優れたる場合など、それは所謂美術工藝の領域に崇められんとするとが度々ある。然し乍ら、注意すべきは、それが繪と衝立や屏風との間に何等必然的な交涉を持たぬからである。それは工藝と繪畫又は工業品と繪畫との偶然の寄合ひに過ぎない。

又、甚だしきは工藝の名の下に次の如き謬りが行はれる。一例ではあるが團扇に油繪を描いて、それが特別な價値を持つたと考へられる行方である。これは團扇といふ台所の實用品と美術とが偶然に出會つたもので、お互に其使命を害ひあつてゐる例である。美術が附けられたゝめに團扇が其價値を失ひ、團扇につけられたため繪畫は其 a を損した——丁度それは工藝の要求の正反對を行くもので、而かも世には此の種の怪奇が工藝の名の下に橫行するとさへ間々あるのである。

最後に（5）は吾等の稱して工藝となすものであるとは既に說明したところであつて、a と u は互に一團となつて表現し奏功する。u をとり去る時には a を害ひ、a を抜きとる時 u が破れる種類のものである。この（5）に於ける a と u の關係は然し乍ら其度合の上に多くの階梯を有するとを注意したい。

或工藝は a が u に對して遙かに優勢であつて、其用途の關係上、美術に近く置かれるものである。又或工藝に於ては不慣れなる人には更に a を見出し得ないまでに u の優勢なるものがある。これ等の關係に殊に密接して考へられるとは手工的工藝と機械的工藝との間に係る問題である。

美術の特性が手工に存するとは爭はれない。從つて手工品の特色として稀少性を持つとも理解される。然し乍ら手工品であり稀少性を持つ時、それが直ちに特別なる貴重品であるといへぬ如く、あらゆる他の事情を無視して、手工品なる點に重點を置いて工藝を美術の位置に据ゑるのは誤りである。工藝が美術として待遇されるとは、實は特別の場合と考

へられねばならぬ。どこまでも本道ではない。古來工藝品が特別に美術として取扱はれて來たものは其の表現する美の量によつてであつて、それは後世の判斷に依るのみである。恐らく古の工藝作家は繪や彫刻とは全く別の立場にあつて仕事をしたものであるといはねばならぬ。

機械的工藝が手工藝と異る點はただ人の手の仕事の跡を持たぬに止る。美が作家の人間的要素に拘泥した時代に於ては手工から離れて成立しないと思はれてゐた。即ちかかる時代に多量生産の美が認められやうわけがない。即ち機械が工藝を産出し得るとは考へられなかつたであらう。然し乍ら手工の跡に關係するとなしに、形狀大小調子色彩の構成組織が美を産出する手掛となり、事實機械の製品に美を發見した今日、ただ計劃の正しさによつて機械は工藝を産出するに到つたとは世の認めるところである。即ち工藝の美と美術の美とは現今にあつては全く異なる理解の下に成立しなければならぬ。美術に於て美は制限されるとなく自由であるが工藝の美は用に制限されてのみ力强く表れるのである。自由なる表現は手工によつて其能力を發揮し得る意味より、美術は徹底的に手工的なるとを要求せられる。此に反して工藝は自由なる表現の不可能を以て立前とする。而してかかる關係より推して、工藝の美が美術の領域に置かれ得るとはあり、而してこれは賞讃され珍重されてもよいが併し乍ら、工藝立案の立場に於て美術に歸屬するとを唯一の榮譽とするとは大なる考違ひであるといふべきである。

帝展の第四部に集めらるべき工藝は主として手工藝にして、人の手の働きが直接に其物の上に作用したる複雜な表現に、多量に人間的要素の認めらるべき工藝でなければならぬ又商工展のそれは機械的なる立場にあつて産出せられたる構成と組織の上に美を發揮する工藝品であつて、どこまでも多量生産の立場にあるものと考へられるのが至當であると思ふ。

この兩工藝の立場は要するに工藝に於ける美の取扱方に關して分たれるものでなくてはならない。併し乍ら、共に工藝であるべき爲に〃と〃との關係に其計劃の第一歩を謬られてゐないものであるとを何よりも大切に考へられねばならない。

歐米に於ける工藝が Kunstgewerbe と稱せられ、或は Art and Craft と呼ばれてゐて共に美術に屬するが如く解され易きも實は英語の Art といひ、獨逸語の Kunst といふも、共にこれが日本で現に考へられてゐる〃美術〃なる狹意のものでないとを注意したい。それが繪畫彫刻と列を同じうして取扱はれつつあるが如きも、實は Art 又は Kunst 中の各一部門であつて日本に於けるが如き、美術下の一部門〃工藝〃とは自ら意味を異にしてゐるものなるとに氣付かねばならない。就中、工藝を以て骨董品と思惟するが如きはあらゆる矛盾と撞着を起す基となるとを特に注意しなければならない。(完)

歐　米　家　具　略　史

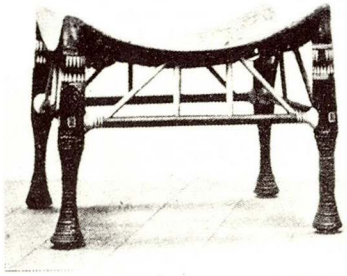
角　尾　篤　彦

目　　次

I　緒　論
II　古典的の家具
a）　エヂプト
b）　バビロニア、アツシリア
c）　ギリシヤ
d）　ローマ
e）　ビザンチーン
f）　イスラム又はムーリツシ
g）　ゴシツク
III　ルネーサンス
a）　イタリアン•ルネーサンス
IV　フランスの樣式
a）　フレンチ•ルネーサンス
フランシス一世——ルイ十三世迄、
ルイ十四世
b）　フレンチ•ロココ
ルイ十五世
c）　フレンチ•クラシツク
ルイ十六世
アムピール（ナポレオン一世）
V　英國の樣式
a）　イングリツシ•ルネーサンス
1）　チユードル
2）　エリザベザン
3）　ジヤコビアン
4）　ウヰリアム•アンド•マリー
5）　クウヰーンアン（過渡時代）
b）　ヂヨルヂアン時代
1）　チツペンデール
2）　ヘツプルホワイト
3）　アダム
4）　シエラトーン
c）　ビクトリア時代
VI　他の國々のルネーサンス
a）　ドイツ
b）　フレミツシ
c）　ホーランド
d）　スペイン
VII　アメリカに於ける家具
a）　コロニアル•フアーニチユワ
b）　アメリカ式の家具（コロニアルスタイル）
c）　ミツシヨン•スタイル
VIII　十九世紀末より二十世紀初期迄の新傾向
a）　英國
b）　佛蘭西
c）　墺太利及獨逸
d）　アメリカ合衆國

I　緒　論

家具の歷史は夫々の國民の國民性、習慣、還境等によつて夫々の樣式が生れた。これ等は



エヂプトの革張のスワール 大英博物館



彫刻と象嵌と繪で飾られたエヂプト時代の貴重品箱

夫々の國民の文明と教化の程度、日常生活の程度、工人の熟練の如何、或は進歩せる工具を使用せるか否かによりて異る。

初期に於ては建築の様式に嚴密に從つて居つて簞笥や戸棚など屢々建築物の正面を縮少した形を成し、腰掛は窮屈で取扱ひ難く、椅子の凭れの柱は教會の尖塔に似た形をして居た。然し之等の形は取扱ひ難い爲漸次廢せられ、家具の設計は專門的に分離して建造物の設計に餘り拘束されず、安樂と實用とに對する構造によつて全く自由なる種々の家具が出現したとは雖も建築のデイテールと裝飾の二つに調和を保たせた。

之等種々の様式と様式の間に判然たる區別の一線を劃くことは出來ない、寧ろ漸次に變化したものであるか若しくは一つの様式から他の様式に迄發達して行つたものであると思はれる。此の中間の僅かな時期に於ける家具の分類は極めて困難であつて老練な專門家でも屢々鑑定を誤ることがある。

而して今日家具の様式と稱へらるる大部分はルネーサンスの初期から十九世紀迄の間に英、佛兩國に最大の發達を爲したものである。(年代表參照)

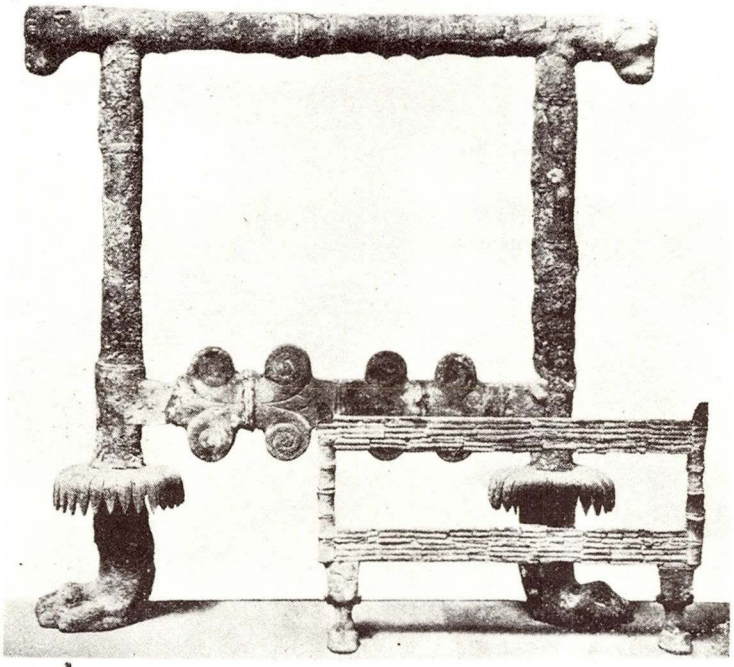
II ルネーサンス迄の概要

a) エヂプト (Egyptian)

此の時代の建築材料は石材を主として之に木材及金屬を僅かに添加したもので家具にも亦之等の三つの材料を使用した。使用木材の主なるものは Sycamore, Cedar, Palm の種類で繪畫が主なる裝飾法であつたが彫刻や象嵌を併用された。飾りのモチーフとしては Lily, Lotus, Date-Palm, Reed 等であつた。殘存して居る現物は非常に稀であつて、此の時代の知識の多くは當時の殿堂の壁面に畫かれた繪畫、彫刻等の例證によつて集められたものであるが、幸にして氣候其の他の狀態によつて純粹のエヂプトの家具の標本の幾分かは大英博物館其の他に傳つて居る。これによつて次の時代の他國民の作品よりも比較的多くエヂプト人の仕事の記錄を知ることが出來る。彼等エヂプト人の抱いて居つた人生に對する思想—轉生輪廻説や拜日教などの爲に裝飾の主なる對照物は木乃伊であり棺桶であり墓であり殿堂內部の記錄的壁畫であつた。

b) バビロニア—アツシリア (Babylonian—Assyrian)

此の時代の家具は國民性を表はすべき標本を殆んど遺さなかつたので、吾々が研究する



アツシリア時代の玉座の一部とスツール

歴史上の連絡に必要な彼等の様式を知ることが困難である。僅かに遺されたルーブル博物館や大英博物館の標本によつてエヂプトの家具に酷似して居つたことが想はれる。

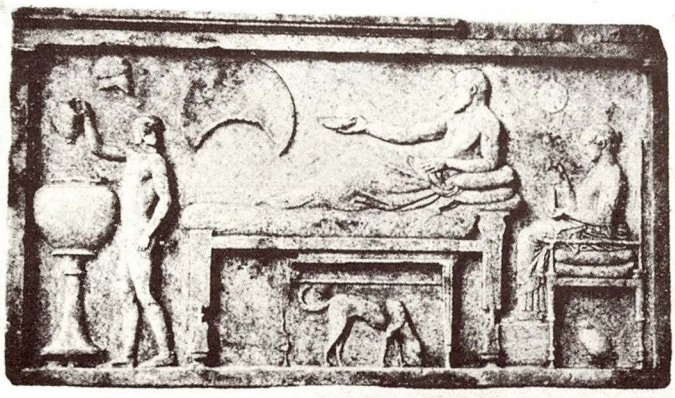
c) ギリシヤ (Grecian)

ギリシヤ美術は西歴紀元前三世紀から四世紀にかけて最も光輝ある狀態に達した。彼等は古典藝術に於ける美と形態との精巧なる精神を示した此の精神は次に繼續する様式の上に非常なる影響を與へた。尙此等の作品はエヂプト其の他東方諸國のものと非常に異つた特性を持つて居る。

建築上に於ては Doric, Ionic, Corinthian の三ツの Order の柱を創作して其のオーナメントとプロポーションに夫々異る趣味と精練とを示した。殿堂其の他の建築に彼等の最も著名な仕事を殘したのみならず、家具に於てはブロンズ、木材、石材等の材料を用ひ、デイテールとしては Frets, Ante-fix, Anthemion, Egg and dart, 其の他特徴ある各種のモールデイングを用ひた。

d) ローマ (Roman)

ローマの國民美術はギリシヤ人の示した精神に從ひ教へられ發達し多くの類似點を持つて居るがクラシツクアートとしてはギリシヤ式より以上に勝れたオーナメントを持つて居る。建築上アーチの創作やギリシヤの三ツのオーダーの外に Composite と稱せらる、オーダーを創作し建築は異常の發達を爲し、之に伴つて家具類も裝飾も驚くべき精巧なものを造り出した。壁面は多くの色彩の壁畵又はモザイツク、床も亦モザ

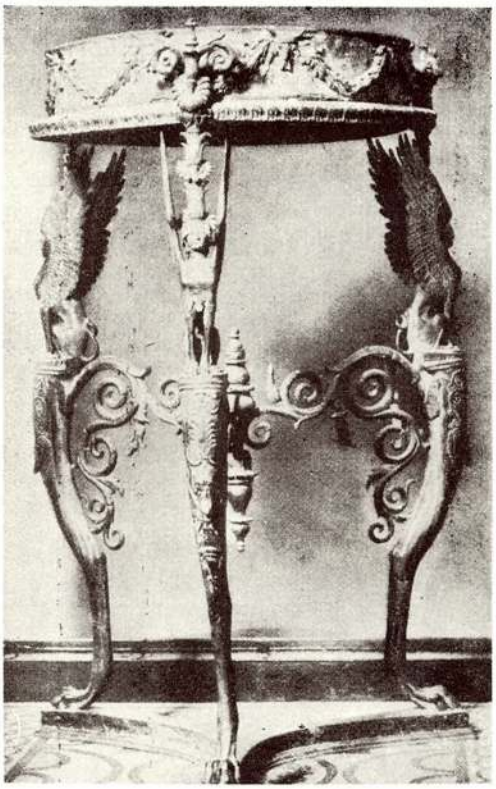


ギリシヤ時代の椅子

イツクを以て飾られた。これ等の古典美術工藝品の多くの標本はヴエスビオスの噴火によつて埋沒されたPompeii, Herculaneumの兩都市の發掘(1748年より現在も尙繼續)によりて發見せられナポリの博物館やルーブル博物館に陳列されて居るこれ等の標本の發見の刺戟によりて後年英國のアダム、佛蘭西のルイ十六世等の樣式の發達を招致した。

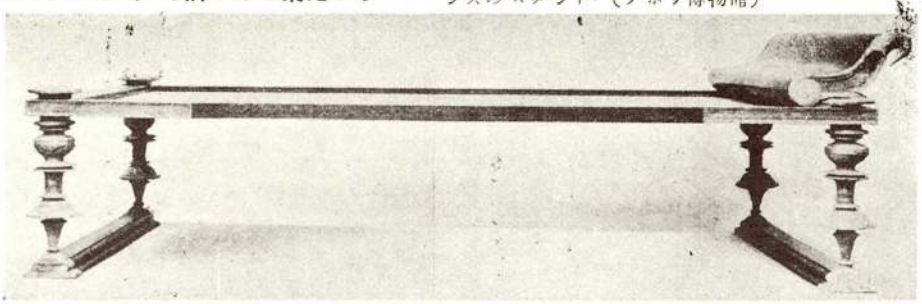
e) ビザンチーン (Byzantine)

初期に於て樣式を變化させる主なる誘因は宗教の力であつてキリスト教がビザンチン帝國に勢力を來した時在來の古典藝術は閑却され古い異教の寺及其の裝飾は之等初期のキリスト教徒に滿足されなかつた。そこでビザンチンアートとして知られて居る處の樣式が發達した。其の主なる特徵は模樣飾り (Ornamentation) と癖のある葉先きの



ヘレクラネアムから發掘されたローマ時代ブロンズのスタンド (ナポリ博物館)

ローマ時代の長椅子 (ポムペイ發掘物)



ローマ時代の大理石の卓子

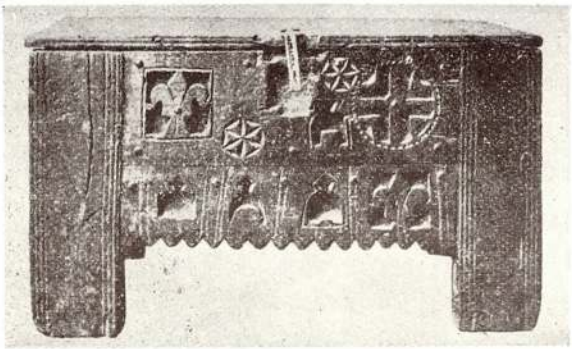


ローマ時代の大理石の椅子



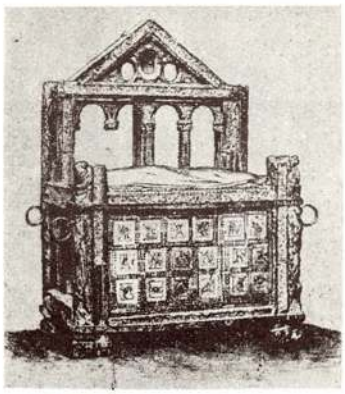


ローマ時代の大理石の椅子とスツール



13世紀のフレンチゴシツクの櫃

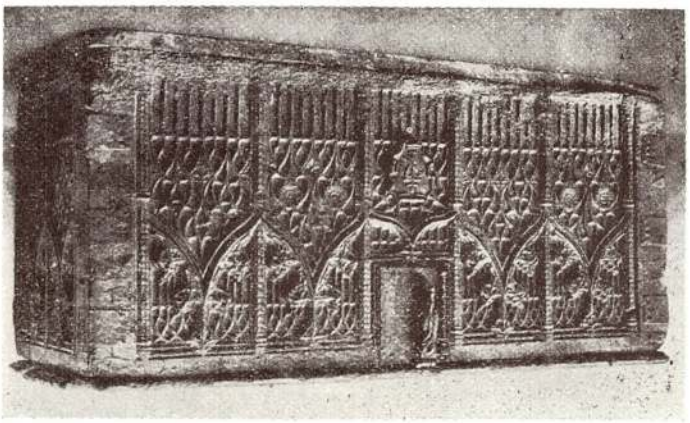
尖つた Acanthus の模様が盛に用ひられた」壁面、床等のモザイツク其の他豊富なる色彩の装飾は卓絶した形狀を示した。ベニスのサン・マルコの内部装飾は其の代表的のものである。元來が宗教的建築物が主であつた爲に家具類の遺品は比較的僅少であるが、其の内でローマのサン・ピエトロ（St. Peter）に象牙と金とで象嵌を施した面白い椅子が殘つて居る。



ビザンチーンの椅子（ローマ・サン・ピエトロ藏）

f） イスラム又はムーリツシ(Islam or Moorish)

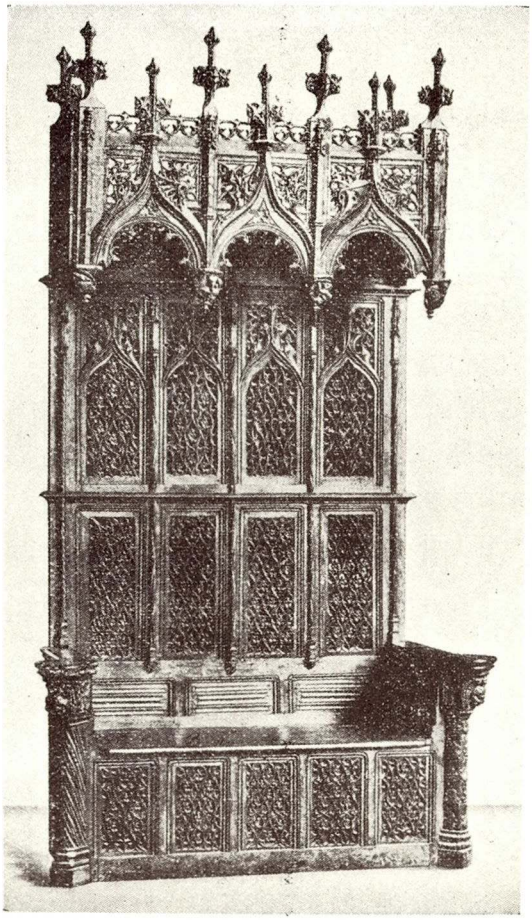
回教の勢力が海を渡つて擴がつた時イスラム又はムーリツシとして知られて居る特殊の様式が生れた。彼等の宗教は人又は他の動物の形態を繪畫若しくは装飾に用ふることを禁じた故に彼等の美術の材料は幾何學的模様及植物模様に限定された。彼等の用ひた唐草（Arabesque）と幾何學的模様の美術的組合せは非常に熟練し、且つ生き生きとして豊富なる色彩を巧みに用ひた。アーチの使用は又異様な様式の將來を作り、主として回教、寺院其の他の建造物に用ひられ家具類は餘り見るべきものはなかつた。



15世紀のフレンチゴシツク

g） ゴシツク（Gothic）

かかる間に古典藝術は顧みられず漸次衰微し新らしくゴシツクと呼ばれる様式が起つた。ゴシツクの最初生れたのは紀元1200年頃であつたが忽にして全歐洲に擴り數世紀の間無上の藝術として用ひられた。此の特徴は幾何學的の形と High pointed arch とで特殊の寺院的(宗教的)様式であつて家具よりも建築に適して居た。



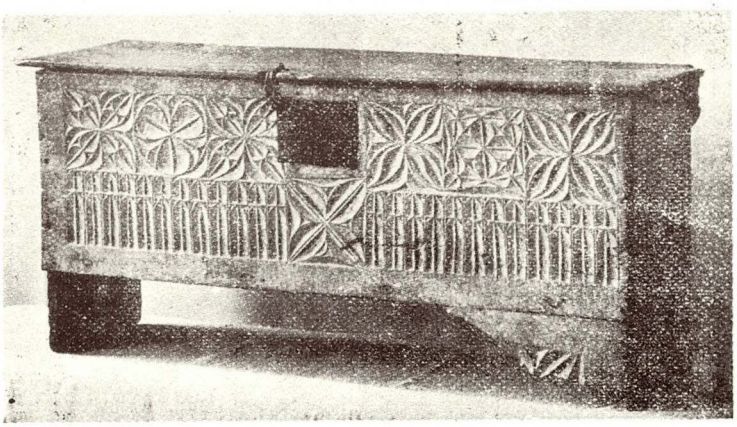
15世紀のフレンチゴシツク　教會のベンチ



16世紀のイングリツシゴシツク　カツプボード

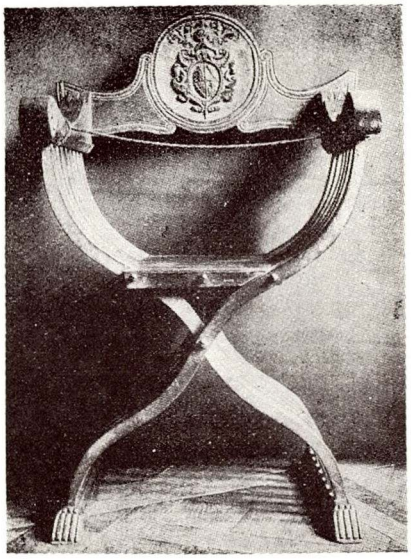
特徴のあるデイテールとしては、三葉飾り(Trefoil)、四つ葉飾り(Quartre foil)を彫刻のモチーフとして盛に用ひた。

カツプボード、チエスト、テーブル、キヤビネツト等が此の時代の主なる家具であつて椅子類は折疊式のものを除いては多くは嵩高で安樂なものではなかつた。



16世紀初期のイングリツシゴジツク　オーク材の櫃

かく幾多の變化を爲しつつある間に古典藝術は全く衰へてしまつたが諸工業の各部分には新らしい動き(氣運)即ち吾々がルネーサンス(Renaissance)と稱する大きな運動の起りを感ぜられて來た。

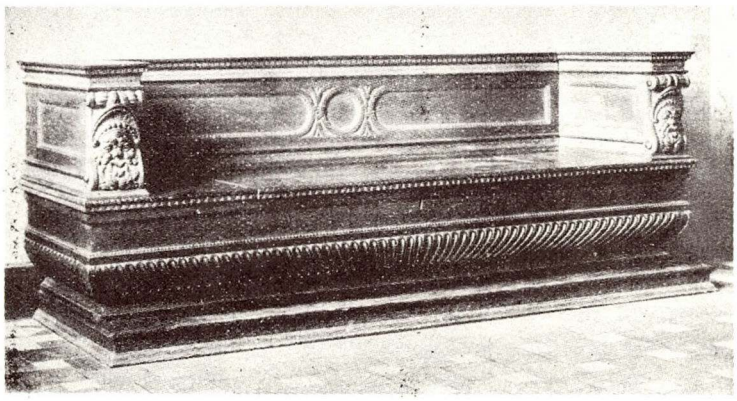


イタリアン•ルネーサンスのX椅子

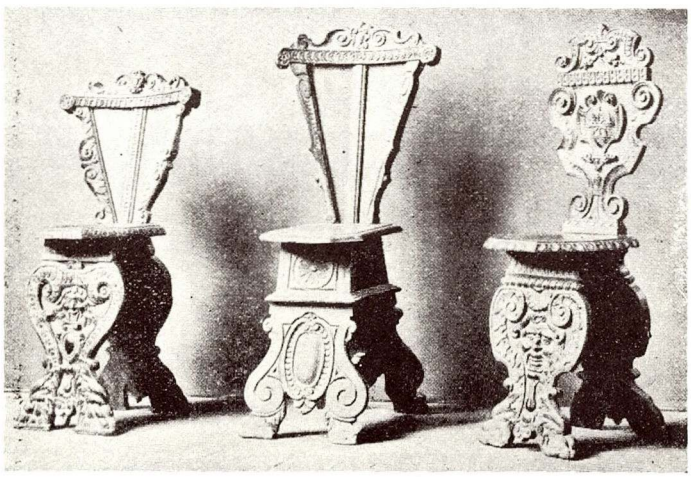
III ルネーサンス (Renaissance)

此の動きは十五世紀の中頃イタリーに於て起り全歐に擴り約百年の間繼續した。此の時代の大なる進歩は建築と家具の設計に充分表現されて主權の異つた支配の下に種々の形が漸次時代樣式として承認せられた。

主權者の名によつて代表せられる樣式はイギリスに於てはエリザベザン、クウキーンアン等、フランスに於てはヘンリー二世、ルイ十四世等で設計者の名によつて代表せられるものではチツペンデール、アダム、シエラトン等がある、以下順次說明を加へる。



イタリアン•ルネーサンスの長椅子



イタリアン•ルネーサンスの椅子 (16世紀)

a) イタリアン•ルネーサンス(Renaissance in Italy)

(1443年—1564年)

ルネーサンスはイタリーに於て1443年頃に始まつて1564年頃迄繼續したもので、これ迄に何處にも求められない程度の勝れたものに發達した。

それはゴシツクの軌範的配列の窮屈さから脫する爲の革命であつて古典的の本質への復活であつた。

イタリー人で此の時代に偉大な仕事をした藝術家はチチアン (Titian)、ラフアエル (Raphael)、パラデイオ (Palladio)、ミケロアンゼロ (Michael Angelo) 等であつて大抵畵家であり、建築家であり、彫刻家であり、裝飾家であつた。之等の人々は此のルネーサンスの動きに大なる關係を持つて居る。此の動き

は遂にイタリーに止らず英、佛に及び工人はイタリーからフランス、イギリス其の他の國々へ渡り其の異つた國々の國情によつて異つた狀態の下に變化を示しつゝ全歐洲を席捲した。

イタリアン・ルネーサンスは非常に豐富な精練された樣式であつて主として宮殿などに適したものであつた。現在殘つて居る當時の中等品の家具でも彫刻を以て全面を覆はれ之に型置きの革や上等のビロード等をあしらつて法外な費用を要するものである。用ひられた主なモチーフはアカンサス、唐草模樣、リボンに花、垂れ下つた果物の群、グロテスクな人又は動物の形等であつた。中でもアカンサスのスクロールやアラベスクの如きは實に舊時代に比類のない優美な曲線を示して居た。

家具史年代表

ルネーサンス初期より十九世紀迄

英國				其の他の國々	佛蘭西		
	主權者	樣式				樣式	主權者
チユウドル王朝	ヘンリー八世 1509—1547	チユードル	イングリツシ・ルネーサンス	他の國々のルネーサンス イタリー 1443—1564 ドイツ 1525—1634 スペイン ポルトガル 1500—1620 其の他の歐洲諸國 1500—1630	フレンチ・ルネーサンス	フランシス一世	フランシス一世 1515—1547
	エリザベス女王 1558—1603	エリザベザン				ヘンリー二世	ヘンリー二世 1547—1559
スチユアルト家	ジエームス一世 1603—1625	ジヤコビアン					フランシス二世 1559—1560
	チヤールス一世 1625—1649						チヤールス九世 1560—1574
	クロンウエールス 1649—1660						ヘンリー三世 1574—1589
スチユアルト家	チヤールス二世 1649—1685					ヘンリー四世	ヘンリー四世 1589—1610
	ジエームス二世 1685—1688					ルイ十三世	ルイ十三世 1610—1643
オレンヂ公家	ウヰリアム・アンド・マリー 1689—1702	ウヰリアム・アンド・マリー				ルイ十四世	ルイ十四世 1643—1715
ハノーバー家	アン女王 1702—1714	クウヰーン・アン	過渡時代	バロツク・スタイル ロコヽの始まり	ロココ	ルイ十五世	ルイ十五世 1715—1747
	ヂヨーヂ一世 1714—1727						
	ヂヨーヂ二世 1727—1760	チツペンデール ヘツプルホワイト アダム兄弟 シエラトーン	チヨルヂヤン	アメリカコロニアルファニチユワ 1600—1783 コロニアル・スタイル ミツシヨン 19世紀の終りより 獨逸のセセツシヨン アメリカの サリバン ライト	クラシカル	ルイ十六世	ルイ十六世 1747—1793
	ヂヨージ三世 1760—1780					アムピール（エムパイヤ）	ナポレオン一世 1793—1814
新工藝運動	ビクトリア女王 1837—1901	ウヰリアムモリス新工藝運動				アールヌーボー	ナポレオン三世 1808—1873

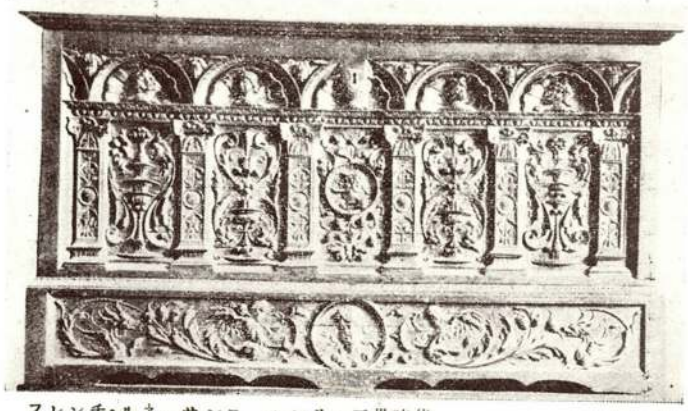
IV フランスの樣式

a) フレンチ・ルネーサンス（1 15年—1715年）

フレンチ・ルネーサンスはイタリーよりももつと深く根を下して居つたゴシツクの影響



フレンチ•ルネーサンス　ヘンリー二世時代



フレンチ•ルネーサンス　ヘンリー二世時代

を受けて餘程兩者が混合し重厚なものであつた。（以下年代表參照）

1. **フランシス一世よりルイ十三世迄（Francis I—Louis XIII）**

此の間はイタリアン•ルネーサンスの流れを汲んだものであるが夫に比して細部の模様は粗く且つ重くるしくなつた。

之等の仕事の大部分はフランスの國王に招かれたイタリーの設計家によつて成されたものであるけれど、フランス風の精神が少し宛浸み込んで來て、遂にフランスとしての強い特徴が現はれて來た。此の頃迄にルネーサンスの運動は裝飾をデザインの一分科として學ぶ迄に發達を促した。

彫刻の肉は非常に深くなつて、用ひられた形は唐草、楯の模様、渦卷、半丸彫の動物の形、渦卷の持送、貝殻模様のペデイメント、捻れた挽物の柱等であつた。フオンテンブローの宮殿に多くの遺品が殘つて居る。

2. **ルイ十四世（Louis XIV 1643年—171〕年）**



フレンチ•ルネーサンス　ヘンリー二世頃

ルイ十四世の時代はフレンチ•ルネーサンスの末期をなして居つて、家具の様式としては別の系統の時代——即ちルイ時代の様式（ルイ十四世よりルイ十六世迄）の初まりとして分類する人もある。

まだルイ十四世が全盛時代にヴエルサイユの宮殿を造營したりして、ルネーサンスの様式にだんだん變化を與へたことがフランスの家具裝飾の

時代様式を最も驚くべき發達に導いたものであらうと思はれる。此の時代家具は嵩高で窮屈（見方によつては禮儀正しい）で華麗な、宏大な、黄金時代であつた。此等の家具は今日も尙大きい立派な宮殿や大廣間に適するものである。

特筆すべきことは王室附の家具製作者 Andre Charles Boule の仕事であつた。

彼は偉れた唐木細工師（E'béniste）の一人であつて、唐木に鼈甲や眞鍮其の他の金屬の象嵌を施すことが巧みで、立派なモザイク類似のものに到る迄作つたのみならず、黄銅や青銅を鏤めたり、彫刻や鍍金したオーナメント迄に及んだ。



ルイ十三時代のキヤビネツト

大理石、花崗岩はテーブルトツプやコンソールトツプに用ひられ美しいタペストリーは椅子張に用ひられたり總てのものは其の當時の華麗な輝いた時代に融合し完全に調和して一つのスタイルを創り上げた。

特徴のある形狀としては均齊のとれたバロツク模様、キユービツト、貝殻、面、諷刺的の形、羊の頭、アカンサスの葉等であつた。

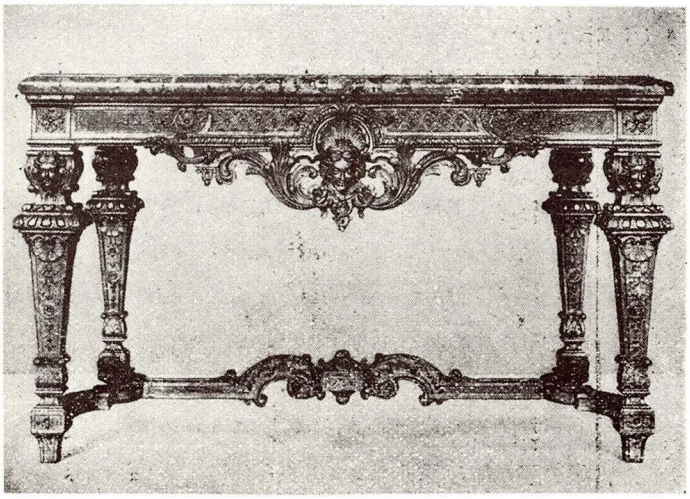


ルイ十四世時代のコムモード

b） フランスのロココ

ルイ十五世 （Louis XV 1715年—1 47年）

ルイ十五世の時代は判然たるロココ式（Rococo）を形成した。直線は如何なる時でも極端に制限した。そしてルイ十四世時代のバロツクタイプは重々しく均齊の取れた形であつたが、此のロココは構



ルイ十四世時代の卓子



ルイ十五世の卓子

造的特質に無頓着に總ての方向に自由自在に曲線を走らせた。

卓子の甲板以外は總て曲線曲面によつて造られたといふも過言でない程であつた。貝殻模様、花輪、花などの連續せぬ斷片的彫刻の系統であつて不眞面目な放蕩的な、過度の贅澤な時代に對するデザインであつたこれ等の模様は夢幻的に組合せられて居るので貴婦人室とか客間に適した様式の一つである。



ルイ十五世の椅子

最も重要なることは Vernis Martin の發明した、ラツカー(Lacquer)の使用されたことである。

箔を置いた彫刻、張木細工(Marquetrie)、繪畵、黄銅の彫りなどで包んでしまつて美しいといふ出來ばえの上から見れば未だ嘗て現はれなかつた優れたものではあるが、堅實なるデザインとしては餘り感心の出來ぬ様式である。

用ひられたモチーフは猫足、縮れた菊チシヤの葉、貝殻、捻れた唐草等であつた。

c) フランスに於ける古典的デザイン

1. ルイ十六世 (Louis XVI 1747年—1793年)

濃厚な食物の後に淡泊な食物を欲する様にルイ十五世の様式——ロココの複雑に飽きて再びクラシツクの軌範に復歸した。構造に於て單純と直線的とに特徴があつて、前時代ルイ十五世の曲線的のものと容易に區別することが出來る。此の變化の主なる原因の一つはヴエスビオスの噴火によつて埋沒した都市 Herculaneum と Pompeii の發掘によつて發見された、古いローマ時代の古典藝術の標本がフランスに移入され其の古典模様の再生によつて大なる影響を與へ、一方に於て Queen Marie Antoinette の精洗された趣味が此の様式の成立に多大の貢献を爲したことは否めない事實である。ヴエルサイユ宮殿のマリー皇后の居間を見れば此の事實は判然とする。

挽物、溝彫(ごまがら) (Fluting) 先きの細くなる脚(Tapered)捻れた彫の脚など全體としての感じが直線的のものとなつてあかぬけのした形となつた。箔置、彫刻、張木(Marquetrie)黄銅の彫りなど要所々々に用ひられた。然しそれ等は前時代の様に取り止めなく用ひられたのではなくして眞に精洗された美術的の使用法であつた。フリユーチングのある柱、樫と

月桂樹の葉、花輪、ギリシヤ風の紐飾、其の他古典的の紋章などがモチーフとして用ひられた。

2. アムピール (Empire)

(Napoleon I 1793年— 814年)

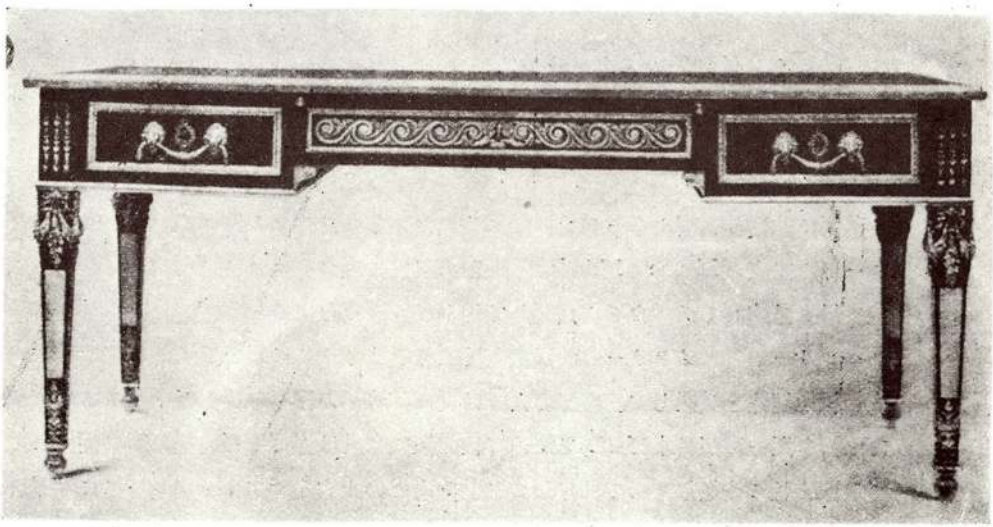
此の様式は Napoleon I の時代に漸次發達したものでナポレオンの頭字 N の記號が模様の中に屢々用ひられて居る。ナポレオン一世の勢力は歐洲を席捲して遠くアフリカに及んだ。エヂプト遠征による戰利品などの刺戟によりギリシヤ、ローマ、エヂプト等のデザインの再生を組合せたものであつた。張木、彫刻は衰へ平らな表面は眞鍮、黄銅で古い紋章で飾られた。使用材料の主なるものはマホガニーで、其の他ベニアリングも可なり用ひられた。花輪、松明(たいまつ)、スフインクス、ギリシヤ風の帶模様、ホニーサツクル、ローマ風の鷲、月桂冠、渦巻型の脚等が盛に用ひられた。フオンテニボロー宮殿に幾多の實例を見ることが出來る。



ルイ十六世の椅子

以上を以て佛蘭西の19世紀迄の概要を述べたから以下年代表の順序により英國の狀態を簡單に說明を加へて見る。

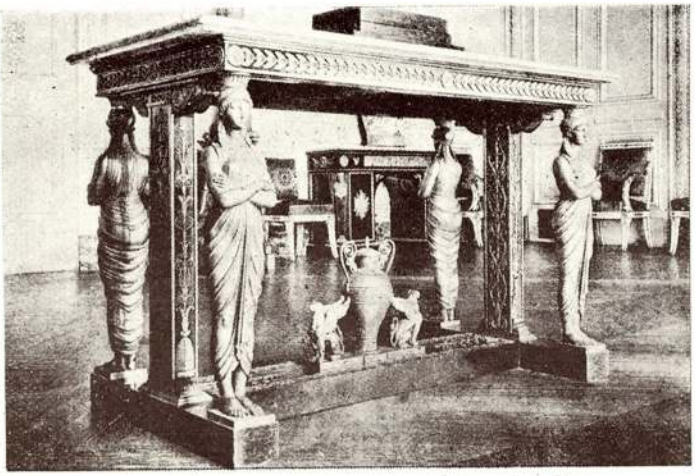
V イギリスの樣式



ルイ十六世の卓子



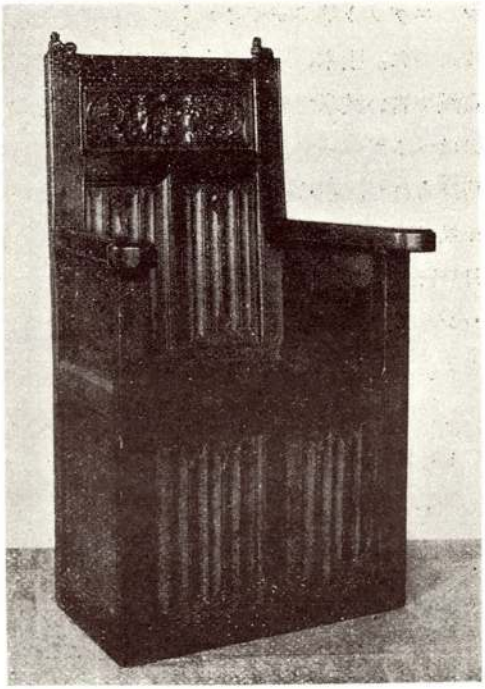
アムピール衝立



アムピール卓子



アムピール寝臺



チユードルの椅子

a)イングリツシ•ルネーサンス

1. チユウドル（Tudor）

（Henry VIII 1509年—1547年）

英國に於ける初期ルネーサンスはクラシツクとゴシツクとのデイテールの混つたまゝチユードル王家（House of Tudor）の初め四代に渡つて粗野に變化し、ヘンリー八世に到つて最も發達してチユウドル式として知らるゝ樣式を生じた。

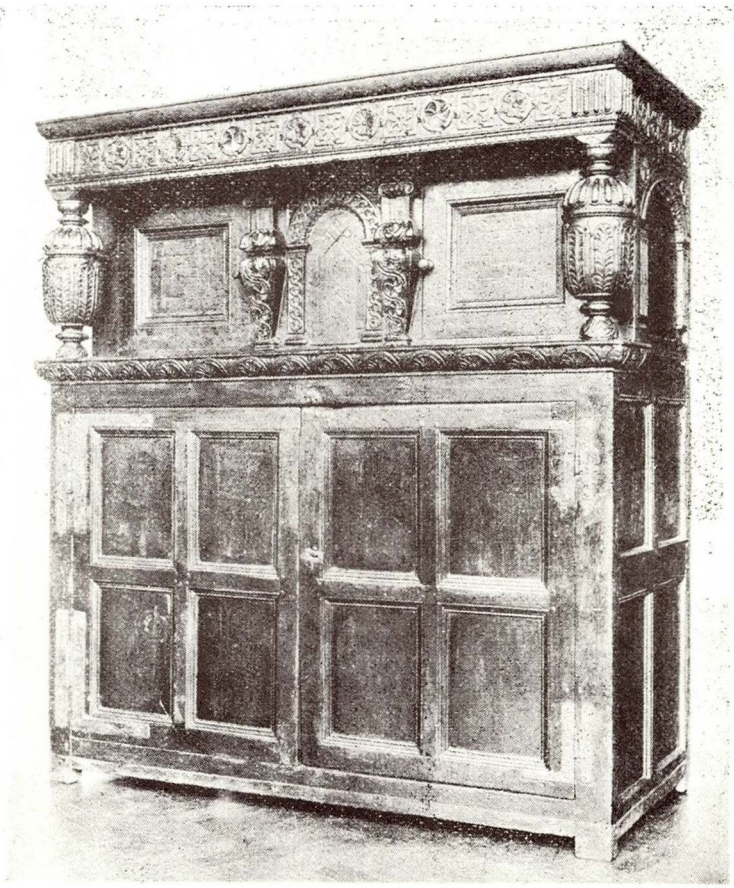
ヘンリー八世はイタリーの美術家と技工とをイギリスに招いてイタリアン•ルネーサンスの模倣製作を奬勵した。之等の人々は夫々何等かの仕事を殘してイギリスのデザイナーに影響を與へたが、まだゴシツクの時代の樣に家具はまだまだ建築の形に捉はれて重厚で扱ひ難く且つ安樂なものではなかつた。室內での主力をファイヤプレースに注ぎ總ての家具の內で最も丹誠に仕上げられた。

重々しい挽物、チユウドルローズのパネル、圓形の彫刻をつけたパネルが盛に用ひられた。

2. エリザベザン

(Elizabethan 1558年—1603年)

エリザベス女王はチユウドル王家の最後の主權者で此の時代は建築に於ても家具に於てもエリザベザン式として知られて居る。



エリザベザンカツプボード

ルネーサンスの動きは漸次イギリスの家具の樣式を變化させた。最初イタリーから招ねかれた、工人の手によつて作られたものが次にはイギリスの工人によつて其の手法を模倣して作り出された。けれどイタリーに於ける如くオーナメントに柔かみや熟練さを示すことが出來なかつた。然し無骨なガツシリとした本質的丈夫な樣式は其の使用主材のオーク材に非常によく適して居た。之等の家具は重々しい頑丈な組立で溝彫(フリユーチング)と彫刻の柱の上に粗野なIonic のキヤピタルを屢々用ひ、彫刻は無骨で深味がなく頑固な金物を併用し、象嵌は稀にしか用ひなかつた。

此の時代の家具は主に櫃(Chest)、飾棚、食器棚、重々しい天蓋付の寢臺(Canopy Bed)、窮屈で扱ひ難い木製又は籐張の椅子などで裂張の椅子は餘りなく置きクツシヨンが多く用ひられた。室は大抵羽目板の入つた板壁と梁の露出した仕上で繰型天井の裝飾も用ひられた。

特徵、重厚な球形の脚、彫刻のついた挽物又は角脚、無骨な短冊金物、重い繰形及び粗いルネーサンス風の彫刻付の羽目板等。

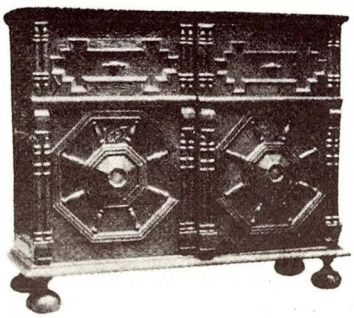
3. ジヤコビアン (Jacobean 1603年—1688年)

ジエームス一世、チヤールス一世、コロンウエルス、チヤールス二世を經てジエームス二世迄の間をジヤコビアン(Jacobean)と稱へる。

後期のエリザベザンと初期のジヤコビアンとの間には判然とした境界がなく、同じ形式



ジヤコビアンのコムモード



ジヤコビアンの棚

の模様が盛に用ひられたが重苦しい模様の多過ぎるエリザベザンから漸次變化して引締つた模様の少ないものになつて來た。

ジヤコビアンの手法の或るものは全く平面的になつて長方形正方形、菱形、L字形のパネルが屢々用ひられ、彫刻の多くは今迄の浮彫又は嵌込みの種類の代りに一つの木材に彫り込む（地スキ）手法が用ひられ、象嵌は極めて少量の限度にしか用ひられなかつた。椅子は籐張のものが最も普通に用ひられたがエリザベザンのものより遙かに輕快なデザインとなつた。裂張の手法は比較的平調な椅子や長椅子には用ひられた。此のジヤコビアンは丁度其頃フランダー人(Flander)の間に起つたフレミツシ式(Flemish)の影響をかなり受けて居る。

エリザベザン、ジヤコビアン、フレミツシの様式は互に共通點があるので一つの室の裝飾に取合せて用ひられてもお互によい調和を保つことが出來る。



ウヰリアム・アンド・マリーのキヤビネツト（マーケツトリーを施せるもの）

前時代と同樣オーク材の全盛

時代であつた。前述の通り此の様式は數代の國王にわたつて居るので或る型のものはジエームス一世式とかチヤールス二世式とか稱へられることがある。

特徴。羽目細工、繰形細工、挽物及螺旋の脚、平彫或は地スキ等で構造上直線形の様式である。

4. ウキリアム・アンド・マリー William and Mary

(1689年—1702年)

マリー女王(Mary)と和蘭陀のウキリアム・オレンヂ公(William of Grange)とが結婚して英國の王座に踐祚したことによつてオランダ風が流行しはじめた。



クウキーン・アン　象嵌と張木細工を施したる衣裳ダンス

宮庭附の多くの人々はウキリアム公が連れて來たオランダ人で夫等の人達がオランダの家具を持つて來た。其の爲イギリスの工人はそれを模造し且つ其の趣味の暗示によつて漸次ウキリアム・アンド・マリーとして知られる様式に發達した。模様の單純化を喜び、ベニア仕事とオランダ風の象嵌が普及した。

此の様式は判然とした特徴は餘りなかつたがクウキーン・アンの様式の初りに楔點を與へたものであつた。オーク材とウオルナツト材を主として用ひ、彫刻の少ない挽物脚、對角線式の貫に曲線と彫刻を加へ、飾棚の上部や枠組の上部に好んでアーチを用ひた。

5. クウキーン・アン Queen Anne (1702年—1760年)

ウキリアム・アンド・マリー時代に於ける家具はジヤコビアンとクウキーン・アンとの中間を結びつける連絡的の形であつたがオランダの感化の下に古い正しい形は曲線と優美な均合をより多く與へられ、アン女王(Queen Anne)の時代に到つて完全に Early English Renaissance から解脫した様式を見る様になつた。

椅子は以前の堅い窮窟なものが此の時代になつて人體の解剖學的から研究された形態に適したものになつて來て裂張は極く一般的に用ひられ、安樂椅子や長椅子は優美で掛心地

のよいものになつた。置きクツションはスリツプシート（Slip seat）となつて現はれて來た。椅子の凭れは彫刻が附いて上部の張り擴がつて居て脚部は此の時代にイギリスで始めて見られる猫脚（Cabriole leg）を用ひられ其の膝の部分に當る處に貝殻の形を彫り附けたものが多いことは此の時代の著しい特徴である。此の脚の先端は蹄形（Hoof）、匙形（Spoon）、玉をつかんだ爪（Ball and Claw-foot）等が用ひられた。此の猫脚と稱するものは當時東洋貿易を盛にしたオランダ人によつて支那から輸入されたもので、恐らく何かの獸類の脚から考へついたもので、又玉を摑んだ爪は珠玉を摑んだ龍の爪の如き支那の古い時代の繪畫から變化したものと思はれる。之等の形の脚は種々なるものに應用され、低くシツカリしたものは重い戸棚類に、高く細長いものはテーブルや椅子の脚に用ひられた。其の他の手法としてはベニアの用途が擴張しオランダ風の Marquetrie が普及し、ウオルナツト材を主として用ひ、後には稀れにマホガニー材を使用した。

此の樣式はヂョージ一世（Geoge I）を經てヂョージ二世（Geoge II）の末期迄勢力があつた。

b ヂヨールヂアン時代 Georgian Period（1760年—1780年）

ヂョージ二世の頃からクウキーン・アンの樣式の中に種々の變化を來しつゝあつたが果然此のヂョージ三世の時代に到つてフランスに於けるルイ歷代やナポレオン一世の時代の樣にイギリスの家具の黄金時代を出現した。チツペンデール（Chippendale）ヘツプルホワイト（Heppelwhite）、アダム兄弟（R. and J. Adam）及シエラトーン（Sheraton）の人々は此の時代のデザインを支配して夫々彼等の名によつて樣式の名をつけられた。

然し彼等がそれ等總ての家具の設計をしたのでは無くして多くの他のデザイナーが彼等の樣式に追從して仕事を爲したのである。十八世紀中にデザインの著書をした他の人々は次の人達である。

Thomas Johnson……1758—1761
Ince and Mayhew……1762
J. Crunden……1765—1796
Robert Manwaring……1765—1766
Thomas Shearer……1793
Thomas Hope……1807

1. チツペンデール（Chippendale）

トーマス・チツペンデール（Thomas Chippendale）は樣式の上に彼自身の名と人格を印した最初のデザイナーであつて、其の特別な樣式が自身の名によつて生れたことは未だ嘗て見ざることであつた。

彼は最初貿易品の爲に彫刻して居つたが後にはロンドンのセント・マルチンス・レーン



チツペンデールの椅子



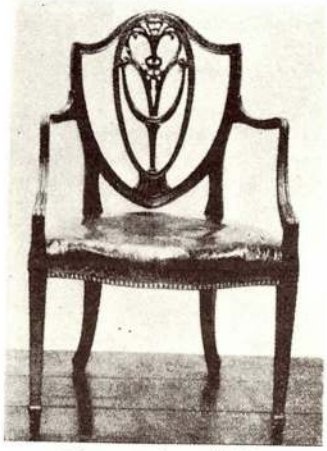
チツペンデールの椅子

(St. Martins Lane, London) に於て働き始めた。彼の著書 "Gentlemen's and Cabinet Maker's dictionary" は1754年に發行せられ次の著書は1762年に發行された。

チツペンデール式の椅子は彼の他の家具よりも遙かによく知られて居つて注目に價する美しいプロポーションと優雅な彫刻とが之に附け加へられた。彼の頭腦は非常に大きな抱擁を以てゴシツクであらうがロココであらうが支那風であらうが彼の觸れるものを融合して一つのものに作り上げるだけの熟練さを持つて居つた。彼のよく用ひた支那風の組子細工 (Chinese frets) は非常に精練されたものであるし猫脚と玉を摑んだ爪の格好は眞直な脚にも角脚にも種々の形で用ひられ支那風の雷紋や地スキのあるものや、彫りのないものや各種の變化を示した。一方に於て



チツペンデールの寢臺



ヘツプルホワイトの椅子

は當時フランスで全盛を極めたロココ風(ルイ十五世式)をも巧みに取り入れた。

彼の椅子の多くは Slip Seat を用ひて用材はマホガニーを主材とし彫刻を主なるオーナメントと爲し挽き物は殆んど用ひず、象嵌に到つては全然用ひなかつた。

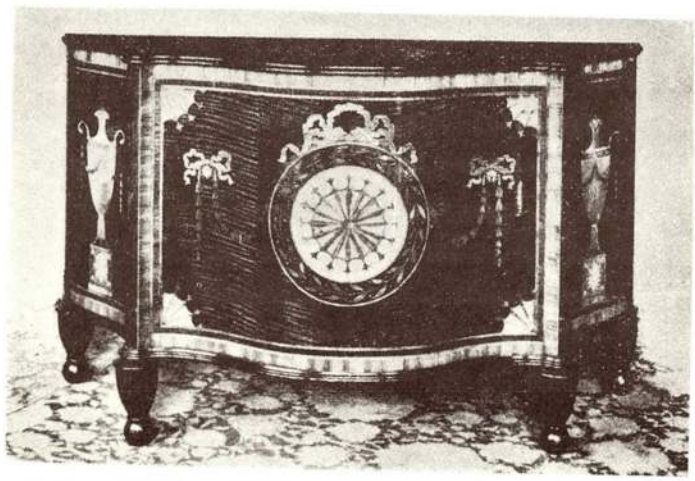
2. ヘツプルホワイト (Heppelwhite)

ヘツプルホワイト(George Heppelwhite)の最初の著書は "Cabinet Maker and Upholster's Guide" であつて彼の死後2ケ年の間發行されなかつた。1786年に彼が死んで彼の創立した家具裝飾の店は彼の死後寡婦のアリス (Alice) によつて繼續された "A. Heppel white & Co." が之である。

彼のデザインは古典的原則の上に立脚した確乎たる直線を用ふる樣式で楯の形を成した椅子の凭れは最もよく知られたタイプである。先きの細くなつた角形の脚、スペード形の脚の尖端などが最も多く用ひられた。時々挽き物脚が用ひられたがチツペンデールの樣な猫脚は決して用ひなかつた。判然とした區別の出來る特徴は椅子の凭れに Prince of Wales Plume (皇太子の帽子の羽根の前立) の形を用ひたことで外の點ではよく似て居るがシエラトーンは決して之を用ひなかつた點で區別することが出來る。

其の外楯形の凭れの上部が彫りのないものか又は彎曲した笠木を用ひて居たがシエラトーンは凹凸をつけたり彫刻をつけたり極く小さい長方形のパネルを中央部に附したことである。

裂張、籐張は何れも普通に用ひ彫刻は非常に微細で精洗され、ベニア張り木、繪畵等をあしらつて用ひられマホガニーを主材として使用した。

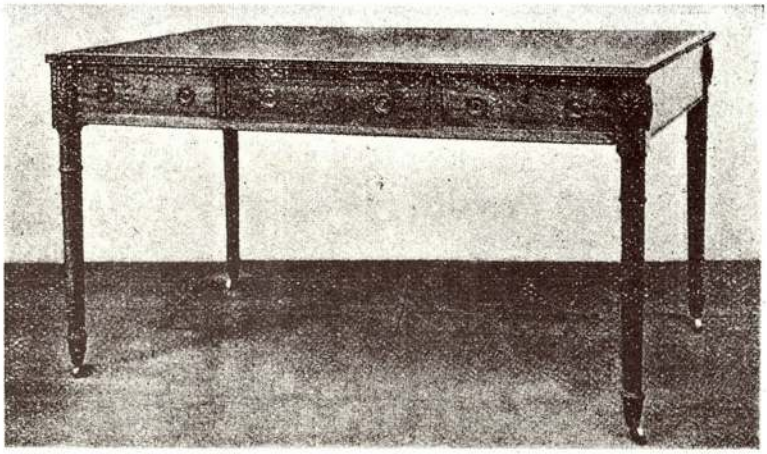


アダム・スタイル

3. アダム・スタイル (Adam Style)

R. Adam と J. Adam の兄弟は建築家であつて彼等の住宅の爲に家具を設計した。それ等はヘツプルホワイトや次に述べるシエラトーンの樣式に似て居つたがより以上に古いデイテール即埋沒の都市 Pompeii と Herculaneum から發見された古典藝術の研究の上に基礎を置いて、ローマ時代のコムポジシヨン・オーナメントを木

材の上に應用することを紹介した。彼等の最も多く用ひた飾りは淺い浮彫であつて其の他古典的の構圖や彫刻も併用した。彼等は象嵌繪畫金の飾りを併用し、卓子や椅子の脚は通常角形か先きの細くなつたフリューチングのある脚を採用した



アダム・スタイルの卓子

美しいフアイヤプレースは彼等の最も得意とした仕事であつた。アダム式のデザインの或るものは植民政策時代にアメリカに渡つて今日コロニアル・アダム（Colonial Adam）として知られて居る様式の基礎を作つた。

羊頭の彫り、ローマ時代の壺の形、薔薇の花總飾り、懸華飾り、古典的のモールデイング、微妙なゴマガラ等を多く用ひた。



シエラトーンの椅子

4. シエラトーン（Sheraton）

Thomas Sheraton は指物と象嵌の名手といはれ彫刻は僅かしか用ひなかつたが其の彫刻は美しい精確な便化した模様であつた。全體としてヘツプルホワイト、アダム、ルイ十六世等の様式に似た古典的直線型のものであつて尙一層單純化され物によつては唯一つの繰形すら用ひなかつたが象嵌は完全にシツクリと目的物に適合させた。又廣い面積の處にも着色した木の練り附けを用ひた最初のデザイナーである。彼のベニアリングの仕事と機械的工夫とは特筆すべきものであらう。

椅子の凭れの笠木は極く僅かな曲線と僅かな凹凸のある長方形のパネルを附し脚はアダム式に似た直線形で挽き物ゴマガラを種々の形で用ひたが猫脚は用ひなかつた。籐張以外のものでは裂地の厚張を好み、貫の組物は殆んど用ひなかつた。マホガニーを主材とした。

彼の著書 "The Cabinetmaker and Upholsterer's Drawing Book" は179 年に發行され彼の各種のデザインを發表した。此の書の中のサイドボードやサイドテーブルは何時も隅の出丸形を取つて居る。（ヘツプルホワイトが何時も入丸形を用ひて居るのに反して）又腎臟形の卓子（Kidny-Shaped Table）の最初のデザイナーであつた。彼は製造家ではなかつたが彼の好む人々には其のデザインを頒布した。

彼は18世紀に於ける自身の名を様式の上に殘した最後のデザイナーであつた。

c） ビクトリア時代（Victorian Era）

19世紀の初期に於ては拙劣なアムピールの模倣が企てられたが18世紀の輝いた仕事に續



獨逸のバロック風の椅子

く時代としては英國の家具のデザインは漸次引潮になつた

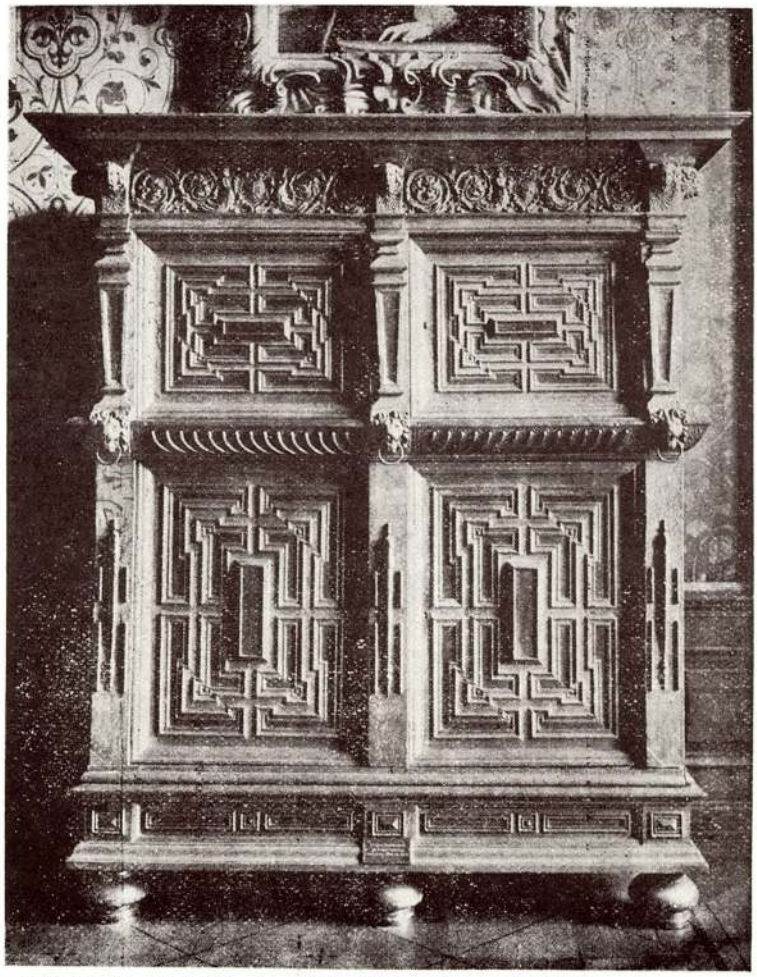
1838年建築家 Charles Eastlake が發行した "Hints on Household Taste の中に發表した種々の形はイーストレーキ式として知られて居るが餘り勝れた形ではなかつた。

VI 其の他の歐洲諸國に於けるルネーサンス

ルネーサンスの樣式はイタリーに始まつて全歐洲に擴がつたが夫々の國々では英、佛に於ける時代樣式、即チツペンデール、シエラトーン、ルイ十六世、アムピールの如き迄に發達はしなかつた。

a) ドイツ (German)

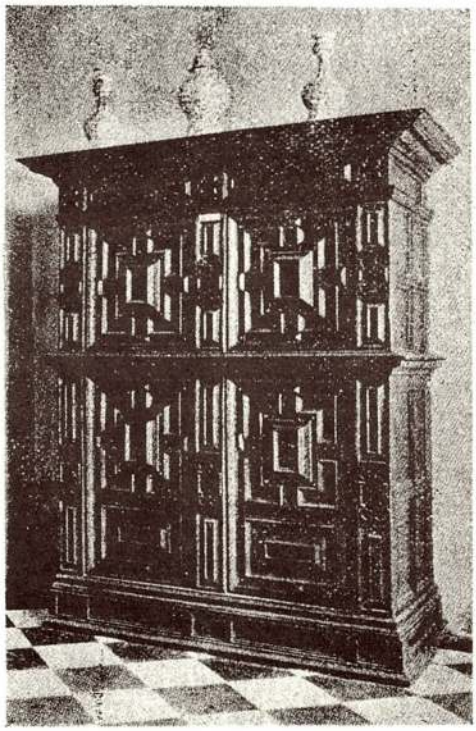
ドイツの初期ルネーサンスはイタリーとフランスの仕事に引づられたが後には主としてバロツク式によつて仕事をした。彼等は古典再現の影響も受けたが、英、佛の樣な立派な時代樣式は生れなかつた。



フレミツシ カツプボート 英國のジヤコビアンに似て居る

b) フレミツシ (Flemish)

フレミツシ・スタイルといふのはベルギーの一部分をフランダー(Flander)と稱へるとから來た名であつて初期に於てはイタリー及フランスの仕事に影響されたが後には餘程平面的に變つて Flemish としての特徴を持つ樣になつた。オーク材に適した形であつて英國のエリザベザン, ジヤコビアンによく似た樣式であるが就中ジヤコビアンの影



ホーランドのバロツク（ジヤコビアンに酷似）



スペインの初期ルネーサンス

響を多大に受けた様である。

c） ホーランド（Holland）

オランダとネザーランドに於けるダツチ•ルネーサンス(Dutch Renaissance) は勿論フレミツシとフランスの様式の影響を受けたが平面的に彫刻の少ない傾向を辿つた。初期のオランダは盛に東洋諸國と貿易を爲し種々の珍らしい色彩の木材料を輸入し之をベニアや象嵌の形で家具に應用した、之等は Dutch Marquetrie として知られ、イギリスの様式の上にかなり應用された。

d） スペイン（Spain）

スペイン、ポルトガルは地理上の位置が Morocco に接近して居た爲ムーリツシ•スタイルに負ふ所が多い。彼等は家具製作に餘り勝れては居らなかつた故に古いスパニツシの家具は比較的稀である。彼等がベルギーとネーザーランドを支配して居る間に之等の國々の特徴を取り入れたのでスパニツシ風として知られて居るものゝ中には屢々フレミツシやダツチ風の傾向を見ることが出來る。

VII アメリカに於ける家具

17世紀のはじめ頃から英、佛兩國はアメリカに殖民政策を執り、18世紀に到つてはオランダに代つて勢力を扶植した。此の時代に於ける家具の勝れたものは大抵英、佛から移入



コロニアルファーニチュワ（ジヤコビアン、フレミツシ等の影響を受けたもの）



ダツチ風の影響を受けたコロニアル・スタイル

したものか若しくは英、佛の様式の忠實なる模倣であつた。間もなく其の反動として安つぽいオーナメントや無意義な彫刻などを施した、其の主なる目的は "How good" でなくして "How much" といふことを理想としたかの如く見られる。一方勞力をはぶく機械製作法が紹介されたことにもよるが彼等の多くは正しいデザインの第一原則に就いて無智であつた。もう一つは此の國の氣運の目ざましい進歩の爲に一時はどんなものでも賣らうとした爲でもある。然し之等は漸次改革されて工場に勝れた圖案家を雇ひはじめて數十年の間にすばらしい進歩を遂げた。

各植民地は母國の影響を受けた。New England と Virginia Settlements とは英國式によりチツペンデール、シエラトーン、アダム等の系統を作り。New Orleans は佛國式のルイ十六世風、アムピールなどの系統を引き。New York はオランダ人がダツチ風やフレミツシ風の系統を作つた。此の三つの系統から發達したのがコロニアル・ファニチュワと稱へられるものである。

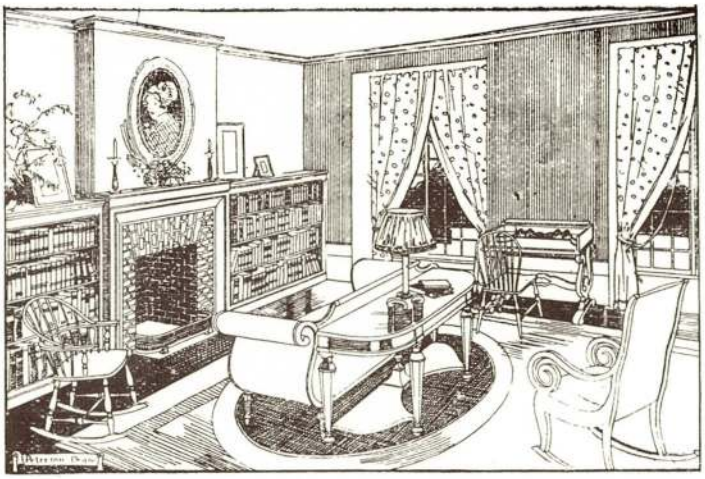
a) コロニアル・ファーニチュワ Colonial Furniture)

前述の通り英、佛、蘭の三系統から發達した家具は習慣上米國が1 76年に獨立を宣言し1783年に共和制度を實施した頃迄の家具を指して云ふもので出來る丈單純化平面的にして彫刻を少なくしたがお手本の英、佛、蘭等の家具のアウトラインとプロポーションとは出來る丈保存した。

之等の古い家具は漸次博物館や個人のコレクションに集められ歴史の淺いアメリカの好事家を喜ばして居る。



ミツシヨン風



コロニアル・スタイル

b） アメリカ式の家具

コロニアル・フアーニチユワの後を受けて共和國に普遍的に行き渡つたコロニアル・スタイル（Colonial style）が生れて來た。フランスのアムピールの變化した形でアムピールの眞鍮や黃銅の飾りを捨て大量生產的の所謂アメリカ式の形に變つた。獅子の足、渦卷形の脚が盛に用ひられマホガニーのベニアをよく用ひたがデザインとしては勝れたものではなかつた。

c） ミツシヨン・スタイル（Mission Style）

19世紀の終り頃カリホルニアの古いスペインの傳導舘（Mission）に用ひられた不器用な直線式の家具の形が彫刻や飾りのついた家具に飽きた人達に一種の魅力を與へた、之にヒントを得て改良され普及されたものがミツシヨン・スタイルの家具である。多くはオーク材を用ひ着色も燻したり黑つぽい色附をしたりして居る。形の上には古典約要素を少しも持つて居らぬ。

VIII 19世紀末期より20世紀初期迄の新傾向

19世紀中期より末期にかけて諸工業の發達はすばらしいもので各種の機械の應用による建築材料、家具材料等の多量生產と新材料、新構成法の發達に加ふるに傳統的精神より解放されるといふ思想が相當力强い勢力を得て來た爲に家具の方面に於ても今迄の繁雜な日常生活の習慣を脫し明快簡潔なる新生活樣式に合ふ樣に必要を充分の原理の上に求められる機能的分子其のまゝを表現して室內の設備を考へて行くといふ傾向と、民族的古典的のものを近代的立場によつて見直して考へ直して行くといふ傾向とが生じて來た。

a） 英國（モリスの工藝運動）

英國の新工藝運動はウヰリアム・モリス William Morris によつて始められた。彼は傳統的の考へ方を排し新らしい思想の下に自分の家を建て、モリス工房を經營して自ら工場長として喜びに充ちた手工業による家具や金屬細工、敷物、壁紙、ステインドグラス等を

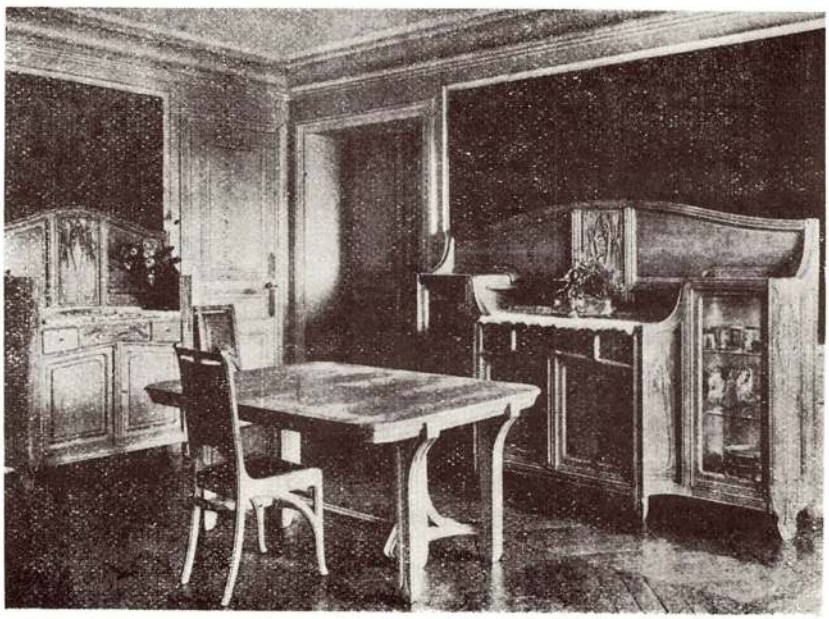


20世紀初期のイギリス （モリス）

作りはじめて其の作品や講演によつて大衆に新らしい考へ方を教へた。1888年に展覽會を催してモリス工房の新工藝品を發表した。が勝れた後繼者を得られず、又一方他の國々に起つたアール・ヌーボーやセセツシヨンも傳統を尊ぶ英國の國民性の爲に容易に此の國に入り難かつた。

b） 佛蘭西（アール・ヌーボー）

英國に起つたモリスの工藝運動は却つてベルギーに渡つてバンデベルド(Henry Van de Verde)によつて1894年ブラツセルの博覽會に出品されたアール・ヌーボー（L'art Nouveau）と稱へられる樣式によつて繼續された。之は古典分子を含まぬバロツク(Baroque)とも稱せらるゝもので自然物のモチーフ木の根、幹、枝、蔓などを種々の形に用ひ形態を第一とし構造を第二義としたものであつた。之が佛蘭西に入つてギマール(Hector Guimard)等によつて實際に用ひられ1900年の巴里工藝博覽會の頃が最高潮に達した。之は家具や建築には充分適した樣式ではなかつたが金屬細工、壁面飾り、服飾、食器等には適したものであつた。之も永續性はなかつたが傳統的樣式から離れるといふことを教へ獨逸、墺太利に入つて

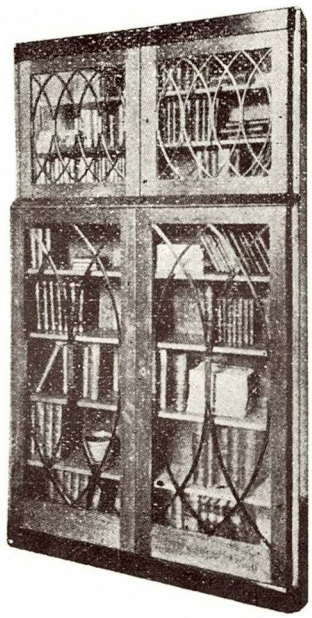


20世紀初期フランス （ヌーボー）



20世紀初期の墺國セセツシヨン

セセツ ション迄發展を爲したとも思はれる。



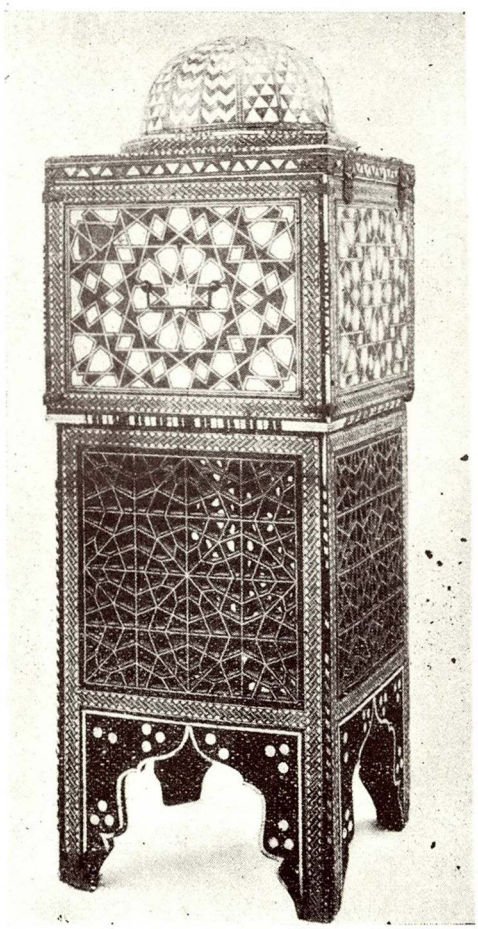
20世紀初期の獨逸家具の傾向

c) 獨、墺 （セセツシヨン）

佛蘭西のアール•ヌーボーは獨、墺にも進出してオツト•エツクマン(Otto Eekmann)一派等が繼承したがそれ以上にウキーンを中心とした人々や、ダルムスタツトの藝術家村の人々によつて提唱されたセセツ ション (Secession) の上に大きい影響を與へた。

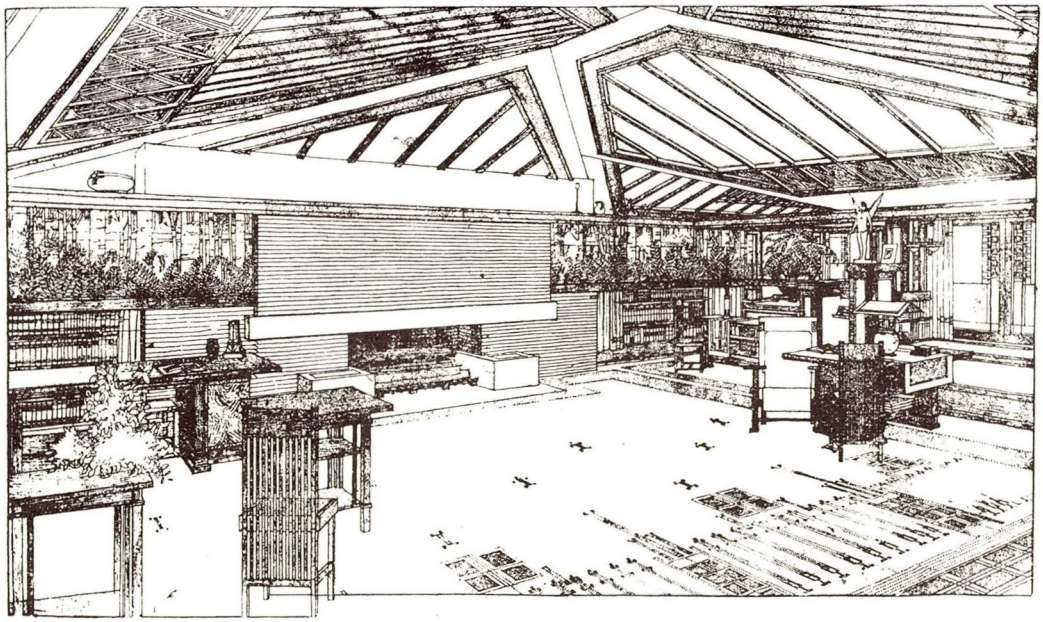
此のセセツ ションの第一の功勞者はウキーンのオツト•ワグナー(Otto Wagner)で從來のアカデミツクの人々に對して革命的主張を發表し種々の壓迫に對抗してセセツ ション運動を指導した。彼は“實用でないものは美しくない從つて人間生活に根源を持つことが創作の第一條件である”との主張を以て建築や家具等の作品を作つたが、其の初期のものはヌーボーの影響を相當に受けて居る。

ワグナーの二人の高弟の內ヨセフ • ホツ フマン (Josef Hoffman)はウキーンに止まつて師の主張を繼ぎウキーンセセツシヨンを指導し、ヨセフ•オルブリツヒ(Josef Olbrich) は後に獨逸に入りダルムスタツトのルドウイツヒ公 (Ernst Ludwig) の庇護の下に Künster Kolonie を組織して、ベーレンス、フーバー、ミユーラー等の藝術家と共にセセツ ションの指導者として努力した。



18世紀のイスラム式のコーランデスク

d) アメリカ合衆國（シカゴ派の人々）



20世紀初期ライト（クーンレー氏邸居間）

佛、獨、墺の之等の運動と關係なく殆んど時を同じくしてアメリカに於てはサリバン（Luis Henry Sullivan）が自然主義的建築の運動をシカゴを中心として起し、其の弟子ライト（Frank Lloyd Wright）に到つて其の精洗された頭腦とデザインは各種の建築の傑作を作り彼の熱のある努力と優れた織物に對する趣味と知識は立派な室內裝飾や家具迄に及び、今迄見るべきものゝなかつたアメリカに一つの進路を開拓した。

以上の如く歐米諸國に於て期せずして同一主義の運動が生れ之が表現派や構造派や傳統派などの建築に影響されて種々のデザイン、構造法が加り次に來るべき樣式の何物かを暗示しつゝ歐洲大戰の戰禍の中に捲き込まれて數年の間の沈默を餘儀なくされた。戰後の狀態並に現在の狀態は本野先生の說明に詳述せられる筈であるから自分は之にて稿を閉ぢすことにする。（終）

過ぐる三世紀間の工藝品

伴野三千良

本稿は、誤まり傳へられたる過去三世紀間の工藝史に就いて W. Dexel 氏が Die Form 誌上に論ぜるものの意を傳へたものである。即 17 世紀以來の社會狀態に依つて必然的に生じた王侯貴族の工藝が多く當時のものとして今日に傳へられてゐるのであるが、Dexel 氏はむしろ辛じて殘存する當時の下手ものに本質的工藝の道を見、永き歷史の傳統によつて純粹化されたる一般市民の什器等に就いて過ぐる三世紀間の工藝を論じたものである。

1

原始時代このかたさまざまの美しくて缺點のない品々があつた。數十世紀、數百世紀來の各文化時代にはそれぞれに完全なる什器とか道具の類があつて、それ等はいづれも目的に最もよく適ひそして材料を正しく用ひたものであつた。併し各時代には又精神とか態度とか好みとか習俗とかがあつて、これらは事物にも働きかけて所謂樣式の特性といふやうなものを爲さしめた。

其の樣式の特性が目立つてゐる程事物はより强く時代と關連してゐるわけであり、又目的や機能により强くとらはれてゐる程其生命は永續きのするものである。傳統と言ふものは同じ樣な生活條件が支配してゐる限り、只目的に叶ふものと實際に必要なものとのみを保護し維持するからである。過去の事實が我々に此事を教へてゐる。我々は數百年又は數千年來同じ樣な建築や什器の形式を引續き持つてゐて捨てぬ國民を知つてゐる。言ひ換へれば、彼等の發達と創造とが我々の目につかなかつたのである。又他の國民に於ては、樣式の特性とか外國の影響とかが四圍の世界との交通が活動的であつたが爲により强く刻印されてゐる。併しかかる場合に我々は樣式上に急速の變易を見るのである。それは總て外から入つたものは必然的にうつり易い爲である。

2

形の問題はどの時代にも同じ程に理解されそして形の上に現はされてゐた。プラトーは今日の我々と同じ樣な事を考へてゐた。即ち「事物の美しさは材料と目的との完全な和合を基とするものである」斯の樣な思想は常に存してゐて、歷史的啓蒙時代、模倣時代、例へばルネサンスや 19 世紀にも消滅することが無かつた。然し一方之と反對に 19 世紀には其荒んだ形式模倣を激しく批難し、形に對する問題の熱烈にして斷乎たる結論を生じた



1. 1820年頃の銅製珈琲器 （丁抹）

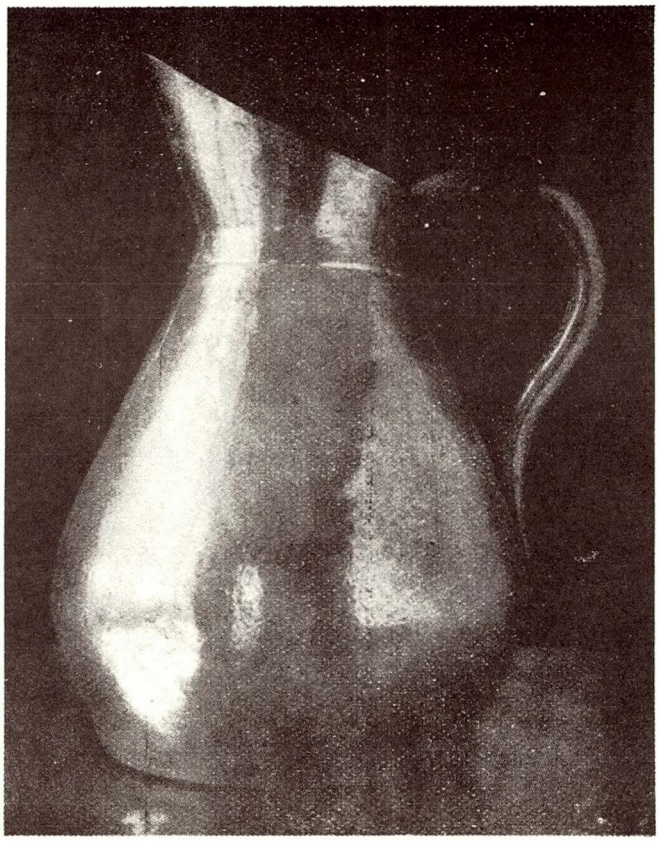
もので、我々は此點には感謝してゐる次第である私は、唯接言的に、ラスキン、モリス、バン•デ•ベルデ、アドルフ•ロース等 20 世紀初期に於けるウエルクブンドの創始者である之等の人々とウエルクブンドの名を擧げやう。總て事物を目的に適ひ、材料に忠實にそして最高の品位を保たせ人が使用するものである事を常に心に置いて創造しやうとする要求は、今日に於て一般的になつた。とは言ふものの其の實際化は仲々に困難である。我々の時代ほど淘汰されなければならぬ過去の遺産を負はされた時代はなかつたからである。我々は直ぐ先の過去から引續いて建設するのではなくして、心に悟り鋭く過去に反對して行動しなければならぬ最初の時代である。

19世紀に對する健全にして捉はれることのない必然的反動は、就中、建築、家具そして什器等の新しき形成に崩し、過去の最上にして最も純粋なる事物にも負けぬ程にしつかりと働きかけ、19世紀をもつて全く繼續してきた傳統の中絶と爲さしめたのである。

之はどの様に解釋すればよいのであらうか。我々が過去との絆を見ないやうにするならばどうなるであらうか。根本的な新事實の單純性を根として創造を爲し、傳統無き事と、自分の祖先に範を求めずに全世界を探求する事とを一般の人々が當然と信ずるやうになつたなら、どんな事になるのであらうか。今日の造型界に於ける健全なる精神を持つてゐる人々の要求と作成とは、太古の人達の創造が論理的ですぐれたものであつたのと同樣に正しくあるのであるが、何故其人達は其の根源を見出す爲に全世界と全藝術史とを隈なく捜すのであるか。そして過ぐる 4 世紀間には何一つとして根源を見出す事が出來ないのであるか。

思ふに、我々は之等の世紀を最惡の心構へで認識してゐるのではないのか。と言ふのは見誤るやうに教育されて來たからである。19世紀の觀念法に對する鬪爭とそれに附隨する我々の形成上の革新、即我々の要求と造型とは總じて突進んで伸びて行つたのであるが、藝術及び藝術的事業の歷史的著述は等閑に附され、そして昔の美術品に就いては最も及ばなかつたからである。現下の著述や美術品は共に多く19世紀の産物であるが、19世紀の精神を餘りにも忠實に保守してゐるものである。美術工藝品の歷史的分類は殆ど新意志と新造型とに依つても影響される事なく、我々に19世紀を思はせる様な物とか、19世紀の好み

に相當した物、即善美を盡せるもの豪華なもの、滅多に無いもの等を示すのである。此最初から全く歴史的に出現した世紀が書いた工藝の歴史は知らず知らずの間に過去の眞の精神を誤る機會を與へ易くしたのである。



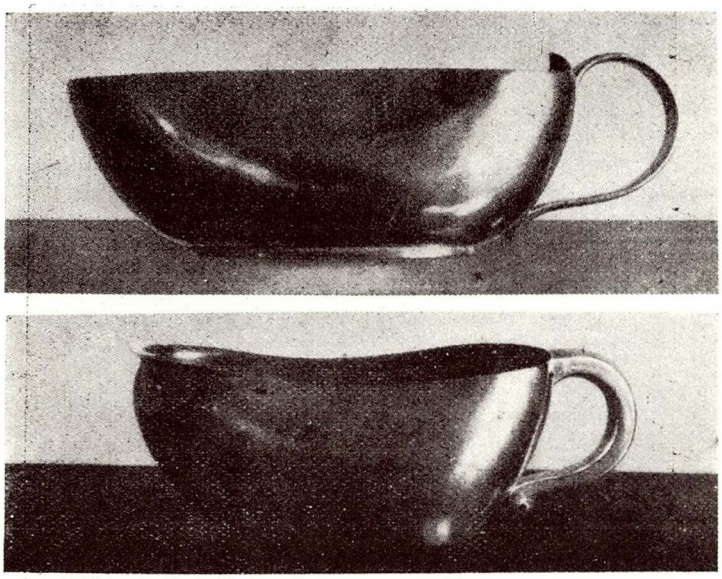
2. 眞鍮製水入、高さ 37cm 今日尚佛蘭西に遺る器

3

之等の事は我々が美術品の如く眼前にはつきりと見る事の出來る物に對した時に自ら明かになるものである。一般に王侯の美術室で基礎を作り古い寶藏の中で生成したそれらに對して、我々は唯高價な珍らしい骨董品であるとは思ふけれども實用に適するものとは少しも思へない。之に對して、教會の倉庫の中にある寶物には宗派の飾物とか裕福な市民の喜捨とか街の盛んであつた昔を偲ばせる品々がある。之等は全く投げ遣りにされてはゐるが、王侯よりも貴品あり精神的で金も持つてゐた95パーセントの人達の實際の文化的生活形式のあらはれである。我々の美術品は、社會を成す人々例へば只の手工業者とか向上された中產階級、餘りに裕福とは云へぬ貴族、智識階級、其他の人々の生活態度から少しの觀念をもとりあげてゐない。從來農民的文化には多少の本質的顧慮がなされたのであつたが、併し農民文化の分類も亦19世紀の精神のもとになされ、常に華美で贅澤で飾り立てられたものが優遇され單純で粗朴で美しい物は無いがしろにされてゐた。

若しも我々が敢て日常品は殆んど使ひ古されて取換へられ又は形を失つて了ひ、然も最後に1914年に底を洗つて金屬蒐集所に所謂「最上のもの」として姿を消して了つたと考へるならば、それは美しく飾られたものだけが殘されてゐると言ふに同じである。

此所は我々は決定的問題に到達するのである。人々が專に蒐集した之等の目を樂しませる品々、そして之は組織的に發達して來た文化的生產品よりも見た目に美しく見ゆるが爲に日用品と思ひ度くないらしい之等の品々は國家と流行の溫室以外の何處で培養されたものであつたらう。といふ譯は、上流社會を除いた一般大衆は過去の世紀の間傳統と習俗とに結ばれて單純である事を約束され法律と禁制との嚴格なる階級的差別の爲に豪奢や威嚴



3. 銀製ソース鉢 1768 の日附があるが一層古いものと思はれる

などと言ふことからは遙に身を退いてゐたのであつた。そして彼等の需要は範圍の廣い彼等に適はしい手工業品によつて應ぜられ19世紀の一面的考察の入る事を許さうとしないところにあつた。之等の整頓された生産物の姿は、我々に公にされた蒐集の全く本質的でない事の證據を思はしめるものである。我々はむしろ之等の品物の中により程度の高い美しさと完全さとそして品位を見るのである。

4

工藝史の中に、文句は違ふけれども意味の同じ次の様な項が屢ある「單純な手工藝品には裝飾品に見られぬ非常に形の美しい物がある」17世紀までの工藝品は幾世紀このかたの形を其儘に傳へ來つたものであつたが 7世紀になつて始めて様子が變り「流行品」がもてはやされるやうになつた。併し此の「流行品」には大衆品としての様式的特性は未だ少しも現はれてはゐなかつたのである。例へば錫にして見れば、非常に澤山に用ひられてゐたのであるが日常の品の外に所謂高貴なる錫製品を作る研究が盛になつて、それのみが興味の的になつて了つた。そこで「日常の目的を越へて藝術品にまで高められ、唯眺める爲の飾り立てられた品になつて了ひ」燭台作りは錫鑄工になつて了つた。即高貴な錫製品のみが顧みられるやうになつた。同じ様な事は他の工藝に就いても行はれたのであつた。

それでは眞面目な考究が集中された事物はどの様な見かけになつたであらうか。ゴシツクでは既に建築様式が裝飾品に這入りこんで低下せしめそして形の全體的分解となつて了つた。此様な例は澤山にある。併し日用品は當時既に之等の墮落から離れてゐて、驚く程單純な形式で存してゐた事を我々は辛ふじて思ひ出すのである。

イタリアは當時總ての國民の定評ある先驅者であつた。イタリアのルネツサンス建築の嚴格にして新式の組織、即透視圖法や又は人體の通曉等は直に會得する事の出來ぬものであつた。それには誰もが出來ると言ふ譯で無い愼重な研究が必要であつた。併し、裝飾文様、記念柱、垂花模様、アカンサスの葉、立像、迫持揃、譬喩像等は簡單で總て之等の裝飾形式は模範書とか規範型とか又は銅版畫、旅する藝術家等によつて仲介されてゐた。望みさへすれば一般大衆でも此の當時のモダンな裝飾品の形を自分の什器や家具等に應用することが出來た。併し此新しき形式界に實際に通じて其精神的關係を會得する事は全く少

しの藝術家にしか成されなかつた。手工業者にはそんな事は出來なくそして此の新しい形式は田舍に這入りこんで行く程形に嵌まつた曲解だらけの趣味の低いものになつて了つたこゝにルネツサンスに就いて述べた事は他の様式に就いても同じ様に廣い範圍に亘つて行はれたのである。



4. 葡萄酒杯 (17世紀末)

5

此の急速には消化されなかつた造形界の俄の陷沒と言ふのは所謂高調なる工藝の擡頭であつた。それは19世紀を熱狂せしめ、他の總ての物を其爲に見失はしめたのである。どんな辯解も役立たない誠に戰慄すべき生産であつた。非常に値のある仕事と言ふものも——實際の藝術家の手がそれに觸れたから其様に言ふのであるが——屢々只痙攣的な誤り解せられた構造物に過ぎず、おびたゞしき飾を持つた形も內的の非理論性を隱す事は出來なかつた。眞の藝術家が此の様な仕事に滿足してゐたと思ふのは間違ひである。それ等は只パンの爲の仕事であつたので其嘆きは我々にもたらされてゐた。ボーリンゲルが、當時の文化の兩性を具へたる性格と呼んでゐる所のものを反映してゐる之等の產物の責任は、藝術家にあるのではなくして時代の精神にあるのである。之等の事物を責任をもつて圖案した藝術家が、總じて其製作に關與してゐたか否かといふ疑問がある。といふのは偉大なる藝術家、例へばクラナツクスの如き人はどれ程數ある工場を實際に經營してゐたかを我々は知つてゐる。そして其の仕事は非常な量に於て爲され、繪畫や祭壇を創造する外に各種類の繪書やペンキ塗の仕事があり、そして書物の印刷とか製材とか大きな出版事業とか、あらゆるものに携つてゐた。又バン・ユークに就いて我々の知つてゐる事は、彼がブルグンドの侯爵に對して今日の世界的商社の廣告部長と同じ位置を持つてゐたと云ふ事である。彼は侯爵の經營に入つて來た總てのものを彼の數多き助力を用ひて全く造型したからである。又有名な錫、金、銀器製作工場の仕事は全く特殊なものではあつたが我々から見れば廣大なる事業と思はれるものである。併し手工業者は種本、即ち「模範型と奥儀の書」から自分がよいと思ふものや注文者の氣に入ると思はれるものをあさり出す事に慣れてゐて

當時所謂高調なる工藝品をかけだしで製作し始め、眞實の形式感を失ひ感覺に於ては益々不精確にそして依賴的になり遂に總て自己創造的の責任あるところのものを投げ出して了つた。そこで完全な勞働の分類となつた。圖案する事、模型を作る事、そして實行する事は三つの異つた手に委ねられた。技術に於ては尙廣範圍に仕事の分類が行はれ、各々の特殊部分は特別の人に依つて果された。そして如何なる場合にも藝術と手工業との一致は問題にされなかつた。

6

我々が今日精神的財產の竊盜と呼んでゐる多くの外國のモデルを其儘に複寫することは藝術史が有名な錫の器とか銀の細工とかを同じやうに何回となく示す如くに行はれたもので、之等は當時に於て只許されてゐたのみならず習慣として創作の助けとなしてゐたと言譯をしてゐるが、手工業者が絕へず藝術家でなければ處置できない問題に惱まされ責務に堪へ兼ねた當時の事情としては當然の成行と言つてもよいのであつた。有名な錫容器製作者、例へばヤムニツツエル、エンデルライン其他の人達の製作品は今日に於て尙想像以外の値を張つてゐるが、我々はそれをロマンティツクな形態とは思へなく、むしろ今日でも存續してゐる藝術的產業の中でも大企業の結果と思ひ又其の精神的豫感とも名付けるのである。

裝飾品は見る爲のものとしては要求に相應しいものであるが、日常の役に立つものでは決して無く、既に一つの兩性的存在で藝術品とも日用品ともつかぬものであつた。我々は樣々の手工業者が此問題をもはや精神的に屈服せしめる事が出來なく、種本をあさつて適當な飾りを見出す事のみを爲てゐる者自身すら一つの形を獨創的に整理させる事が出來なくなつた事を知つてゐる。斯んな事ではとてもよいものが出來やう筈がない。而も尙時代は豪奢と多趣味とを以て善にして美しきものと思つてゐた。此の樣な19世紀及び其美術品及藝術史家の誤りを我々がだらだらと受繼ぐわけは無いし受繼ぐ理由もない。何故ならば敬神と傳統とに對する我々の感覺は、規律と形式感に溢れて統一されそして習俗に從つて眞に使ひよく飾りにも走らず藝術品であらうとしないで然も自ら藝術品になつてゐる作品に面した時、たちどころに滿足を得るからである。それは理性と目的とを通じて統御されたもので、決して退化したものではないのである。

日常品には驚くべきものがあり我々は澤山に其例を擧げることが出來るのであるが、それが決して特殊のものでない事、稀にあるものでない事、高價でない事そして却つて全く一般的であつて然もすくすくと成長したものにも似て完全であると言ふところに所以があるのである。之等の品々は案出したものではなくして發生したものであり、形成したのではなくして成長したものであり、望まれて出來たのではなくして自ら生じたものであり、そして中にも模倣したものではなくして次から次へと發展して行つたものである。即ちこれこそ傳統の精神である。たとへ過去に對する善意のロマンテイツクな陶醉から發生した場合にせよ、過去の事物を模倣する事は眞の傳統のよくするところではない。我々は只我々の時代に於ける要求を作り出す事が出來るので、それは又形の組織的成長を可能ならし

めるものである。此場合には既に機械は敵で無い。併し機械のみが形を殺風景にするのでもなく、又手工業のみがそれに生命を與へるのでもない。此ものゝ不思議な生命は、世紀がそれに附添つてゐる事又一貫した發展の嵐が足跡を殘して通り過ぎて行く事に基くのである。

7

從來のもの以外であらうとするところに全精神をたゝへた今迄の手工藝的創造の精神は我々の要求を心に置き現代の方法で作り換へ更に進歩せしめて形造ると言ふ事をしないで過去の唯一の形を模倣するのと同樣に無價値である。發育の嵐は抑制すべきではないが、併し模範的生產物を創造した精神を革新する事は、昔仕事の手並を上げる爲に嚴格な訓練をしたのと同じ樣に可能であるべきである。併し我々が過去の正しき飾り氣のない美しき形を成した什器を見誤つて輕蔑し、飾り氣たつぷりで餘りに養ひ過ぎた生產物を範として奉つてゐる間は、此の事は到底成功しないであらう。

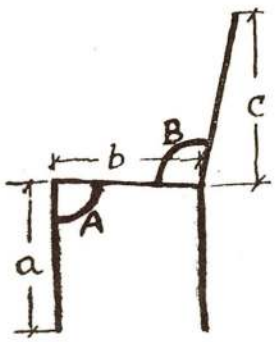
手工業では到底完全を期する事の出來ない樣々な技術と相變らず和解しやうとしない素朴な實際的の手工藝者の創作品は、靜かな流れの內にいつも變らず永遠に繰返してゐる單純な事實の彼方に其生命を果してゐる。習性に正直で目的を充分に滿たし、父祖の時代から代々讓り受けられた美しい形は、其行の出發點として彼等に役立つのである。乍然、數百回又は數千回同じ樣な仕事を繰返してゐる間に、氣には附かないが變化が行亙つて改良が爲されてゐるのである。此樣に長い間繰返された仕事は、簡單であればある程手並は益々慣れて鮮かにそして遂には最高の正確さを持つた工藝品となり、判然と識別の能力は益々完全に發達してゆくものである。

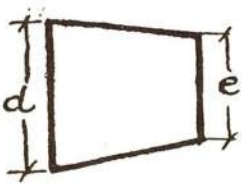
恐らく過去の單純なる手工業者は今日の光學機械工、時計製作工、機械製造工の如くであつたらう。彼等はドイツの仕事に本質的名聲を爲さしめた彼の精密機械の先導者であつた。併し彼等は名聲を得る事もなく、一度も手工藝者としての名譽ある名前を貰つた事もなく常に創造を繰返し繰返し、彼等の心得へてゐた仕事に强き忍耐と獻身とを以て盡したのであつた。

我々の見解によれば、過ぐる世紀の日常品から助け出せるものは救ひ上げるのが差迫つた必然的問題である。只事物のみが我々に、全く僞りの姿となつて望なくも晒されてゐる過ぐる時代の手工藝と文化の眞の姿を教へるものである。此所に揭げた如き手工藝品に就いて過ぐる世紀の眞の形式史を探究すべき事は明である。手工業と工藝との歷史に關する總ての好意ある努力にも不拘、我々は過去の實際の國民文化に就いては何も知つてゐない19世紀の誤つた形式感を蘇生させやうと本當に努力してゐる一つの鬪爭があるが、それは過去の眞の力をば少しも取り上げる事は出來なかつた。併し、一方進歩の爲に他方傳統の爲に精神的鬪爭をする事は意味ないものである。そのわけは、熱望される進歩と言ふものは過去の最上の意志が現代に應じて繼續されたものであり、そして今日の眞の力はうつろな空間にあるのでは無くして、總ての時代が其の前の時代と結ばれてゐた如くに過去と結び付いてゐるからである。

基準家具の問題

モトノセイゴ





基準家具の問題が此の頃各方面で研究され始めた事は誠に悦ばしい事である。本項は其れ等の二三の比較研究をして見様と云ふので此の問題に就て諸子の注意を喚起する事が出來れば本項の目的は達せられる譯である。元來基準寸法の問題は中々簡單に片付けられる問題ではないのでありまして、愼重の研究と考察とを重ねた上でないと却つて一定の規矩の中に入れた爲めに惡い結果に陷る事がある事に注意せねばならぬ。始めは各方面の研究資料を充分に集めた上で相當有力なる結論に迄導く計畫を立てたのであつたけれども今回は夫れ丈の準備が出來なかつたから一部の記述に止め後日更に詳細なる研究を遂げ度いと思つて居る。

小椅子——

a b c d e の長さ及 *A B* の角の大さに就て *a b A B* の四ツは最も重大な要素であるから之れに就て色々の方面の研究の結果を集めて見ると次の様になる。

		a	*b*	*A*	*B*
商工省 臨時產業合理局	會議用 食堂用 應接用	44.0	40.0	—	—
川喜田氏	仕事用	41.3	41.29	90°.0	99°.7
型示工房	仕事用	40.0	41.15	(90°)	102°.0
三越家具部（大阪）	應接用	41.0	41.0	—	—
	食堂用	42.5	40.0	—	—
內外木材工藝株式會社	應接用	41.0	42.5	—	—
	食堂用	42.5	42.5	—	—
モトノ		43.0	40.0	89°.0	92°.0
仙臺工藝指導所		41—43	40—42	—	101°—102°
Adolf Schneck		44.5	41.5	(90°)	100°—104°
Aiton Strahal		42—45	35—40	(97°)	(100°)

（ ） 內の角度示してないけれども約その角度を推定したものである。

之等の結果を比較して見ると相當大きな開きがある。之れは各所で實驗の方法と判斷の決定の相違とから來たものと思へる。私は一々實驗の方法を詳細に聞いて居ないから此の各に就て批判を試みる事は出來ないけれ共私の實驗の結果からすると少くとも a が43cm.0以上であつては高過ぎはしないかと思はれる。商工省の調査に對して工藝指導所は43cm.0を提案したと云ふ事であるが其の方がよさソウに思ふ。40 cm, 41 cm は餘りに低過ぎはしまいかと思ふ。勿論 a と b とは互に關係を持つて居るから塲合に依つては

	a	b	A	B
Thonet (Berlin)	47	37	90°	103°

と云ふ様な特殊のイスもある。之れは曲木の簡易イスであります。之れを假りに日本人の標準にして構造して見ると

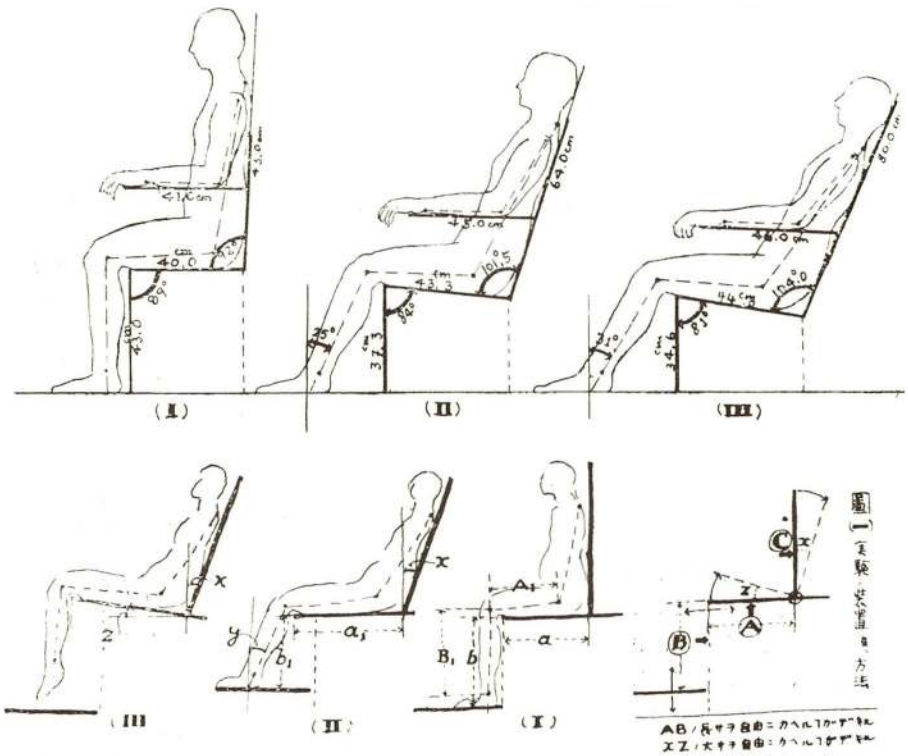
a	b
46—45	36—35

位になる様に思ふ。夫れから之等の寸法のみに絶對に準據する事は大なる危險が伴なふ事は注意せねばならない。

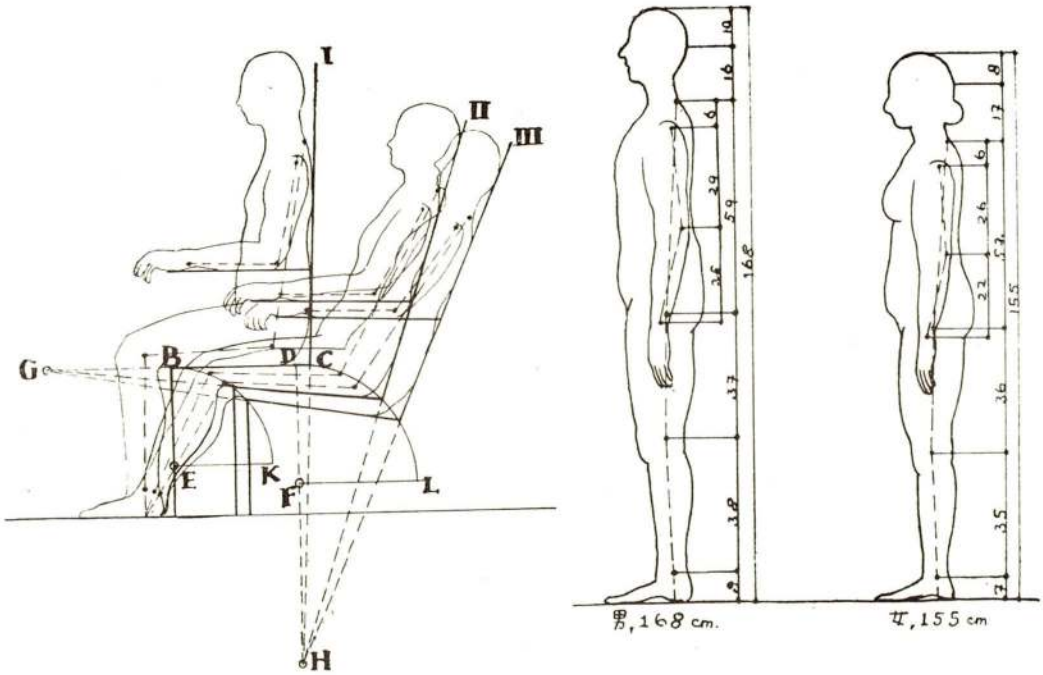


此の四つの塲合には I と IV とが最も高くなり III が最も低くなるのである。

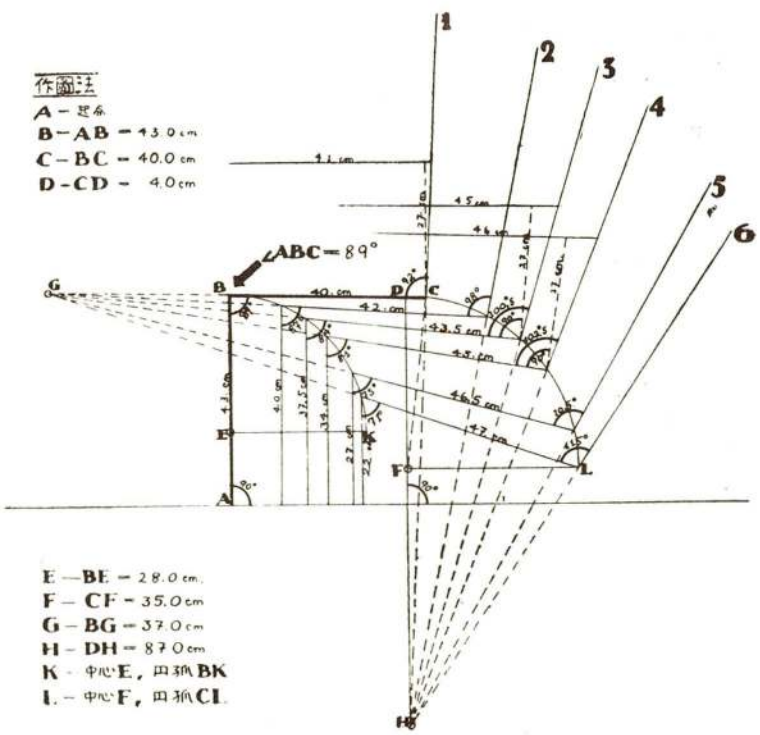
コウした細部の例へば坐面の取扱ひや傾斜や脊の傾斜等色々の細かい條件で標準線の高さ迄は假りに同じであつても色々の工合のイスが出來上るので、茲で 1 cm—1.5 cm 位の相違に當るものが發生する。



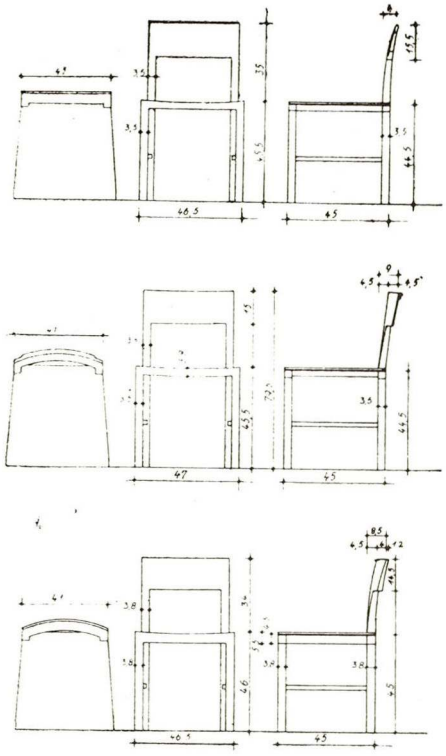
(1) 實驗の結果の三つの塲合



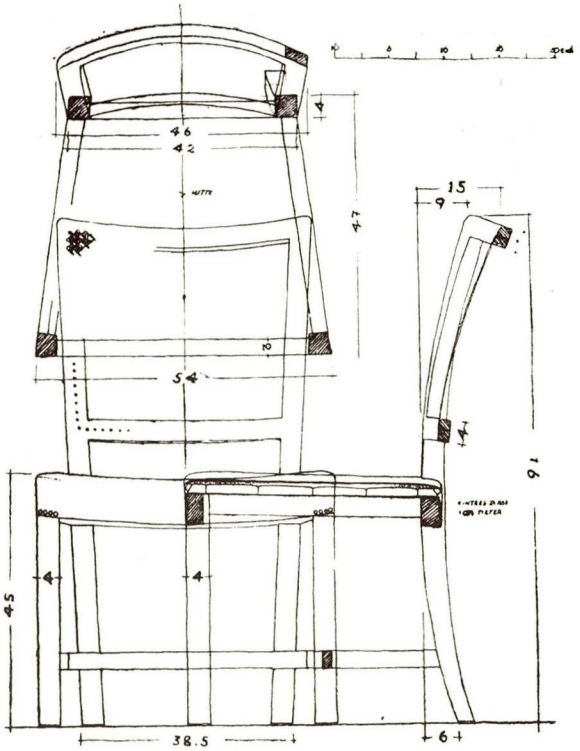
2 實驗の結果を重ね合せたる圖と人體の平均部分の比例（實驗に用ひた數人の人が 168cm 前後の人であつた爲め日本の平均は大多數の者よりは約 8cm 位高い）



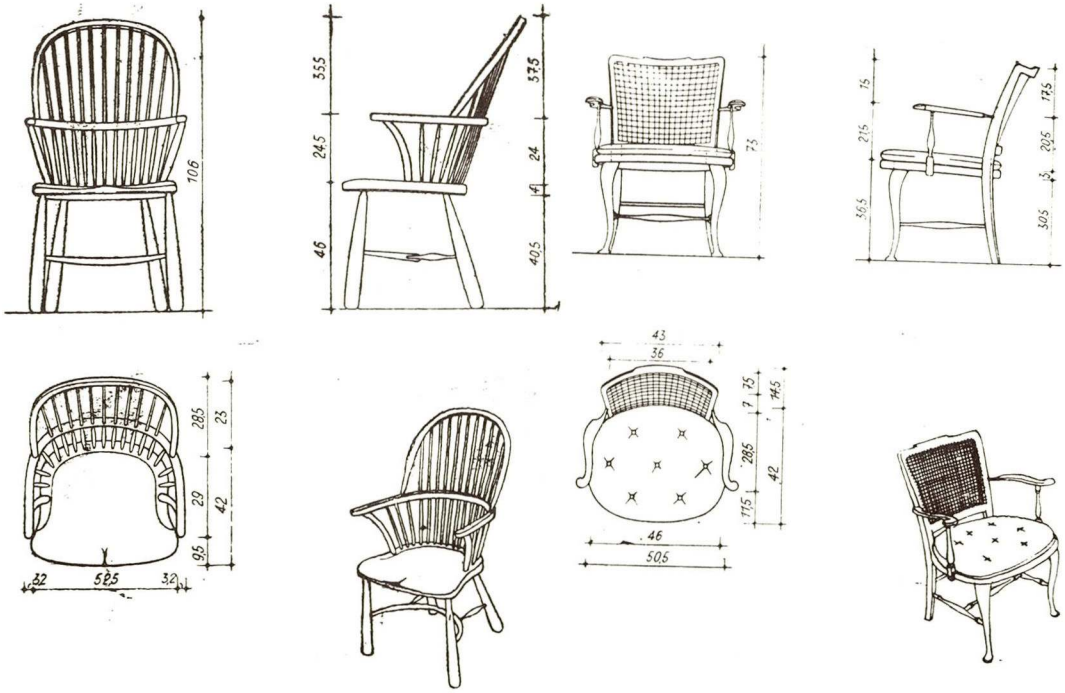
3 實驗の結果を綜合して得たる圖式——之に依て色々の場合即ち仕事用，半休息用，全休息用等の色々の場合の寸法及角度を求める事が出來る。



4 アドルフシュネツク氏の基準小椅子に對する三つの脊形の研究

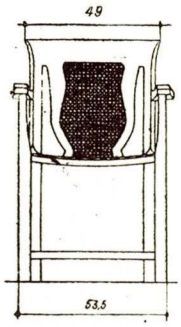


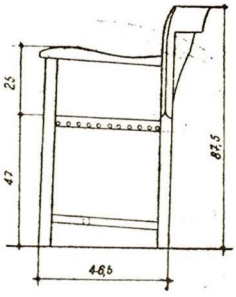
5 アドルフシュネツク氏の基準小椅子の一つの種類

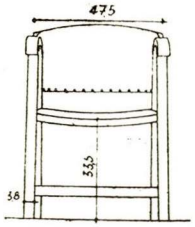


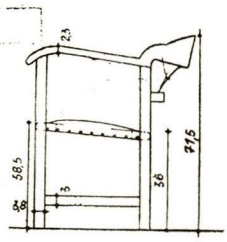
6 イギリスの基準椅子の一つ

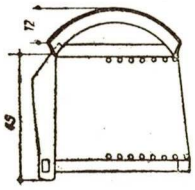
7 イギリスの椅子

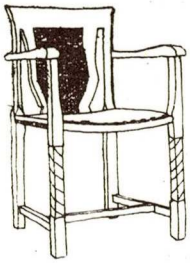


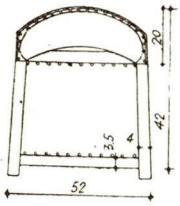


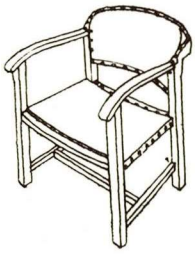






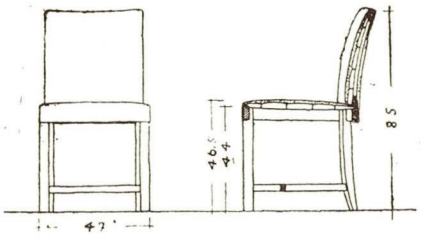


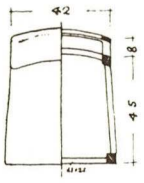


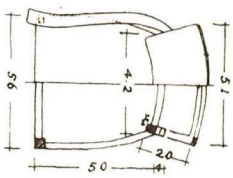


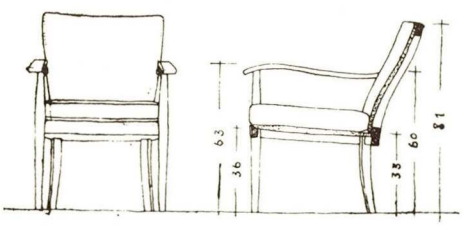
8 イギリスの椅子

9 イギリスの椅子

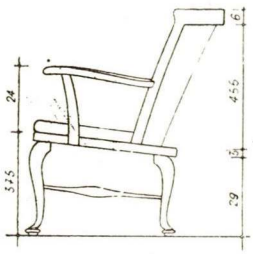


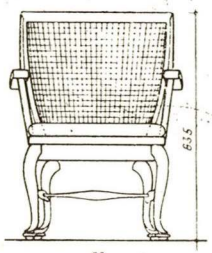




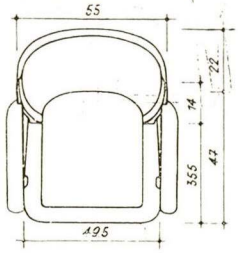


10 ドイツの椅子











11 イギリスの椅子

夫れ故に單純に寸法のみに準據してイスを設計したり批判してはいけない事になる。基準の寸法の定め方が難かしいのは此の點にある。ドイツの Anton Strahl と云ふ人が基準イスの寸法に就て書いて居るのは

a	*b*	*A*	*B*
42—45	35—40	約(96°—98°)	約(100°)

であつて之れに對して此の範圍内に於て色々に動く事を述べて居る。日本の標準は 1cm乃至 1.5cm 位 *a b* が短かくなればよさソウであるから大體上記の日本にて研究された標準寸法と一致する譯である。

コウやつて調べて行くと小椅子丈でも中々大變である。

私のやつた實驗に就ては詳しく帝國工藝の第 7 卷 10 號に記載してありますから今茲に記す事を止める。私の實驗は *a b A B* の自由に動く裝置を造つて、ソレに就て數人の大體基準的の身體の持主に就て詳細なカケ心地の平均率を取つて、其結果を綜合して一ツの圖式を求める事が出來たのである。

肘掛椅子、安樂椅子

		a	*b*	*A*	*B*
商工省	肘掛椅子 1 號	44.0	54.0	—	—
	同 2 號	44.0	45.0	—	—
川喜田氏	半休息（肘掛？）	35.0	45.0	75°.0	95°.0
	全休息（安樂椅子？）	30.0	45.0	60°.0	112°.0
型示工房	安樂椅子（肘掛？）	33.55	44.47	84°.0	100°.0
	安樂椅子（安樂椅子？）	28.05	44.47	84°.0	100°.0
モトノ	半休息（肘掛）	37.5	43.5	84°.0	100°.0
	全休息（安樂椅子）	27.0	46.5	75°.0	105°.0

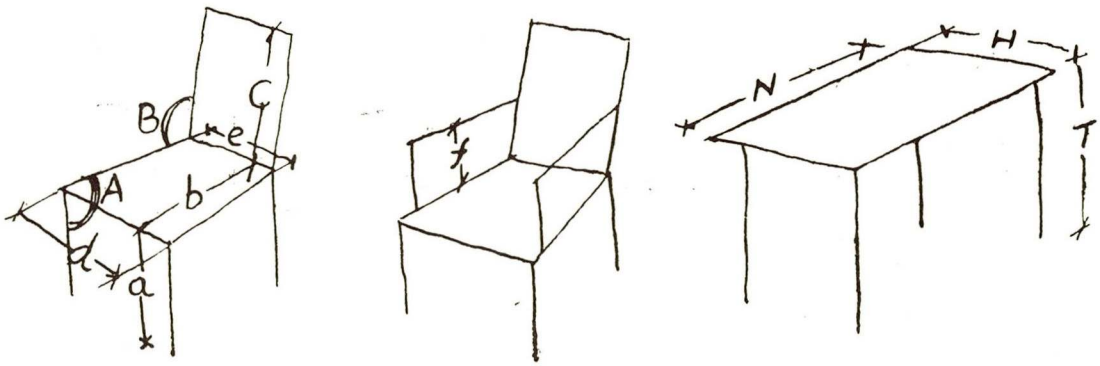
此の表に於て半休息を肘カケ椅子、全休息を安樂椅子と見れば大體の標準は立つのであるが、商工省の分を除いて後の三者は大體に餘り大きな差を見ない只型示工房の 33.55cm は少しく低過ぎはしないかと思ふ。

本項の寸法に關する論議をそれ丈で打ち切つて二、三の集まつて居る材料を圖示して終り度いと思ふ。

三越家具部、寸法

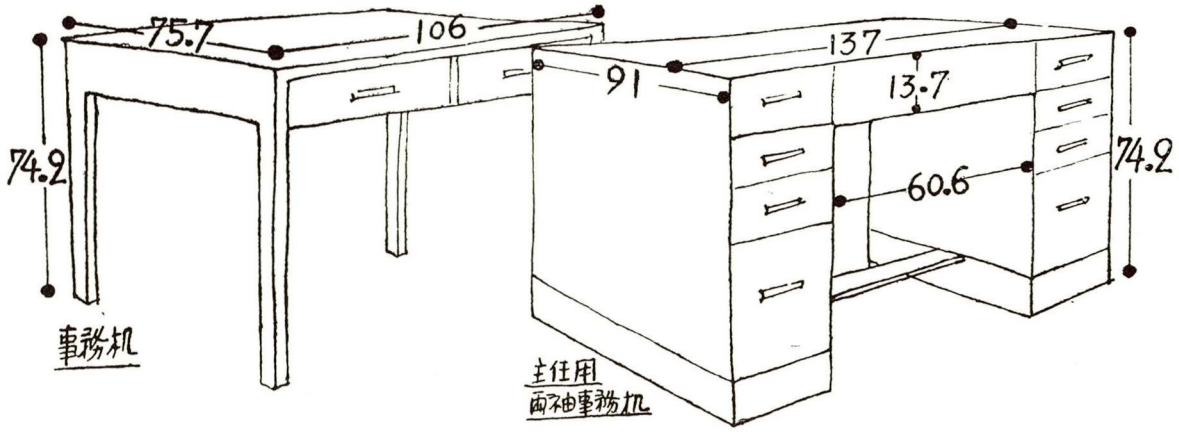
	a	*b*	*c*	*d*	*f*
應接用小椅子	41.0	41.0	40.0—45.0	44.0	—
同　肘掛椅子	35.5	50.0—51.5	40.0—44.0	50.0—51.5	21.0
食堂用小椅子	42.5	40.0	38.0—47.0	41.0—42.5	—
安樂椅子	33.5	53.0—56.0	40.0—43.0	54.5	21.0

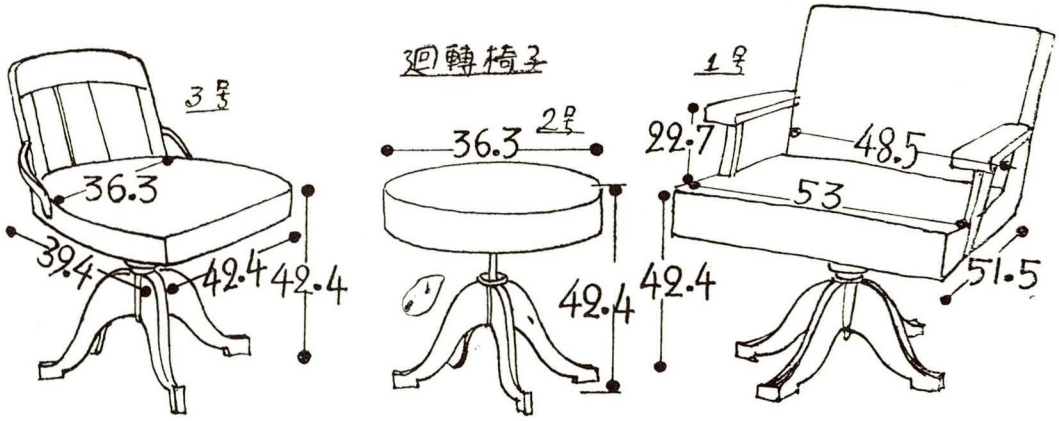
	N	*H*	*T*
食堂用卓子	167.0—182.0	91.0—121.0	72.7

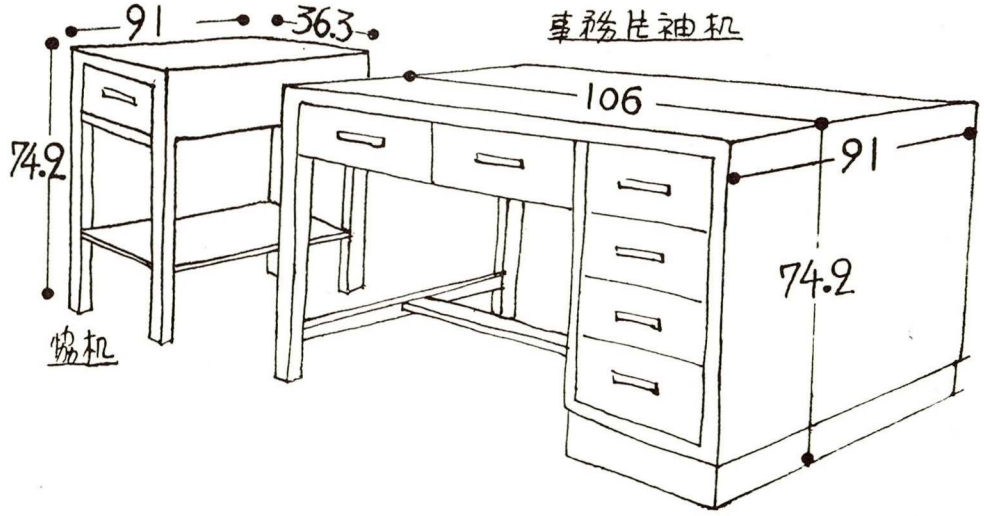


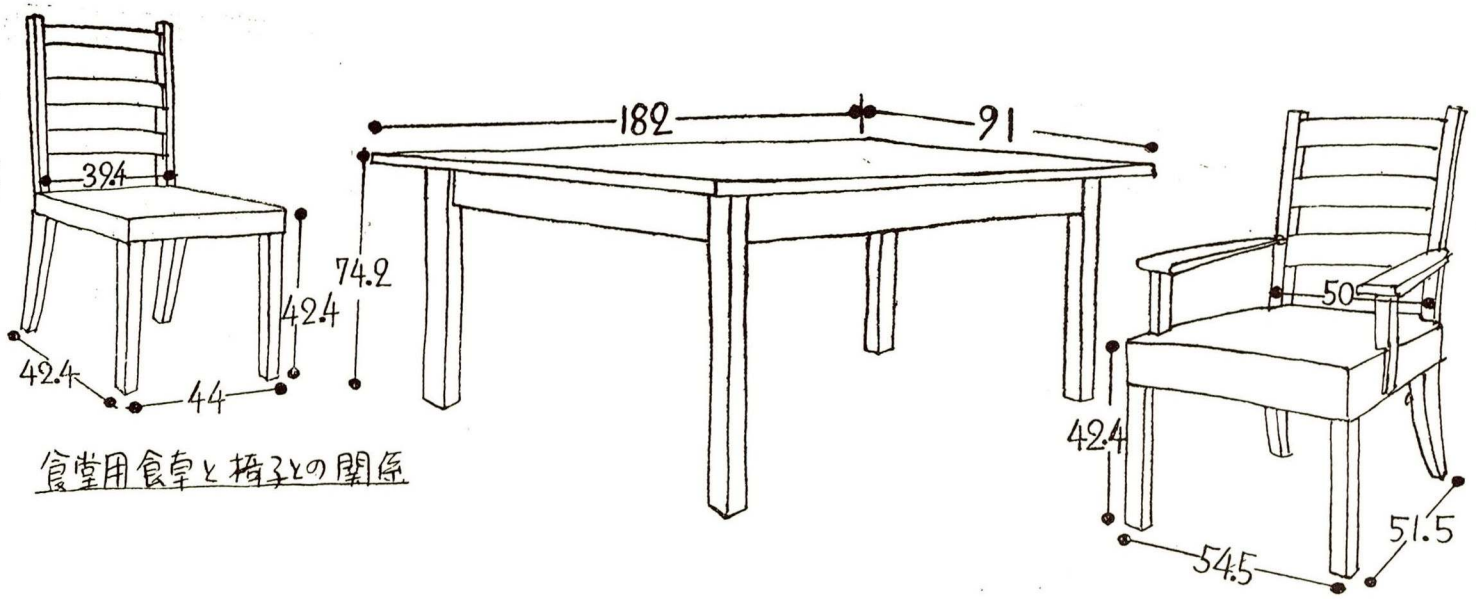
三越家具と內外木材との寸法は各一ツの場合で中には相當廣い範圍に動ける寸法もある譯です。椅子の坐高にしても安樂椅子の場合にはスプリングの工合に依つて坐高が一々變らねばならない譯であるから坐高はスプリングの或る一ツの場合に相當するものと解釋しなければいけない。

本項の記事と圖面寸法表等を彼此參照して椅子類考案の資となる事が出來たらば此の項の目的は達する。


75.7
106
74.2
事務机
91
137
13.7
60.6
74.2
主任用
両袖事務机

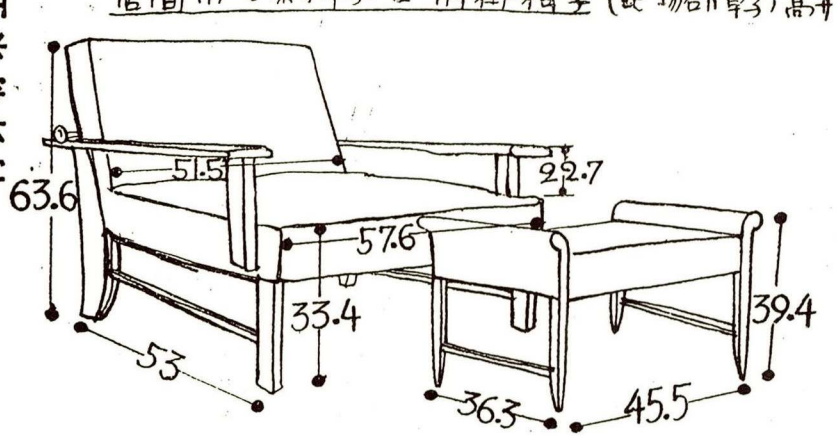

3号
36.3
39.4
42.4
42.4
廻轉椅子
2号
36.3
42.4
1号
22.7
48.5
53
42.4
51.5

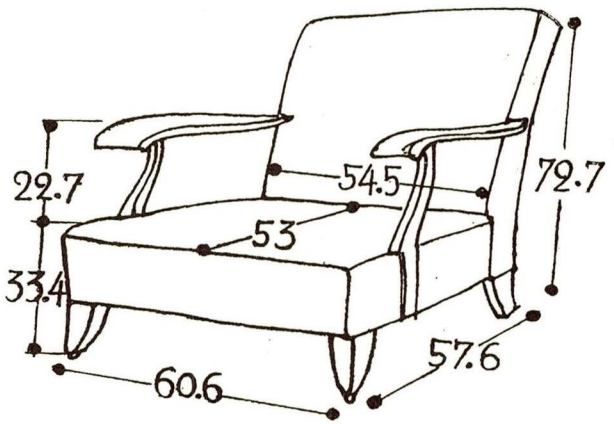

91
36.3
事務片袖机
106
74.2
91
74.2
物机



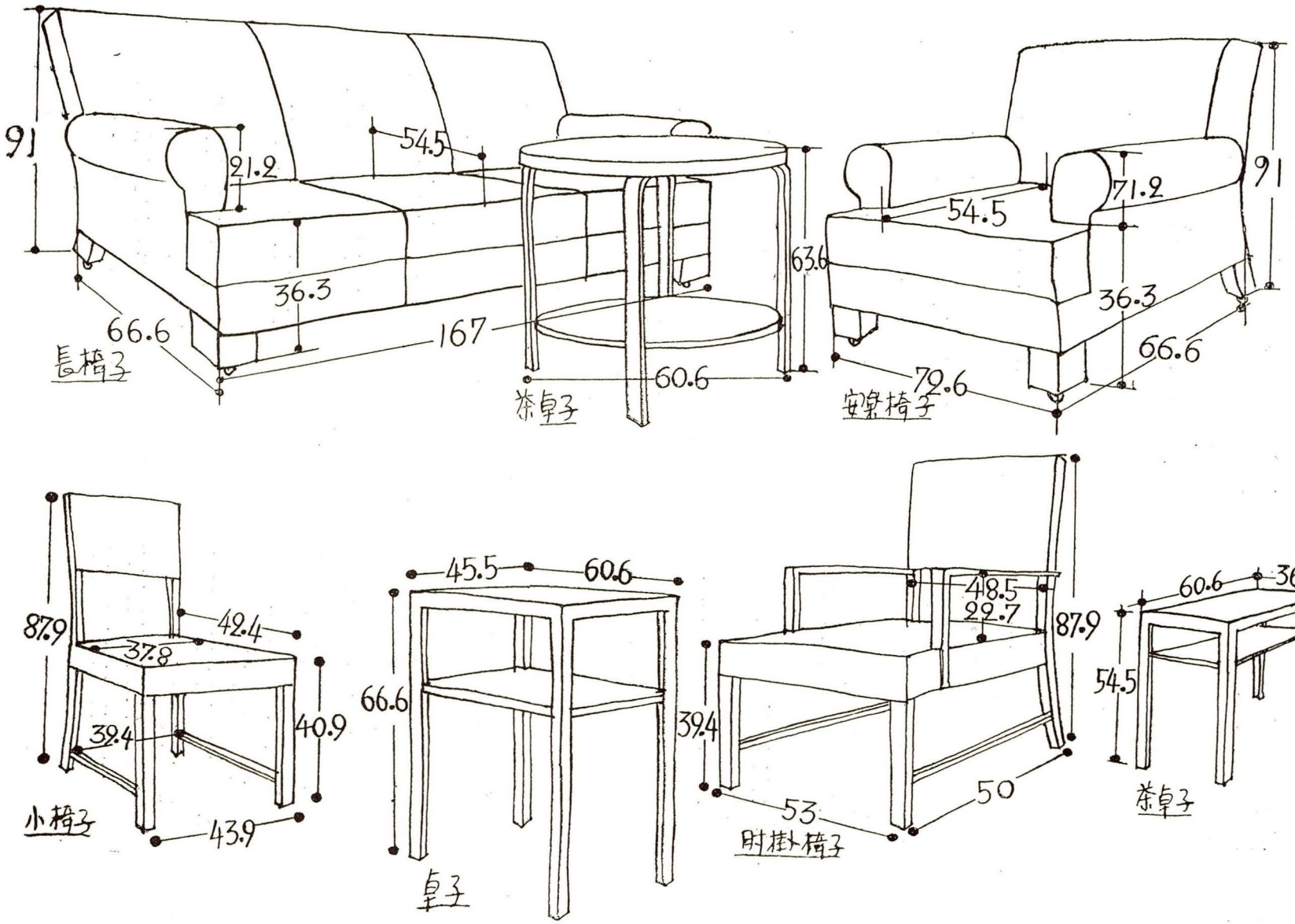
食堂用食卓と椅子との関係

居間用安楽椅子及肘掛椅子（此場合卓子高サ 540）





客間居間用家具


91
21.2
54.5
36.3
66.6
167
長椅子
63.6
60.6
茶卓子
91
71.2
54.5
36.3
66.6
72.6
安樂椅子
87.9
42.4
37.8
32.4
40.9
43.9
小椅子
45.5
60.6
66.6
卓子
48.5
22.7
87.9
39.4
53
50
肘掛椅子
60.6
36.3
54.5
茶卓子

家具施工に就て

小川安一郎

端書

私は 1～2 年前より木材に關する造作工事並に家具、裝飾等を本業とする會社に職を奉する事になりました關係上、造作工事に關しての施工順序並に注意事項とか家具製作に對しての一般的注意すべき事どもを書いて居りましたが、此度日本建築協會で室内裝飾號の發刊に際して家具製作に就て書出してくれとの事でしたから、甚だ僭越ではありましたが永き間の經驗から見まして此の位の事でよからうかと思ひまして、綴つて見ましたが參考にでもなりましたら幸甚です。

1. 詳細圖又は「スケツチ」により見積をなす際は、下の要項に注意し見積を容易ならしむべきものとす。
   （1） 裂地又は革其の他必要なる見本添付の有無。
   （2） 木部が「ベニヤ」製なるや、「ソリツド」なるや、或は板類のみ「ベニヤ」製なるやを明確になし置くべし。
   （3） 上「ベニヤ」製は特製品なるや仕入品なるや。
   （4） 椅子の詰物なるは馬毛「フアイバー」「シユロ」毛、「バンプー」等に大別せられ此等の中、何れを用ふるやにより見積價格に影響を及ぼすこと多大なるに付、明記なき場合は之を確むること。
   （5） 飾棚、書棚等に使用せらるべき、硝子板は磨板なるや「マシン及び並板」なるや、特種品なるや、舶來品或は和製品なるやを明かにすべし。又各々の厚さを明瞭ならしむべし。
   （6） 塗裝、「ラツカー」「バニス」「ラツク」又は「ワツクス」仕上の何れなるや、又研出塗なるや、艶消塗なるやを明確になし置くこと。
   （7） 納入場所の遠近により荷造方法異なり、運賃にも著しく差異あるを以て納入場所を明記し置くこと。
2. 設計見積を命ぜられたる場合は次の要項に注意して設計を作成し、決定を待ちて見積をなし、敏速に註文者に圖面其の他見本品を提出すべきものとす。
   （1） 設計をなすに當り註文者の意向を充分承知し、其の室の「スタイル」に適合せしむるやう努むべきは勿論、見積書提出前設計圖を註文者に差出し承認を求むること。

（2） 提出したる設計圖が註文者の意に副はざる場合は、直ちに設計替の上遲滯なく約束の期日迄に再提出をなし、再び設計遣直しをなさざるやう努むべきこと。

（3） 裂地等の撰定に當りては先づ壁、窓掛、敷物等の色調を取調べ調和を缺かざるやう又其の柄模様も「スタイル」に合致するやう努むべきこと。

（4） 木部は「ベニヤ」製、となすや、「ベニヤ」製と「ソリツド」との混用となすや、或は全然「ソリツド」にて製作をなすやにより價格に影響を及ぼすこと多きを以て、豫め註文者の意向を承りて見積をなすこと。

（5） 椅子の詰物は甲乙二樣に見積を立て同一型、同一の裂地を使用するも、詰物の種類により價格に値開きあることを明かにすること。

（6） 壁地造作の塗裝の色調に適合する塗色と、仕上塗裝の見本を提出すること。

3. 註文決定したるときは直ちに詳細圖面に基き現寸圖（附屬金物共）の作成をなし、註文者又は設計者に提出承認を受け、遲滯なく之を製作者に送附すべきものとす。

4. 使用木材の乾燥は最も注意すべき重要事なるに拘らず一般に無關心の憾あるに付注意を要す。

原木より適寸に挽立てたる物を僅々 2～3 週間天日乾燥をなし、表面の水分が除去せられたる程度のものを使用する家具商市場に多し。

比較的信用ある製作業者に於ても、乾燥木材として 6 箇月內外天然乾燥せしものを板子に製板し乾燥材として廣く取引せられ之を使用し製作す、我國は濕度多きを以て 1 箇年未滿のものは乾燥材と稱するを得ざるに付、使用前人工乾燥を加へ、含水 10% 內外に乾燥したるものを用ふることに留意すべきものとす。

5. 「ベニヤ」板は社品と社外品に區別され日本樂器、新田「ベニヤ」日本「プライワツド」製を社品と稱す。社外品は大部分耐水性乏しきを以てなるべく之を廢除し、社品を用ふべし。但し社品と雖も社外品と競爭上不良膠を用ひ賣捌きをなすを以て、特に耐水性の保證ある製品を使用するを要す。

6. 天板及「パネル」板の如き接ぎ合せをなすものに對しては「ベニヤ」製と「ソリツド」との區別なく、材の色合並に木理に注意をなすと否とは、自然製作塗裝後製品に明瞭に表はるゝものなるを以て材料の使分けに特に注意すべきものとす。

7. 外國製品は接ぎ合せ部分全部太枘式なれども、我國にありては短枘式にして枘組には必ず膠を用ふるも、冬期に於ては相互の木片を高熱度に溫めざれば、膠の效力を失ふべく枘組部の「ガタ」付は未乾燥材を用ひたるとき生ずると同樣の結果となるを以て、冬期に於ける製作に付ては此の點特に注意すべきものとす。

8. 抽出の摺木は必ず堅木を使用し、尙其の上端は丸型に仕上げ、辷りを滑かにすべし。

9. 椅子の構成には次の各項に注意するを要す。

（1） 「スプリング」は舶來線を以て製作したるものと、和製線を以て製作したるものと

あり、前者は彈力性に富み永く使用するも腰折等なく後者は腰強きも彈力性乏しく使用中に全く彈力を失ふるに至るを以て前者を必ず用ふべし。

（2） 小椅子、肘掛椅子、安樂椅子及長椅子に用ふる「スプリング」の線の太さ、線の卷數並に此要數は一般に明記せざるものなれば下に列記して監督上施工上の資に供す。

名　稱		線の太さ	「ラセン」の數	使用數量
小椅子	敷	11番	7	4～5
肘掛椅子	同	〃	〃	9
安樂椅子	同 「クッション」附のとき	〃	〃	20
同	「クッション」なしのとき	10 11	8 7	9 4
同	「モタレ」	11 12 12	7 7 5	3 3 3
同	肘	11	7	8
同	「クッションスプリング」			100
長椅子	敷 「クッション」附のとき	11	7	62
同	「クッション」なしのとき	10 11	8 7	36 14
同	「モタレ」	11 12 12	7 7 5	9 9 9
同	肘	11	7	8
肘掛安樂椅子	敷	11	7	16
同	「モタレ」	11 12 12	7 7 5	3 3 3

10. 「スプリング」受座となる「テープ(裂)」は巾2吋乃至3吋の巾を有し、これを「スプリング」に應じて十文字に木枠へ兩端折込釘打とす。「スプリング」押への麻絲は普通のものは耐久性乏しきを以て蠟引又は油引の撚固き物を用ひ、各平端に奥下りに構成すること、「スプリング」の覆ひは粗布を以て表面を包み、敷、「モタレ」又は肘等大體の型を構成するものにして、此の下地の造り方は耐久性に、重大なる關係を及ぼすものなれば製作中精細なる注意をなすべきものとす。

11. 椅子に詰込むべきものに馬毛、「フアイバー」「シユロ」毛、「バンプー」等あり。下級品に限り「シユロ」毛、「バンプー」藥を用ふるも註文品に對しては使用せざるものとす。

（1） 馬毛には1貫匁2圓以上30圓位迄の値開きあり。普通下敷として2圓程度のものを用ひ上覆に5圓乃至7圓程度のものを詰合せをなす。

（2） 「フアイバー」を下敷とし上覆に馬毛を詰合すものあり。

（3） 「フアイバー」のみを以て造るものあり。

（4） 上記何れを使用するも相當多量に用ひざるときは裂地又は革の表面に弛みを生じ型を失ふに至るを以て下張の際詰込を充分ならしむべし。

（5） 詰物の押へ麻絲を以て幾重にも締押へ、完成後の型を考慮し多量に使用すると同時に使用量不平均とならざるやう留意すべきこと。

（6） 馬毛の上覆粗布を以て充分に締め、張込型及掛心地を檢査し、上張後に於ける缺點を此の工程に於て完全ならしむること。

イ 馬毛は我國に產するもの僅少にして大部分は外國より輸入せられ、繩狀に撚られたるものを捌き使用するものにして、毛短きは下級品にて死毛多きに付彈力性に乏し。上級品は毛長く生毛にして毛太く彈力性大なり。馬毛には白毛、黑毛の二種ありて指定なき限り黑毛を用ふ。一般用として 3～4 圓程度を普通品として、7～8 圓程度を中等品 12～13 圓程度のものを上等品とす。

ロ 「フワイバー」は南洋方面より輸入せられ椰子樹の葉類を細かに裂き乾燥せしめ馬毛と同じく繩狀にして輸入せらる。馬毛の代用品として適當なれども永久的ならず。

（註） 繩狀となすは容積を縮むる爲のみにあらずして彈力を强むる方法なり。

12. 裂地又は革の上張をなすには白綿を充分敷込むべし。白綿は下張に於ける型の不正を直し、且柔かなる感じを與ふるものなれば充分に使用すべし。

裂地又は革を夫々の型に應じ縫合せ張上をなし「パイペン」を以て化粧覆をなすべきも、化粧鋲は通りよく間隔正しく打付くべきものとす。

13. 安樂椅子、長椅子の「クツション」には羽毛、小型「スプリング」「パンヤ」の三種あり。袋は織目密なる厚手の麻布を用ひ、羽毛又は「パンヤ」は「クツション」一枚に付 400 匁前後を用ふるものとす。

14. 裂地の中、模樣物にありては敷「モタレ」肘の中央に各模樣の中心を割當つべし。小柄の模樣物を撰ぶときは價格を低下せしめ得べく、大柄物にても 4 尺巾に對し四つ模樣の選定に努むべし。三つの中心を有するものは二つ切とならず不經濟に付なるべく避くべきものとす。

15. 塗裝後逆目 斑等現るゝことなきやう「ペーパー」摺を完全ならしめ「ウツドフヒラー」又は「アンバー」（「トノコ」目止は用ひざること）を以て目止後二晝夜間放置し、然る後「オイルステイン」又は「ウオーターステイン」にて所定の色付を施し、乾燥を待ちて「シケラツク」塗の後其の表面に「ラツカー」又は「バニス」（「ラツク」塗はなるべく避けること）「ワツクス」塗を製品の程度により數回塗立て、各回「ペーパー」摺は勿論研出或は艶消等註文者の希望に基き施工するものとす。此の塗裝は家具として唯一の化粧に付檢査は特に嚴格になすべし。

16. 机、卓子其の他椅子類は下の要項により精密なる檢査をなすべし。

（1） 机、卓子、椅子を定盤上に乘せ脚の長短、「ガタツキ」なきや。

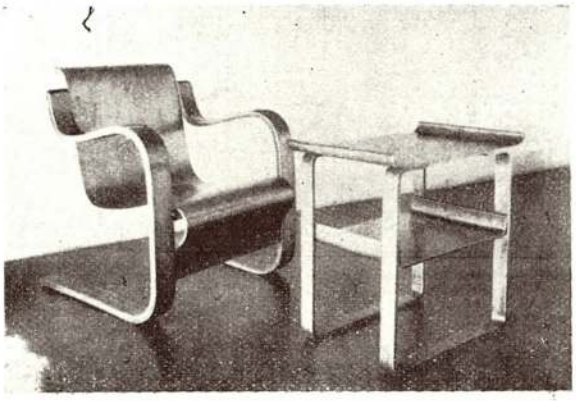
（2） 机、卓子、抽出の「ガタ」付なきや、辷り充分なるや。

（3） 抽出底板小穴入れの「ガタ」付なきや。

(4) 開戸、蝶番釣込、開閉工合良しきや。
(5) 引違戸の建合せ及溝の辷り良しきや。
(6) 引違戸開戸の引手取手の取付位置は其の家具釣合に注意するは勿論なれども高さの中心を取手の中央位になさしむること。
(7) 錠前掛り工合良きや。鍵は各々の抽出内側へ紐を付け釘止となすこと。
(8) 抽出又は引戸の面が柱或は框の面との各出入に注意すること。
(9) 各金物の出來榮、所定の色合なるや、鍍金完全なるや。
(10) 化粧金物其の他金物の取付完全なるや及其の位置指示の通なるや。
(11) 机又は卓子の天板枠付「ベニヤ」板落し込なれば桟木の不足なきや框と「ベニヤ」板との取合に缺點なきや。
(12) 天板上端羅紗又は皮張なるときは枠より稍高目に張り、其の端は枠と「ベニヤ」板との間へ差込となす、又は別に羅紗、皮を張り包みたる板を枠の中に下より嵌込み取付けること。
(13) 椅子、腰掛部、枠組の四隅には當隅金物又は堅木當木の上、木捻締となり居るやに付製作中特に注意を要す。
(14) 安樂椅子、長椅子の露出する脚部と張包の接合部木捻接合となすやう製作中特に注意すべし。
(15) 小椅子、肘掛椅子の裂地又は革張の張上りは仕入品の如く太鼓型となさず上端平になさしむるやう下張中に於て注意すべし。
(16) 安樂椅子及長椅子の敷は奥下りになすやう下張工作中注意すべし。
(17) 「モタレ」は中高に張上ぐるときは工作し易く多く此の型になり勝なるも、使用中詰物凹み、上張に皺を生ずるを以て「カーブ」を少くせしむべし。
(18) 裂地の模様合せ正しきや其の縫合せに粗縫なきや。
裂地又は革の四方等一に張込なき場合は一方に弛みを生ずる處れあるに付注意を要す
(19) 裂地又は革張の各張際に「パイピン」又は緣取付通り正しきや、鋲の通り間隔正しきや、鋲打にあらざる場合膠釘打により裂地等密着し居るや。
(20) 塗下地の目止完全なるや。
(21) 「ラツカー」、「バニス」等の塗に斑なきや、「ペーパー」摺不足となり居らざるや。
(22) 隅々塗料行届きおるや、其の掃除充分なるや。
(23) 艶消又は研出に斑なきや、入隅出隅又は角に接近する部分は怠り勝なれば特に注意を要す。

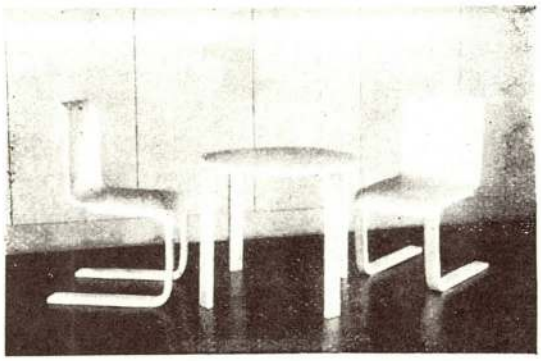
荷造及引渡

1. 箱荷造りの上遠隔の地に發送すべき物に對しては隅々を特に注意の上包裝し、机、卓子、椅子類は何れも木捻止にて荷造箱力骨に取付け中釣となすこと。
2. 馬車積卸し及貨車積卸しに際し注意を怠るときは其の製品に損傷を與ふるを以て特に注意を要す。
3. 往々荷解きに際し裂地を傷むること又は塗裝面に疵を生ぜしむることあるに付注意深く荷解きをなすべし。
4. 荷解きを了したるときは裂地には「ブラツシ」を充分掛け、塗裝面は「ワツクス」にて清拭をなし、所定の位置に配列の上引渡をなすこと。





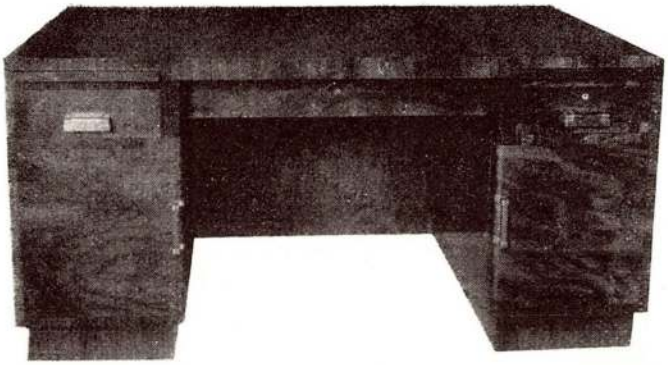






プライウツド家具

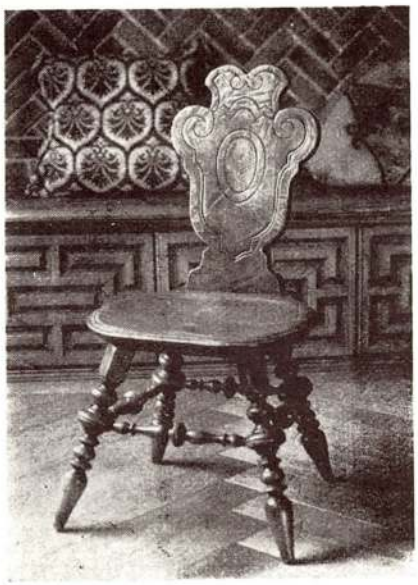
内外木材工藝株式會社設計製作



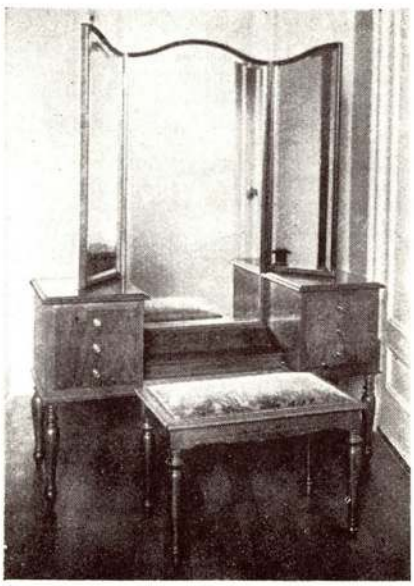
事務用兩袖卓子



化　粧　臺



喫烟室用椅子



化　粧　臺



ホール用椅子

カ　ー　ペ　ツ　ト

永　山　美　樹

1

カーペツトは先づ其種別を次の3種に大別する事が出來る。

1. フエルト即濾毛により製せるもの即支那毛氈の如きもの
2. Pidder minster の如き Pile 織に屬せざるもの
3. 手織に於ける波斯緞通或は支那緞通の如き又機械織に於ける Wilton Carpet 又は Axminster Carpet の如き總て Pile 織に屬するもの

以上の3種の內最も多く用ひられつゝあり又優良なるものは此 Pile 織に屬するものであつて、今此稿に於ては此 Pile 織に屬するものに就而述べることゝする。

2

先づ始めに述べる手織の Pile 織は東洋のものであつて、手先を以て原始的に作られて居るが爲に、中には永い製作日數を要するものもあるが品質模樣色彩に於て獨特の趣味性に富んだものがあり機械織ではとても味ふ事の出來ない優良なものである、中には相當高價なるものがあり優良なる特徵を有するが故に世界的に大に歡迎されて居るのである、中には立派に美術品として存在するものも少くないのである、今此 Carpet を產地別に見る時は次の種類を其主なるものとして擧げることが出來るのである。

1. Turpy Carpet は幾何學的紋樣多く所謂土耳古模樣であつて、獨特の色彩を持つてゐて厚味もあり中々優良なものである、我國の所謂一帖緞通と稱するものと同じ織方のものである。
2. Persian Carpet は前記土耳古のものよりも優れたるとも劣る事のないものであつて色彩模樣共に細密で、資料豐富である其模樣は前者の幾何學的であるに對して曲線的であると云ひ得るものである。
3. Ind an Carpet は產出額に於ては前者よりも多く印度獨特の模樣及色彩を有するものである、北方印度のものは又波斯の影響を受けたものが多いのである。
4. 支那緞通はテンシインカーペツトと呼ばれてゐるものであつて價格の割に良いものが多い、生產地としては山西、伊犁及滿洲奉天附近、山東省の濟南、北平などである織方としては比較的粗いものであるが Pile の厚さが特に深く、又意匠配色も支那獨特の趣味の有るものであつて、模樣の線を切り込み模樣を引立たせ色彩の効果を一層

引立せているのである。

5. 日本緞通は大阪堺緞通、佐賀地方に出來る鍋島緞通、播州地方に於ける赤穗緞通など主なものである、之等日本緞通は内地に於て相當需用あり年々增加しつゝあり、製品も良くなりつゝあるのであるが未だ世界的に進出するに至らないのを憾とする。

之等手織緞通は機械織に比して形は相當自由のものを製織し得るのであつて、模様も又自由に多種多様に製作し得る事は容易であるのである、今茲にては我堺にて製織されつゝある緞通を例に採つて手織 Carpet の製作の大略を述べる事とする、即指定された段數に依つて section paper に意匠圖を作製し、一方指定の糸に圖示の色彩を夫れぞれ染色し、機臺及經糸を準備し凡織工1人當り2尺より3尺位の巾を受持ち、意匠圖に從つて夫れぞれ色糸を經糸にからみ付けては切り順次一列を終りたる時緯糸を通し筬を以て打ち整へる斯くするとを連續的に進めて行くものであつて9尺巾職工3人として1日約4寸より1尺位の長さを織上げ得るのである、其巾に於ては現在のところ26尺5寸を限度とするも、長さに於ては先づ制限なしと云つてもよいのである。

3

然して使用さるる材料に依つて絹緞通、絹紡緞通、毛糸緞通、羊毛緞通、麻緞通、サクサン、人絹、綿緞通などと云ふのである、又其他異つた材料を使用すれば又夫れぞれの名を以て呼ぶ可きである、織方の種類としては其本數に依つて粗密の差を生じ從て品質の等差も出來るのである。即 45, 55, 60, 65, 80, 100 と本數を 1 尺について段數に區別するのである、緯糸は1尺に付50段以上百段迄とするのである、何本の何段、又は 60 の 100 と云ふのは即經糸 60 本に緯糸 100 本と云ふ事であつて 1 寸については 6 と 10 と云ふ事になるのである、此段數の多きもの程價格品質共良好なものである。此糸の原料としては

1. 絹糸の原料は純絹糸及絹紡糸の2種
2. 毛糸緞通に使用毛糸は濠洲產の羊毛
3. 羊毛緞通に使用原料は濠洲產羊毛及支那羊毛
4. 牛毛は使用原料は冬期刈り取つた牛毛（夏期刈り取つたものは毛足短く不良のものである）
5. 人絹は人造絹糸
6. 麻糸緞通は原料麻糸 H 7 番手及麻つなぎ糸
7. 綿緞通に使用する原料は一流會社製 10 番手及三河製三州糸太番手

以上の如きものである。大略之を以て手織に就ては之れに止め、次に機械織のものに稿を進めるとゝする。

4

機械製 Pile Carpet には次の各種の製織の方法があるのである。

A. ジヤカード紋織機を用ひて模様を出すもの、此内には次の2種の別があるのである

Wilton Carpet

Brussels Carpet

B. ジヤカード紋織機を用ひずして模様を出すもの此内にも2種の別がある即

1 Axminster Carpet（此内に又2種がある）

Royal Axminster Carpet

Chenille Axminster Carpet

2. Tapestry Carpet

以上大體の組織に至つては何れも地を組織する厚地の麻又は麻綿交織織物の上に Pile となる可き毛糸を機械的に織込むものである。

5

A に屬する Wilton Carpet はウイルトン市で織出された爲に斯く稱せられ機械製 Pile Carpet 中最優良なものであつて、最緻密な組織を有するものであつて細かい模様も良く現はれ、高雅豐麗の感じを有し、各種 Carpet 中最高級のもので耐久力も亦強く無地物も簡素上品なものである、價格低廉の爲 9′×12′ 9′×9′ 9′×6′ の1枚敷のものが一般に歡迎されてゐる、その織方は地を組織する經緯の外に Pile となる可き毛經糸を模様の色數だけ幾重にも重ねて機上に仕かけ、ジヤカード機の作用に依つて模様を顯はす可き色の毛經糸だけを適宜に地の上に引上げしめ、之に針金をして Pile を構成するものであつて其針金を抜取る際此尖端に附屬したる剃刃の作用によつて Pile を切斷して Cut Pile としたものである、俗に裏通し絨毯と呼ぶものである。Pile を組織する毛經糸が模様に依つて表面に顯れぬ場合は總て Carpet の裏面を通じて沈んで居る爲であつて、之は地の厚さを增して Carpet の見當りを良くし又 Pile の脫毛を防ぐに効をなしてゐるものである、之に使用する糸は毛絲亞麻糸スコツチの經糸に羊毛の緯糸である。

A に屬する今一つの Brussels Carpet は Wilton 市で白耳義人が始めて織出したもので白耳義の首府 Brussel の名をとつて斯く稱するのである、其組織は大體 Wilton に等しいものであるが、立毛の端を切開せず輪奈のまゝ織つてあるが爲感じも全く異り又模様に依つて立毛で見る事の出來ぬ清楚の感じのあるものである然し、多少 Pile の抑へ方が粗いのである、我國では前者を毛切絨毯、後者を輪奈絨毯と稱するのが即夫れである。

B の Axminster Carpet は前記のジヤカード紋織機を用ひずして模様を織出す Carpet の種類である事は前述の通りであるが、元來手織の Carpet が本體であつて英國の

Axminster で織出した爲斯く稱するのである、此內 Royal Axminster Carpet は北米人の發明になつたもので先づ模様を Section paper に寫し取り、其目の指示する所によつて一段毎に異つた縞狀に Pile となる可き種々の色彩の毛糸を配列し、之を spool に卷付けたものを豫め所要の段數即模様の長短に應じ、數十本或は數百本を用意し、之を回轉鎖を以て機上に架け地となる織物を組織する際順次此異つた縞糸の配列が地に U 字型に織込まれ模様の Pile を顯出する裝置となつて居るのである、此 Carpet は Cut pile であるが然し Wilton carpet の様に Pile の糸が裏面全體に通つて居るのでなく單に縞狀の Pile 色糸が地となる織物の表面に一重だけ織込まれてゐるのである故に模様の色數に應じて價格に差格を生ずる事がないのである、又 Chenille Axminster Carpet はグラスゴー市の「ゼーテンプトン」氏の發明せる方法であつて其製法は先 Chenille 糸即毛虫狀の糸を造ること、然して此製出せる Chenille 糸を以て順序に織込み Pile Carpet を作る、此 Chenille 糸を造るには Royal Axminster の場合の如く先づ圖案を Section paper に寫し取り其圖の指示により Pile となる數々の色毛糸を横縞に割當て下織をなし、此下織布を縦の方向に從つて細く數本の小巾に裁切りて Chenille 糸を造るのである、斯くして此糸を地となる厚地織物の上に累次織込み配列することによつて所期の Pile 模様を顯出せしむるものである、特長は製造の方法が以上の如く 2 部作業になり最後の Carpet を製織する織機の構造が非常に簡單である爲相當廣巾のものも容易に製作されるのである、從つて他の各種の機械織の Carpet は概して 27″ 26″ 等の巾に製織され使用の場合大小所要の寸法に裁斷し縫合して使用せらるゝものであるに反し、此 Carpet は大概 9′×9′, 9′×12′ 等の廣巾縫目なしの 1 枚織とし Center Carpet として製出せらるゝ場合も多いのである。

Tapestry Carpet は豫め Pile となる毛經糸を捺染方法を以て型付けをなし、此捺染毛糸を地となる織物を織る際針金を用ひ Pile を造る様に織込みて製するものである、此方法は丁度一色の Wilton 又は 1 色の Brussels Carpet を織ると同樣であるが、毛經糸が捺染せられてをる爲最も簡單に多數の色彩を有する模樣付の Pile Carpet を造り得る特長があるのである、然して Cut Pile したものを即ち Velvet Tapestry Carpet と云ひ、Cut pile せぬ loop pile としたものを單に Tapestry Carpet と呼ぶのである、之も廣巾 Carpet である、此 Tapestry Carpet は製法簡單なる爲に機織 Carpet の模樣物の中で最も價格低廉なものである、現今市場で「オパール」と稱して賣出されて居る英國製 Center Carpet は即此種の廣巾 1 枚織輸入 Carpet である。

6

以上の他 Sanapee rug と稱する羊毛製のもの Fiber rug 即植物性の纖維を以て作られたもの、又 Rag rug と稱する古裂を洗濯して織つたもの Braided rug や Grass rug 等

がある、其他室綾氈、室織、又由多加織、倭織などがある、近來內地に於て染色、機織共に大に進歩顯著なるものがあつて、外國製品にも劣らぬ優良なるものを大阪住江織物に於て織出されて居るのである、無地物 27″ 巾のもの模様物では Wilton Carpet の 9×12尺 9×9尺 のもの、Chenille Axminster Carpet の 9×12尺 9×9尺 のもの、Wilton 無地物 1、6×3尺 6×9尺 9×12尺 2.2尺×4、5尺 9×9尺 のもの、其他以上各 Carpet の 27″ 巾のもの等が織出されて居るのである、27″ 巾の模様物は剝合せて使用するものであつて室全體に敷詰る場合、又は廣い室では 27″ 模様物を心とし其周圍に 27″ 巾模様ボーダーのものを剝合せて敷くものであつて 1 枚物と同様の感を與へるものである、模様物を剝合す時は正確に合す要があり從つて相當立切を出すものである、模様の大、小に依つて異るのであるが長い室程多いのである、27″ 巾の無地物ボーダー付のものは廊下廣間等の曲つた所は無論ボーダーを隅で合すものである。以上で機械織、手織 Pile Carpet に就而其一般を述べたのであるが、Carpet の取扱方等について簡單に述べる事とする。

7

Brussels Tapestry, Carpet 等此種の輪奈織には猫又は犬或は靴底、煙草の火等に依る被害に充分注意を要し、又 Cut Pile Carpet に於ては毛並に逆つて敷物の上にあるものを動かし、又掃除の際にブラシなど使用する事が普通であつて Vacuum Creaner を使用するが最もよいのである° 但し地の弱つたものは却つて毛を吸ひ切る恐があるのであるから注意を要するのである、又虫害に對しては敷ひてあるものは其害少いのであるが、其近くに羽毛を立てゝ置く方が良いのであつて虫は好んで之れに產卵するものであるから之を燒捨れば効果がある、又 Carpet をしまい置く際には「ホルマリン」にて消毒をなし、鉄力罐などに入れ密封して置く事が上々の方法ではあるが、大きなものは實行困難であるから消毒後「パラダイ、クロール、ベンゾール」の如き除虫劑を入れて卷きなるべく冷所に置くのがよいのである、Carpet は折疊んでは折り目より破損し安いものであるから卷いて置く方がよいのである。Carpet には黃麻を使用してあるが爲濕る時は惡臭を放つものであるから之が豫防としては濕らぬ様にする事が最も大切であるが、使用中濕つた時には防腐劑又は防臭劑を用ひ日光に曝し同時に床をも乾す事が適當の處置である。

要するに室內裝飾に於ける Carpet の使命は保溫、防音、快味の効をなし、窓掛、壁紙等と共に室內の美觀を增し家具類の重要な配景となるものであつて、色彩、模様共に充分考慮して撰擇さる可きものである事は論をまたないのである。以上述べ來つた事は甚だ不徹底の所が多いが御免しを願つて之を以て本稿を終る事とする。

窓　　掛

角　尾　篤　彦

家を建て室内裝飾をする時〃窓掛はどうしたらよからう？〃といふことは誰しも考へる重要なことの一つである。

窓の機能としては大きくて明るく通風換氣のよいといふことが吾々の要求することではあるが一方イライラした光線や空の光は室内の落着を破壞し、夜間に於ては壁面に開いた硝子越しの眞黒な穴は吾々の氣分を不安ならしめるので室内の色調を整へる上からも、光の分量を加減する上からも、亦プライヴアシーの上からも窓掛の必要が起つて來る。ルイ時代やヂョルヂヤン時代にはタペストリーの壁掛や椅子張りに對して可なり地厚な織物ビロードの様なものが盛に用ひられたが近代になつては官署や相當威嚴の必要のある諸會社の重要の室以外はだんだんかゝる手重い織物は用ひられず、其の上纖維工業の進歩は薄手の優秀な織物を産出する様になつて窓掛も室内の設備と共に輕快なスツキリした氣分を表はす様になつた。

窓掛は特に光と空氣を適量に室内に分散しつゝ、尙窓や硝子の缺點を補ふ様に工夫を凝さなければならぬ。こういふ實用的要求の外に上述の様に室内の色調を調へる情的要求も加へて來る爲に風土とか、國民性とか、個人の趣味等が此の窓掛の裂地の中に編み込まれて一種の雰圍氣を作り出す。例へば英國や北獨逸など比較的冬期の永い地方では霧や寒さを防ぐ爲に毛織物の様な鈍重な裂地を用ひ、佛蘭西や伊太利などは其の氣候と國民性の然らしむる爲か比較的瀟洒な織物を用ひるといふ様に材料のみならず色彩形狀等も餘程趣きを異にして居る。

從つて吾々が冬は霧が多くて夏は合服で暮せる様なロンドンあたりの眞似をしても、米國の様に空氣の乾燥して居る處の眞似をしても、我國の氣候と國民性とにどうもぴつたり當て嵌まらない。殊に濕氣の多い日本の夏は歐米其のまゝの住宅では蒸し暑くてたまらない矢張り開放的な日本座敷に御簾をつるした風情が懷かしくなつて來る。それで我國の氣候では冬と夏とで色彩や裂地の調子を變へ度い考へが起つて來る。

こゝに窓掛といふのは：—

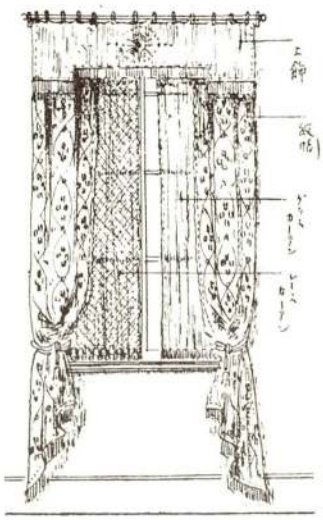
日　除	(Shade)
グラスカーテン	(Glass Curtain or Sash Curtain)
レースカーテン	(Lace Curtain)

緞　帳　　(Curtain or Over Drapery)
上　飾　　(Valance)

を含む總稱である。

シエードは强い光を遮り、室のプライヴアシーを保たせ、グラスカーテンやレースカーテンは光の分散に役立ち緞帳は左右の額緣に沿ふて垂らし外光や燈火による色調を變化せしめ、室內の調和を整へ、上飾は窓掛の上部の見苦しいカラクリを隱すと共に上部よりの餘分の光を調節する等夫々の要素となるもので、これを上手に扱ひこなして行かなければ折角苦心して選定した裂地の色調や、實用價値を殺してしまふ。

以下少しく住宅を主とした窓飾について說明を試みやう。



第 1 圖

「**日除**」　日除はシエードとかシヤツターとかいはれて居るもので、硝子障子に接してかけ日光の直射を防ぎ、夜間燈火が餘り外部に漏れず、且外部から室內を見透かさぬ爲に設けられる。殊に寢室の如きはプライヴアシーを要することゝ夏の早朝の日光を遮る爲にはなければならぬ設備の一つである。其の他の目的の室では日除の代用を兼ねる薄手のカーテンや目新らしいケースメントクロスのグラスカーテンなどで代用することも面白い。

日本在來の御簾などを應用することも案外よい効果を來すものである。裝飾的効果の點では極く淡色の更紗模樣の裂地などが可いが我國では一般に用ひられて居ない。どんな室でも日除をつける時は單に純白のものよりも壁面の色との調和を考へることが必要で、更紗模樣などを用ふる場合も壁面の色彩基調を含んだ極く淡色を選ぶと餘り失敗がない。

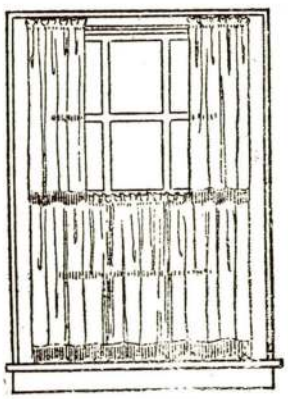
普通に用ひられて居る日除の種類は自働捲上日除、(スプリングブラインド) 絞り上げ日除 (フエスツンブラインド) 橫引の日除、等がある。スプリングブラインドはブラインドクロスで仕立て上部の棒の中に仕込んだスプリングによつて捲上げる樣になつて居る。眼に變化を與へる爲には其の下部に透し繡を入れたレースブラインドを附けることがある。絞り上げ日除は羽二重、薄手のケースメント等にて作り滑車と引分紐とで上方に引上げ下げする樣にする。大體大きな窓とか商店の飾窓等に用ひられるものであるが裂地の選擇の如何に依ては住宅に用ひても不適當のものでない。橫引の日除とは緣側などの樣に橫に廣い場所に用ふる引幕樣のもので上部の金物には引割パイプ或は特殊のI字形のレールを用ひて廣い巾を一方に引き寄せることが出來る樣にする。

以上三種の日除は何れも通風の點では感心が出來ない。此點を考慮して南歐諸國などで用ひられた板製の鎧戸風の日除から考案された S.T. 式、S.S.S 式、N.K 式、等といふ

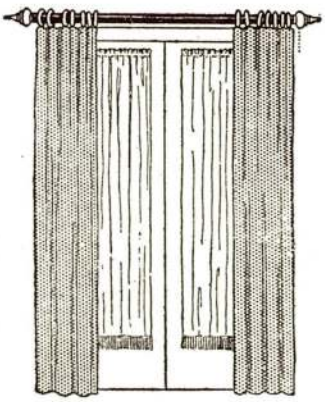
通風式のブラインドが出來た。何れも同じアイデヤの下に考案されたもので其の組合せ方と開閉の仕方に夫々の特徴を持つて居る。之等の日除は普通のブラインドクロス又は其の他の薄手の裂地を巾約2寸長さ約窓巾の針金の枠に張つたものを澤山拵へて之を鎧戸風に1寸位の間を置いて紐と金物で組合せ又は把手の操作によつて枠張布間の傾斜の度合を調節して通風と日除の目的を達する様になつて居る。針金の枠に張る布の良否と一重張、と二重張りとによつて値段に高下がある。此の通風と日除の兩方面を解決するといふ意味に於て我國在來の簾を何等かの方法を以て應用することも適當と考へられる。

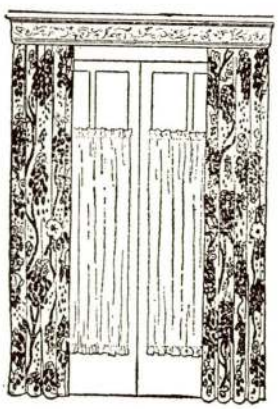
「グラスカーテン と レースカーテン」 グラスカーテンはケースメントカーテン又はサツシカーテンと稱せられ、レースカーテンと同様の効果がある。一般に半透明の裂地——紗、絽、ボイル、細糸の麻、薄手のケースメントクロス、等が用ひられ窓障子に直接取付けるか又は最も接して窓枠の懐に取り付ける。開窓の場合には上下に細いパイプで取付け左右に引分けが出來る様にする。上げ下げ窓の時は上下二枚に仕立上げ窓の下半の障子にはパイプで直接取付け上半分は窓枠の懐にパイプを取付けこれにかける。イライラした落着かぬ空の強い光と硝子障子のギゴチない桟を和げて呉れるもので、明るい室では何時も窓一杯に擴げて懸けて置くことをお奨め仕度い。日除と同様壁面の色彩と調和のある極く淡い色で薄手もので外の風物がかすかに透し見られる様なものが望ましい。

レースカーテンも同様の意味で長さは窓の膳板一杯若しくはフレンヂだけが膳板下に下る位に止めて、非常に曇つた時を除いては常に窓一杯に擴げて垂れ、透して眺めるレースの模様の美しさの効果と持味を殺して了はぬ様に考へ度い。之等のレースは長い反物になつたのを切斷して仕立て上げるものとペーヤレースと云つて一組になつて一枚として當嵌つた模様を織り出したものとがある。尙此の他に無地のレースネツトや龜甲紗などにネツトレースの手法で好みの刺繍を施した高級品を用ふることがある。



第2圖　上げ下げ窓に用ひる2枚1組のグラスカーテン





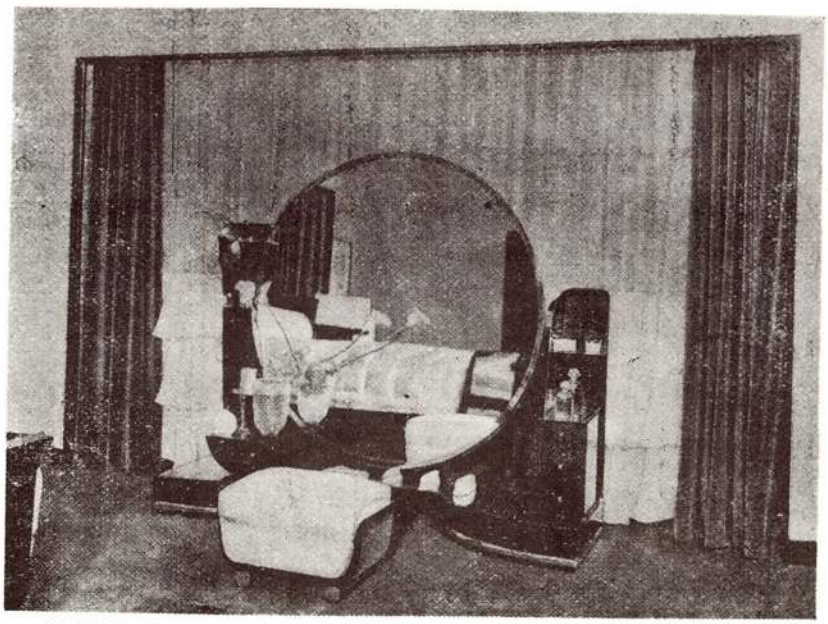
第3圖　フレンチウインドーのグラスカーテンと緞帳2例

之等の裂地を選ぶときに當つては壁の色と緞帳の色との調和を考へることを忘れてはならぬ。色彩を第一條件とし度い。純白は餘りトゲトゲしいからクリーム淡茶青磁の淡色等は大抵の場合無難である。若し緞帳(カーテン)が厚手の裂地を用ひてある時は網目のレースを用ひ、緞子やタフエタのカーテンでビロードか緞子の椅子張の時はグラスカーテンには薄手の絹とか、ボイル、紗の様なものを組合せると調子のよい効果を得ることが出來る。

もともと室の色調と光線を和げる目的であるから裂地の厚薄と色調に充分考慮を拂ひ北向の室とか森に面した室にはオレンヂ、エロー、アプリコツト、クリーム等の溫色を選び、南向、西向等の室に

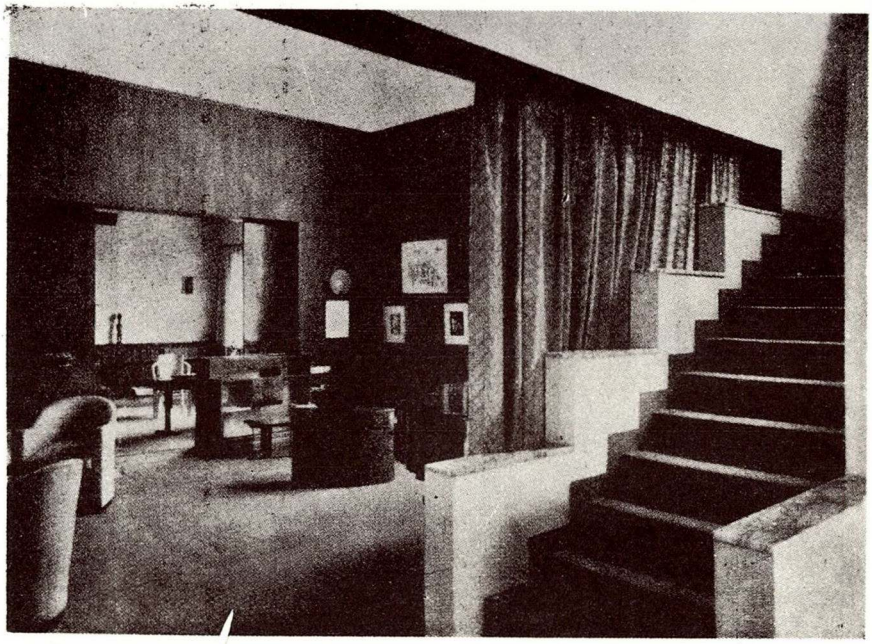


第4圖　輕いカーテン



第5圖　低い窓のカーテン

はグリーンブリユー系統の寒色の淡い調子を選ぶことは目と心を樂ませる上にも必要なことである。同様の意味で夏と冬とのカーテンの色と地質を考へることが出來る。



第６圖　間仕切カーテンの１例

レースカーテンとグラスカーテンとは同一の目的である爲に其の內の一方を略すことがある此の場合には色調も少し強めても差支へがない。

「緞帳（カーテン）」緞帳（カーテン）はグラスカーテンやレースカーテンの內側にかけるもので室內色調を整へる最も重要なものであると同時に窓の額緣の強い線を和げるものであるから他の裂地より色調の豊かな地厚のものを選ぶことが多い。バンクエツトホールやレセプションルームの様な相當大きく壯重味を要する室にはビロードとか厚手の緞子とかを用ふる方がよい。

普通住宅の窓掛としては近來もつと輕快なクレトン、チツシユ、ポプリン、薄手の緞子などを自由に選擇して用ふ。プライヴアシーや重味を要する窓掛には裏地をつけたり芯を入れて仕立ることもある。

裂地は窓掛地として定まつた裂地に拘束される必要はないから色彩の豊かな婦人服地や浴衣地、銘仙などの內から壁面家具敷物に調和するものを自在に選擇して趣味ある窓掛を作ることがだんだん普及されて來て型にはまつた窮屈な緞帳（カーテン）の裂地は飽きられた傾向がある。それだけ各家庭の趣味が室內裝飾の方面に向つて來たものと考へられる。巾は二枚合せて窓巾の五割增し位に仕立上げる。

「上飾（バランス）」　上飾は緞帳の內側上部に窓巾一杯にかけ窓掛の裝飾價値の半を占むるものであるが窓の形狀によつては略して差支へない。實用方面の目的は丈高い窓の上部の强い光を調節し窓掛上部の取付やブラインドの棒などの不體裁を隱す爲であるから窓の形狀によつて長さを加減し釣合を考へる必要がある。上飾の長さはカーテンの丈の七分の一がよいと云ふ人もあるがこうした規程に捉はれずに格好と釣合を考へ、丈の低い幅廣の窓では五寸～八寸位、高い窓では一尺～一・五尺位、が普通に釣合の取れる寸法である。

「間仕切カーテン」 間仕切カーテンは扉のない連續した二つの室又は室とアルコーブとの境に用ひられるもので二つの室の使用法によつてビロードの様な厚手の重味のある裂地をダブルに仕立てゝ用ひ、透しても差支へのない場合は紗、絽、レース等のものを用ふることによつて兩室の氣分をよくするものである。

以上述べた内で間仕切カーテン以外の窓掛の組合せは自由であつて別に定まつた約束はないが色々の場合を想像して二三の組合せの例を記して見やう。

1. 上飾、緞帳、レースカーテン、ブラインド併用するもの
2. 上飾、レースカーテン（又はグラスカーテン）、ブラインドの併用
3. 緞帳、グラスカーテンを用ひブラインドを略することあり
4. レースカーテン（又はグラスカーテン）とブラインドのみのもの
5. グラスカーテンのみの時
6. ブラインドのみの時

之等種々の組合せはあるが夫々室の性質に應じて取捨組合せを工夫すればよい。

我國の夏は隨分濕氣が多くて蒸し暑い。障子を外して御簾をつるし軒先の忍草の葉先きにそよぐ涼風を樂しむ様に窓掛も夏の裝として上飾のみを殘し緞帳を外してレースカーテン又はグラスカーテンを涼しい色彩のものに取替へるのも一つの方法であるし、緞帳をボイルとかジョーゼツトの様な涼しい、裂地に取り替へることも一つの方法である。

此の場合は何れにしても上飾は色調の關係上殘して置いた方が効果的であると思ふ。又ベランダーやサンルームのカーテンはギンガムか氣のきいた浴衣地のものに取替へて見度い。日除としては簾を上手に應用すれば通風も出來て申分ない。

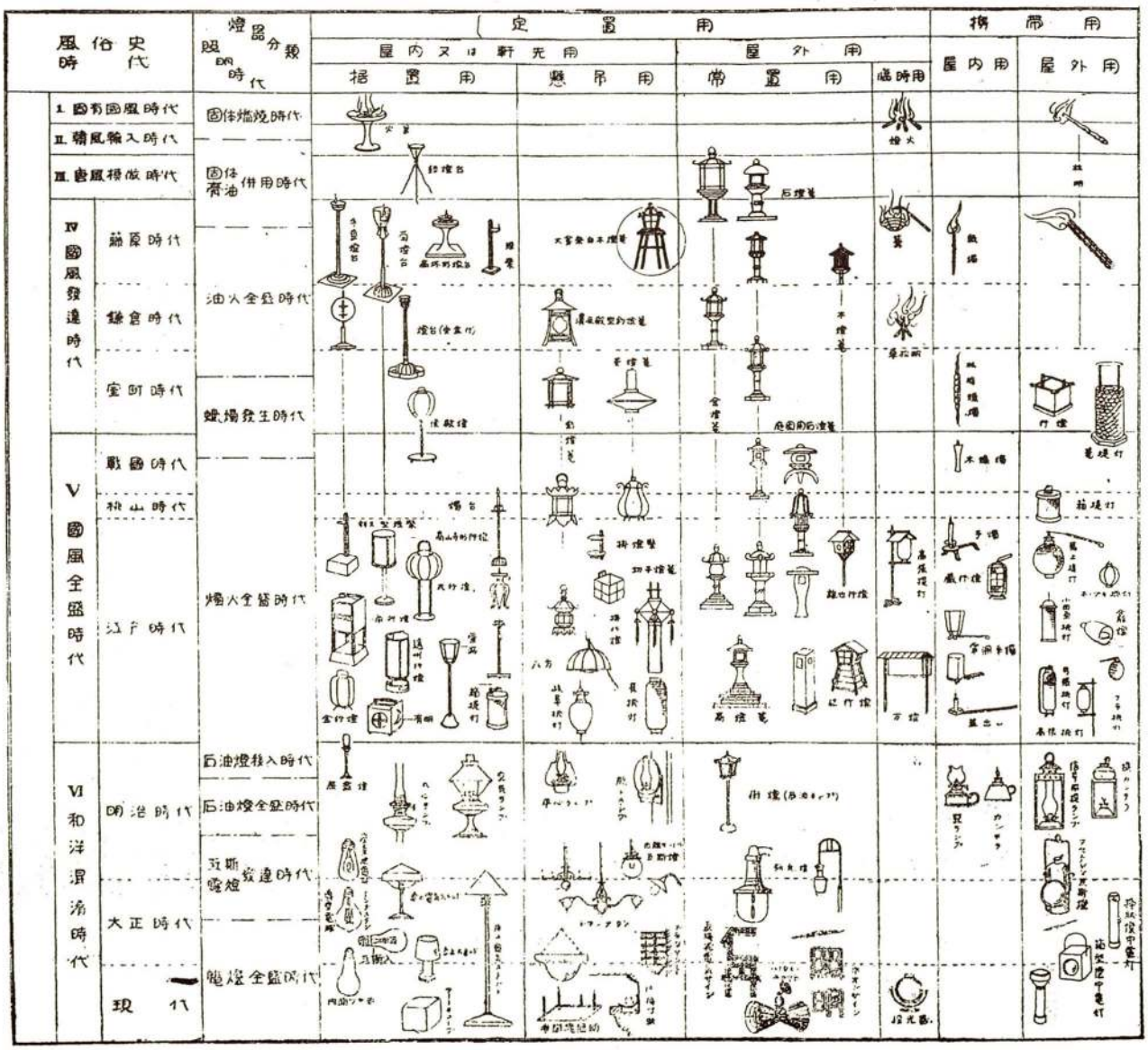
要するに出來る丈廣い範圍で材料を選んで寒暑に應じ趣味に應じて作るとが好ましい。然らば其の選擇の標準を何に需めるかといふと之も一概には斷定出來ぬが、餘り廣くない室では色彩の複雜化を避ける爲にグラスカーテン、日除は壁紙の色調に合せて淡いものを選び、緞帳は壁紙が無地であれば縞か模様を選び、模様のある壁紙の時は無地の裂地を用ひ、色調を敷物若しくは椅子張に合せて作る時は單調にならぬ程度に變化もあり調和のある室の色調を作り出すことが出來る。（終）

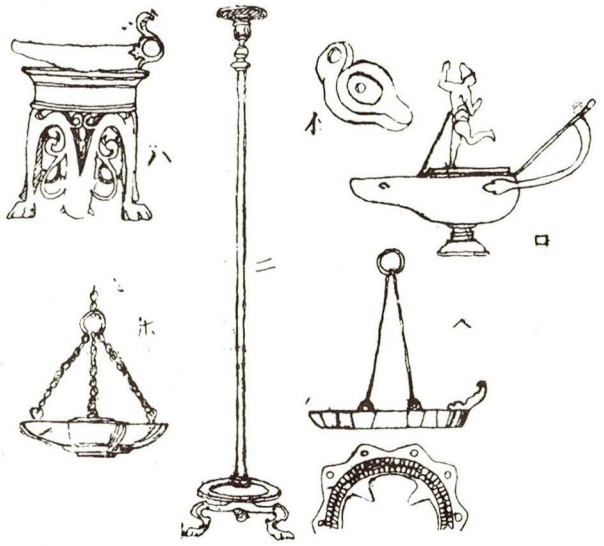
室内照明器具

武田十子男

照明器具の中には外燈照明器具、廣告用照明器具等多種類あるが、本文にては主として室内構成の一部を受持つ室内照明器具の意匠に就て述べる。

今日の燦然たる多様の照明器具が生れる前、人類文化の興亡と共に永い間歩んできたその變遷に就てまづ知る必要がある。





（1） **日本**　前頁の圖に依て日本照明器具の變遷の概略を了解し得られる。

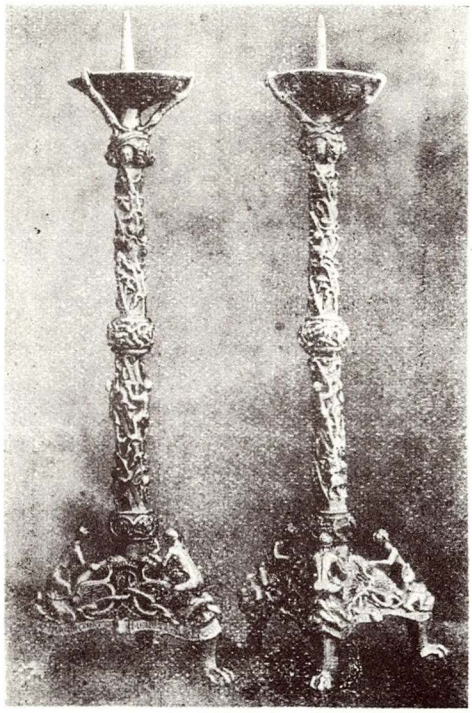
（2） **西洋**

ギリシヤローマの時代を代表するものを知るにはポンペイの發掘物が最も適當で大體クラシツクの趣を見るのに面白いものがある。當時の燃料は重に油で左圖（**イ**）はその最も簡單なものである、中に燈心を入れて先の尖つた部の孔に火を點じて室内を照明した、その形は色々に工夫され稍複雜なものが（**ロ**）であつて、（**ハ**）は之等の器具を臺の上にのせたものである。臺に今一つ床上に直接置くために（**ニ**）の如く高いのがある。

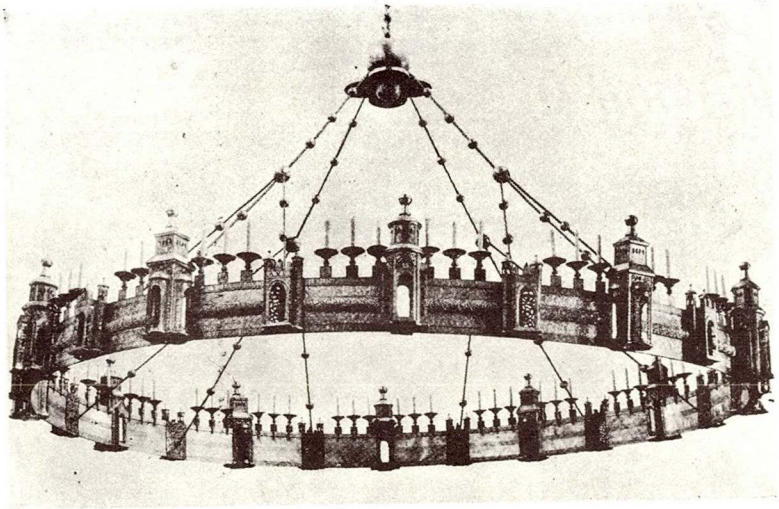
今一つは鉤子様に裝置したもので（**ホ**）はその最も簡單なもので、（**ヘ**）は其の火口を多く有するもの丶例である。

之等が當時の照明法の原則であつて、之を色々に應用してゐる。要するに照明法としては極めて貧弱なものであるが、之は日光の豊富な土地であるから夜の生活には重きを置かなかつたものと思はれる。然し今日所謂シヤンデリヤとスタンドに相當する方法が當時已に用ひられてゐたことが明瞭である。

次に宗教時代（即ち〝ビザンチン〟から伊太利文藝復興以前迄（4 世紀～12世紀））の著しい變化は蠟燭の應用であつて、油は極く小部分に用ひられ、爲めに蠟燭立ての考案が生れた、右圖（**A**）はローマネスク式のローソク立で之から久しい間この形式が用ひられルネサンスを經て近世に至つてゐる。宗教時代の末葉所謂ゴシツク時代に入つて天井より釣つてそれに多くのローソクを附ける事が立案された。之に大體二つの型態がある一は **B** 圖に示す如く、蠟燭の乘つた部分を一體として夫れを多くの鎖でつないで重力を一ケ所に集めるもの一は **C** 圖の如く中心になる一體から多く



A圖　獨國ローマネスク式僧正ヘルンワルド燭臺



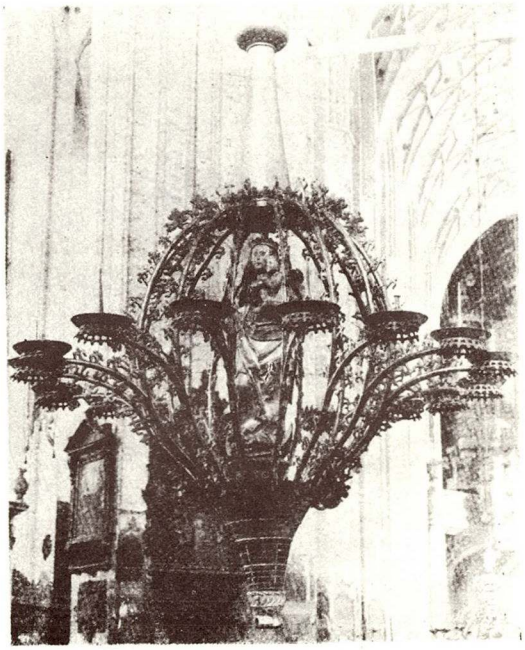
B圖　中世ドイツ蠟燭照明具

の枝を出してその先に蠟燭をつけるものである。

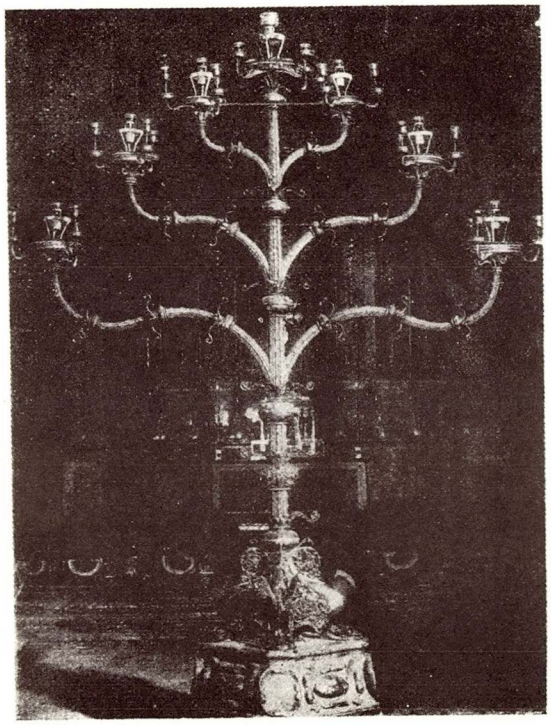
燭臺の方は「ゴシツク」時代に入つてから多くの枝を有するものを用ひてゐる。D圖はその形態を示せるもので、下部の支へを種々考案してゐるが大體の原則は之の外に出ない。

次にルネサンスに入つて依然燭臺とシヤンデリヤとを用ひてゐるが、形式の取扱方が非常に合理的になつて來てゐる。シヤンデリヤの好例はイタリーピザの寺院にある所謂ガレリヲのランプE圖で、之は燃料として油と蠟燭とを混用してゐる。その形體を見るに中間に4人の子供が上下の部分を支へて其間に交叉した鐵帶が連つてゐる。その子供の支へる力と鐵帶の引き合ふ力とが工合よく平均し感覺があつて全體に無理な所が少しもない。

此頃迄宗教が大勢力を占めてゐた爲めと、イタリーが日光の豊富な國であると云ふ點から、之等の照明器具の大規模のものは皆寺院に用ひられ莊嚴神秘の感を起す



C圖　中世ドイツ寺院内蠟燭照明具

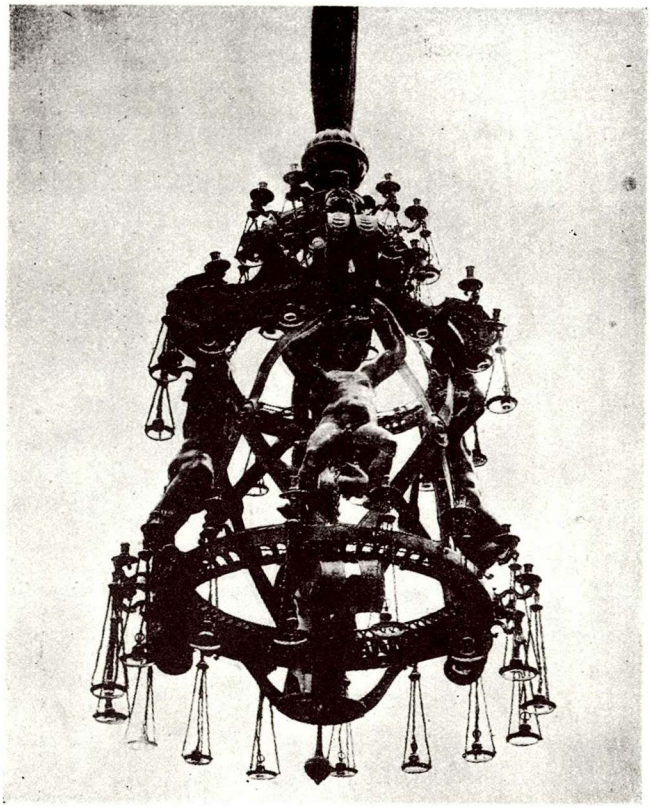


D圖　佛國ゴート式七盞燭臺

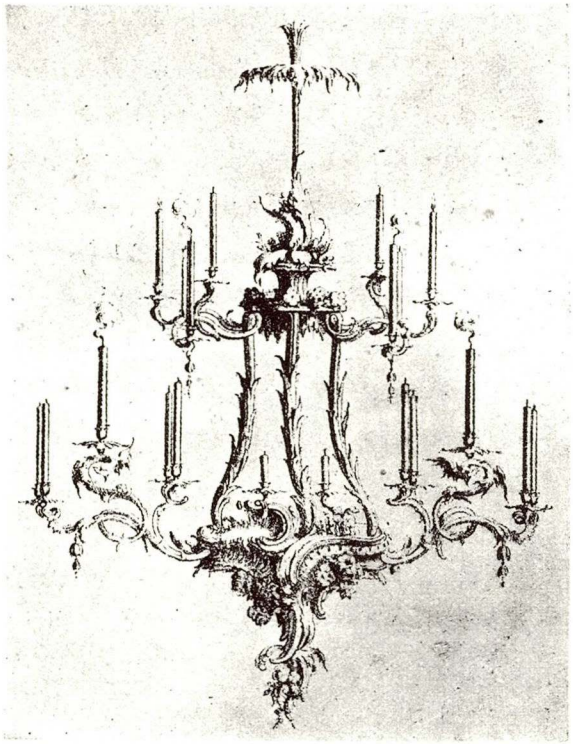
様に造られてゐるために實利的、享樂的の分子は甚だ少ない。

次に 17,8 世紀に入つてフランスの文化が大きな勢力を占め、ルイ 14 世式(バロツク)、ルイ 15 世式（ロココ)、ルイ 16 世式、ナポレオン帝政時代の「アンピール」式等が生れた。殊にルイ 15 世を中心としてフランスが歐洲社交の中心となり、盛に歡樂を盡したからその結果として室内の照明も著しく發達した。

燭臺は多くの枝を有して室の一隅に置く樣に裝置され、シヤンデリヤは多數の蠟燭を支へ非常に華美なものが設計された。其の他に壁面に取り付けるブラケツトが案出された、**F** 圖はシヤンデリヤの最も簡單なる



E 圖　伊太利復興期照明具



F 圖

ものを示す。〃アンピール〃の時代に入つてから再び〃ギリシヤ〃〃ローマ〃の復興が行はれ、〃ギリシヤ〃藝術の眞似を行つた結果ポンペイの油ランプと同樣なものさへ再び生れてゐる **G** 圖はその例である。

H 圖はスタンドで此の彫刻の體姿はギリシヤの置物繪畫等にある體姿と全然一致する。

此の以後 19 世紀の末葉迄は著しい現象はなく、形式は混沌として過ぎた。その間に石油ランプが生れ、19 世紀の中葉に英國に工藝を中心として起つた革命が佛國パリの〃アールヌーボー〃を生み與



G 圖

獨國の新工藝を生んだ。夫れと同時に瓦斯燈及電燈が室內の照明に大革命を齎らした、瓦斯は上方に向つて燃える點が蠟燭及油と似てゐるので照明法に及す影響は大きくはなかつたが、電氣に至つては方向が全然自由で且つ火を點ずると云ふ手數が無用となつたので照明法に大變化を與へることゝなつた。



H 圖

次に近代照明器具形態の傾向に就て述べん。

照明器具の形態はその照明方法に依て、大きな變化を與へる。

現代の照明方法として三通りの種類を擧げることが出來る。

（1） 直接照明

（2） 間接照明

（3） 半間接照明

（1） 直接照明は發光體より發する光を照明面に直接投射せしめる方法であつて、この方法は設備費が少なく簡單で能率のよい照明方法であるが、電球が露出されてゐる上に光源面積が小であるから、グレーア（幻惑）を感じ且つ強い陰影を生ずる不利がある。

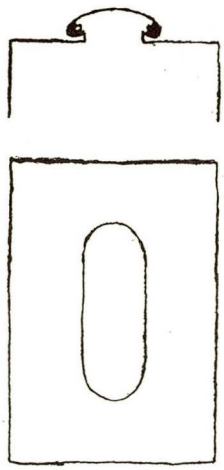
（2） 間接照明は、天井又は壁の一部分に間隙を作り、その中の電球の反射による光によつて照明面を照らす方法である。この照明方法は設備費が大であるが、グレーアが少なく陰影も柔である。けれども、光線が直接目に入らない爲めに何となく物足らない感がある。殊に擴散性が強い場合には物體の形狀を正確に認識することが困難な場合がある。1圖の如く部屋の周圍の壁の上部にくぼみを造り、その中に電燈とリフレクターを配置してカーブの天井から反射させるものであつて、同樣の裝置を天井の一部に作つて2圖の如く構成する場合もある。

又同樣の裝置をブラケツト型に壁から造り出して所々に點在させる事もある（3圖）その他種々の方法が考案されて現今盛んに用ひられてゐる。

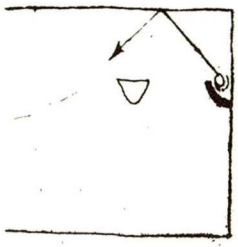
人工天窓照明は天井に穴をあけて電燈を入れその下に天井と同じ平面に白い硝子を嵌め込んで室內を照明するものであるが、この方法では硝子の選擇に注意を要する、普通のスリ硝子では電燈の所在が明るく見え乳色硝子では暗い。最もよいのは、乳色スキガケ硝子であるが、この硝子を用ひても電燈の配置その他の設計がよろしきを得なければ所期の明るさを得られないから設計には注意を要する。



一圖



二圖



三圖

照明法の新傾向の一つに所謂建築化照明と稱せられるのは上記の天窓照明の外、室内に光渠を作つたりしてあかりを建築物に一體として作りつけにしたもの等を云ふのである。又チユーブランプを利用せるものも盛んに使はれてゐるが、その使用法を誤ると却つて煩雑なものとなり易い。

（3） 半間接照明とは(1)と(2)とを合せたもので一部は直接光、一部は擴散光によつて照明するものである。

次に照明器具の形態意匠の研究に就て、工藝指導所が發表されてゐるものゝ概略を參考として說明すれば

照明器具の良品要素として

(1) 機　能——合目的
(2) 材　料——適　材
(3) 構　造——丈　夫
(4) 形　態——單　純
(5) 生　産——廉　價

をモツトーとし形態は次の如く分類してゐる。

材料として

電　球　眞空電球、瓦斯入電球、內面艷消電球、全光電球、晝光色電球、カナリヤ電球、管型電球等

ソケツト　テコライトソケツト、金屬製、陶器製等

コード　木綿製、上被製、瓦斯糸製、絹糸製等

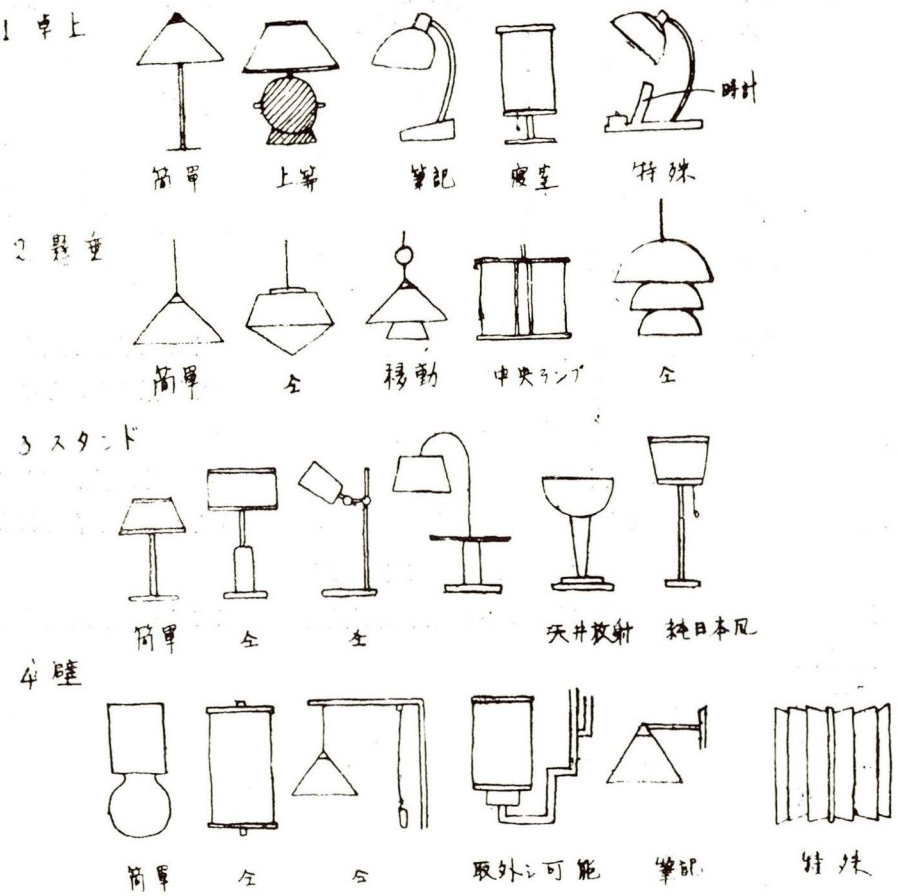
支　柱　金屬、木材、ガラス、陶器、石材等

脚　臺　ライトロイド、ベークライト等

笠　紙、ガラス、裂地、ロヂヤアリン、セルロイド、ロード、セロン、金屬等

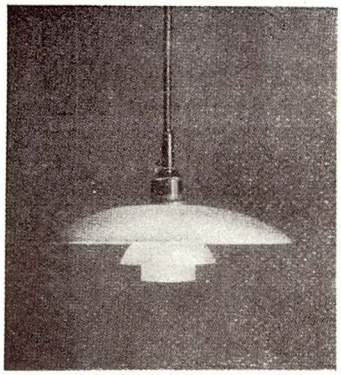
を擧げ、その他寸法の規格、規範原型の製作階梯等の研究の結果を發表されてゐる。

近來世相の反響として日本趣味を加味した照明器具等も市場に表れ、その材料にも日本固有の竹、日本紙等を利用せるものが多く見受けられる。要するに近代照明器具の有すべ

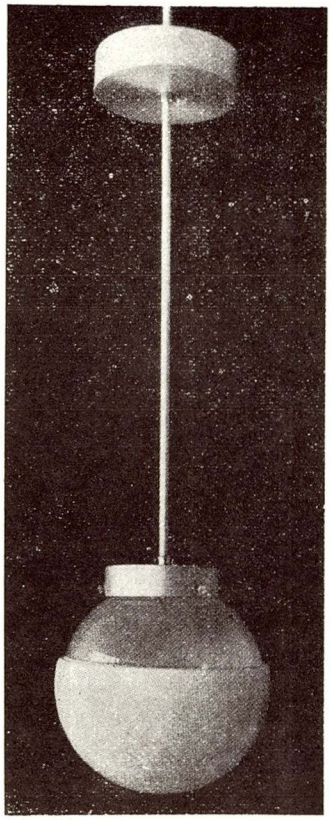


き重大なる要素として、非常に愉快なる光線をあたへると同時に、能率よき形態を有してゐることである、意匠としても近代的なものであり現代の室内に調和をもつたものでなくてはならない。所謂近代の機能主義建築に於ては特に新鮮な感覺を有して、それを十分に發揮出來得る器具が望ましい。之には一定の定まつた樣式はなく、一定の形態がなくともよいのである。

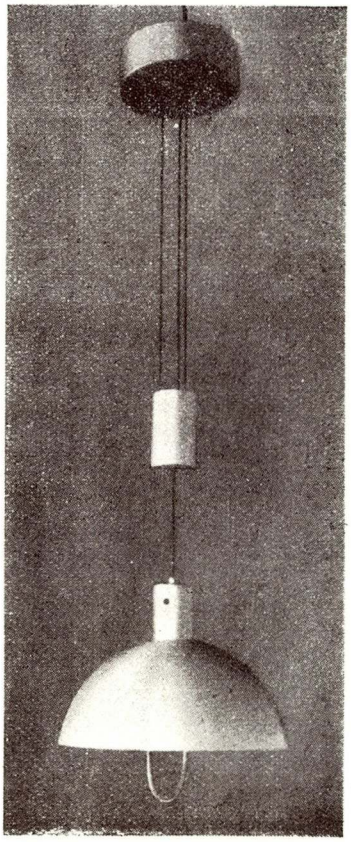
建築物の完全な一分子、即ち自己存在を主張しない照明器具、從つて自己を不純なものによつて裝飾しない純粹なる形態と、適材によつて製作されたものが近代室內工藝の動向にとつて必要なものではなからうか。(終)



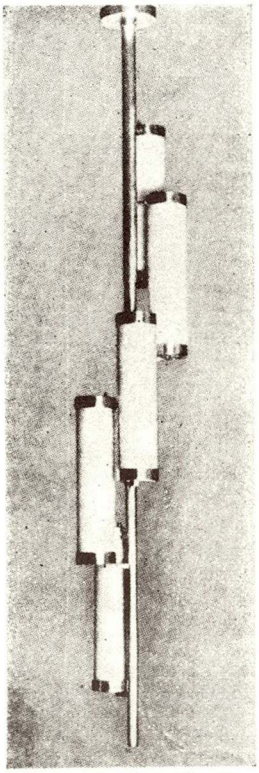
1 擴散光をうまく利用せる器具の例



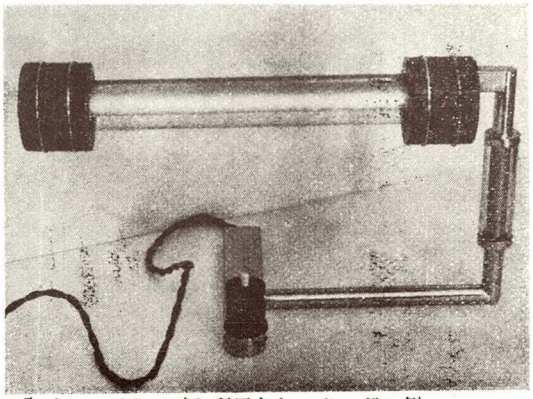
2 グローブを利用した例



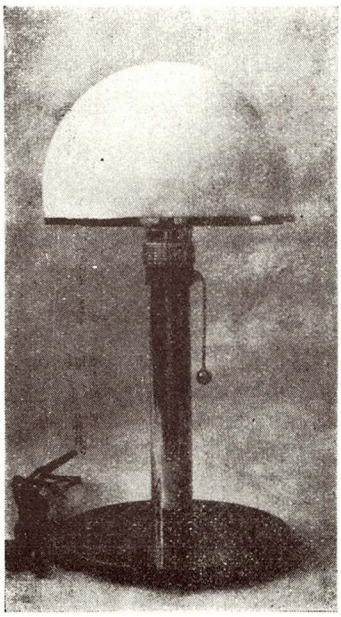
3 反射シエードの例



4 チユーブランプの例



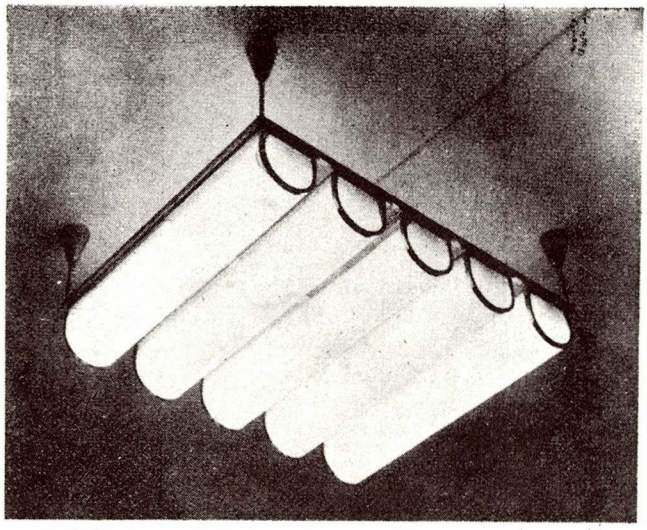
5 チユーブランプを利用したスタンドの例



6 スタンドの一例



7 建築化照明の一例



8 半間接照明の新しき例



9 チューブランプを大規模に用ひた例



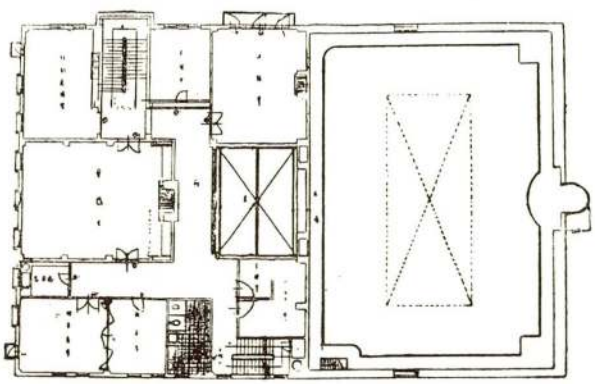
10 全間接照明の一例



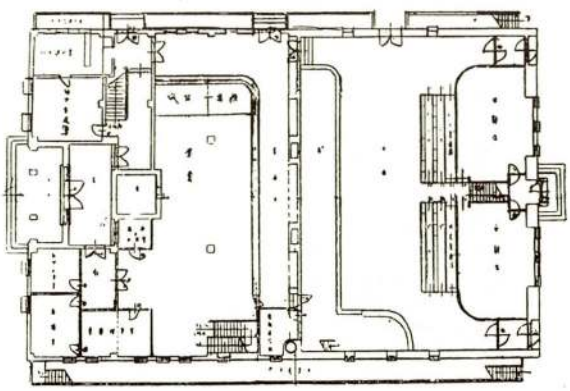
外　　觀

博多株式取引所

位　置　福岡市天神町
建　坪　280,125 坪
延　坪　733,513 坪
構　造　鐵筋コンクリート造



2 階 平 面 圖

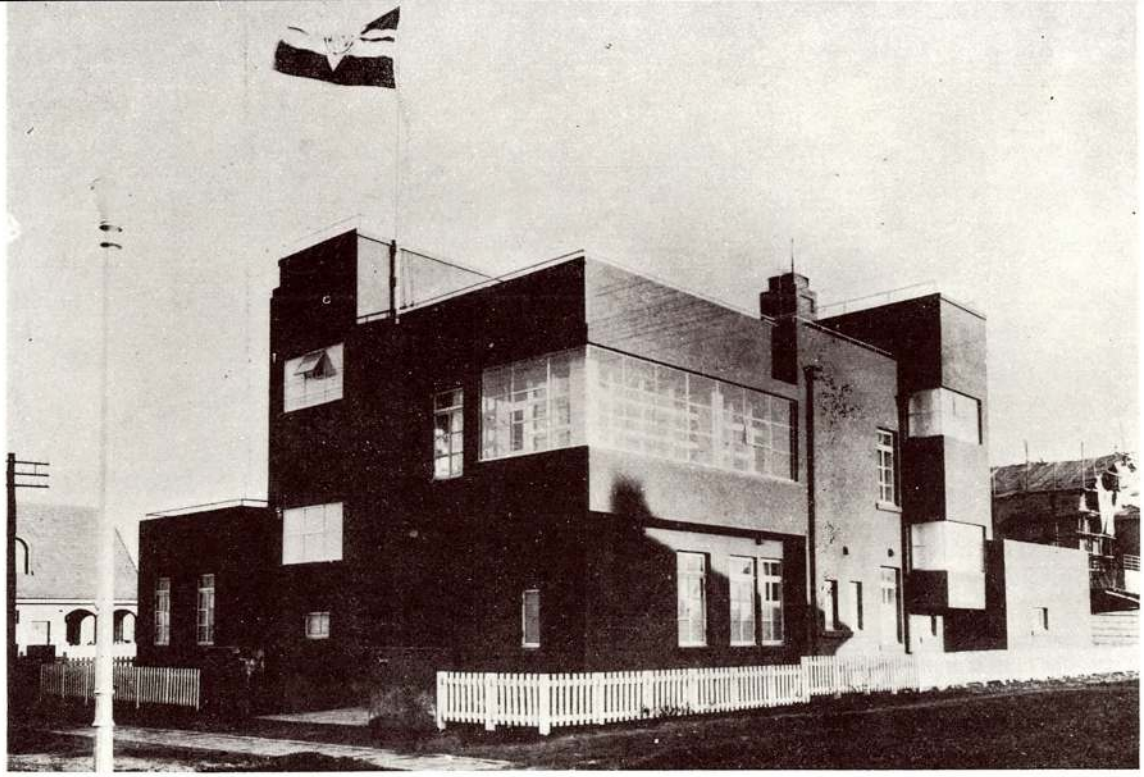


1 階 平 面 圖

階　數　2 階建、總地下室附
高　さ　軒高 38 尺 7 寸 5 分
工　期　着手昭和8年6月11日、竣工9月1月31日
設　計　石本喜久治
施　工　株式會社 大 林 組

博 多 株 式 取 引 所

設　計　石本建築事務所
施　工　株式會社 大 林 組



外　　觀

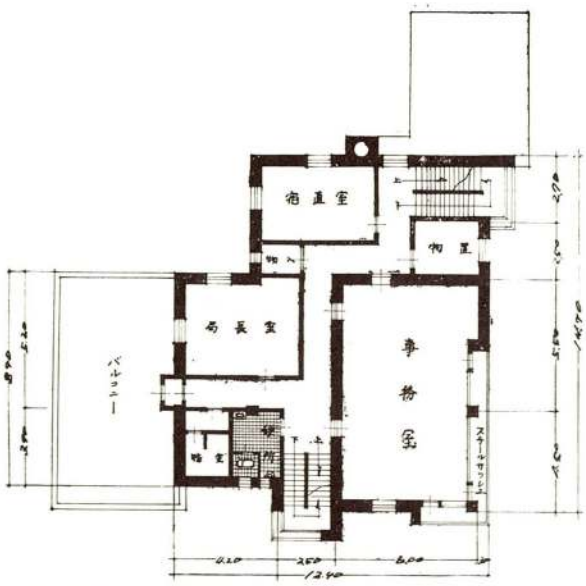
大阪毎日新聞滿洲通信總局

設　　計　工學士　中尾保

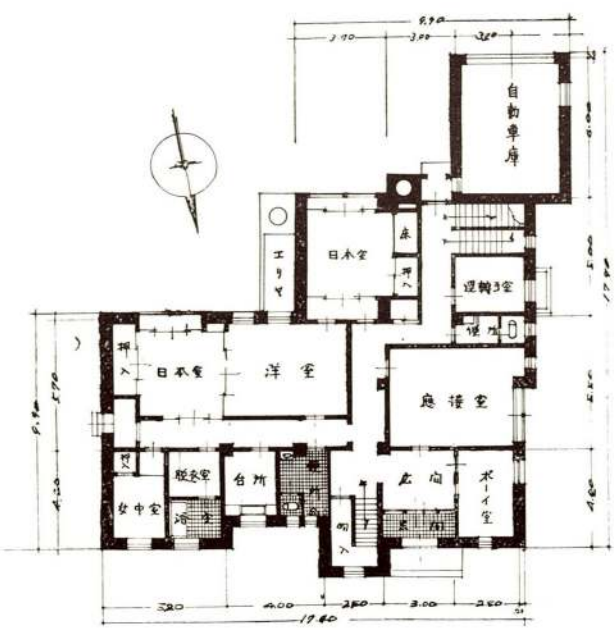
施　　工　株式會社福昌公司

現場主任　山本光男

様　　式　滿洲インターナショナル



2階平面圖

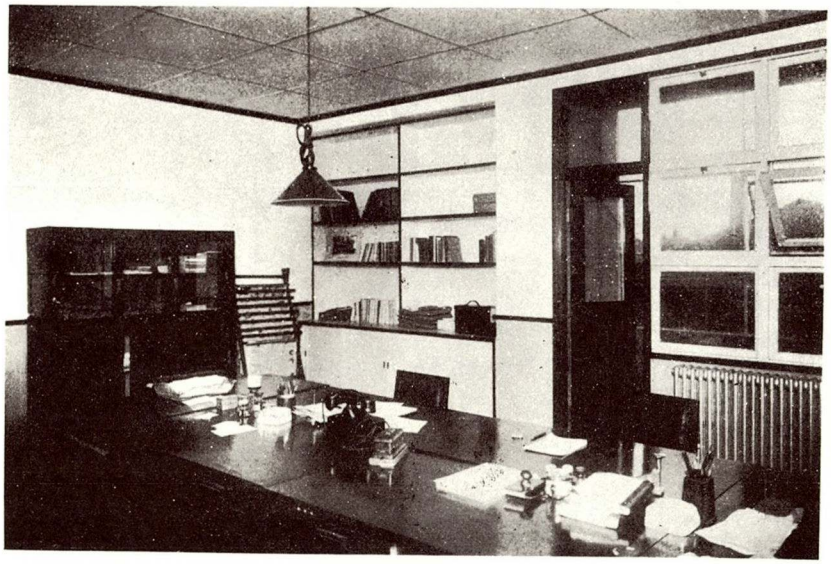


1階平面圖

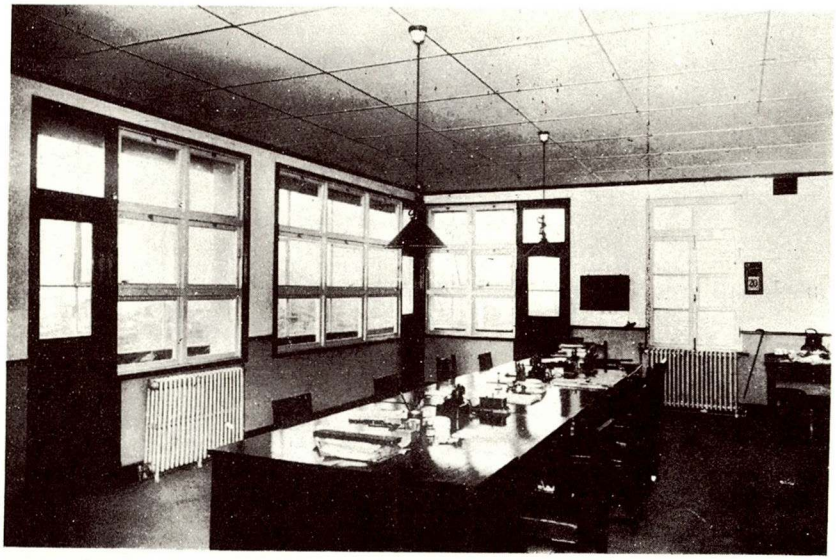
設計　中尾保
施工　株式會社福昌公司



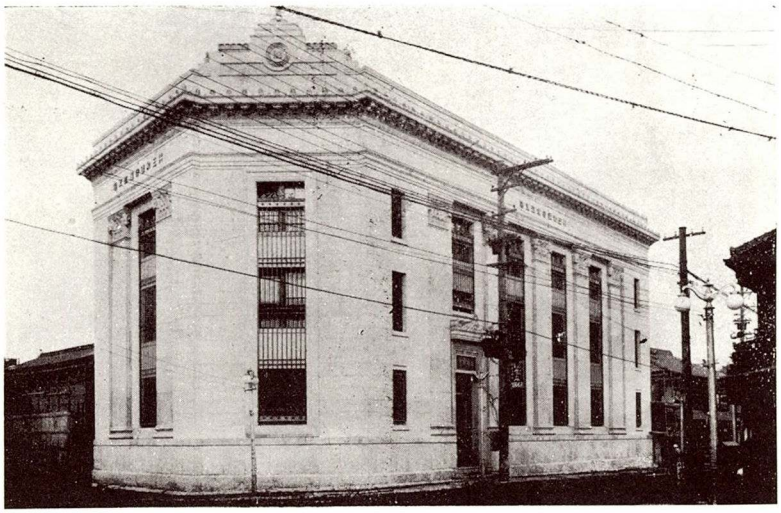
應　接　室



編　輯　室



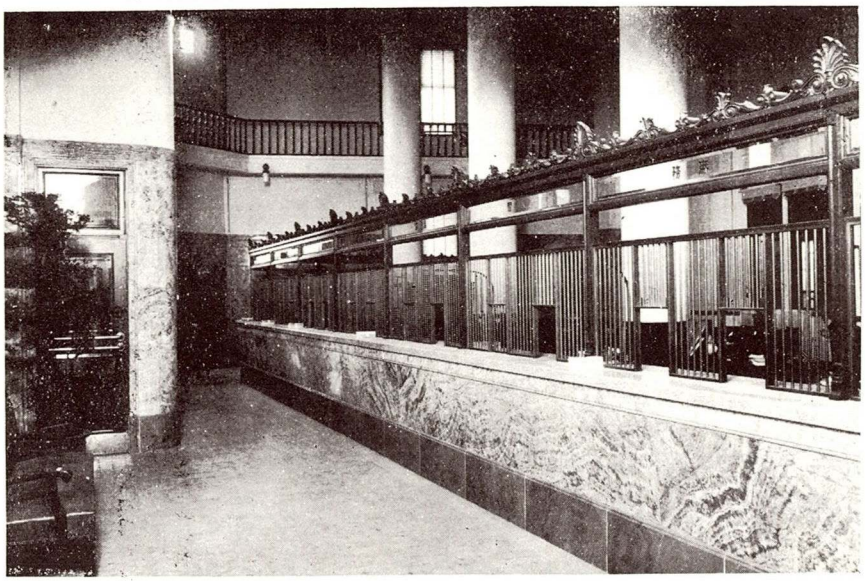
事　務　室



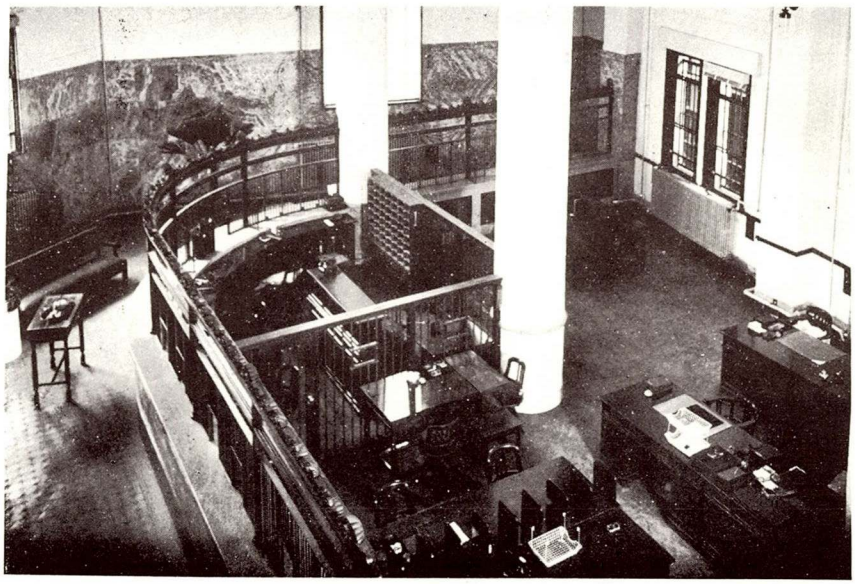
外　　觀

株式會社三和銀行堀江支店

位　置　大阪市西區北堀江1番丁16番
建　坪　103坪68
延　坪　320坪17
構　造　耐震耐火鐵筋コンクリート造
階　數　地下1層、地上3階、及塔屋
高　さ　軒高51尺7寸
工　程　起　工　昭和9年1月9日
　　竣　工　同　　年12月15日
樣　式　近世復興式
設　計　三和銀行建築係
施　工　合名會社藤木工務店

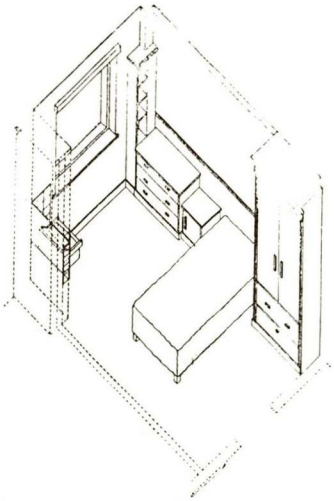


客　　溜

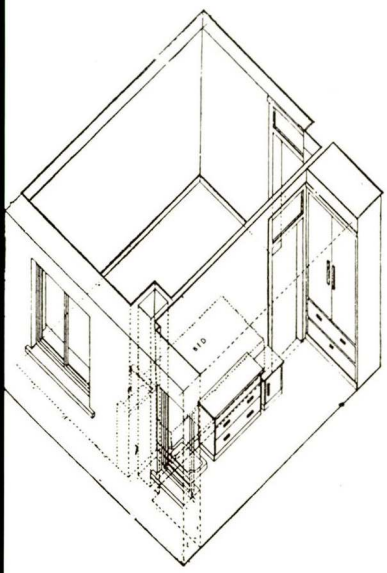


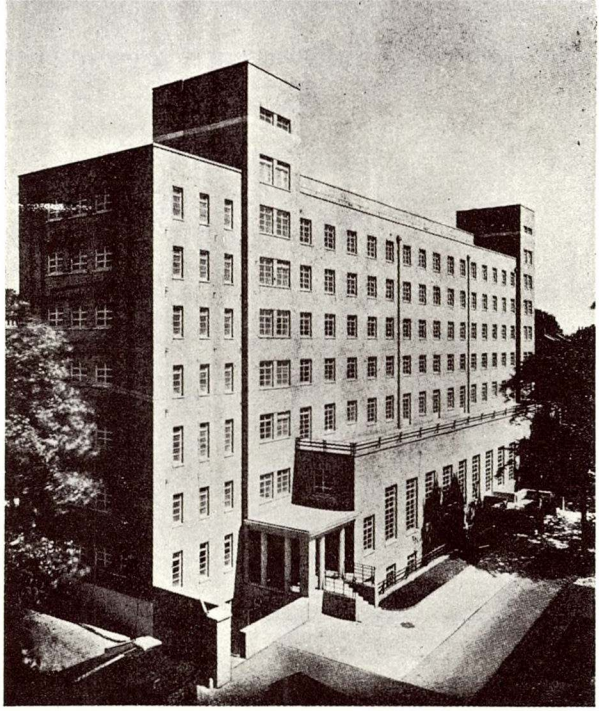
營　業　室

設計　三和銀行建築係
施工　藤木工務店

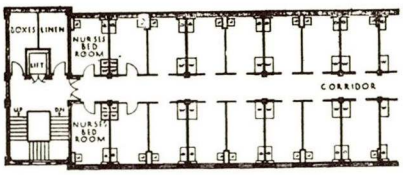


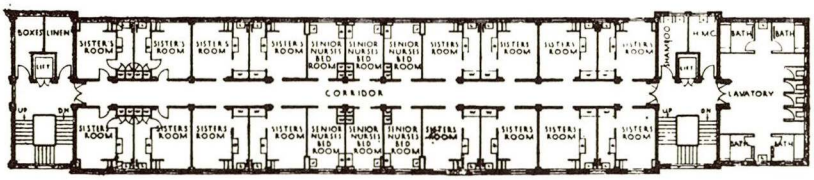
看護婦の寝室兼居間

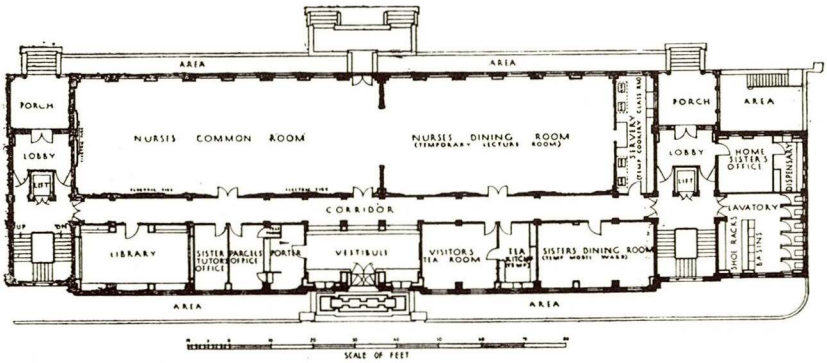




外　觀







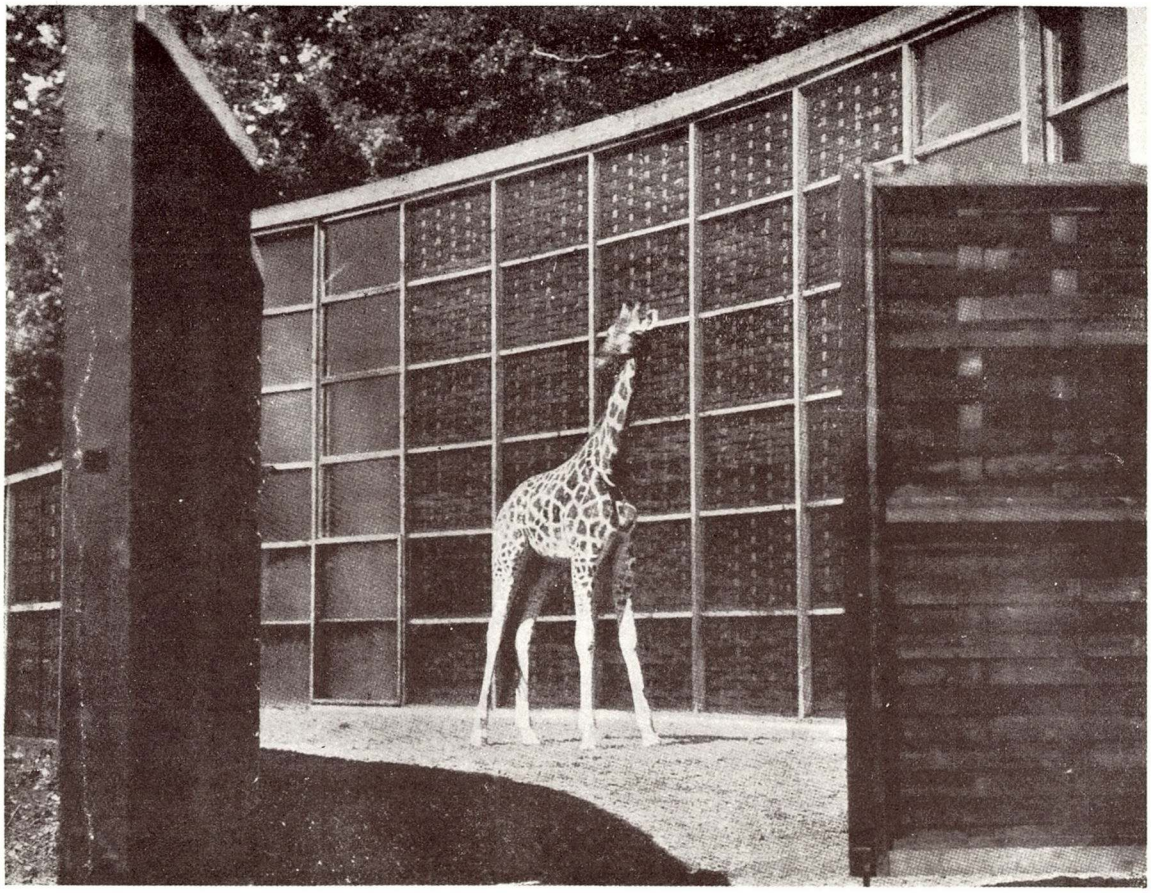
30人の看護婦長、126 人の看護婦を收容する事が出來、4 人の高級婦長のためには各居室、寢室及び二人に一つの浴室の設備がある。二階には婦長の共用の室があり、他の普通の婦長のためには居間兼寢室に小さい化粧室がついてゐる。四階以上の各階には30の看婦寢室と6の浴室、6の W.C. 押入、女中室等があり、一階おきに交互にシヤンプ室と洗濯室がある。

(Architectural Review 誌より本多正道)

各階平面圖

(イギリス) 看護婦の家

建築家 Stauley Hall, Easton 及 Robertson



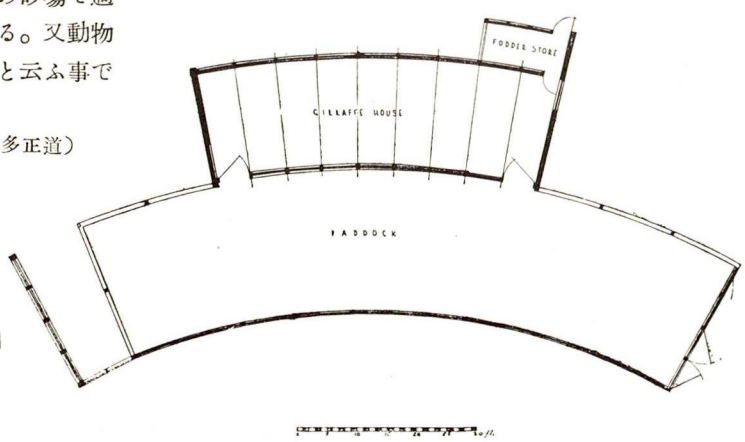
外　　觀

此の麒麟舍は外壁として骨組の間に標準型のパネルをはめ込む仕掛であつて、パネルは兩面アスファルト・マステイツクを塗つて防水した1吋厚の濛青コルク板である。此くする事によつて損じたパネルを容易にとりかへ、又は半透明の窓ガラスの同型パネルと取換へる事も出來る。

內部壁は水平に實はぎをした板で保護されて居り、外部は木を編んで保護されてゐる。

麒麟は冬期以外は主として圍ひの中の砂場で過すが、內部には暖房、換氣の設備がある。又動物は此の小屋が出來て以來甚だ不氣嫌だと云ふ事である。

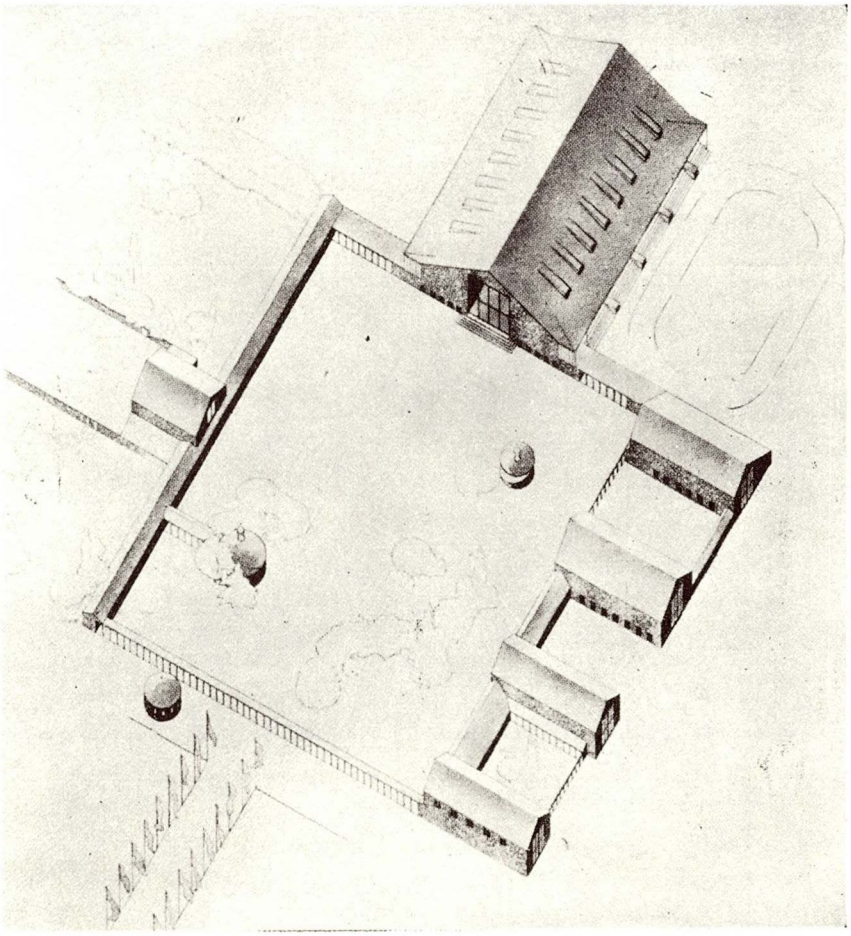
（Architectural Review 誌より　本多正道）



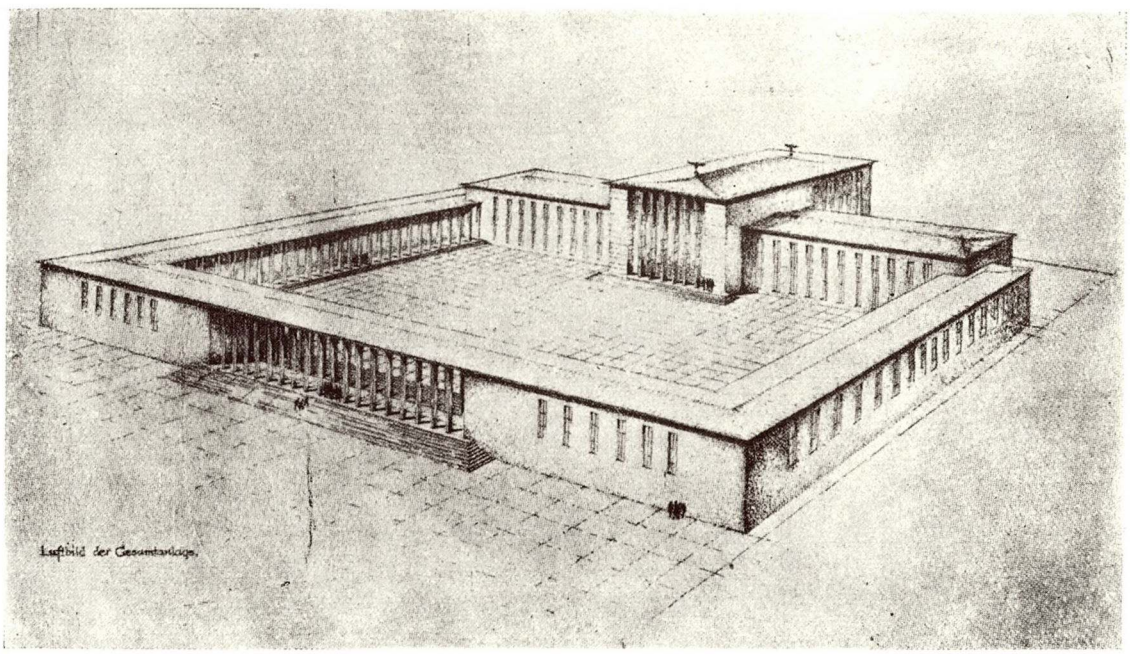
平　面　圖

112　（イギリス）Hhispsnade の 麒 麟 舍

建築家　Lubertkin 及 Tecton



第 1 圖

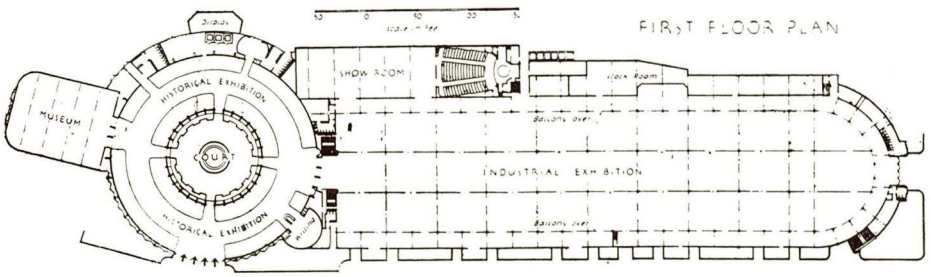


第 2 圖

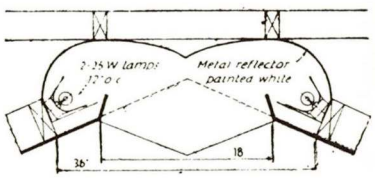
（ドイツ）「勞働の家」懸賞當選圖案　第1圖 建築家 W. Kratz　第2圖 建築家 M. Miller 及 K. Schüller



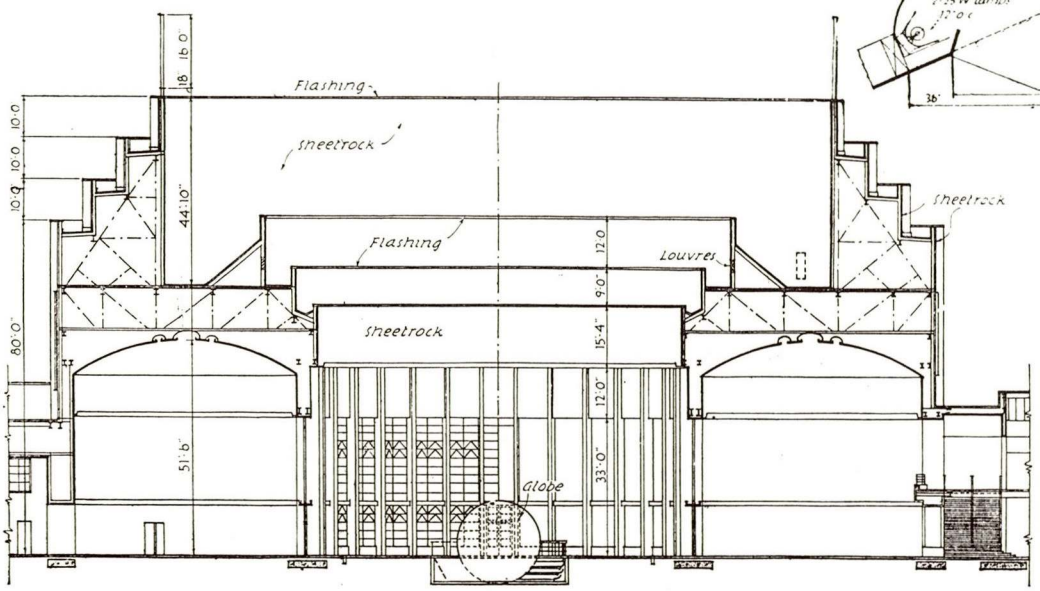
外　　觀



平 面 圖



乘物歷史陳列室
外部柱照明裝置



乘物歷史陳列室
斷面圖

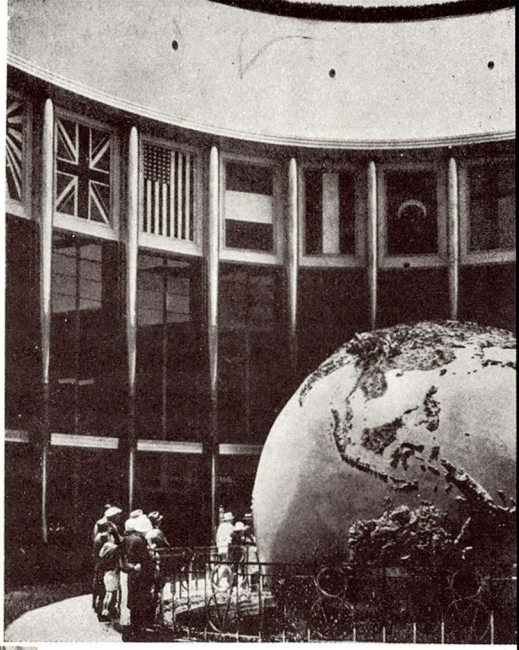
（アメリカ）1934 年度の Century of Progress に於ける諸建築
1. Ford の陳列場建築

建築家　Albert Kahn

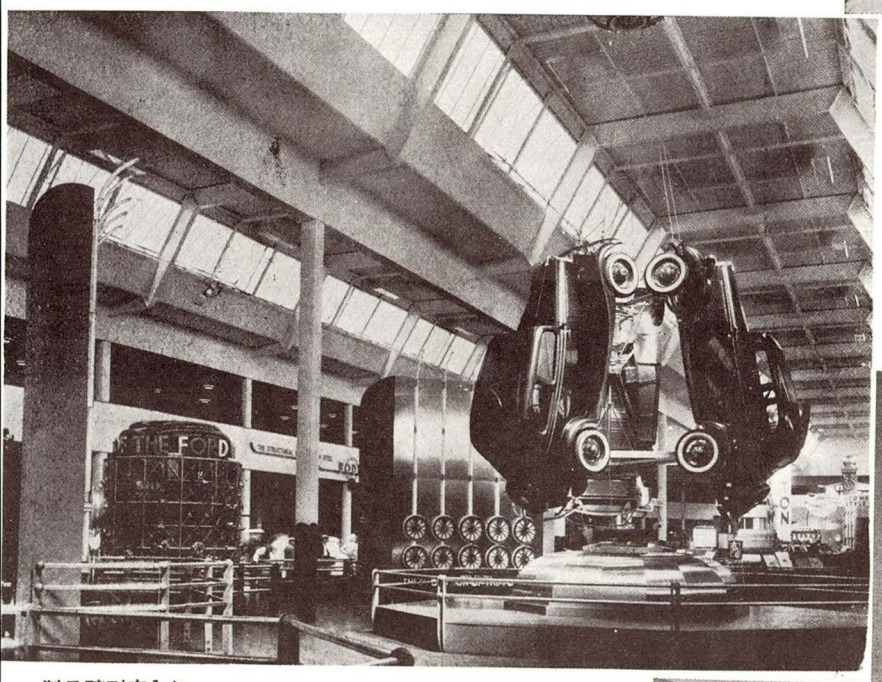
1934年に再び開催せられた Century of Progress に於ては、大部分の建築は先年の塗り換へであつたが、Ford の陳列場建築を始め、アメリカ・コロニカル風、和蘭風、アイルランド風、古代スペイン風、スイス風、イタリー風等の各住宅群や、その他の多數の建物が新しく追加せられた。

1934年度の Century of Progress の爲に新築せられた建物の中最大のものである。

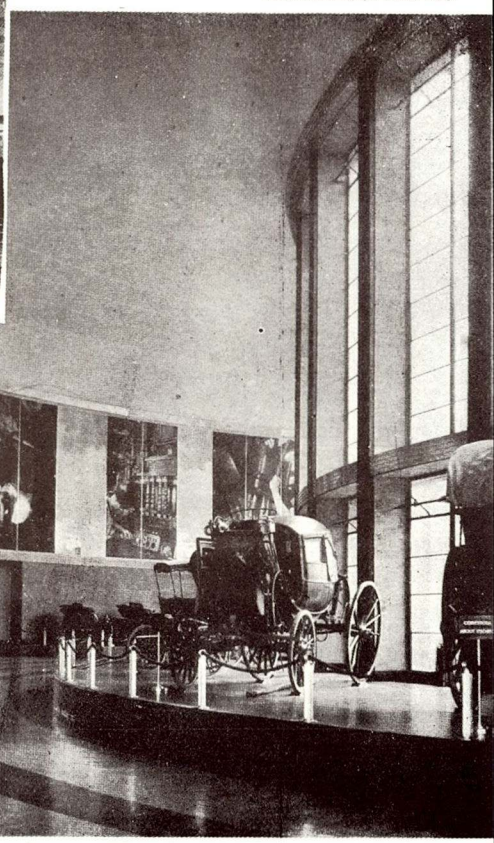
平面圖に於て、左端が博物館、その隣の圓形の部分が乘物の歷史の陳列場、右の長方形の部分が製品展覽場である。製品展覽場は長さ564呎、幅１２呎、天井高40呎あり、20乃至30の自動車會社が共同して出品して居る。此部分の構造は斷面圖に見られる如く、極めて純粹であり簡單である。



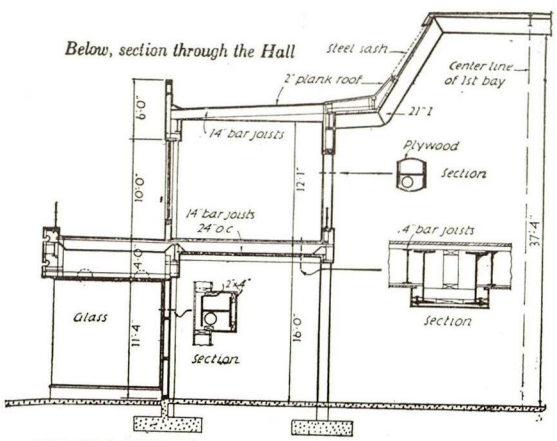
乘物歷史陳列室中心部



乘物歷史陳列室內部



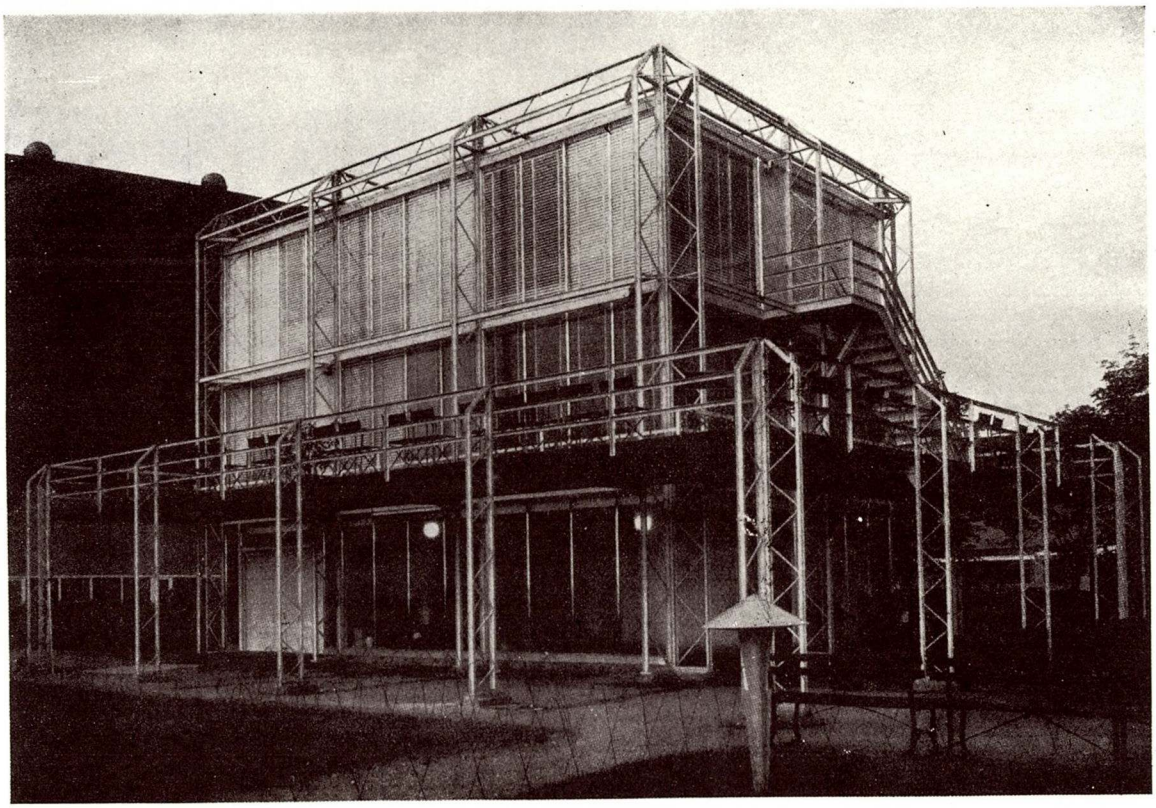
製品陳列室內部



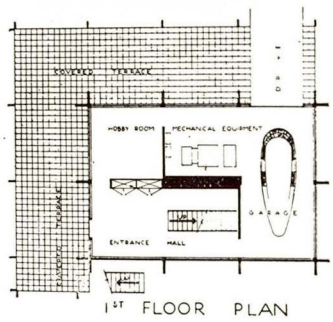
製品陳列室斷面圖

（アメリカ）1934 年度の Century of Progress に於ける諸建築
1 Ford の陳列場建築

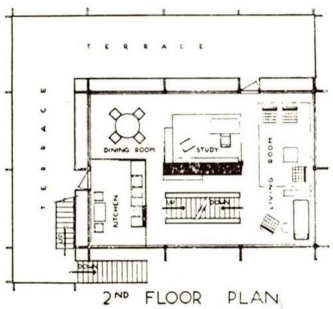
建築家 Albert Kahn



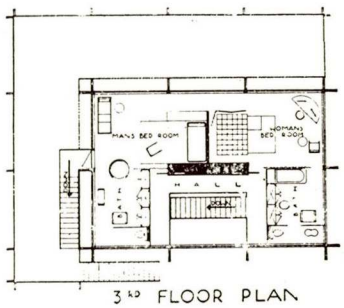
外觀



1ST FLOOR PLAN



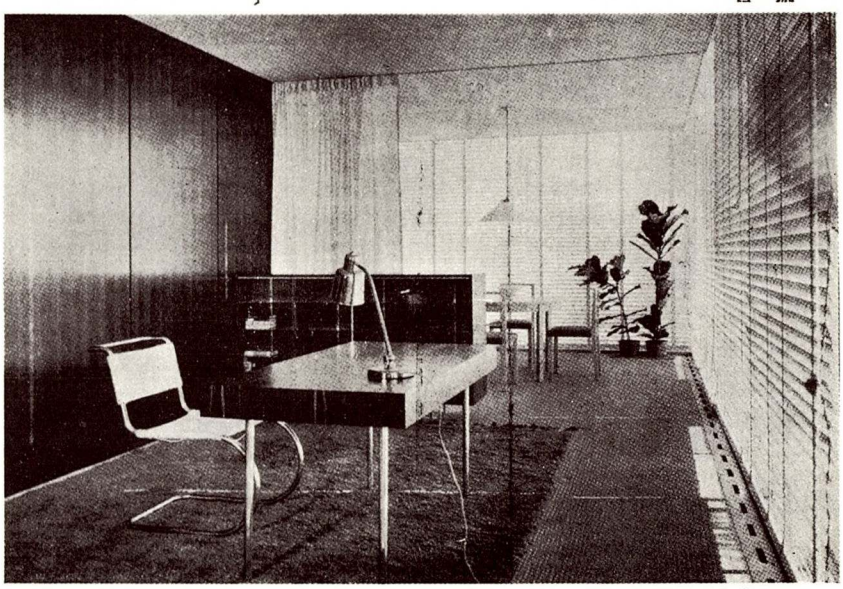
2ND FLOOR PLAN



3RD FLOOR PLAN

各階平面圖

書齋



並通に住宅の工事期間として3箇月要するものを2週間に縮小せんとした所にこの建築設計の苦心がある

空氣調整裝置、給水排水管及階段を中央部に集中し、その周圍に各種の部屋が取られて居る。臺所は全然電化である。

床の構造は鐵板にゴム・タイル敷又はコンクリート打、力を受持つ間仕切は1つもなく、全々居住者の必要に應じて移動し得る輕快なもののみである。

凡そ生物の形は體外骨格から體內骨格へと進化して來たのが自然界の現象であるが、これは又その反對を行つた點にこの建築の面白味がある

1·16 (アメリカ) 1934 年度分の Century of Progress の諸建築 2. Crystal House

建築家 George Fred Keck 及 Leland Atwood



3 の 外 觀

3. Hiram Walker のカフエー

メンデルゾーンが嘗てよくやつた設計に似た外觀が特徴である。

4. Swift 會社出品の劇場

正面に、海を隔ててコンクリート打放しの音樂堂があり、聽衆席には1,700 名の座席、聽衆席の兩側には夫々600 人收容のレストランの設備がある。

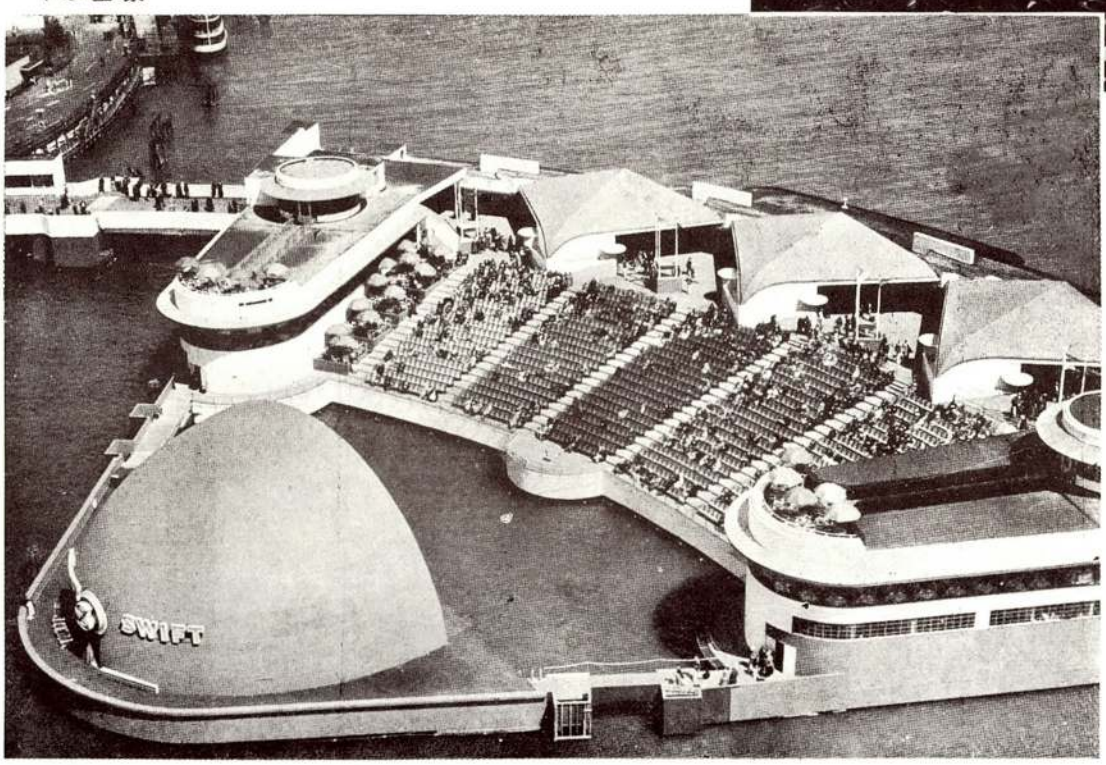
聽衆席と音樂堂とを海水を以て分離したこの試みは、Gustave Lyon の、反響體としての水の音響學的効果を實驗する上に頗る興味あるものである。

（Architectural Forum 誌より　新名種夫）



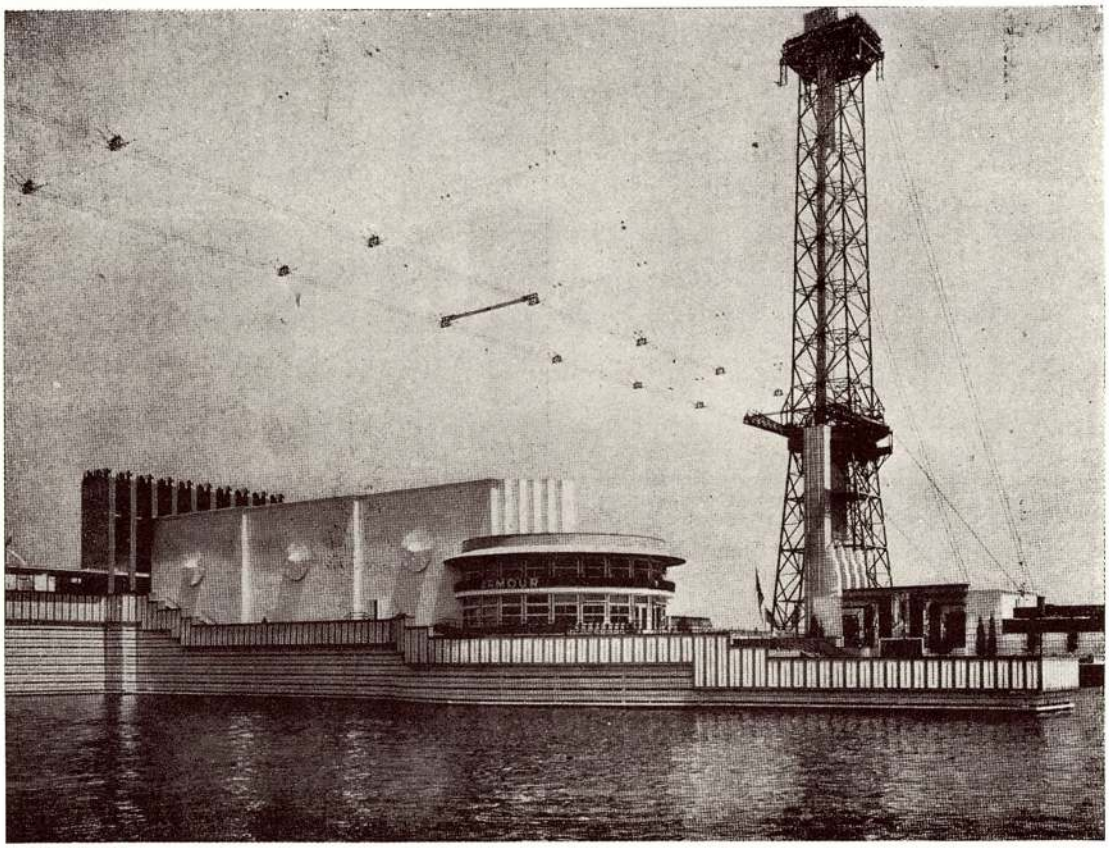
4 の 音 樂 堂

4 の 全 景



（アメリカ）1934 年度の Century of Progress の諸建築
3. Hiram Walker のカフエー
4. Swift 會社出品の劇場

建築家　E. A. Schiewe 及 Donald Nelson

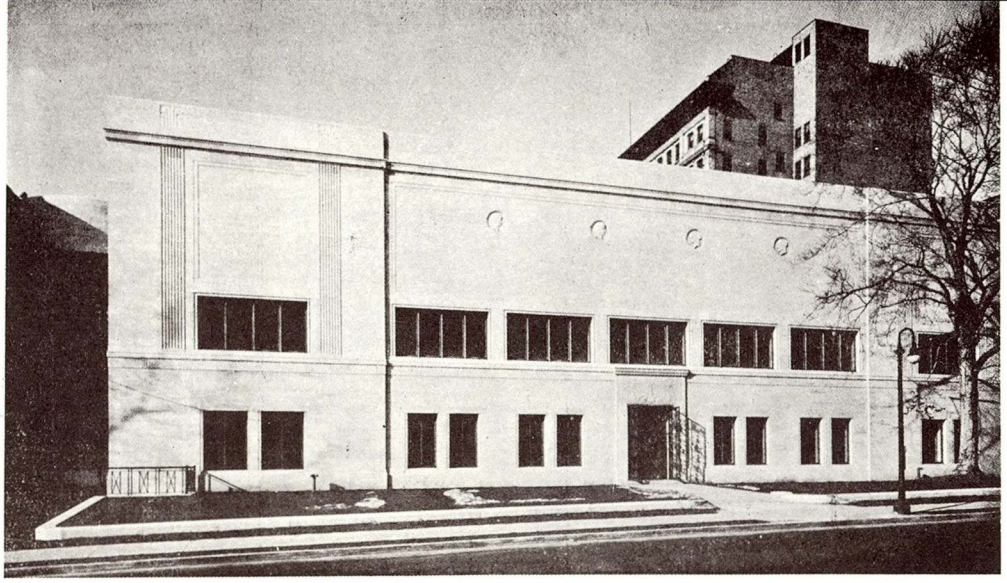


第 5 圖

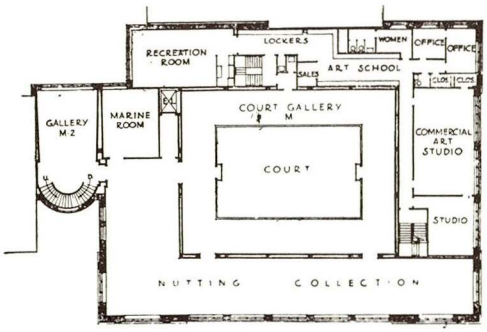


第 6 圖

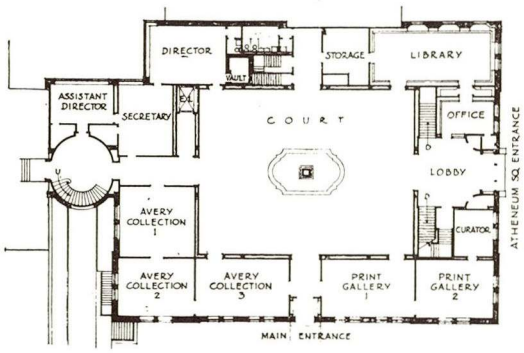
（アメリカ）1934 年度の Century of Progress の諸建築
5. Armour 會社出品の建物　建築家 Graham, Anderson, Probst 及 White
6. 大陸パン製造會社出品の建物　建築家 Edward H. Bennett



外　観

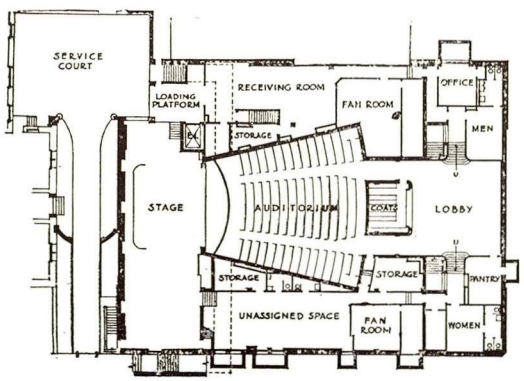


2階平面圖

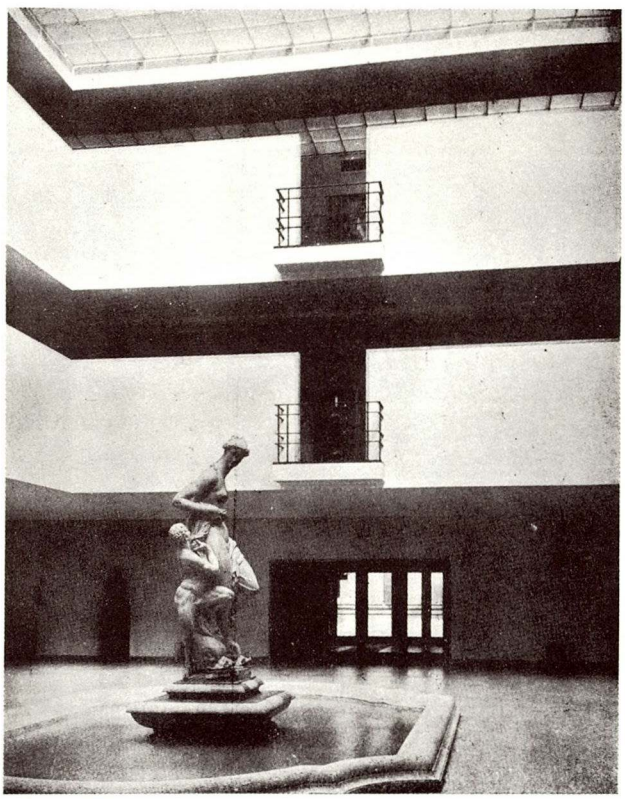


Ground Floor

1階平面圖



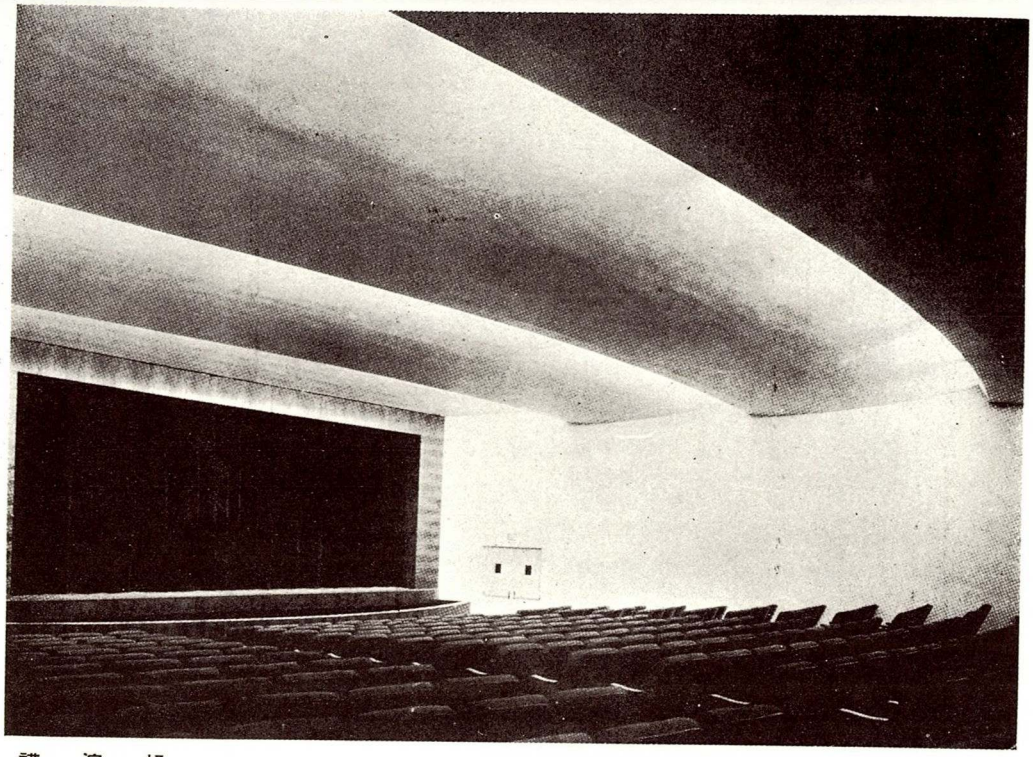
地階平面圖



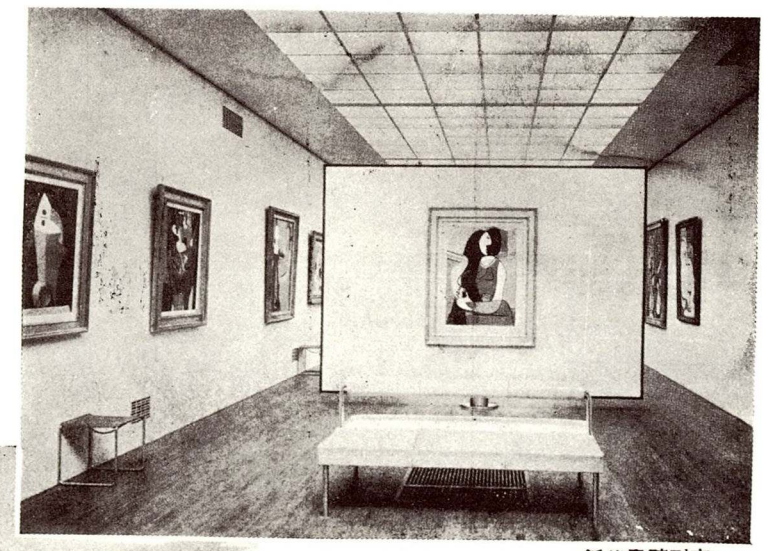
中　庭

（アメリカ）モダン美術館

建築家　Morris 及 O'Conner



講　演　場



近代畫陳列室



中2階ギヤラリー

カンチレバーとして突出されたギヤラリー、多彩色の壁、採光の調節裝置、こうしたものがHartford の市民の賞讃する所となり、1934年度の建築競技賞牌を授與せられた建築である。

（Architectural Form 誌より種名新夫）

120　（アメリカ）モダン美術館

建築家　Morris 及 O'Conner

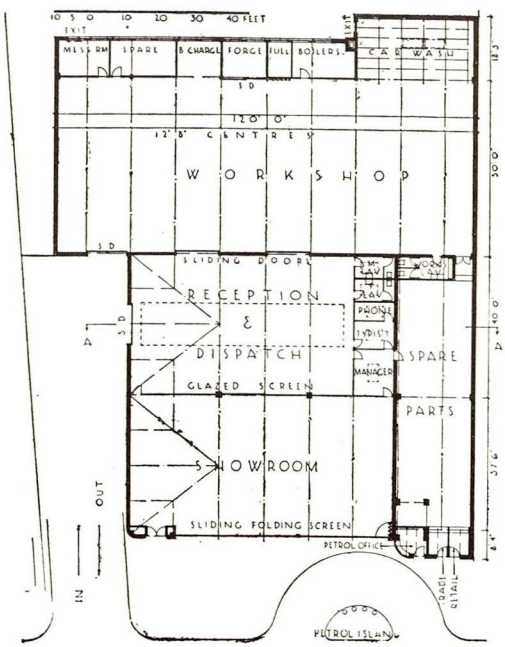


正　面

サービス・ステーションの設計のねらひ處の一つとして一見して誰にもあれはどこの會社のだとすぐ認め得るやうな特色をつける事である。
圖に示す如くこのサービス・ステーションの特色の一つはその塔であり、他は間口の巾 60′、高 14′の大きな入口であつて、之が此の會社のものゝ特色をなしてゐる。入口の折疊戸の如きはおそらく歐洲で最大のものであらう。建物は鐵骨煉瓦造擬石仕上、陳列室内腰にゴムを張つて自動車によつて損ぜられる事を防いである。
（Architectural Review 誌より　本多正道）

陳列室





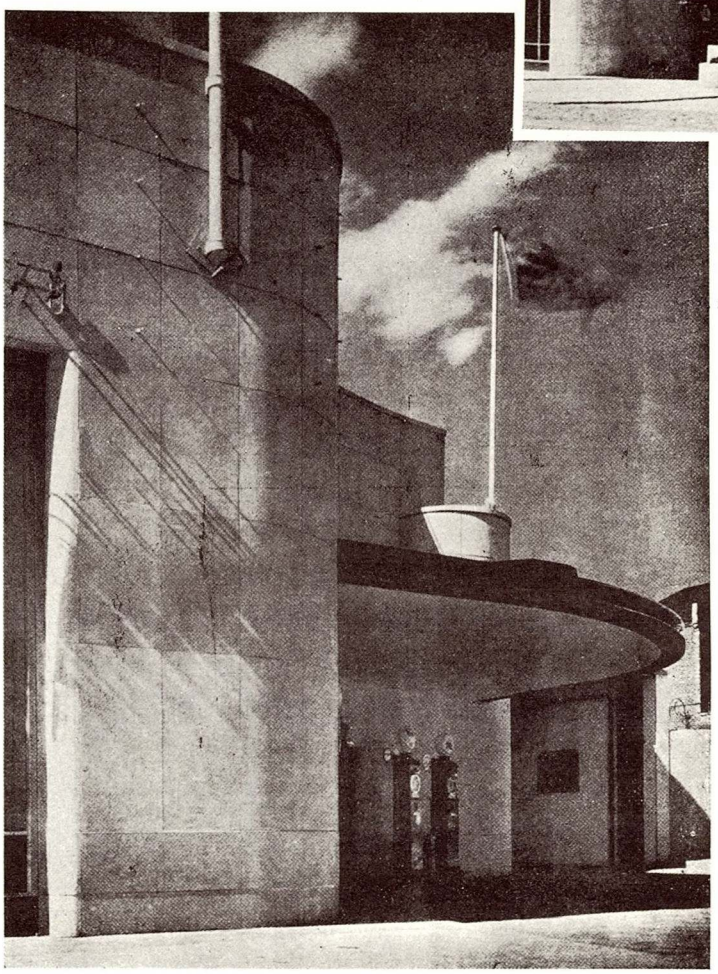
平面圖

（イギリス）自動車のサービス・ステーション 1

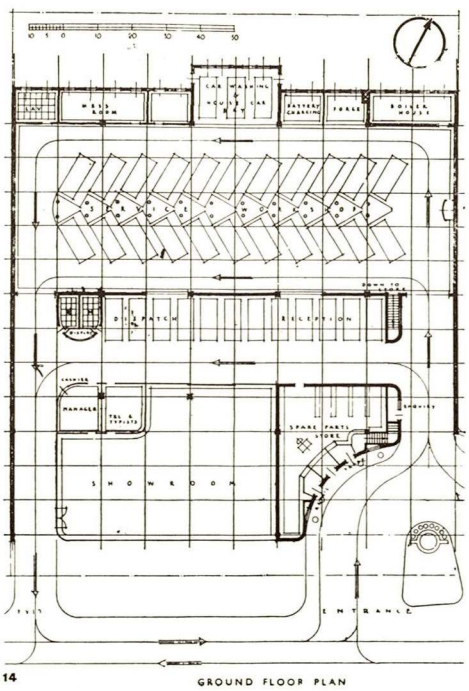
建築家 Cameron Kirby



外　観



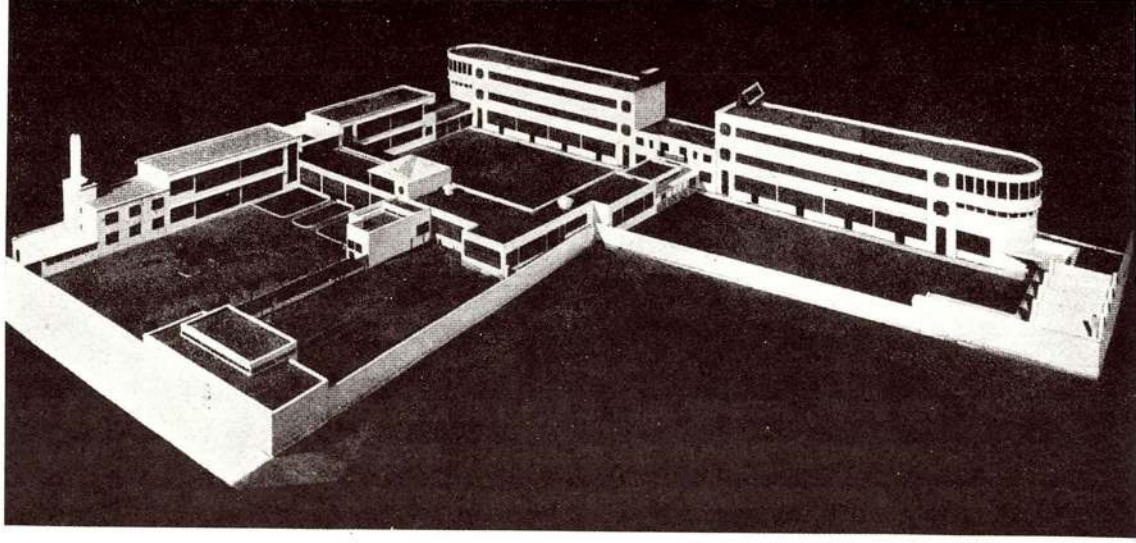
正　面



平面圖

〃 122　（イギリス）自動車のサービス・ステーション 2

建築家　Cameron Kirby



全　景

アルフオール、ヴイルのオクトーブル綜合學校は小學校程度の男子部、女子部並びに幼稚園の三つを包括して建築されてゐる。1階は室内運動場及其他から成り、教室は2、3階に配置されてゐる。各教室の大さは8m×6.5m 即ち52□m にして、收容生徒數42名が豫定され、2名1組の机、椅子が整備されてゐる。教室の長さ一杯の窓が開いてゐて充分な採光を要求してゐる、又各教室の仕切壁は二重になつてゐて防音に苦心してゐる。男子部及女子部の對稱的な兩端の圓い部分には

第1階　洗面所

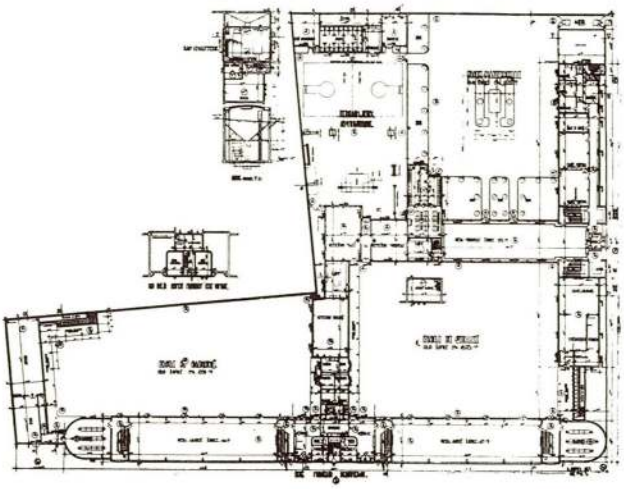
この洗面所には電氣裝置による手拭器が設備されてゐるが恐らくフランスに於ける學校建築では最初に採用されたものであらう。

第2階　映畫撮影室

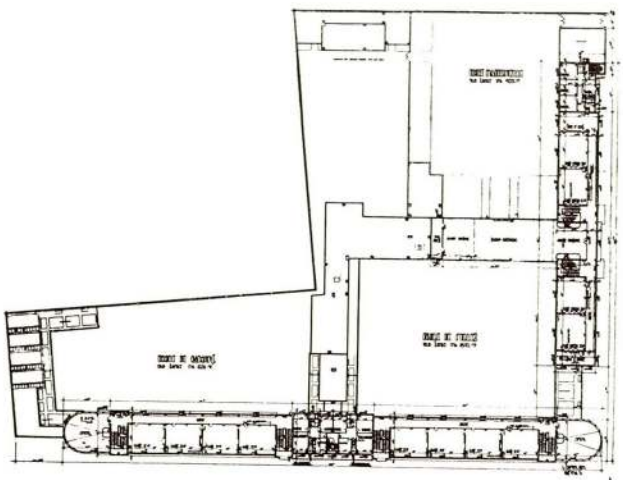
第3階　圖畫教室

が夫々配置されてゐる。

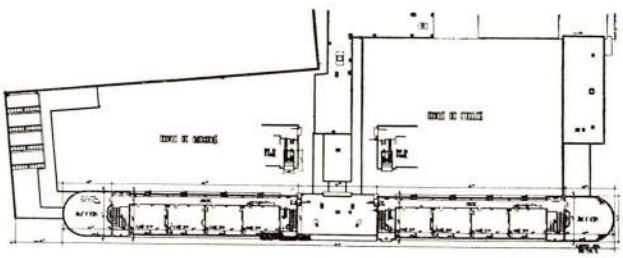
（L'Architecte 誌より　中西六郎）



1階平面圖



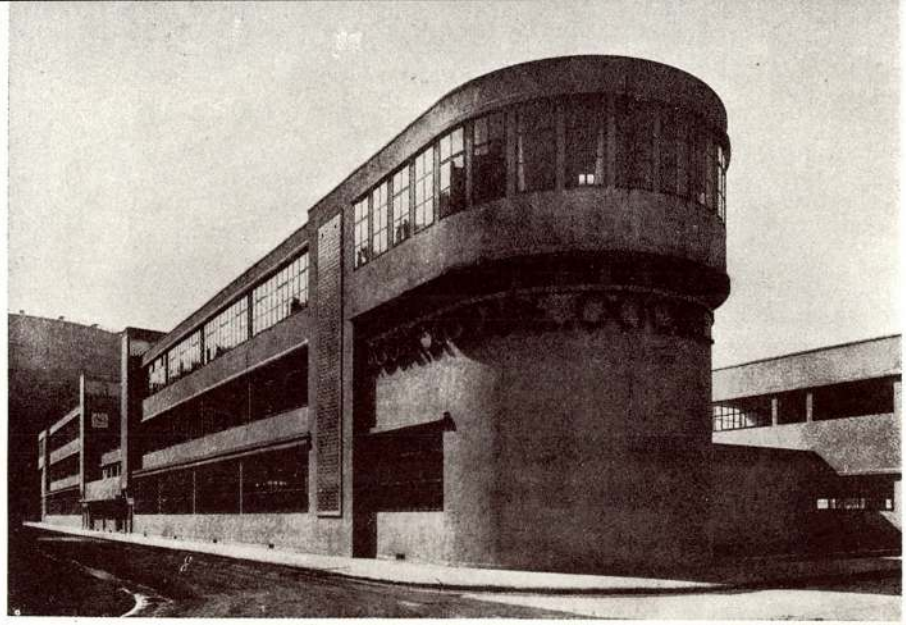
2階平面圖



3階平面圖

（フランス）アルフオール・ヴイルのオクトーブル綜合學校

建築家 Gautier



小學校正面圖

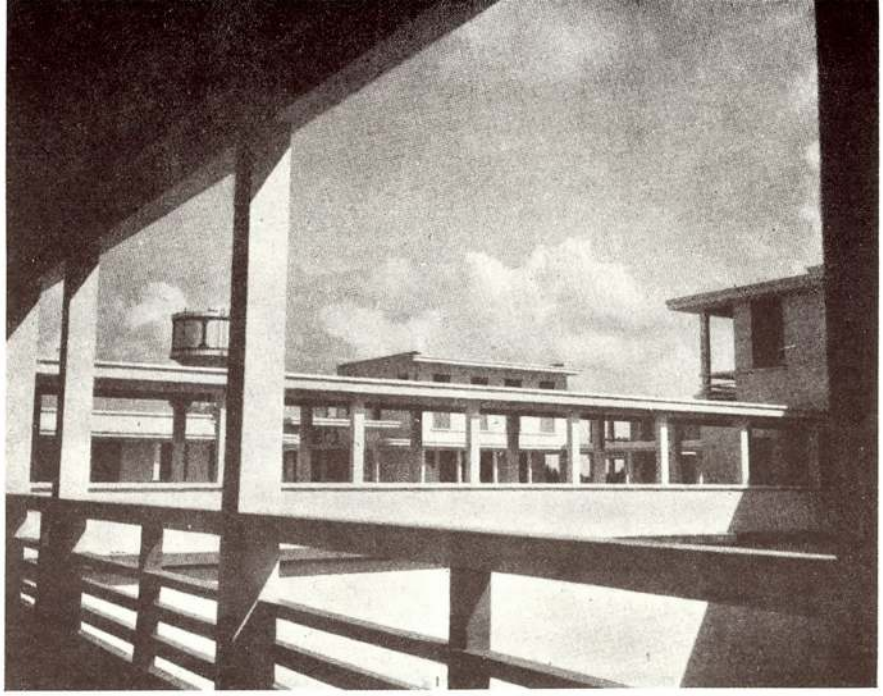


幼稚園の運動場

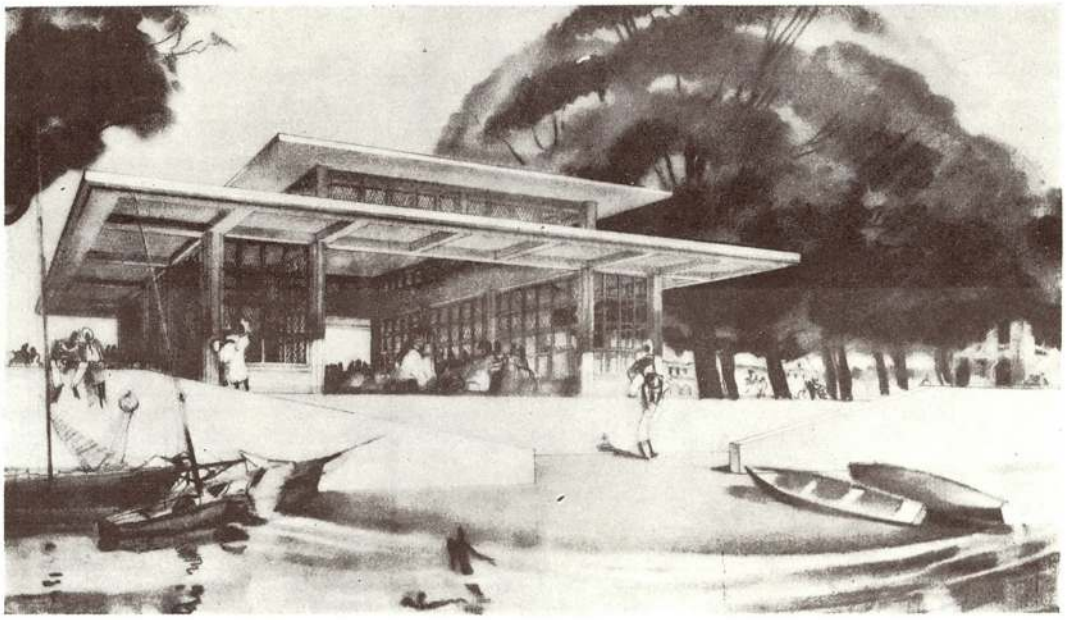


幼稚園の屋上日光浴場

〃 124 （フランス）アルフオール·ヴイルのオクトーブル綜合學校　　建築家 Gautier



ポアント・ア・ピートルの病院兼養育院の廻廊のある中央庭

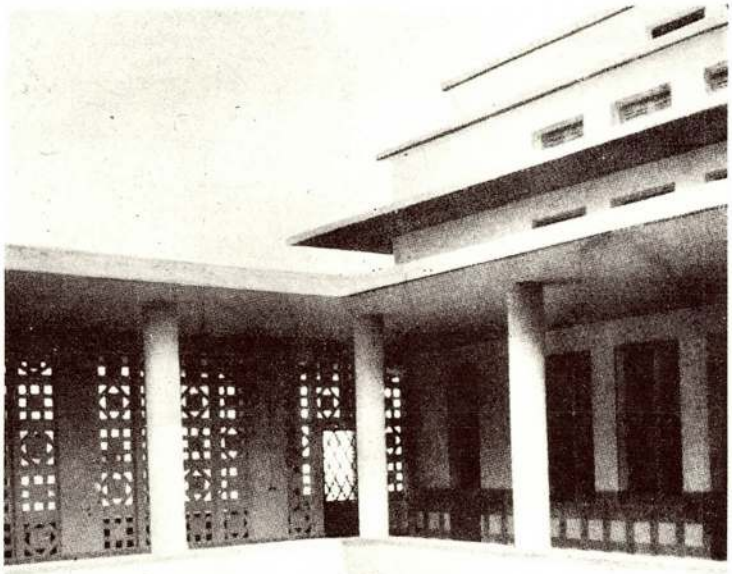


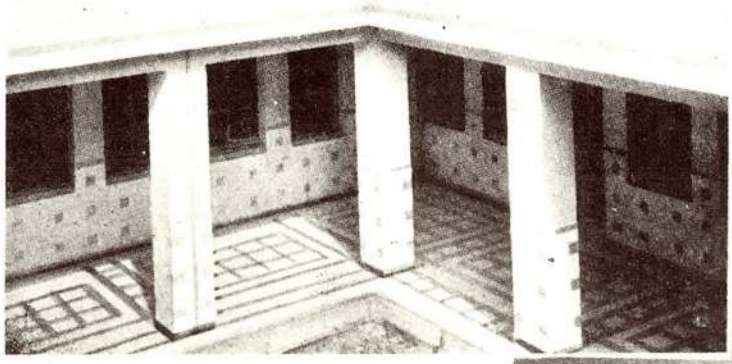
ポルト・ルイの鮮魚、肉類の市場

1928年9月12日ラ・グアドウループに襲來した大津浪と旋風とは數時間の內に北アフリカに於けるフランス植民地の無數の公私の建物を破壞一掃してしまつた。隨つて、建築的な工業と熟練工とを有しない不便な當地方に可及的迅速に且つ經濟的に、熱帶地方の氣候風土に順應した數多の建築を再築することが必要となり、その復興建築のために植民省のアリ・テュール建築技師が任命され、稀な例にしか屬しないやうな、廣範圍な雜多な建築事務に努力を强要されたのである。爾來6年の精勵の結果は——

政廳、議事堂、憲兵署(4)、郵便局(5)、稅務署(3)、病院及養育院(5)、外科醫堂、施療所(4)、裁判所(4)、學校(26)、綜合學校(11)、區役所(13)、教會堂(7)、主任司祭の家(10)、治安裁判所(4)、殉難記念碑(3)、商業會議所、市場(9)等を完成せしめてゐる。

(L'Architecte 誌より　中西六郎)





ポアント・ア・ピートルの裁判所の中庭



モルン・ア・ローの教會堂、正面詳細圖

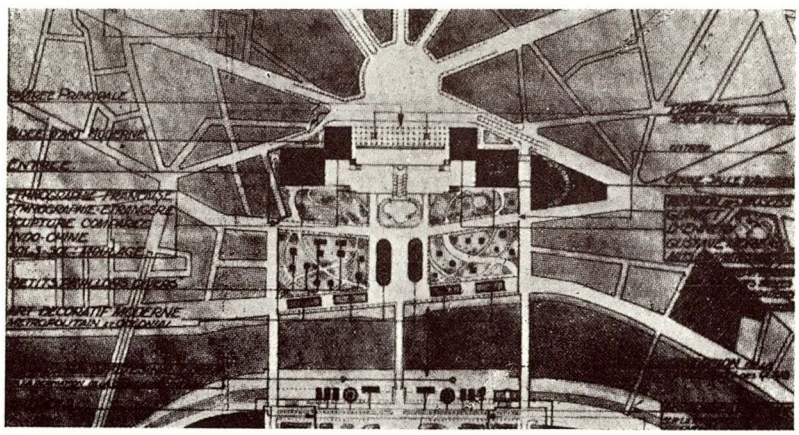
巴里「シヤイヨー宮殿」の試案

1937年巴里に開催される豫定になつてゐる博覽會の計畫が豫告されて以來フランスでは種々な理由の下に、様々な試案が提出されてゐる。茲に建築家ペレー兄弟による試案を紹介することにしやう。これによるとシヤイヨーの丘地の傾斜は現在よりも一層巧みに利用し1878年に建築された現存のトロカデロ宮殿を新しいシヤイヨー宮殿で置換へ面目一新を企てゝゐる。シヤイヨー宮殿は中央に高 23 m の柱廊があり其上部に高 7 m の建築を冠せてゐる。この柱廊がセーヌ河岸やシヤン•ドウ•マルスからの眺めの中心を形成してゐることになる。柱廊の兩端は大きな建築からなつてゐて、內部は 7.5 m × 7.5 m の徑間を單位として、7.5 m × 7.5 m、7.5 m × 15 m、15 m × 15 m 等の床面積を有する數多の室の構成からなつてゐるこれらの室は夫々連絡せしめて現在のトロカデロ宮殿同樣に、風俗學及び石膏で再生された對照彫刻の博物館に充當すると同時に、現在巴里に散在する種々の博物館をも此處に一纏めにすることを企てゝゐる。近代彫刻の作品から或るものは柱廊に、又は中庭に配列し、繪畫は柱廊の上部の室（天窓から採光したもの）に陳列することゝする。以上の建物に隣つて劇場が出來ることによりシヤイヨー宮殿は完成する、斯くてシヤイヨー宮殿は巴里人の智的並びに藝術的生活の中心を形成することが計畫されてゐるのである。

（L'Architecte 誌より　中西六郎）

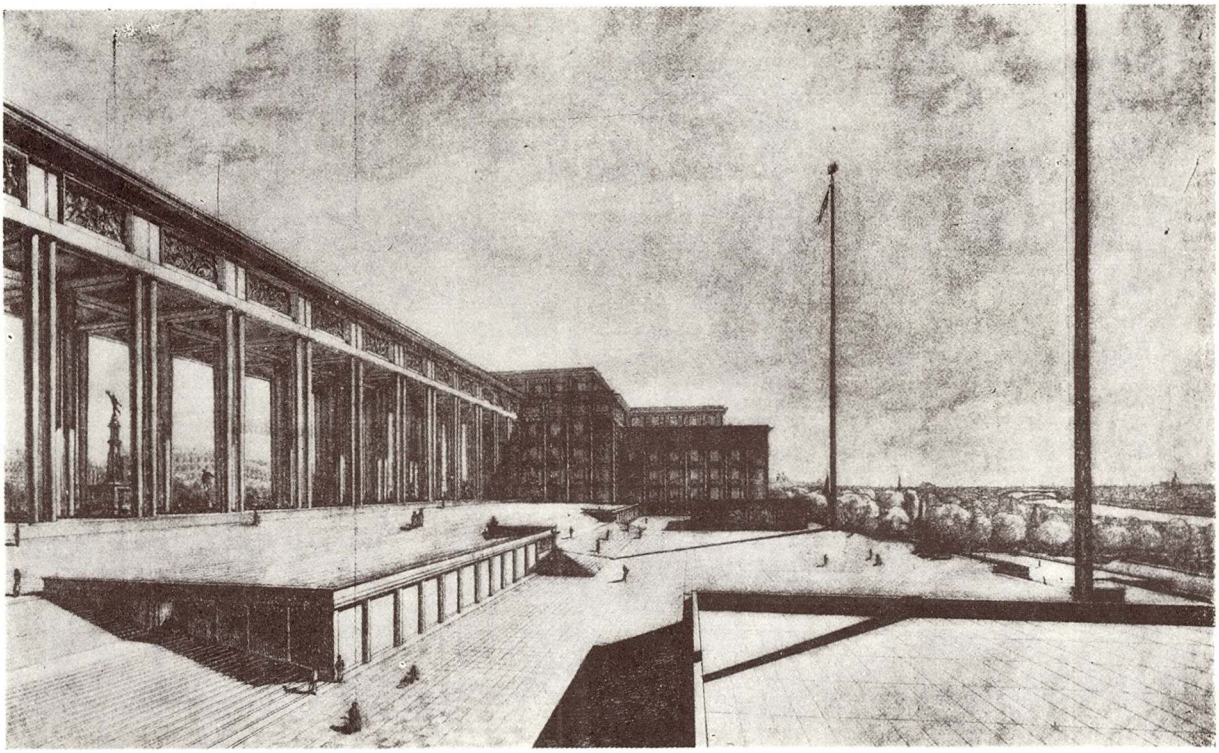


1 圖　レイ・ヌアール通の新建築の一例

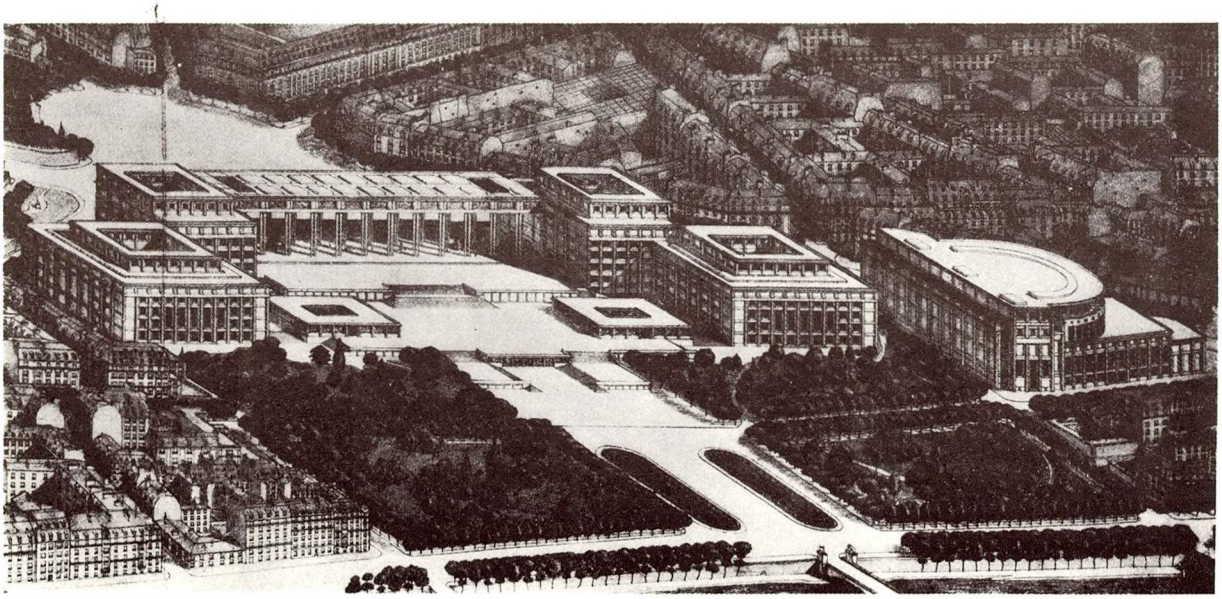


2 圖　配　置　圖

（フランス）第1圖　レイ・ヌアール通の新建築の一例　建築家　Perret 兄弟
第2圖　巴里「シヤイヨー宮殿」の試案　建築家　Perret 兄弟



現在のトロカデロ宮殿



取換へた配置圖

〃 128　（フランス）巴里「シヤイヨーの宮殿」の試案　　建築家　Perret 兄弟

關大阪市長の長逝を悼む

—都市公園にも斯かる功績を殘された—

椎　原　兵　市



故大阪市長關　一博士

都市研究の權威であり、眞摯な學者的な一代の名市長と謳はれた、關一氏は過去21年の久しい間、助役として、又市長として終始一貫大阪市政に盡瘁せられたことは周知のことで、270萬の市民が吾等の市長として誇り、敬慕してゐたのであつた。氏は平素極めて健康な方であつたが、突如病魔の侵すところとなり、遂に加療の効空しく、去る1月26日享年63才を以て長逝せられた。まことに國家のため惜しむべきである。

關氏が大阪市に殘された業績は大大阪の今日の賑盛を築いた隆昌史そのもので、洵に大阪の偉大な恩人として、市民は永久にその功績を憶ひ感謝すべきであらう。氏は特に都市の綠地問題に就ても、多大の興趣を有たれ、理解ある爲政者として大阪市の公園其他造園の方面に殘された業績は實に尠くない。

私は親しく關市長の下にあつて、大阪市の公園課に職を奉すること十五年、その間綠地問題に理解ある關さん（以下關さんと呼ばして頂く）が都市の公園及び綠地問題に對して少なからざる博識と幾多の先驅として提唱せられた各種の事實を回想して、今更のやうに造園界に殘された、偉大なる功績の數々を思ひ出して感激の涙に咽び、此の機會に關さんが御發起で吾々が手を下して生れた數々の中で、その主なるものを御紹介しやう。

× × ×

煙る都の大阪を淨化して、綠の都市にしたいとの念願は、270萬市民の等しく叫ぶ聲であり、爲政者としての關さんが、先覺者となつて日夜努力せられたことである。かの大阪都市協會が年々盛大にやつてゐる大大阪綠化運動も、煤煙防止會も關さんの御發案で生れたもので、何れも著しくその効果を擧げてゐる。殊に煤煙防止の如きは、府當局と連絡を

とつて、防止規則を發令し、機關及び煙突の改良や火夫の檢定などを嚴密にして着々その理想の實現に努めてゐる。次の數字を見てもその効果の偉大であることが覗へやう。

大正12年度	石炭使用量	2,101,433噸	平均哩當
	煤煙降下量	23,272噸	舊市 479噸 新市 225噸
昭和8年度	石炭使用量	2,566,800噸	
	煤煙降下量	13,081噸	舊市 228噸 新市 169噸

即ち石炭の使用增加の比2割8分に對して、降下量はこれに反して4割3分の減少を見せて居る。しかもこれを舊市內のみに就て見るならば1平方哩に479噸降下したものが228噸に減少して居るのである。又昭和2年に生れた全國都市問題會議も關さんの肝入りで產聲を擧げたもので、しかも同會議の第一回がその年の5月に大阪で開催せられ、その議題に「自由空地と公園」が提案討議された時にも、關さんは自ら立つて、「都市綠地政策」を力說せられて、綠地の保存、增設の急務を說き、止まるを知らざる自然への破壞者に注意を喚起せしめたものである、その時の演說と當時「大大阪」誌上に載せられた論文は實に敬服すべきものであつた。拙著「現代庭園圖說」に賜はつた次の序文の一節は實に當時の關さんの主張を明かにし、輝いたものとしてゐる。

× × ×

「德川時代政治家は都市建設の技術に於て現代人よりも優つた考へを持つて居た。明治文明は殊に都市建設に無頓着であり、無理解であつた。〃田園は神が造り、都會は人が造る〃と云ふ諺があるが、明治市民の造つた都市に欠陷の多き事は世界の文明の何所に見出し得るであらうか」と云はれて居る。誠に適切なる意見である。見よ、大正12年突如として帝都を襲ふた大震災に際し、德川時代の爲政者が造られた數々の災害上の火除地が、明治時代の人々に依つて既に失はれて居たゝめに災禍を大きくし、幸ひ殘されてゐた上野公園や芝公園や二重橋前の廣場などが如何に災禍を少なくせしめたかは、世人が現實に見せしめられたことである。しかるに大大阪の現狀は、近代都市としての內容を備へ來つゝある反面、自然は遠慮なくどしどし破壞せられて行きつゝあることは疑へない事實である。僅か此處30年前には道頓堀の堤塘に柳の並木が植えられてゐて、その下で風流な遊びも出來た、又城東練兵場の林ではドングリを拾ふて樂しく遊ぶことも出來たのであるが、今はそれ等は紅燈の巷や射擊場にそれぞれ化してしまつてゐてその面影さへ留めてゐないではないか

× × ×

今や市民は自然への復歸を求め、青空や空氣や水や綠や土に對する憧憬となつて來たのである。かゝる市民の要望を滿さんが爲に關さんは綠地としての市民農園や公園の增設及擴大に常に留意せられて、これが實現に努力せられてゐたのであつた。その現はれとして

大正15年全國に魁けて市民農園を住吉區の湯里町と東淀川區の山口町に創設した。更に最近に至つてはこれを城北公園の一部に新設して、市民の壓倒的歡迎を受けて豫想外の好成績を收めてゐる。そうして之が增設の機運が市民からもかもされて居る。又關さんもこの盛況を見られて非常に喜ばれ「春には南の方にも一つやるかな」と私に云つてくれたのはつい昨年の暮のことであつた。その後も、折にふれては關さんは、市の周圍部の農耕地が極端に建築用地となりつゝある現況を憂へられ、これが對策として市民農園を處々に設置することを主張せられて居た。全く此の市民農園は單に綠地として市民の保健、衞生上に役立つのみならず、市民が農業的勞働を行ふ事に依つて、穩健なる思想の涵養ともなり、且又非常時に際しては市民の食糧問題の解決の一助ともなるもので、今や我邦に於ても識者の間にその効果の大なるものを認められ、各大都市に於て着々その實現をみつゝあるのである。

× × ×

もつとも、この市民農園に類似したものは、歐洲に於ては早くより其の出現を見、就中獨逸に於て最も高度に發達を遂げたものであつて、獨逸では斯かる施設のものを小舍園（ラウベンガルテン）、小舍聚落地（ラウベンコロニー）、借地園（ミートガルテン）、小園（クライガルテン）、恒續小園（ダウエルクライガルテン）等の名稱を以て呼んで居り、英國では小菜園（アロツトメントガーデン）と呼んでゐて、その効果の大なるを指摘して居るものであるが、これを我が邦に適した方法に依つて、全國に率先して行ひ、これを成功せしめた關さんの功績は大なるものがある又公園に於ても、大正天皇御大禮記念事業に際して七つの小公園を新設せられたのも、かの關東大震災の直後に元刑務所跡を避難公園として、扇町公園を12,000坪に擴大したのも福島火葬場の跡を公園にしたのも、寢屋川埋立地の一部に將棊島街園を設けたのも、大正14年中ノ島公會堂前の大阪ホテルが燒けた時に、再建築を許さずして公園にしたのも、凡て關さんの御發起に依るものである。或は又彼の三菱倉庫の大爆發に際して、三菱より大阪市に百萬圓の寄附があつて、各罹災者の見舞金に使ひ、尙剩餘金が生じた時にも關さんは西九條公園の新設と九條公園の擴張に使はれたのである。全く關さんは機會のあるごとに巧みにつかんで、公園の新設及び擴大に努力して下さつたのであつた。ごく最近に於ては、昭和8年失業救濟事業を公園にふり當てられ、工事費のみに40萬圓を投じて天王寺公園の大改造、城北公園、大阪城公園、田邊、股ケ池公園等の5公園が新設及擴張せられたのである。之も關さんの發案であつて、自分等をして驚喜せしめてくれたものである。尙昭和3年には第二次都市計劃が立案せられるや、多年の宿願であつた公園の擴張增設及び墓地公園が加へられた。即ち公園では服部公園の最大337.600 坪を筆頭とし46個所總面積1,507,900坪の外公園道13線が決定された。之れは大大阪の百年計の基礎となるものでやゝ理想的のものである、內大阪城公園外5公園は既に完成し尙昭和9年度から400萬圓を投じて7ケ年の豫定で長居公園外7公園が事業に着手する事になつてゐる。今やその一部が實施の曙光を見つゝある際、その完成を見ず逝かれたことは甚だ遺憾である。

× × ×

最後に特筆すべきことは、何んと云つても大阪市の昭和御大禮記念事業に、大阪城公園の建設を選んで天守閣を復興させた關さんの功績である。寛文17年以來200幾年かを臺壁のみで過ごした錦城に春が甦つて大大阪の大空高く千古に輝く新天守閣の偉容を仰ぎしとき、誰もが惜しみなく異口同音に叫ぶのは「好い記念事業である」と云ふ讃辭であらう。そうして此事業は私に終生忘るゝ事の出來ない思ひ出を造つた。其は、此の輝かしい記念事業が竣成して、盛大な竣工式と祝宴が城内にて張られ、主賓が既に退席せられて後には市の幹部のみが一團をなして、そこゝに盛んに祝盃を擧げてゐた時、關さんは親しく自分を招ねかれて「皆さん今日の殊勳者に乾盃を擧げて下さい」と叫ばはれて盃を手に取られた。何んと云ふ關さんは部下思ひの人情味の深い人ではなからうか。私は生れてこれ程悦しく感じた事はない。私は大阪城の天守閣の偉容のやうな關さんの都市公園に殘された偉大な足跡を御紹介し、その功績を偲びつゝ、謹んで哀悼の意を表するのである。

近き將來に於て、關さんの蒔かれたこれ等の種子は健やかに育つて大阪市に綠濃き公園網が久遠に張られるであらう。尙此の種子を健全に育てゝ、關さんが意圖せられて居た理想の都市を一日も早く實現させることが、吾々に殘された大なる仕事であると痛感し、吾々は粉骨碎身以て大阪市の爲に努力する決心である。（昭和10年2月1日）

本誌執筆者紹介（掲載順）

モトノ セイゴ	東京帝大建築學科卒業、京都高等工藝學校教授
向井寛三郎	京都高等工藝學校教授
角尾篤彦	京都高等工藝學校卒業、三越大阪支店裝飾部長
伴野三千良	早稻田大學建築學科卒業、村野建築事務所勤務
小川安一郎	京都高等工藝學校卒業、内外木材工藝株式會社技師長
永山美樹	京都高等工藝學校卒業、高島屋裝飾部長
武田十子男	京都高等工藝學校圖案科教室
椎原兵市	大阪市技師、土木部公園課長
黒田茂	早稻田大學建築學科卒業、本會災害委員
矢田鐵藏	東京帝大建築學科卒業、本會災害委員
三浦尙史	東京高等工業學校卒業、本會災害委員

寶塚大劇場火災被害狀況視察記

災害强度委員　黒田茂
矢田鐵藏
三浦尙史

1. 一般被害狀況

昭和10年1月25日午前7時50分、阪急寶塚新溫泉內大歌劇塲舞臺裏東北隅の大道具係休憩室より發したる火災は忽ち舞臺より觀覽席に延燒し60臺餘の消防ポンプ其他の大活動も建物の高層なりし爲と、この地が上水道の設備なく、僅かに阪急關係の建物に使用せる私設水道のみなりし事、又同劇塲裏の武庫川も冬枯れにて水少なく、用水路をせき留めて漸く水を得、或は同劇塲向ひ側の動物園のプール其他より水を得る等の水利甚だ悪しかりし爲、消防意の如くならず、午前8時10分には舞臺上鐵骨トラスは、鐵骨鐵筋コンクリートの外壁を殘して燒け落ち益々火勢を强めて內部一面は全く火の海となり、內部より盛に火を吹き、さしも豪華を誇りし同劇塲も無殘なる姿を殘すのみとなり午前9時30分漸くにして鎭火せり。

本劇塲は大正12年1月23日當時パラダイスと稱せし歌劇塲が同樣火災のため燒失せる後新築せるものにして本邦有數の大劇塲なり、今その概要を示せば次の如し。

1. 階數

觀覽席	3階建	休憩室	5階建
舞臺	1階建（地階付）	樂屋	3階建

2. 各階面積

地階	390.5坪	1階	756.98坪
中2階	270.15坪	2階	343.65坪
中3階	221.55坪	3階	233.53坪
屋上階	15.33坪	屋上第2階（水槽）	6.75坪

以上延坪　2,238.49坪

3. 定員

1階	1,620人	2階	936人	3階	832人

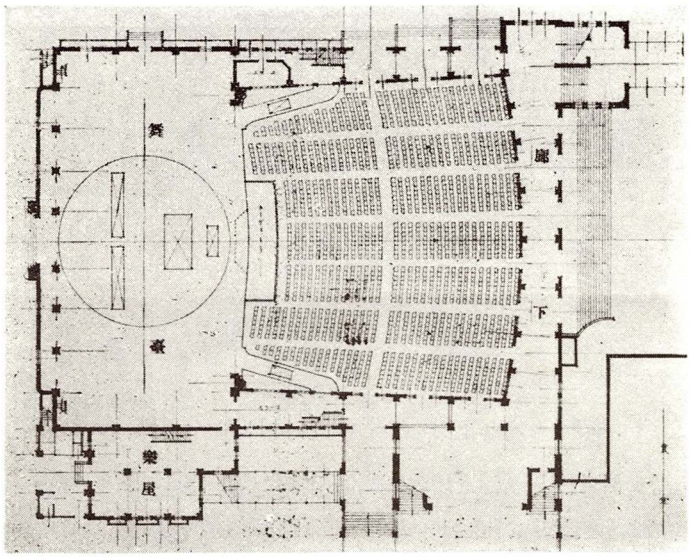
4. 階高

樂屋パラペット	10.45 m	舞臺屋根棟	22.5 m
觀覽席パラペット最高	20.8 m	水槽塔屋最高	24.2 m
觀覽席屋根棟	25.9 m	換氣塔最高	26.3 m
避雷針最高	33.4 m		

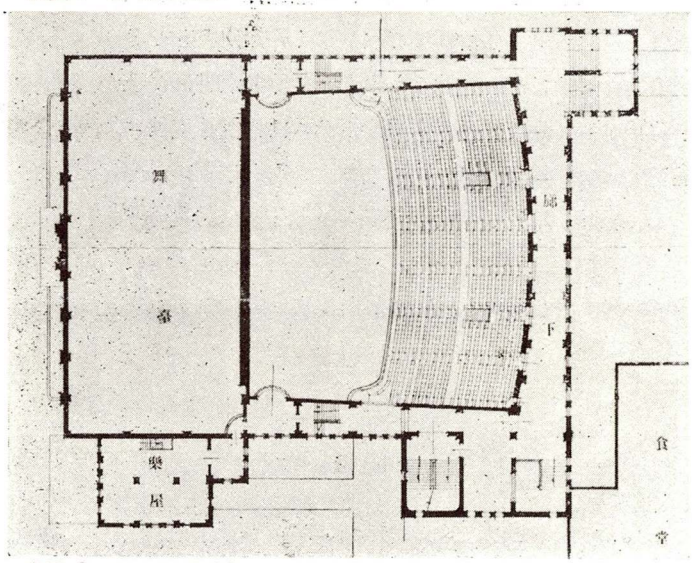
5. 各階諸室配置

A. 觀覽席の部

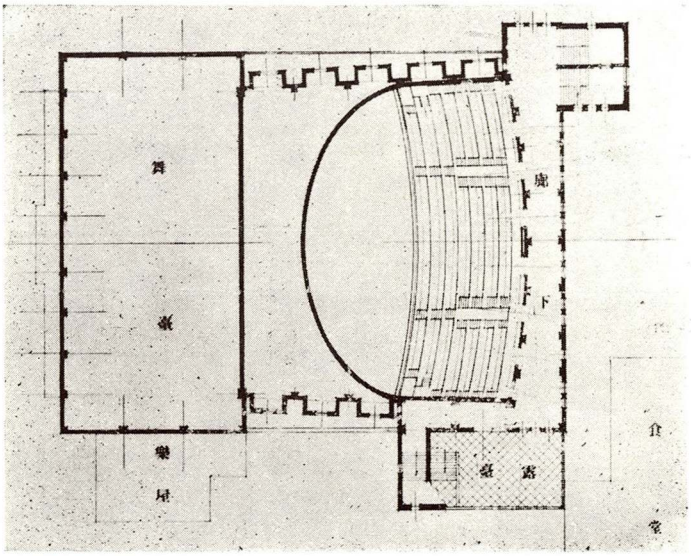
地階　煖房機關室



寫眞 1　第1階平面圖



寫眞 2　第2階平面圖



寫眞 3　第3階平面圖

1　階　觀覽席、休憩室
廊　下、賣　店、
中 2 階　休憩室、投光室
電氣室、廊　下、賣　店
露　臺
2　階　觀覽席、休憩室
廊　下、豫備室
中 3 階　休憩室、廊　下
賣　店、豫備室
3　階　觀覽席、休憩室
廊　下、豫備室、露　臺
屋　上　露　臺、物　置
屋上第2階　水槽室

B. 樂屋の部

地　階　大道具、オーケストラ、樂手室、電氣室奈落　、樂屋用便所、同浴室、同洗面所、　客用便所
1　階　舞　臺、舞臺係室、事務室、コーラス室監視室、小使室、夜警室
2　階　着附室、教師室投光室、電氣室
3　階　化粧室、應接室豫備室
外に　葡萄棚、ブリツヂ投光梯子

6. 防火並に消火設備

防火設備としては觀覽席と舞臺との境界に防火扉ある事及び舞臺開口に石綿織布製の防火幕あり、防火扉は或程度効力を發揮せるものゝ如くなるも、織布製の防火幕は引下ろす術もなく、從つて何等の効果なく、この舞臺開口より炎が觀覽　方面へ奔出せるものなり、然れどもこの防火幕は多少焦げたる所ありしも燒跡に一部殘存せり。

7. 竣工期日　大正12年10月着工
大正13年7月19日竣工

2, 構造及仕上概要

A. 舞臺、及奈落

トラス、鐵骨造、屋根、リブラスコンクリート

壁　體　鐵筋コンクリート造

舞臺床　鐵筋コンクリート造床板仕上

廻舞臺　木造

網　塲　木造

防火幕　鐵心石綿織布製

外部出入口　ステイールシヤツター

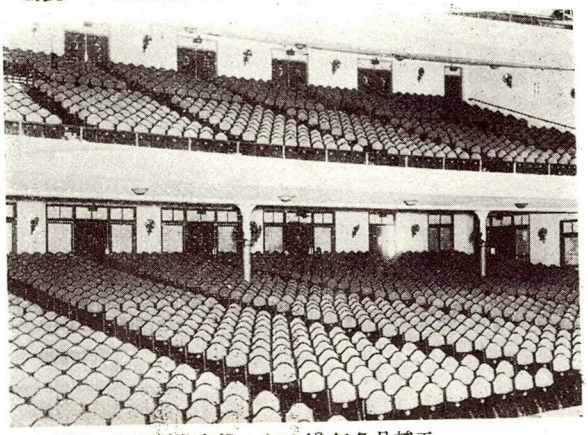
B. 觀客席

平　塲　木造床

大天井　木骨造、石膏にアラバスチン及金粉仕上



寫眞 4　寶塚劇場外觀　大正13年7月竣工



寫眞 5　寶塚劇場內部　大正13年7月竣工

トラス　鐵骨造

屋　根　リブラスコンクリート造

ギヤラリー　鐵骨トラス、木製下地、ラスモルタル

觀客出入口　木扉

廊下、床階段　コンクリート下地木造床

窓　スチールサツシユ

壁　コンクリート下地、外部白セメント入「スタツコ」內部アラバスチン及金粉仕上

C. 樂屋、事務室部分

床　コンクリート下地疊敷又は木造床、劇塲部との境界壁、鐵筋コンクリート造漆喰仕上、防火扉使用

柱、梁、床版、主要壁體

鐵骨又は鐵筋コンクリート造にして、鐵骨部は凡てトラス、ギヤラリートラス、を除きコンクリート被覆を施す。

3, 延燒狀態

地階奈落より發火せる炎は電氣室機械室等の可燃性油類に引火して火勢を助長し廻舞臺を燃燒して舞臺面に炎上し、大小道具書割に類燒し宛然爐中の火の如き猛炎と化し縱令防火幕の完全閉鎖せりとするも前述の織布防火幕なれば火炎の吸引性により引捲られ遂に觀

客席に奔出せる火炎は平場床椅子ギヤラリー床椅子等の可燃性物を類燒し天井を燒落し火炎は煙と共に各廊下に迸出し特に其上昇性は3階ギヤラリーより同前面廊下に集中せるを認められる。

東北よりの微風程度の風はありしも、建物の性質上舞臺廻は外部に開口少なく、又觀客席は外廻りに歩廊を廻らし内部は「シヤツト」をなす爲、火勢は舞臺の屋根を突抜け上昇し、各歩廊の床板は殆んど延燒されをるも階段室は火炎を誘導せる形跡少なく、火元に近きもの並に3階階段を除き踏板蹴上板の殘存せるもの多く煙及熱風は凡ゆる間隙より迸出せしも、火炎の下を這へる傾向少なく、平場のギヤラリー下には椅子その他の可燃物殘存し、2階3階ギヤラリーは殆んど燒かれたるも「ラスモルタル」の被覆の爲「ギヤラリートラス」は多少撓曲せるのみの如し、(天井は木製なれば燃燒しラスモルタルは殆んど剝落せり)火勢は舞臺より客席に迸出せる後に舞臺トラスの崩落ありしものと認められ、猶火炎は舞臺口より前面ギヤラリーの上部に最もつよく吹付けしものの如く客席トラスは一文字上のものは無被害を思はせるものであり、中央部より前面廊下に及び變形甚だしく亦歩廊も下階より上階に及び、兩側より前面に被害甚大にして三階ギヤラリー前面の歩廊最も著しくコンクリートの變質を認め得らる。

客席屋根トラスは轉落せるものなきも變形により且、屋上ラスコンクリート及び塔の重壓により屋根に大龜裂を生じ舞臺屋根トラスは全部崩落し飴狀に變形又は切斷し柱との取付は引ちぎられ、妻側のコンクリート壁及鐵筋コンクリート柱は内部に傾斜彎曲し被覆は剝落す、火炎は屋根面に放出せる爲四周壁面は上部の窓其他の開口を除き餘り火炎及煙を迸出せざりしものの如く下層の開口は燻蒸の形跡少なし。

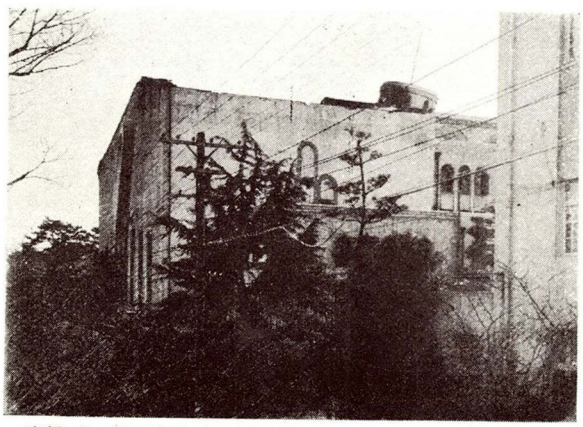
隣接樂屋は劇場部との境界、鐵筋コンクリート壁にして且鐵扉なりし爲壁に沿へる廊下は煙の爲燻蒸せられし形跡あるも火炎による被害は認られず。

4. 被害詳細

A 外觀

入口道路方面よりの外觀は寫眞6の如くその道路に面せる舞臺周圍の鐵筋コンクリート壁體が多少の傾斜あるを見る、而してこの部分の上部にありし通風塔並に屋根は墜落し、觀覽席屋根の通風塔は傾斜せり。

武庫川方面よりの外觀は寫眞7の如く向つて右側階段室並に各階廊下の外壁はそのまま形態を存するも、火災と消防の爲3階廊下の窓ガラスは殆ど全部破損し、又屋根



寫眞 6　燒失舞臺裏鐵骨鐵筋コンクリート　壁體の傾斜

妻にある鎧戸よりは盛に黒煙の噴出せし形跡あり。

3 階及び中3階床の部分にある汚染は消防の水の滲み出したるものなり。

殘存せる觀覽席上部の屋根は寫眞8の如く防水層(天然スレートマルソイド仕上)に大龜裂を生じ、下のコンクリートに迄及ぼし所々にコンクリート墜落の箇所あり、其破壞點より濛々たる黒煙と炎とを噴出したる形跡著し、通風塔は約10°傾斜せり、寫眞8左方には墜落せる舞臺屋根のありしなり



寫眞 7　武庫川方面よりの外觀
階段室及各階廊下のガラス破損及び妻棟の鎧戸より黒煙の吹き出でし形跡

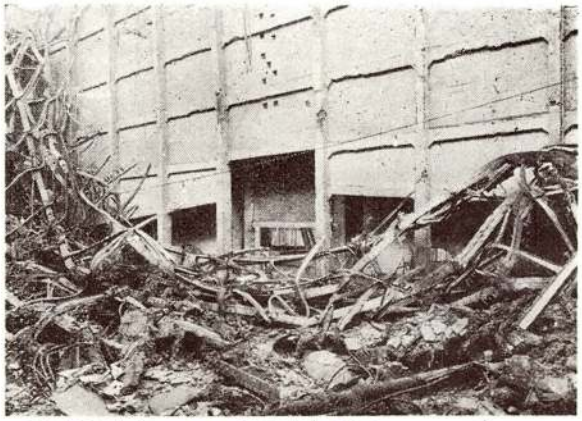
B. 舞臺及び樂屋の部

舞臺裏東北隅の大道具係休憩室より出火したると、この附近に置かれたる物品が皆燃え易き物のみなりし關係上舞臺附近の火勢が最も強かりしものと考へる。

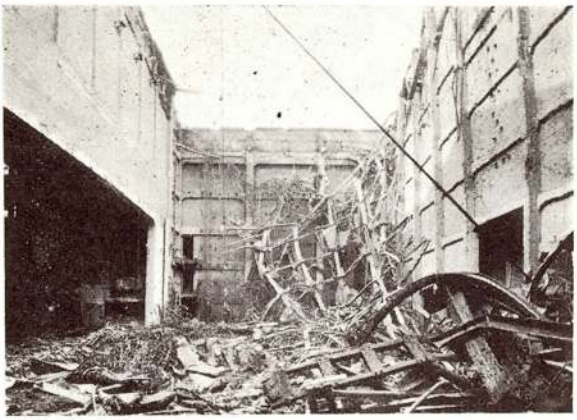


寫眞 8　殘存せる觀覽席上部屋根

而も 23,5 m の舞臺屋根棟上には、長徑 6 m 短徑 4 m の楕圓形にして高さ 2,5m の大通風塔あり火勢をして益強大ならしめたるものならん。この部分の屋根は 10cm 間隔に約 2cm のハイリブを有するリブラスに約 10cm 厚のコンクリートを打ちその上に防水層を有するため約 300kg/m²位の荷重を推定さる。而してこの屋根は鐵骨のトラスにして天井もなかりしものなり、元來鋼鐵の融點は約 1500°C にして非常に高けれども 500°C 位の熱にて軟化飴狀となるものにして舞臺裏の火力のためこのトラスは飴狀になり、上部の屋根材の重量が大なりし事も手傳ひて、屋根全部が墜落したるならん。このトラスを支へたる外壁は厚さ約 20cm の鐵筋コンクリート造にして 3,5m 乃至 5.5m 間隔に配置されたる、54cm× 0cm のコンクリートに被覆された鐵骨柱及び、中央部にて 42cm 兩端部にて 68cm の同樣コンクリートにて被覆されたる鐵骨梁によつて支へられて居りコンクリート中の骨材は熱によつて膨張するに對してセメントモルタルは始は膨張するも 650°C位にて却つて收縮し 700°C 以上にて再び膨張するにより、茲に必然的に龜裂を生ずるものなるも、今回の火災の場合には之に加ふるに屋根トラスの墜落したる時の應力の爲に四方の鐵筋コンクリート壁體が各々內部に少し宛引かれたるものにして、寫眞9乃至15に見る如く梁及び柱の所々に小さき剝落があり、各所に龜裂を生じたるものなり。寫眞9は舞臺正面より舞臺後方の壁體及び屋根トラスの飴狀になりて墜落せるを示すものにして、柱



寫眞 9 舞臺正面より後方壁體を望む



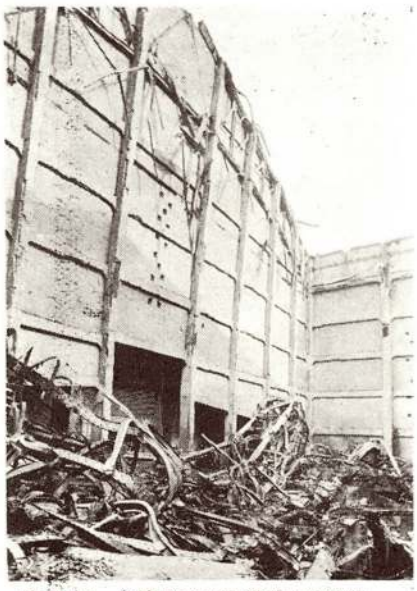
寫眞 10 舞臺東側壁體

の鐵骨に對する被覆不充分なりし爲、鐵骨面の露出せる事並に後方防火扉が半開になりて止まりたるを見るべし。

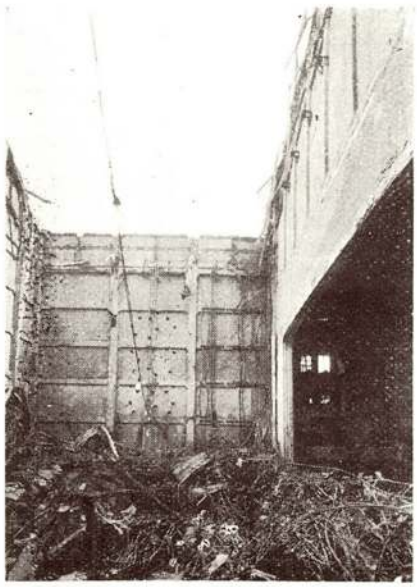
寫眞 10 は舞臺東側の鐵筋コンクリート壁體を望みしものにして東北隅出火點附近の屋根トラスの支點が一部殘存せるため、鐵骨トラスが壁に斜めに引懸りたる所なりこの鐵骨トラスの陸梁は 150mm×150mm ×15mm のアングル 2 枚にして、横のつなぎは 200mm×100mm の I 型鋼にして何れも全く飴狀に曲りくねりたるものなり。

寫眞 11 は舞臺裏西北隅の壁體及び墜落せる鐵骨トラスの慘狀を示すものなるも、西側壁體の柱の上部、鐵骨接合部に於いてコンクリート剝落せるを見る。

寫眞 12 は舞臺裏西側の壁體を望むものにして、舞臺中、廻り舞臺の部分のみ木造なりし爲燒落ちて、他の鐵筋コンクリート部分は殘存し、これ等の上に屋根スラブの墜落せる狀態を見るべし。



寫眞 11 舞臺裏西北隅壁體及び鐵骨トラス



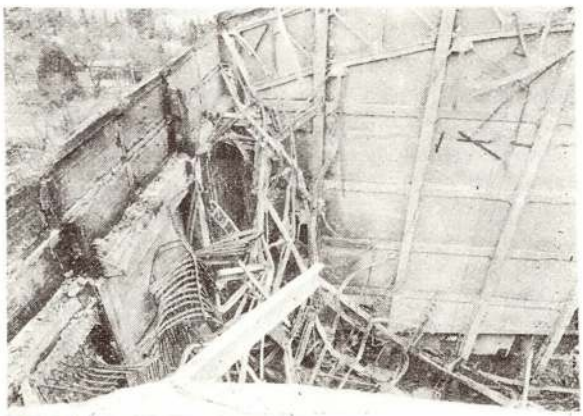
寫眞 12 舞臺裏西側壁體

寫眞 13 は舞臺下地下室奈落より燒け落ちたる舞臺裏を望みたるものなり手前に見ゆる煉瓦積は廻り舞臺の足場なり、この煉瓦積も後方の分 2 ケ所は倒壞せり

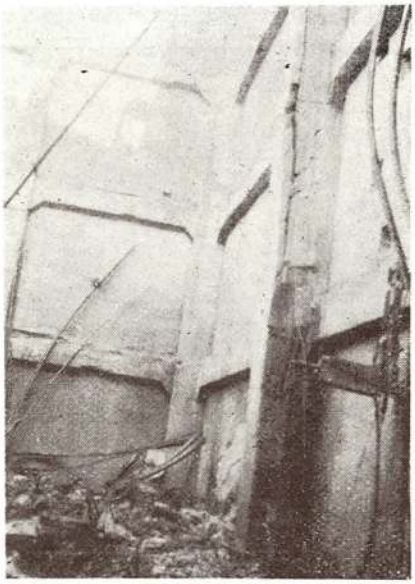
寫眞 14 は殘存觀覽席屋根上より舞臺裏東側壁體の上部を望みたるものにして、左方鐵



寫眞 13　地下室より舞臺裏を眺む



寫眞 14　觀覽席屋上より舞臺裏を望む



寫眞 15　鐵骨鐵筋コンクリートの柱の龜裂

骨柱とトラスとのコンネクションの部分のプレート並にアングルが引ちぎられたるを見るべし。

寫眞 15 は西側壁面の鐵骨柱のコンクリート被覆部が鐵骨緣端に沿ふて長き大龜裂をなせるを示すこの部分の柱並に壁體は矢張り內側に向つて撓曲せる關係上、應壓側のコンクリートが膨れ出したるものと考へらる。

寫眞 16 は舞臺上に墜落せる屋根のメタルラスコンクリートの殘骸と鐵骨の被害詳細なり。寫眞 17 は同樣屋根鐵骨トラス及び繫ぎ材の彎曲を示すものにして前面に蛇の如く彎曲せるは 200mm×100mm の I 型鋼なり、倘樂屋の各室投光室等は鐵筋コンクリート壁體ある等の關係にて被害僅少なり。

C. 觀覽席の部

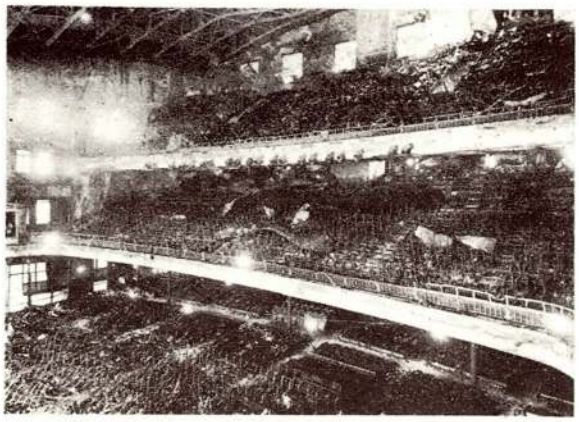
觀覽席上部の大天井の、鏡板は石綿製の金剛板を用ひ、格緣は鐵筋を以て補强せる石膏とし「アラバスチン」及び金粉仕上の華麗なるものなりしも大天井全部剝落、燒失せる觀覽椅子の鐵枠の殘骸の上に無殘に橫はりたり、觀覽席上部の屋根トラスは多少の彎曲を受けたる程度にて墜落には至らざりしも延燒更に長時間に涉れる時は或は屋根全部が墜落せるにあらざるやと考らる。



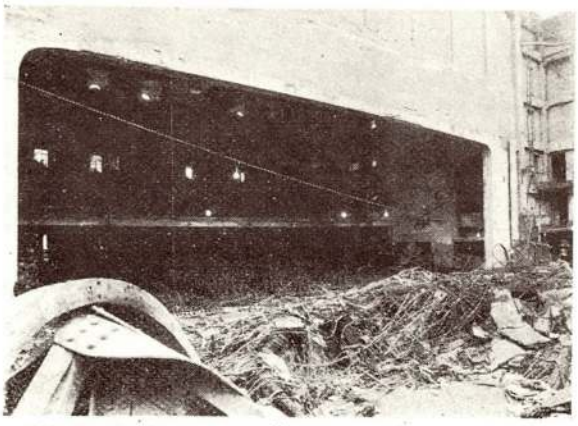
寫眞 16　屋根メタルラスコンクリートの墜落と鐵骨被害



寫眞 17　舞臺上の鐵骨の墜落被害



寫眞 18　觀覽席全景



寫眞 19　舞臺裏より觀覽席を望む

又舞臺裏にて猛威を振ひたる火炎は舞臺と觀覽席との境界の鐵筋コンクリート壁體によつて觀覽席上部の屋根に對する威力を失ふて、單にその開口部より下を這ふて觀覽席を燒きたるものなり、而も各階觀覽席床は木造床なりしため、茲に於て更に火力を增大して椅子に延燒せるものと考らる。觀覽席椅子の被害は1階にては2階ギヤラリーにて覆へる部分即ち、そ號以後の椅子は消防手により引倒されて、そのまゝに殘存せり2階及び3階ギヤラリーの椅子は全部燒失して鐵の枠を殘すのみなり、又2階及び3階ギヤラリーの天井は木骨にメタルラスモルタル天井なりしも、第1階に面する天井は無被害なるに反し、2階ギヤラリーの面する天井はメタルラス、モルタル共に全部剝落し、木造天井下地のみを殘せり之は1階後方には火炎至らざりしも2階ギヤラリーにはその後方の廊下側より火炎を吹き込まれ、その木造床を燃して火勢はドラフトの關係上餘りこの天井には烈しく當らざりしを示すものならん。

寫眞 18 は觀覽席の全景なり、1階後方の椅子の殘存狀態 2. 3. 階ギヤラリーにその天井の墜落せる狀態を見るべし。

寫眞 19 は舞臺裏より觀覽席を望むものにして、舞臺開口上部の上塗漆喰の一部剝落せり。

寫眞 20 は3階ギヤラリーの最高部より觀覽席屋根トラス並に舞臺面を望むものにして、觀覽席屋根トラスの彎曲狀況並に天井部にありし、ドラフト筒の將に墜落せんとする狀態を示す。

D. 廊下、階段室の部

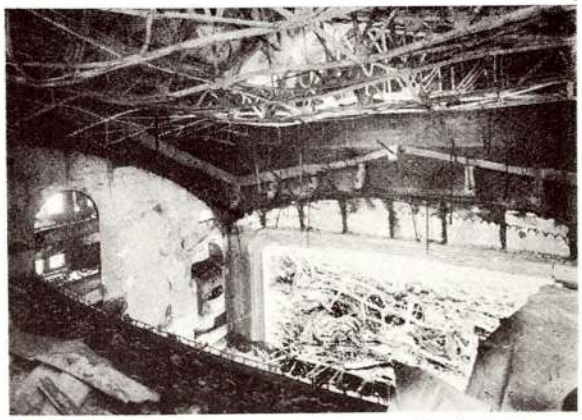
廊下階高は第1階、中2階、第2階共に 3,64m、中3階 3.8m 第3階、3.2m 後方廊下、巾　最小部 3.64m　最大部 5m　長さ 33m　左右廊下、巾最小部 2.43m　最大部 3.2m

階段室 8m×7m　幅員　内法 3.4m 踊り場巾 3.64m 壁體　厚さ 18cm 乃至 30cm の鐵筋コンクリート造にして外部は白セメント入り「スタツコ」内部は、第1階は下部壁紙、上部及び各階は「アラバスチン」仕上、廊下及び階段室床は鐵筋コンクリート床上に轉ばし根太に木造床板張りなり。

第1階廊下の被害は寫眞 21 に示す如く床は木造部及び之に敷きたる敷物迄何等の被害なし、又壁體及柱に對する壁紙は、消防による水の汚點を受くる他被害なし、尙第1階廊下の天井は仕上の漆喰が大きく剝落せるを見る。寫眞 21 の天井に見ゆる汚點は消防の水が上の廊下より滲出せるものなり。

寫眞 22 は中2階廊下の被害狀況にしてこの階は2階ギヤラリーに通するトンネル口より火炎を多少受け、階段室方面よりは黑煙を多く受けしものゝ如し。

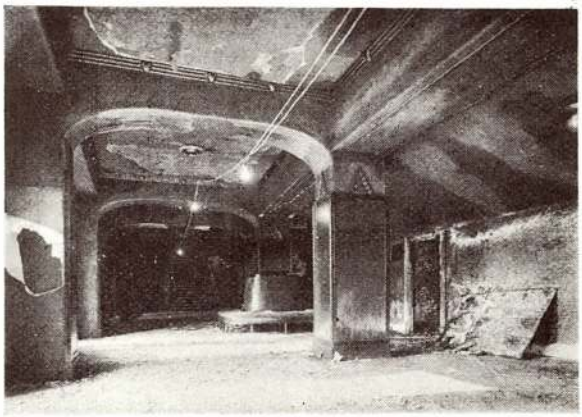
從つて觀覽席入口の戸は殆ど燒かれ、そのトンネル内側の壁は焦げたる狀況あり、然れども廊下の柱に取付けたる休憩用椅子は何等の被害なくして殘存し、柱面裝飾用の鏡は金色に變色して殘存せり、床は無被害なるも天井は上塗が煙のため煤けたる部分と剝落せる部分とあり、寫眞 23 は觀覽席入口の詳細なり、入口の壁體は焦げたるも、額緣には被害なく、その上部の傾斜天井は焦げたるを見るべし。



寫眞 20　3階ギアラリーより殘存トラス並に舞臺面を望む

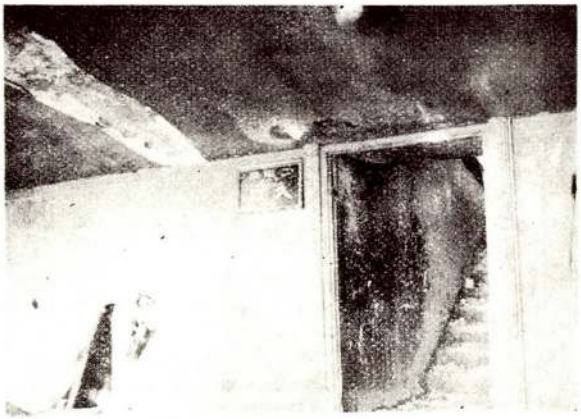


寫眞 21　1 階廊下の狀態



寫眞 22　中2階廊下の被害

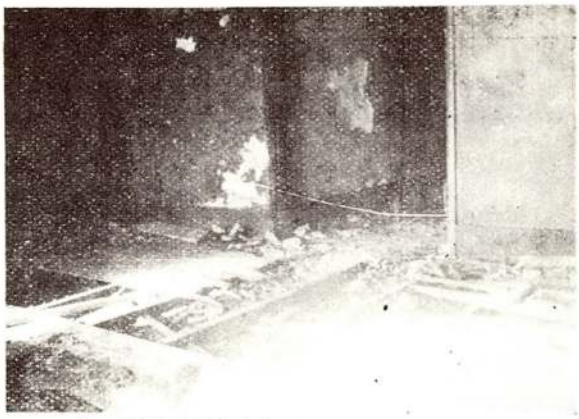
寫眞 24 は第2階廊下の被害を示す、この階に至りては被害更に甚しく、階段側より上昇せる火炎並に黑煙と觀覽席入口より逆流せる夫とにより、木造床板は根太を焦して燒失し、觀覽席入口の扉、並に額緣は燒け落ち或は焦げたる狀態を示し、更に壁仕上の漆喰及びアラバスチンは、天井部分の大部分は剝落し、梁の部分には熱のため龜裂を生じ、將に剝落せんとするものもあり、尙外側柱の仕上は大きく剝落せる箇所あり。



寫眞 23　中2階廊下觀覽席入口部分



寫眞 24　2 階廊下被害狀況



寫眞 25　中3階廊下木造床の被害

寫眞 25 は中3階廊下の木造床の被害を示す、之は一部に燃え移りたるを消防手が破壞せりと思はるゝ點なるも、額緣の木部の黑焦並に壁體仕上の焦げ或は剝落せるを見る。

寫眞 26 は中3階西側廊下より3階ギヤラリー觀覽席を望みたるものなり、天井部分の仕上は全部剝落、床の木部大部分焦げたるを見るべし。

寫眞 27 は中3階より第3階に至る階段の被害狀況なり、階段床にも木造の蹴上げ踏面をつけたる爲、火炎は之を傳ふて上昇し、物凄き狀況を呈せるものゝ如く、階段の周壁の黑々と焦げたる狀態を見るべし。

寫眞 28 は第3階廓下の被害なり、この廓下に至りては火炎は更に猛烈となり、觀覽席を燃え盡したる勢を以て入口より出づる焰と、中3階階段より上昇せる焰とにより、可燃燒物のすべてを燒き盡したるが如き感あり、即ち木造床の大部分と入口扉及び額緣等全部を燒き、鐵筋コンクリート壁體に對する表面仕上材は殆ど全部剝落してコンクリートの生地を表はし、コンクリートは水分を失ひて多少脆弱となれり、この階の外部に面せる窓のガラス、全部破損せり、以上の如く廊下及び階段室は上昇するに從ひて被害程度を增大せるを見るべし。

5. 結　論

今回の火災が早朝にして訓練せられたる從業員の少なかりし事は消火力の減少となりし憾を思はしむるも、觀客の皆無なりしは避難其他の事項よりする被害を絕無ならしめ、劇場火災に例を見る戰慄すべき死傷者數を出さず、僅々 16 人の負傷者に止まりし事は不幸中の幸と云ひ得べし。

凡そ劇場の舞臺裏なるものは大小道具、書割等の可燃燒物の夥敷も燃易き狀態に置れた

ると推すべき箇所なれば茲に火を發すれば正に爐中の薪の如く火勢頓に猛烈となるは論を俟たず火を事前に防ぎ得ず大事となりし場合は少なく共其範圍を極度に限少すべく然も舞臺の關係上こゝに區劃を設くることは不可能なれば其火は少なくとも客席又は隣接の各室に及ぼさず、茲舞臺のみを犧牲とすべく、從つて一文字口の防火幕は極力完全なるべきを痛感せり、現今のかゝる建物に於ては此點完全に留意せられたることを確認するも亦他山の一石として再確認を要するもの無しと云はれざるべし。

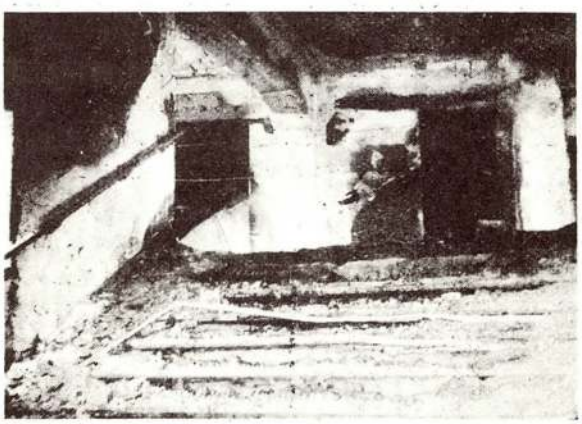
コンクリート壁及び鐵扉の箇所は完全に防火力を發揮し、樂屋部分及外邊には殆んど被害を及ぼさゞりしは又其防火力の威大さを思はしむるに充分なるべし。

鐵部露出の爲トラスの損害は甚大なりしも、前年よりの規定によりこの憂も頗る減少せられたるものと考ふ「ギヤラリートラス」は「ラスモルタル」を以つて被覆せられし爲3階は屋根トラスと同樣の火炎に犯されしものゝ如きも猶且つ變形僅少なる狀態にあり。

コンクリート面仕上の漆喰又はラスモルタル塗の如きは其膨脹龜裂の爲火炎を受けし箇所は殆んど剝脫せるも亦頗る防禦力あることを立證し茲に鐵部を多少に拘らずかゝる材料にて被覆することは亦頗る必須の條件たるを思はしむるものなり。



寫眞 26　中3階西側廊下より觀覽席を望む



寫眞 27　3階の西階段の被害



寫眞 28　第3階廊下

劇場の火災としては殆ど舞臺方面に危險性を有し、舞臺を外の部と完全に遮斷し得れば(舞臺方面其物が開口を多く要さゞる關係上この點相當容易なるべし)こゝの火災は燻燒現象に止まり其消火又易々たるものなるべし。尙我々委員が火災の翌日現場を視察するに際し、竹中工務店、鷲尾九郎氏、井上氏、及現場員諸兄より多大の御便宜を與へられし事及び同劇場各種資料を御提供下されし、鷲尾九郎氏、並に大阪府建築課西島勇氏に深甚の謝意を表する次第なり。　(10年1月31日)

建築材料陳列場記

○大阪窯業株式會社

日本に於ける煉瓦製造の先驅は、恐らく同社の有する誇りの一つであらう。蓋し同社は、其の前身を硫酸瓶製造會社と稱し、元大阪府西成郡川南村大字湊屋に工場と本社を有し、名の如く當時漸く興隆せる硫酸製造工業に對して、之が容器なる陶製瓶を製造したのに始まる、實に今より50餘年前の明治15年1月12日が、其の創立日である。而して其の當時硫酸瓶を燒製するに當り、之が下積燒に用ひた、バン瓦を端なくも赤煉瓦として工業化されたのが、大阪窯業株式會社の產まれる一轉機であつた。當時に於ける我が國の工業は、漸く新興の域に進み、單に〳〵バン瓦〵として餘り顧みられなかつたものが、漸次それ自體としての需要が起り、極めて有望なるを達觀せる硫酸瓶製造會社の當事者は、專ら赤煉瓦の製造へ業務を轉換せんことを圖り、明治21年1月〳〵有限責任大阪窯業會社〵と改稱し、更に硫酸瓶製造會社當時の資本金10,000圓を50,000圓（拂込40,000圓）に增加し、當時他に比類なき最新なる設備即ち〳〵ホフマン式煉瓦燒成輪環窯〵を築造して愈々赤煉瓦を製造に掛つたのであつた。是が、同社が如今の大を成す第二の出發點であつた。而して爾後7年明治27年に、商法典の實施されるに方り、是に準據して同年1月11日資本金40,000圓（前社の拂込資本額のまゝ）の〳〵大阪窯業株式會社〵として設立登記を了した。蓋し現在の同社である。斯くて大阪窯業株式會社は、完く其の形式と、煉瓦工業への基本的なる素地が成つた。

爾來、50餘年間（有限責任大阪窯業株式會社と改稱以來、47年間）最初10,000圓の資本金は、增資9回を重ねて、15,000,000圓に達し、時機可ならざるに鑑みて、現在1,100,000、圓即ち、壹百餘倍の膨脹を遂げ、其の製品量に於ても、明治22年を100とせば、今日まで最高實に2,713.8最低ですら、975.4と成る。製品の種類に於ても、機械製赤煉瓦、ホロータイル（空洞煉瓦）、輕量煉瓦、耐酸煉瓦、耐火煉瓦、斷熱煉瓦、鋪道煉瓦、アスファルト滲透煉瓦、鐵筋煉瓦、表積特種煉瓦、化粧煉瓦、貼付煉瓦、內部貼付用タイル、耐酸タイル、クリンカータイル、テラコツタ、モザイツクタイル、マジヨリカタイル、敷瓦、及び、其の他の多種多樣に涉つてゐる。而して、同社は、凡てに於て、大規模な設備と、膨大なる生產量を有して、各種の煉瓦に製造主力を注いでゐるが、その中にても、時代の趨勢と、我が建築界の進展に伴ひ、內外製タイルに就いては、殊に目覺ましい發展を遂げてゐる。

斯く、最古の誇りを有する歷史と、常に嶄新なる製品を有せる同社の50年間に爲し來れる膨脹發展の迂餘は到底、斯の稿に、竭くし得べくもないが、就中、大正5年、明治神宮御造營工事用赤煉瓦を始め最近開通せる丹那トンネル用煉瓦千數百萬個を納入し、大正10年10月、鐵道50年祝典を擧行されるに方り、同社が、帝國々有鐵道へ納入したる煉瓦は、殆んど全國各地に及び、其の數凡壹億萬箇に達して、國有鐵道の進展に貢獻せるを認められて、時の鐵道大臣元田肇閣下より表彰され更に昭和5年3月、帝都復興事業完成記念祭を擧行されたるに方り、曾つて同社が東京市及び復興局へ、復興工事に納入したる鋪道煉瓦、實に、20,000,000箇に達し、其の他、鐵筋煉瓦、等の特殊煉瓦を納入せること、巨額に達して、我が國の歷史を飾る復興事業に貢獻せること、寔に多大なるものがある。

同社に就いては、斯の如くに50餘年の業績を有せるだけに、それだけ多くの記すべきものがある同社現在の狀況を、下に記せば

●資本金 1,100,000圓（全額拂込濟）

●製造品目　赤煉瓦、空洞煉瓦、鐵筋煉瓦、鋪道煉瓦、敷瓦、アスファルト煉瓦、斷熱煉瓦、耐火煉瓦、耐酸煉瓦、化粧貼付煉瓦、タイル、テラコツタ、モザイツクタイル。

●役　員　取締役社長、磯野良吉、專務取締役 谷口德政、取締役　白崎廣文、取締役　山田馨 取締役　高野新治郎、監査役　中辰之助、監査役　淺田平藏

●營業所　本店　大阪市北區堂島濱通3丁目 出張所　東京市神田區神保町1丁目

●工　場

岸和田工場　大阪府岸和田市下野町

貝塚工場　大阪府泉南郡貝塚町

向日町工場　京都府乙訓郡久世村（省線向日町驛前）

平坂工場　愛知縣幡豆郡平坂町

東京工場　埼玉縣北足立郡草加町

●職工數　各工場を通じて約1,000人

●生産能力（年産）

赤煉瓦（機械製）、空洞煉瓦、鐵筋煉瓦、1億萬箇

貼付煉瓦、テラコツタ、2千萬箇

タイル、モザイツクタイル、1千萬箇

鋪道煉瓦、其の他、特種煉瓦、1千5百萬箇

○マルエス工業株式會社

大阪市東區高麗橋5丁目10番地

電話本局　5010・5011・5012番

工場　大阪市大正區大正通9丁目60番地

（電話櫻川　3195番）

支店　門司市東本町1丁目

（電話　378・690・1560番）

出張所　東京市神田區小川町1丁目8番地

（電話神田（25）1386番）

同　　廣島市京橋町14番地

（電話　6691番）

同社の重なる營業課目は陸屋根、地下室の防水工事及び耐酸、耐油、耐アルカリ性コンパウンド應用工事の責任施工、並びに床板特許キングブロック、壁下地特許サトウー鐵網等の製造販賣を行ふものであつて、其他に佐久間パブコ工業株式會社をはじめ米國バラフキンカンパニー、米國ターマツクカンパニー等の各代理店を經營して、近代建築の主要部分を構成する工事の責任施工を一手にやつてゐるが、同社としては創業日尚淺きにも拘はらず優秀卓逸せる製品と、細心周到なる技術と相俟つて一躍斯界の寵兒となり、既に此種の施工に當つては絶對に他の追隨を許さず、日本の權威として自他共に任じてゐる。殊に近來人絹ならびに各種纖維工業の發達は、各地に工場建設の機運を促進せしめた折柄、これ等の建築の屋根地下室防水工事及び耐酸工事には殆んど同社の施工を見ざることなく、殆んど獨占のかたちにて帝人關係の諸工場に於て同社の施工が永久の誇りを語つてゐることは世既に周知のことである。

また屋根防水の工事に於ても特筆大書すべきは明治神宮聖德記念館及び恩賜記念自治館等を施工したことである。畏くも明治大帝の御偉業を記念し奉る建築に一點の微瑾があつてもおそれ多いのは茲に贅するまでもないことであるが、同社が選ばれて主要部分である屋根工事を承つたことに見ても如何に同社の技術が卓絶せるかを證するものであらう。

猶今回の大風水害に於て建築材料が拂底を告げ從つて到るところ暴利を貪るの聲を聞きし折柄、同社が在庫品全部を直接市價によつて提供し、或ひは一般被害者に無料にて頒布して世の視聽をあつめたことは終世人の記憶に新たなるところである。

今左に同社が施工したる重なる一端を抽記して見よう。

帝國人造絹糸株式會社岩國工場、同廣島工場、同三原工場、倉敷絹織株式會社、日本化學製糸株式會社、旭ベンベルグ絹糸株式會社、日本毛織株式會社、大日本紡績株式會社、日清レイヨン株式會社、錦華人絹株式會社、朝鮮窒素肥料株式會社、日本窒素肥料株式會社、昭和肥料株式會社、大阪造幣局、日本染料工場、日本レイヨン宇治工場、大日本麥酒博多工場、旭硝子工場、大藏省東京印刷局、東京陸軍大學校、東京帝大、東京美術學校、東京中央電話局、山陽ホテル、東京中央市場、東京海上ビルデイング、東京會館、東京千代田生命ビルデイング、東京日本勸業銀行、東京時事新報社、東京株式取引所ビルデイング、京都ホテル、御大禮博覽會、都ホテル、京都安田ビルデイング、大阪府廳舍、大阪市各小學校、大阪三越、大阪大丸、大阪ビルデイグ、大阪朝日會館、日本銀行、三菱銀行、寶塚大歌劇場、三菱倉庫、東洋紡績、大阪合同紡績、鐘紡各工場、日本毛糸紡、兵庫縣廳舍、同縣立病院、辰馬酒造、廣島市廳舍、愛媛縣廳舍、福岡市廳舍、九州電氣鐵道會社、日本足袋株式會社、明治製糖株式會社、八幡製鐵所工場、熊本市廳舍、鹿兒島縣廳舍、佐賀紡績、臺灣總督府廳舍、長崎紡績、野田醬油關西工場、阪神電鐵神戸地下線、同三宮ビルデイング、吳羽紡績、明正紡績、其他

時　　報

都市計畫法中改正

1 堺都市計畫地域追加變更ノ件

內務省告示第六百七號

昭和二年十月二十七日內閣認可堺都市計畫地域追加變更ノ件昭和九年十二月十二日內閣ノ認可ヲ受ケ昭和十年一月六日ヨリ之ヲ施行ス其ノ關係圖面ハ大阪府廳及堺市役所ニ備ヘ置キ縱覽ニ供ス

昭和九年十二月十七日

內務大臣　後　藤　文　夫

1 堺都市計畫街路中變更ノ件

內務省告示第六百六號

大正十五年三月二十九日內閣認可堺都市計畫街路中左ノ通變更シ昭和九年十二月十日內閣ノ認可ヲ得タリ其ノ關係圖面ハ大阪府廳及堺市役所ニ備ヘ置キ縱覽ニ供ス

昭和九年十二月十七日

內務大臣　後　藤　文　夫

街路番號 等級	街路番號 種別	街路番號 番號	街路名稱	變更區間ノ起點	變更區間ノ終點	變更區間ノ主ナル經過地	幅員
1	3	1	三寶濱寺線 但	出島町濱寺町大字下	濱寺町大字下濱寺町大字下	濱寺町大字下石津	15間 23米乃至27.5米
1	3	2	遠里小野鳳線	神石村大字市	神石村大字市	—	11米
2	3	3	大濱宿院線	大濱通2丁	大濱通2丁	—	11米

別紙圖面表示ノ通(圖面省略)

1 大阪都市計畫美觀地區指定ノ件

內務省告示第六百十號

大阪都市計畫美觀地區指定ノ件昭和九年十二月七日內閣ノ認可ヲ得タリ其ノ地區ヲ表示シタル圖面ハ大阪府廳及大阪市役所ニ供ヘ置キ縱覽ニ供ス

昭和九年十二月十八日

內務大臣　後　藤　文　夫

法律第54號

都市計畫法中左ノ通改正ス

第13條第1項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ災害其ノ他特別ノ事情ニ因リ特ニ急施ヲ要スル場合ニ於テハ認可後1年內ト雖モ之ヲ施行セシムルコトヲ得

〔參照〕

大正8年4月5日公布法律第36號都市計畫法抄錄

第13條第1項

都市計畫トシテ內閣ノ認可ヲ受ケタル土地區劃整理ハ認可後1年內ニ其ノ施行ニ著手スル者ナキ場合ニ於テハ公共團體ヲシテ都市計畫事業トシテ之ヲ施行セシム

市街地建築物法施行令中改正

1 昭和9年法律第46號施行期日ノ件

昭和九年十二月二十二日勅令第三百三十九號

昭和九年法律第四十六號ハ昭和十年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

尙法律第四十六號ハ次ノ如クデアル。

昭和九年四月六日　法律第四十六號

市街地建築物法中左ノ通改正ス

第七條中「道路敷地」ヲ「道路幅」ニ改ム

第八條　建築物ハ其ノ敷地ガ命令ノ定ムル所ニ依リ道路敷地ニ接スルニ非ザレバ之ヲ建築スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事由アル場合ニ於テ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第九條　建築物ハ建築線ヨリ突出シテ之ヲ建築スルコトヲ得ズ但シ建築物ノ地盤面下ニ在ル部分ハ此ノ限ニ在ラズ

第十條中「市街ノ體裁上」ヲ「市街ノ計畫上」ニ改ム

第二十三條　本法適用ノ區域ハ主務大臣ノ指定スル市街地トス

特別ノ必要アル場合ニ於テハ主務大臣ハ前項ノ市街地ノ外ニ亘リ本法適用ノ區域ヲ指定スルコトヲ得

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

從前ノ第二十三條ノ規定ニ基キ指定セラレタル區域ハ同條ノ改正規定ニ依リ指定セラレタルモノト看做ス

1 市街地建築物法施行令中改正ノ件

昭和九年十二月二十二日勅令第三百四十號

市街地建築物法施行令中左ノ通改正ス

第二十條中「市區町村」ヲ「市町村」ニ改ム

第二十八條ノ二ヲ削ル

附　則

本令ハ昭和九年法律第四十六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正九年勅令第五百四十號ハ之ヲ廢止ス

1 市街地建築物法施行規則中改正ノ件

昭和九年十二月二十六日内務省令第三十八號

市街地建築物法施行規則中左ノ通改正ス

第一條中第二號第三號第十七號及第十八號ヲ左ノ如ク改ム

二　地階トハ其ノ床面地盤面下ニ在ル階ヲ謂フ但シ天井高ノ三分ノ二以上ガ地盤面上ニ在ル階ハ之ヲ第一階ト看做ス

三　屋階トハ屋根裏ニ設ケタル階ヲ謂フ但シ地方長官其ノ構造、用途、床面積其ノ他ノ狀況普通階ト大差ナシト認ムルモノヲ除ク

十七　防火戸ハ甲種防火戸及乙種防火戸ノ二種トス

甲種防火戸トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ謂フ

イ、鐵製ニシテ鐵板ノ厚一、五ミリメートル以上ノモノ

ロ、鐵骨「コンクリート」造又ハ鐵筋「コンクリート」造ニシテ厚三、五センチメートル以上ノモノ

ハ、厚十五センチメートル以上ノ土藏扉

ニ、其ノ他地方長官前各號ニ準ズト認ムルモノ

乙種防火戸トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ謂フ

イ、鐵製ニシテ鐵板ノ厚一、五「ミリメートル」未滿ノモノ

ロ、鐵骨「コンクリート」造又ハ鐵筋「コンクリート」造ニシテ厚三、五センチメートル未滿ノモノ

ハ、木造又ハ鐵造ニシテ屋外ニ面スル部分ヲ厚三センチメートル以上ノ「モルタル」漆喰又ハ適當ナル厚ノ石綿盤ノ類ヲ以テ被覆シタルモノ

ニ、其ノ他地方長官前各號ニ準ズト認ムルモノ

十八　削除

「第二章　建築物ノ突出部」ヲ「第二章　建築物ノ敷地及高」ニ改ム

第四條　建築物ノ敷地ハ長二メートル以上道路敷地ニ接セシムベシ

地方長官ハ土地ノ情態、建築物ノ用途其ノ他ノ狀況ニ依リ必要アリト認ムルトキハ前項ノ規定ニ拘ラズ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第五條　削除

第二十四條中但書ヲ削ル

第二十五條　階段ノ構造ハ左ノ規定ニ依ルベシ但シ專ラ特殊ノ用途ニ供スルモノハ此ノ限ニ在ラズ

一、階段及踊場ノ幅ハ内法七十五センチメートル以上ト爲スコト

二、蹴上二十三センチメートル以下踏面十五センチメートル以上ト爲スコト

但シ多人數ノ使用ニ供スルモノハ蹴上十八センチメートル以下踏面二十六センチメートル以上ト爲スコト

三、高四、五メートルヲ超ユルモノニ在リテハ高四、五メートル以内毎ニ踊場ヲ設クルコト

階段ノ用途又ハ構造ニ依リ危險ナリト認ムルトキハ地方長官ハ前項ノ規定ニ拘ラズ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第四十一條ノ二　市街地建築物法施行令第三條第二號ロ又ハニノ物品ノ陳列場又ハ藏置場ニ對シテハ地方長官其ノ配置、構造及設備ニ付防火上必要ナル措置ヲ命ズルコトヲ得

第四十三條ノ二ヲ第四十三條ノ三トシ第四十三條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第四十三條ノ二　地方長官ハ建築物ノ一般構造設備ニ關シ土地ノ狀況ニ依リ本節ニ定ムルモノノ外必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

附　則

本令ハ昭和九年法律第四十六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大阪府令

1 市街地建築物法施行細則中改正ノ件

大阪府令第七十九號

大正九年十二月大阪府令第九十四號市街地建築物法施行細則中左ノ通改正ス

昭和九年十二月二十八日

大阪府知事　縣　忍

第二條中「第九號」ヲ「第十號」ニ

第三條中「第三號」ヲ「第四號」ニ

第十六條第一項中「第三號」ヲ「第五號」ニ改ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

建築裝飾協會の創立

家具並に室内仕上裝飾工事の進歩發達と併せて業者の地位の向上を目的として〝建築裝飾協會〟が今度大阪で創立された。そして其設立總會を去る1月25日建築倶樂部で催された。

建築界に當然設立されべくして出來てゐなかつたこの團體が而かも高遠なる理想を掲げて生誕したことは業界の爲祝福すべきことであつて同協會の確然たる努力奮闘を冀ふ。

因にその設立趣意書は次掲の通である。

設立趣意書

家具並に室内仕上裝飾工事の出來榮え如何が建築物全體の出來榮えに影響する處頗る甚大であることは今日何人も疑はない所でありまして輓近官廳、建築事務所、請負業者或は一般施主に於て特に此點に留意せられ、工場を有せざる中間商人を排し專ら生産業者により施工せしめんとする傾向著しきに至りましたことは、斯業に久しく苦闘を續けて參りました吾等建築裝飾業者が漸く安んじて品質の向上と價格の低下に邁進し得る所以でありまして洵に欣快に存ずる次第であります

乍併更に仔細に之を觀ますに等しく木工業者と謂ひ裝飾業者と稱しましても其生産設備、規模、技術經驗、信用等に自ら差異あるのみならず家具の如きは價格によつて品等を加減し得るの性質も少くないのでありますから同一の註文と雖も生産者の信用如何によつては必ずしも同價値の製品を製作し得るものではありません

即品質の糊塗或は一時的賣價の切下げを行ふ所の不正の業者が徒らに競爭市場に跋扈致しまして、施主に不測の損失を蒙むらしめたり建築事務所、請負業者等の信用を傷ける結果ともなつて居りますことは吾等の屢々見聞し來つた所であります

吾等は斯くの如き社會的不公正を排除して正當なる競爭の下に進んで斯業の向上を計るの急務であることを痛感すること已に久しく、今般下名等略々同一の地位にあるもの相寄り協議を重ねました結果茲に「建築裝飾協會」の設立を見るに至りましたのは素より社會的必要から生じた當然の歸結に外ならないのであります

本協會は專ら公正なる競爭によつて斯業の進歩發達に資し併せて業者の地位を向上せしめんとする以外に何等他意あるものではありません、會員も亦本協會によつて自由を束縛されるものではありませんが常に本協會々員であり優良品生産者であることを名譽と致しまして右の目的達成を期するものであります、乍併この事たるや頗る難事でありまして一朝に成果を期待し得るものでは無く、又業者のみの努力によつて達成し得るものでもありません、實に大方諸賢の深き御理解と御指導に俟つこと頗る大なるものあるに想到致しまして、茲に本會設立の趣意を明かにすると共に今後一層の御援助を希ふ次第であります

昭和十年一月二十五日

協會員（ABC順）

大阪　大丸家具裝飾部
富士建築工藝株式會社
大阪　三越家具裝飾部
内外木材工藝株式會社
日本樂器製造株式會社大阪支店
合資會社　大阪清水製作所
大阪　高島屋裝飾部

新　刊　紹　介

新築請負工事の經營

芝田　知重著

近時建築材料の進歩、建築工事設工法の機械化と共に、建築企業の最も合理的なる科學的經營法の採用を急務とした。即ち一般經營學の範疇にあり、しかも、對稱を近代的寵兒たる建築におく建築經營學の明快なる再檢討を必要とするのである、この時に當り本著の發刑を見たのは正に適切にして當然である。著者は多年請負工事經營に從事され、更に最近米國各建築請負會社の機構を研究し歸朝されたる經驗者であつて、現代日本の建築工事請負法に新しき一石を投じ、もつて之がより進歩を望むべく物されたるものである。從つて本書の内容のいたる所に就いて、最も進歩したる經營法を存すと信ぜられる米國建築請負會社の經營法に範を取られ、多くの圖表を用ひ細心の注意と多大なる努力とを傾け極めて要領よく平易に記述されて居る。

例へば請負會社の經營と組織に關しては、ニューヨーク、スターレツト會社組織表を始め八つの會社の組織統計表を示され、又最も重要なる問題たる工程表の作成に關しては、一般的記述と共に、ニューヨーク、トムソン會社の新築工事圖面作成及下請負契約工程表外六表を示されて、我々の大いに學ぶべき點を暗示されて居られるなどはその一例である。本書は請負工事會社並びに一般建築事務所、建築專攻學生の必讀の一書と信ずるのである。

本書の内容を示せば

1、緒論
2、請負會社の經營と組織
3、工事請負の形式
4、現場の組織と管理
5、工程表の作成
6、工事施行計畫と管理
7、トムソン・スターレツト會社現場員心得書
8、アバサー會社現場員心得書
9、建築工事災害防止準則

（附）　圖表　36枚

發行所　丸　善　書　店

（定　價　2圓80錢）

和洋建築構造

村　山　弘著

本書は著者多年の研究と經驗の成果にして其の記述は廣範にわたり細大もらさず極めて要領良く讀者をして一讀理解を可能ならしめるに充分なるものである。最近決定の用語の使用、メートル法の採用、圖解の多きこと、最新構造法の記載などはその一讀して感ぜられる點である。特に建築教育上の問題たる詰込主義の弊を避け、「何々の目的で」とか「何々の理由で」とか、その構造の機能を理解させ、其の材料及び構造形態の必然性の理解につとめられたる點、更に最後には一般構造のハンドブツク的なる丁寧なる索引をかゝげられたることなど著者の苦心がうかゞはれる。一般和洋構造學書の多數ある中で、特に建築學生諸君、建築工事關係者、更に建築愛好家の座右の書として御すゝめしたい良書である。

工成會出版部發行

定價　2圓80錢

（以上　和田記）

會　　報

常　務　會　（第一回）

時　　昭和10年1月7日午後6時10分—同8時
所　　建築倶樂部別室
出席者　理事　片岡會長
　　監事　岡部監事　　澁谷監事
　　常務　伊藤主記　　池田主記
　　北垣主記　　中澤主記
　　保田主記　　清水主計
　　谷　主計　　岡田編輯
　　新名編輯　　島田編輯
　　三浦編輯
議事　1月例會(新年宴會)に關する件　　可　決
　　常務會定例會合日に關する件
　　毎月第1及第3月曜日と決定
　　建築倶樂部併合に關する件　　未決定
　　常設委員會委員選定に關する件　　未決定
　　昭和9年度常務會より引繼事項に關する件
　　都市武裝促進及災害調査委員會に關する件
　　決　定
　　會員詮衡
報告　12月分會計報告
　　新大阪ホテル見學開催に關する件
　　日本建築士會建議小學校々舍其他諸建築災害防止に關する件

常　務　會　（第二回）

時　　1月21日午後5時30分—同8時
所　　建築倶樂部別室
出席者　理事　片岡會長　　武田副會長
　　監事　岡部監事　　澁谷監事
　　常務　伊藤主記　　池田主記
　　北垣主記　　中澤主記
　　清水主計　　谷　主計
　　新名編輯　　島田編輯
　　三浦編輯
　　議　事
1、2月例會に關する件……講演開催に決定
2、昭和10年度常設委員會委員決定の件……
　……下表の通決定
3、常設委員會初會開催日取其他決定の件……
　……2月2日開催
4、昭和10年度建築材料陳列場幹事決定の件……
　……下表の通
5、同「建築と社會」編輯部員及「建築學研究」編輯委員決定の件……下表の通
6、特設委員會設否に關する件……未決定
7、廣告係事務員採用に關する件……可　決
8、建築倶樂部併合に關する件……未決定
9、昭和9年度決算報告の件……承　認
　附　記念事業決算報告
　　關西風水害調査費清算報告
　　同　　講演會費決算報告
10、昭和9年度收支不足金前後處置に關する件…
　……承　認
11、陳列場剩餘金處理に關する件……承　認
12、日刊天氣圖購讀に關する件……否　決
13、會員詮衡
　　報　告
1、新大阪ホテル建築見學報告
2、1月例會(新年宴會)準備報告

建築材料陳列場幹事氏名

（五十音順敬稱略）

伊東宗太郎　　浦　英之助　　岡部　顯則
北垣熊之介　　德政　金吾　　中西　六郎
渡部　圭吾

常設委員會委員氏名

（五十音順敬稱略）

1　都市計畫委員會

加藤　善吉　　喜多村義雄　　國藤　武
椎原　兵市　　鳥井　信　　德政　金吾
福知　秀夫　　福富　正治　　山下國太郎
吉田　信武

2　法制委員會

石川　寛三　　白石登喜男　　玉置豊次郎
津田　敏雄　　坪井　誠一　　内藤　亮一
三浦　茂　　宮脇　晴美　　山口久五郎
矢崎　高儀

3　敎化委員會

伊東　恒治　　古宇田　實　　酒井勇三郎
篠原　太郎　　鈴木忠五郎　　高木　太作

永澤　毅一　中野順次郎　姫野　武
堀口　甚吉

4　材料委員會

浦　英之助　楠瀬　澈　作間日出生
境　正一　高橋　榮治　高岡與三吉
高松平太郎　松久保敬三　道田泰治郎
吉本政次郎

5　災害强度委員會

黒田　茂　佐野　俊三　谷　隆夫
鳥井　捨藏　波江　悌夫　中島　智喜
松井清之助　三浦　尙史　矢田　鐵藏
渡部　圭吾

6　設備委員會

小笠原　銅　神谷　光彦　志岐　善吉
末澤　周次　竹内　成夫　田中　直造
西村　安彦　塙　信　增井　敏克
村田　小一

7　住宅委員會

小川　陽吉　小川安一郎　岡本新次郎
袈野壯一郎　木村　寬一　中西　六郎
松本　儀八　增山　新平　三木　來三
村野　藤吾

『建築と社會』編輯部員氏名

（五十音順敬稱略）

桐本　楠雅　東畑　謙三　中西　六郎
内藤　亮一　本多　正道　吉田　信武
和田　登

『建築學研究』編輯委員氏名

（五十音順敬稱略）

伊東　恒治　新名　種夫　武田　五一
澁澤　眞弓　棚橋　諒　坂　靜雄
藤井　厚二　吉田　信武　横山　尊雄
森田　慶一

會員動靜

入會者

會員

飯田　榮一君　兵庫縣川邊郡長尾村中山（合名會社竹中工務店）
大村　春方君　天王寺區勝山通2ノ41坂口方（大阪府廳營繕課）
田中　直造君　東成區南中濱町3ノ215（大阪府營繕課）
宮俊　光三君　天王寺區上綿屋町20（建築設計自營）

特別賛助員

田中　敬三君　西宮市千歲町30（東洋リノリユウム）

普通賛助員

今井　喜一君　東京市下谷區西黒門町新19（自營）
武田十子男君　京都市左京區一乘寺花ノ木町13（京都高等工藝學校）
田中　功君　奉天千代田通25福昌公司奉天出張所（株式會社福昌公司工事部）
中圓尾義三君　明石市太寺4ノ3096（合資會社建材社大阪出張所長）
吉原治三郎君　京都市新門前西之町
渡邊　定理君　北區善源寺町4ノ40都島アパート（土木建築資料新聞社大阪支局）

退會者

會員

青木　茂君　關　喜久男君　難波　經利君

地方會員

岩佐瀧太郎君　中川　廣君

普通賛助員

織田　源三君　盛　道雄君　岩本　博行君
松村　建雄君　高野　又助君　木島德太郎君

住所移轉

會員

横山　尊雄君　京都市上京區寺町通今出川上ル5丁目西裏櫻木町413
菅　陸二君　住吉區田邊本町5ノ76山路祥二方
伊藤　光君　住吉區天王寺町2693苗代アパート
玉川　貫治君　神戸市林田區長田町1ノ49
遠山　久君　神戸市灘區灘北通4ノ112
高橋　誠義君　岐阜縣不破郡垂井町日比野順吉方
三宅　貞藏君　京都府綾部町郡是製絲株式會社内
篠田　和雄君　新京商埠地太平街11號峯岸寮2階7號
坂永　金重君　兵庫縣印南郡阿彌陀村南池
笠井　正一君　神戸市兵庫區濱町4ノ116
船本　晋君　兵庫縣武庫郡濱甍屋伊勢講田553

特別賛助員

宮川總三郎君　東京市澁谷區代々木初臺560

普通賛助員

小松　四郎君　大阪府中河内郡繩手村四條132佐

守方

南　廣吉君　神戸市葺合區野崎高等小學校內

岡崎　守君　戸畑市明石町１丁目鴻池組九州支店內

齋藤　敏夫君　住吉區天王寺町3287生光園方

池田　本吉君　大阪府三島郡鳥飼村大林組出張所

角野　孝君　堺市甲斐町東4丁12

田中　數雄君　姫路市八代183

佐野　公夫君　住吉區田邊西之町3ノ7

川村　淺一君　兵庫縣寶塚榮町區武庫川通13

神保　俊一君　東區堺筋淡路町２ノ10永田商店內

松山　愛三君　兵庫縣加古郡高砂町鐘紡工場竹中工務店現場

松本　正香君　大阪府北河內郡三鄕村高瀨字大枝161

改　名

會員　岸　壯年(舊名平)

會員名簿(昭和十年度用)正誤

26頁　國藤武の行中(電東五二五三)は(電南三九七二)の誤及一六七八(電三七九)は一八六八(電岸和田二三七九)の誤

32頁　鈴木彌市の行中　彌市は孫市の誤

38頁　中村秀男の行中　秀男は英男の誤

108頁　福井　滿の行中　組太は伯太の誤

終身賛助員 久保田種吉氏

終身賛助員勳七等久保田種吉氏昭和９年12月22日病を以て逝かる寔に哀悼に堪へず茲に照肯と略歷を掲げ謹みて弔意を表す。

久保田氏は明治９年９月21日生る

土木建築請負業を營み大正６年３月本協會創立以來終身賛助員として入會あり

明治39年４月１日　明治37,8年戰役の功により叙勳七等靑色桐葉章並に金參百圓下賜(賞勳局)

大正７年５月　帝國在鄕軍人會南大江分會顧問囑託現在(同會總裁宮殿下)

大正９年８月　大阪市南大江靑年團長當選　重任現在

大正12年４月　大阪市聯合靑年團評議員當選　同

大正12年５月　南大江敎育會評議員當選　同

大正12年６月　大阪市聯合靑年團長より表彰を受く

大正12年９月　大阪府會議員當選　大阪府知事



大正13年11月　大阪市敎化委員　現在

大正14年４月　大阪市靑年聯合團理事當選　重任現在

大正14年11月　大阪府稅制調査委員囑託　大阪府

大正15年７月　大阪府道路調査委員囑託　同

大正15年９月　大阪土木建築業組合長當選

大正15年10月　北攝三島郡人會長當選　重任現在

昭和２年６月　南大江敎育會評議員當選

昭和２年９月　大阪府聯合靑年團理事當選　大阪府知事

昭和２年９月　大阪府會議員當選　同

同

昭和３年１月　大阪府靑年訓練所委員會委員囑託

昭和３年７月　靑年會館建築實行委員囑託　大阪府聯合靑年團長

昭和４年６月　少年保護區委員囑託

昭和５年２月　大阪府知事より表彰を受く

昭和５年11月　文部大臣より表彰を受く

昭和５年11月　大阪市立東第１靑年訓練所後援會長當選現在に至る

昭和５年11月　大靑會々長當選

昭和６年11月　大阪市上町方面委員　大阪府知事

昭和７年１月　大阪市救護委員　同

昭和７年11月15日　天皇陛下大阪行幸の御砌特別拜謁仰付けらる

昭和８年11月　帝國敎育會長より表彰を受く

昭和９年12月10日　大阪府聯合靑年團10周年に際し表彰を受く　大阪府知事

享年　60歲

編　輯　後　記

△前役員の名編輯の跡を襲つてテープを切つたが、さて……その責任の重大さをつくづく痛感する、會員諸賢の充分なる御指導を茲に願つておく。

△室內裝飾の特輯號は昨年度出す計畫であつたが昨秋風水害特輯號を出した爲に本年に持越した次第である。

△執筆者は主として本野シユーレの人々に御願した、實際の設計製作に豐かな經驗を持たるゝ人々の言葉を味つていただきたい

△新らしい室內裝飾の寫眞はこの號に載した外に〳〵新大阪ホテル〵のものがあつたが次號でその特輯をする爲に割愛することにした、この點設計者長谷部竹腰建築事務所に對して特に御諒解を得たい。

△本號の爲に家具裝飾圖案の募集をやる計畫を持つてゐたが機が熟さなかつた爲に出來なかつたのは殘念である。

△本誌の編輯方針に就いて編輯の主催で協會の先輩並に雜誌に關心を持たるゝ人々と懇談會を催して意見を伺つた、種々の意見があつたが要するに結論は（1）協會創立の精神强調（2）在來の編輯方針の充實（3）讀者層の擴大等の三點に歸する樣に思ふ、これ等の主旨は充分各號に盛つて會員多數の輿望に副ひたい。

△なほ會員諸賢の編輯に關する御意見をきかして頂ければ幸ひである。

△出版に關する事業を色々計畫してゐる、協會でなければ出版出來ないもの、少くとも建築界に貢獻出來るものを目標として刊行したいと思ふ、みなさまの御助力を願ふ

△別項會告の通こんど協會の廣告制度を改革した、大方各位の御援助によつて改革の意義を徹底させたい。

（岡田孝男）

建　築　と　社　會

第18輯第2號

毎月1回1日發行　定價　1册 .50圓（郵稅2錢）　12册 6.00圓（同 24 錢）

昭和10年1月25日印刷　昭和10年2月1日發行

發行・編輯　印刷人　鷹取陽　西宮市今津町津門字寶津605番地

印刷所　大阪活版所　大阪市東區內淡路町1丁目7番地

發行所　計圖技人　日本建築協會　大阪市北區中之島3ノ3朝日ビル　電話長本局(23)4500番(6)　振替口座大阪39.975番

特約販賣店　柳々堂書店　大阪市西區京町堀羽子板橋西　電話土佐堀 2440番　振替口座大阪 2084番

禁　轉　載

本誌に掲載せるものは、一切これを無斷にて轉載し又は單行本に上梓その他の複製行爲をなすことを禁ず。

廣　告　掲　載　料　金

普　通	1頁	1回	15.00
普　通	½頁	1回	8.00
普　通（前附第1頁）	1頁	1回	45.00
普　通（前附第2頁）	1頁	1回	40.00
普　通（後附第1及最終頁）	1頁	1回	25.00
アート（中　揷）	½頁	1回	20.00
表　紙　2	1頁	1回	60.00
表　紙　3	1頁	1回	45.00
表　紙　4	1頁	1回	80.00
建築事務所錄	1欄	1回	1.50
（建築關係職者案內）	1欄	1回	5.00

御　注　文

御注文はすべて前金で本會直接又は特約店へ振替貯金又は爲替で御拂込を願ひます。郵券代用は一割增、代金引換はお斷り致します。

日本建築協會
創立滿十五年 記念出版

大阪市地質調査圖表

本會創立滿十五年記念出版の第二次として「大阪市地質調査圖表」を發刊したものである。

本書は本會常設の災害强度委員會が數年に亘つて苦心調査蒐集した資料を輯錄して一本に纏めたもので、他に同種の刊行物なく洵に斯界に於ける驚異的出版である。この出版に際して本會としては凡ゆる點に於て多大の犧牲を拂つたものであるが、しかも尙上梓したる所以のものは、土木建築關係者が計畫に當り常に必要缺くべからざるものであり、又容易に所要のものを調査し得ると云ふ實に簡便にして、斯界にとり稗益尠からざるものと信じたからである。

世の土木建築に關係ある諸賢へこの權威ある寶典を御薦めする次第である。

四六倍版　上質印刷紙　上製箱入　クロース裝幀

定價 3.50 圓

本協會員に限り 3.00圓

送料12錢

日本建築協會刊行

大阪・北區・朝日ビル
振替口座大阪 39975

賣捌 丸善本支店 柳々堂書店

建築材料陳列場出品者

棚番號	材料種別	出品者
1・6	鋼製建具建築材料	三機工業株式會社
2～4	木工品	日本樂器製造株式會社大阪支店、
5	合板寄木フローリング	富士建築工藝株式會社
7	リノリユーム其他附屬品	東洋リノリユーム株式會社
8～9	六甲スレート日本石綿盤六甲タイル	野澤幸三郎商店
10	トラバーチン	金王石工所
11	ロールプラッグストップリーグ	ユニオントレーヂングコンパニー
12～14	アサヒライトSSSプラスターソリヂットスタイン	工材社
12～14	屋根瓦各種	高松菊治郎商店
15	特許能美式自働火災警報裝置及消火裝置其他	合資會社能美商會
16	衛生器具	大阪城口研究所
17	衛生器具	株式會社須賀商會
18	衛生器具	西原衛生工業所
19	水洗便所ヨネフラッシュバルブ	米本榮商店
20～21	衛生陶器附屬品	東洋陶器株式會社大阪出張所
22	銅鐵製窓枠	榮進社大阪出張所
23	内裝用藥掛タイル	淡陶株式會社大阪支店
24	カールプラグ及カールエキスパンションボールト	合名會社小野邉三商店
25	タイル	山本窯業商店
26	各種タイルテラカッター	大阪窯業株式會社
27～28	テラカッター衛生陶器	大阪陶業株式會社
29	タイル	有田製陶所
30	洋家具裝飾	船木由松商店
31	テラカッタータイル等	伊奈製陶株式會社
32	金庫寫眞カタログ	大谷金庫店
33	ワイヤロープ建築用電氣機械	守谷商會大阪支店
34	ドアーチエック、フロアーヒンヂ、スプリングヒンヂ	日本ドアーチエック製作所
35	町野式水道消防器具	ヂヨイント商會大阪支店
36	ドアーハンガー	平松釣戸車製造所
37	建具金物	近江セールズ株式會社
38	大理石及人造石	矢橋大理石商店
39	大理石	大理石工業株式會社
40	建築參考塗料見本	關西ペイント株式會社
41	各種建築用塗料	東亞ペイント製造株式會社
42～43	建築用金屬材料ホワイトブロンズ水道銅管	住友伸銅鋼管株式會社
44	銅眞鍮アルミニウム	古河電氣工業株式會社
45～46	ラス類一式	奥村重兵衛商店
47	スチールサッシュ、シヤッター見本	合名會社汎建製作所
48	板硝子	日本板硝子株式會社
49	石材並ニ彫刻物	一營商會
50	檜樓床板フローリングブロック	大阪伊丹商店
51	ベニヤ板及加工品	ベニヤ商會
52	金屬天井板	佐渡島西店建材部
53	便利瓦	木下謹三商店
54	一般石材	關西石材株式會社
55	石綿スレート	淺野スレート株式會社
56	ダンローア	大澤商會大阪支店
57	オリエンタルメタル浪板	オリエンタルメタル製造所
58	ベニヤ板見本ドアーセクション	内外木材工藝株式會社
59	專賣特許特殊ゴム床敷物	ライトラバー工業合資會社
60	田中式カストストーン	合名會社田中タイリング商會
61	アスファルト	榎商店
62	日之出アスファルト加工品	日本建築紙工大阪支店
63	ルーフキング	佐久間パブコ工業株式會社
64～65	キングブロックアスファルト鐵鋼類	マルエス工業株式會社
66	パルボイド、メトロストンペークライト	合資會社大洋組建材部
67	建築諸材料	合資會社建材社
68	セメント防水劑モリノイト保溫盤ウオータイト	日本セメント防水劑製造所
69	防水劑ロータス	關城化學工業株式會社大阪營業所
70	スカイライト、エービーメタル	内外土木建築材料合資會社
71	水性塗料	岩城塗料製造株式會社
72	硝子製品	株式會社島田硝子製造所
73	洋瓦各種	宇野洋瓦株式會社
A	裝飾織物	高島屋裝飾部
B. 1	コルク板	太陽コルク大阪出張所
B. 2	美　素	美素工業所
B. 3	ヤハズラス	日本防火建材製作所
B. 4	アキ	
C	KU式自働復式火難求助器	苅野鐵工所

建築と社會第18輯第2號　廣告索引

ア　旭硝子株式會社……33
　　朝日建材株式會社……表紙 2
　　淺野スレート株式會社……37
　　淺海商會……20
イ　岩元商會建材部……20
エ　榮進社……38
　　英進商會建材部……24
オ　大阪窯業セメント株式會社……中挿
　　大阪伊丹商店……14
　　大野製作所……1
　　奥村重兵衛商店……17
　　押谷商店……24
　　岡田建材店……39
　　大澤商會……7
カ　金岡養樹園……中挿
キ　木下謹三商店……42
　　桐田商會……23
　　協和商會……10
ク　黒川化學工業所……12
　　久保商店……8
　　窪島プレス工業所……41
サ　佐渡島西店……31
　　佐久間パブコ工業株式會社……5
　　笹岡家具裝飾店……40
シ　島貿易株式會社建材部……36
ス　須賀商會……27
　　住友伸銅鋼管會社……46
セ　政正合資會社……29
　　清光社……8
タ　大洋組……18
　　大元塗料店……10
　　ダンロップ護謨株式會社……中挿
ト　東洋リノリユーウム株式會社……13
　　東洋工業株式會社コルク部……26
　　東京電氣株式會社……45
　　巴組鐵工所……44
ナ　內外土木建築材料合資會社……25
　　南滿鑛業株式會社……18
　　中野鐵平石店……14
ニ　日本建築紙工株式會社……29
　　日本ドアーチエツク製作所……35
　　日本パイプ製造株式會社……22
　　日本生命……40
　　西原衛生工業所……6
　　西孫南店建築金物部……19
ノ　野澤幸三郎商店……3
ハ　汎建製作所……39
ヒ　日立エレベーター製作所……43
フ　福島合名會社……4
　　福原商店大阪支店……32
　　藤田庄藏商店……34
ヘ　ベニス工房……26
マ　マルエス工業株式會社……11
ミ　ミナト製作所……12
　　三井物產株式會社……15
ヤ　矢橋大理石商店……16
　　大和護謨製作所……9
　　山本窯業商店……32
ユ　ユーニオントレーデングコンパニー……28
ヨ　横河橋梁製作所……12
　　米本榮商店……16
ラ　ライトラバー工業合資會社……30
レ　玲光社(木內眞太郎)……4